

県道三木国分寺線道路改修事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

兀 塚 遺 跡

2014. 11

香 川 県 教 育 委 員 会



調査地より瀬戸内海方面を望む（南より）



調査地より六ッ目山方面を望む（東より）



調査地より北を望む（南より）



Ⅲ区空中写真（上が北）



VI区空中写真（上が南）



IX区空中写真（上が北）



Ⅳ区 SR401



173

Ⅳ区 SR401

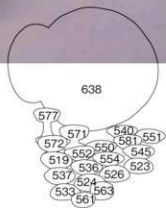


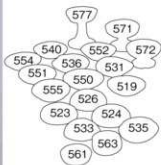
305

Ⅴ区 SD516

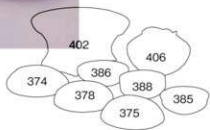


Ⅵ区 SR602・604





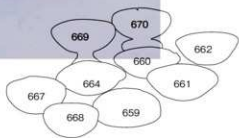
VI区 SR602



VI区 SD604



Ⅵ-2区 SH701

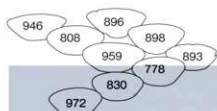


Ⅵ区 SR602・Ⅶ-1区 SB803

卷頭図版 8 瓦塚遺跡



Ⅶ-1区 SB801・802・805, SD805・816ABC, 柱穴・包含層



Ⅶ-1区 SB803・805, SD805・816B・823, 柱穴

序文

元塚遺跡は高松市檀紙町・円座町に所在する、弥生時代から中世までの遺跡です。発掘調査は県道三木国分寺線道路改修事業に伴い発掘調査で、香川県教育委員会からの委託により、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが平成7年から平成9年度までの期間で調査を実施しました。

注目される調査成果としては、古代と中世の集落跡や、集落に隣接する自然河川で検出した当時の水田跡などです。また、自然河川からは周辺の集落から廃棄されたと考えられる多量の遺物と共に、墨書土器や土馬の破片などが出土し、貴重な調査成果になりました。

元塚遺跡の調査成果が、本県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査から出土品の整理、報告書の刊行に至るまでの長期間、香川県土木部及び関係諸機関、地元関係者各位に多大な御協力をいただきました。ここに深く感謝の意を表すとともに、今後とも御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年11月28日
香川県埋蔵文化財センター
所長 真鍋 昌宏

例言

1. 本報告書は、県道三木国分寺線道路改修事業に伴う、高松市檀紙町・円座町に所在する元塚遺跡（はげづかいせき）の調査成果を収録した。
2. 発掘調査は、香川県土木部から依頼を受けて、香川県教育委員会が調査主体となり、現地調査は平成7・8・9年度に財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが担当した。整理作業は平成24・25年度に香川県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 発掘調査の担当者は以下のとおりである。

平成7年度担当 文化財専門員 蘆原秀稔・主任技師 蔵本晋司・調査技術員 門脇純子
平成8年度担当 文化財専門員 森下友子・文化財専門員 樋本清輝・調査技術員 三好弘美
平成9年度担当 文化財専門員 宮崎哲治・文化財専門員 岡本 利・調査技術員 東条貴美
4. 調査にあたっては、下記の関係諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい（順不同、敬称略）。

香川県土木部、香川県高松土木事務所、地元自治会、地元水利組合
5. 本報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。
6. 本書の整理作業及び執筆・編集は西村尋文が担当した。
7. 本報告書で用いる方位の北は、旧国土座標系第IV系（日本測地系）の北であり、標高は東京湾平均海面（T. P.）を基準としている。
8. 本書で用いている遺構記号は次のとおりである。

SH：竪穴建物跡 SB：掘立柱建物跡 SA：櫓列跡 SP：柱穴跡 SK：土坑跡 ST：墓跡 SD：溝状遺構 SX：不整形遺構 SR：自然河川跡
9. 報告遺構名は、以下の方法で再整理を行った。

発掘調査時は「調査区」単位で、遺構の種類ごとに「01」から始まる通し番号を付していた。報告書記載の際には同じ遺構番号が重複するため、調査区の数字を遺構番号の先頭に付すことで、固有の報告遺構名を表すことにした。

例）IV区検出のSB01（検出時遺構名）→SB401（報告遺構名）
10. 挿図の一部に国土交通省国土地理院作成の1/25,000地形図を使用した。
11. 遺物観察表中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色標監修「新版標準土色帖1997年度版」による。
12. 本遺跡の報告にあたっては、下記の機関に自然科学分析、デジタルトレース及び写真撮影を委託した。

土壌分析……………川崎地質株式会社
樹種同定報告……………株式会社吉田生物研究所
金属器分析……………株式会社イビソク
デジタルトレース……………株式会社アート
遺物写真撮影……………岡村印刷工業株式会社

本文目次

第I章 調査の経緯と経過

- 第1節 発掘調査に至る経緯・経過 1
- 第2節 整理作業の経過 3

第II章 調査の方法

- 第1節 発掘調査の方法 5
- 第2節 整理作業の方法 5

第III章 地理的・歴史的環境

- 第1節 地理的環境 8
- 第2節 歴史的環境 8

第IV章 元塚遺跡の調査

- 第1節 元塚遺跡の概要 11
- 第2節 基本層位 12
- 第3節 I～IV区の調査 19
- 第4節 V・VI区の調査 45
- 第5節 VII～IX区の調査 99

第VI章 自然科学分析

- 第1節 元塚遺跡における花粉、プラントオパール分析 163
- 第2節 香川県元塚遺跡出土木製品の樹種調査結果 176
- 第3節 元塚遺跡に係わる鍛冶関連遺物の金属学的分析業務委託 183

第VII章 まとめ—元塚遺跡の歴史の変遷— 217

插图目录

第 1 图	道路位置图	1	第 57 图	SD601·602 断面图, 出土遗物	72
第 2 图	调查区例图	6	第 58 图	SD603 断面图, 出土遗物	73
第 3 图	周边道路位置图	10	第 59 图	SD604 平·断面图, 出土遗物 (1)	74
第 4 图	I~VI 区基本层位柱状图	13	第 60 图	SD604 出土遗物 (2)	75
第 5 图	Ⅶ~Ⅹ区基本层位柱状图	14	第 61 图	SX601 平·断面图, 出土遗物	76
第 6 图	I~II 区遣隋配置图	16	第 62 图	SX604 平·断面图, 出土遗物	77
第 7 图	Ⅲ~IV 区遣隋配置图	18	第 63 图	SX605 断面图, 出土遗物	77
第 8 图	SA101 平·断面图	19	第 64 图	VI 区北·南壁土层断面图	80
第 9 图	SD101~105 断面图, 出土遗物	20	第 65 图	SR601 断面图, 出土遗物	81
第 10 图	II 区北壁土层断面图	22	第 66 图	SR602 断面图	82
第 11 图	SR201·202·203 出土遗物	23	第 67 图	SR602 出土遗物 (1)	83
第 12 图	Ⅲ区北·南壁土层断面图	26	第 68 图	SR602 出土遗物 (2)	84
第 13 图	SD301·SR302 断面图, 出土遗物	27	第 69 图	SR602 出土遗物 (3)	85
第 14 图	SR301 出土遗物	27	第 70 图	SR602 出土遗物 (4)	86
第 15 图	SR302 出土遗物 (1)	29	第 71 图	SR602 出土遗物 (5)	87
第 16 图	SR302 出土遗物 (2)	30	第 72 图	SR602 出土遗物 (6)	88
第 17 图	SR301·302 第 1、2 水田面	31	第 73 图	SR602 出土遗物 (7)	89
第 18 图	吐野 301·302 断面图, 出土遗物	32	第 74 图	SR602 出土遗物 (8)	90
第 19 图	SD401 断面图, 出土遗物	32	第 75 图	SR603 出土遗物	91
第 20 图	SD401~404 断面图, 出土遗物	33	第 76 图	SR604 出土遗物 (1)	92
第 21 图	SD405 断面图, 出土遗物	35	第 77 图	SR604 出土遗物 (2)	93
第 22 图	SX401 平·断面图	35	第 78 图	VI 区包含层出土遗物	94
第 23 图	IV 区北·南壁土层断面图	38	第 79 图	Ⅶ区遣隋配置图	96
第 24 图	SR401 出土遗物 (1)	39	第 80 图	Ⅶ·Ⅹ区遣隋配置图	98
第 25 图	SR401 出土遗物 (2)	40	第 81 图	SB701 平·断面图, 出土遗物	100
第 26 图	SR401 出土遗物 (3)	41	第 82 图	SB702 平·断面图, 出土遗物	101
第 27 图	SR401 出土遗物 (4)	42	第 83 图	SB703 平·断面图	102
第 28 图	V~VI 区遣隋配置图	44	第 84 图	SB704 平·断面图	102
第 29 图	SK501·502·504·505·508 平·断面图, 出土遗物	46	第 85 图	SB705 平·断面图	103
第 30 图	SK509 平·断面图, 出土遗物 (1)	47	第 86 图	SB706 平·断面图, 出土遗物	104
第 31 图	SK509 出土遗物 (2)	47	第 87 图	SB707 平·断面图	105
第 32 图	SK510 平·断面图, 出土遗物	48	第 88 图	SB708 平·断面图	106
第 33 图	SK511 平·断面图, 出土遗物	48	第 89 图	SB709 平·断面图	106
第 34 图	SK512 平·断面图, 出土遗物	50	第 90 图	SB710 平·断面图	107
第 35 图	ST501·502, SK503, SD506·510 平·断面图	52	第 91 图	SB711·712 平·断面图	108
第 36 图	ST501·502 出土遗物	53	第 92 图	SD701·702 断面图	109
第 37 图	SD501~504 断面图, 出土遗物	54	第 93 图	SX701 断面图, 出土遗物	109
第 38 图	SD504·506~513·521 断面图, 出土遗物	55	第 94 图	SI701 平·断面图, 出土遗物	110
第 39 图	SD504·508·509·513 出土遗物	56	第 95 图	SB713 平·断面图	111
第 40 图	SD515·516 断面图, 出土遗物	58	第 96 图	SB714 平·断面图	113
第 41 图	SD517 断面图, 出土遗物	59	第 97 图	SB715 平·断面图, 出土遗物	113
第 42 图	SD518 断面图, 出土遗物	59	第 98 图	SB716 平·断面图, 出土遗物	114
第 43 图	SD519~521 断面图, 出土遗物	60	第 99 图	SB717 平·断面图, 出土遗物	115
第 44 图	SX501 平·断面图	61	第 100 图	SB718 平·断面图, 出土遗物	116
第 45 图	SX502 平·断面图	62	第 101 图	SB719 平·断面图	117
第 46 图	SX503 平·断面图, 出土遗物	62	第 102 图	SB720·721 平·断面图, 出土遗物	118
第 47 图	V 区柱穴, 包含层出土遗物	64	第 103 图	SB722 平·断面图, 出土遗物	119
第 48 图	SB601·602 平·断面图, 出土遗物	66	第 104 图	SB723·724 平·断面图	120
第 49 图	SB603 平·断面图, 出土遗物	67	第 105 图	SB723·724 出土遗物	121
第 50 图	SB604 平·断面图	67	第 106 图	SB725 平·断面图, 出土遗物	122
第 51 图	SB605 平·断面图, 出土遗物	68	第 107 图	SK701 平·断面图, 出土遗物	123
第 52 图	SB606 平·断面图	69	第 108 图	SK702 平·断面图, 出土遗物	123
第 53 图	SB607 平·断面图	69	第 109 图	SD704·706·707 断面图, 出土遗物	124
第 54 图	SK601 平·断面图	70	第 110 图	SX702 平·断面图, 出土遗物	125
第 55 图	SK602 平·断面图	70	第 111 图	SB726 平·断面图	126
第 56 图	SK603·604·605 平·断面图, 出土遗物	71	第 112 图	SB727 平·断面图, 出土遗物	126
			第 113 图	SB728 平·断面图	128

第114図	SB729平・断面図	128	第133図	SK803平・断面図, 出土遺物	144
第115図	SB730平・断面図	129	第134図	SD801～807・810・811・813・815 断面図, 出土遺物	147
第116図	SA701平・断面図	129	第135図	SD816B遺物出土状況図	148
第117図	SK703平・断面図, 出土遺物	130	第136図	SD816A・B出土遺物	149
第118図	SD708～711・713断面図, 出土遺物	131	第137図	SD816C・817・819・823断面図, 出土遺物	150
第119図	SX704断面図, 出土遺物	133	第138図	SD824断面図, 出土遺物	152
第120図	SX706断面図, 出土遺物	133	第139図	Ⅷ区柱穴出土遺物	153
第121図	Ⅷ区柱穴, 包含層出土遺物	134	第140図	Ⅷ区包含層出土遺物	154
第122図	SB801平・断面図, 出土遺物	135	第141図	SB901平・断面図, 出土遺物	156
第123図	SB802, SD805・806, SX801 平・断面図, 出土遺物	136	第142図	SB902平・断面図	157
第124図	SB803, SD816A・819, SX802平・断面図	138	第143図	SB903平・断面図	157
第125図	SB803, SX802・803出土遺物	139	第144図	SB904平・断面図	158
第126図	SB804・805, SD816B・816C平・断面図	140	第145図	SK901平・断面図, 出土遺物	159
第127図	SB804・805断面図, 出土遺物	141	第146図	ST901平・断面図, 出土遺物	160
第128図	SB806平・断面図, 出土遺物	142	第147図	SD901・902断面図	160
第129図	SB807平・断面図	143	第148図	Ⅷ区柱穴, 包含層出土遺物	161
第130図	SB808平・断面図	143	第149図	Ⅷ区断面図, 正箱遺跡建物主軸方位分布図	218
第131図	SK801平・断面図, 出土遺物	144	第150図	Ⅷ区遺跡遺構変遷図	220
第132図	SK802平・断面図, 出土遺物	144	第151図	Ⅷ区遺跡周辺条里地割図	223

表目次

第1表	年度別発掘調査担当一覧	2	第26表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(19)	248
第2表	平成7～9年度調査体制	2	第27表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(20)	249
第3表	平成24・25年度整理体制	4	第28表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(21)	250
第4表	Ⅷ区遺跡SR301・302水田跡一覧	30	第29表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(22)	251
第5表	Ⅷ区遺跡古代Ⅰ～Ⅲ期 建物主軸方位類型別一覧	218	第30表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(23)	252
第6表	Ⅷ区遺跡掘立柱建物跡一覧	226	第31表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(24)	253
第7表	正箱遺跡掘立柱建物跡一覧	227	第32表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(25)	254
第8表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(1)	230	第33表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(26)	255
第9表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(2)	231	第34表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(27)	256
第10表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(3)	232	第35表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(28)	257
第11表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(4)	233	第36表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(29)	258
第12表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(5)	234	第37表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(30)	259
第13表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(6)	235	第38表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(31)	260
第14表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(7)	236	第39表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(32)	261
第15表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(8)	237	第40表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(33)	262
第16表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(9)	238	第41表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(1)	263
第17表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(10)	239	第42表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(2)	264
第18表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(11)	240	第43表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(3)	265
第19表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(12)	241	第44表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表	265
第20表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(13)	242	第45表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表	265
第21表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(14)	243	第46表	Ⅷ区遺跡出土木製品観察表	265
第22表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(15)	244	第47表	Ⅷ区遺跡検出時・報告時遺構名新旧対照表(1)	266
第23表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(16)	245	第48表	Ⅷ区遺跡検出時・報告時遺構名新旧対照表(2)	267
第24表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(17)	246	第49表	Ⅷ区遺跡検出時・報告時遺構名新旧対照表(3)	268
第25表	Ⅷ区遺跡出土土器観察表(18)	247	第50表	Ⅷ区遺跡検出時・報告時遺構名新旧対照表(4)	269
			第51表	Ⅷ区遺跡検出時・報告時遺構名新旧対照表(5)	270

付図

Ⅷ区遺跡全体図

図版目次

- 巻頭図版 1
調査地より瀬戸内海方面を望む (南より)
調査地より六ツ目山方面を望む (東より)
- 巻頭図版 2
調査地より北を望む (南より)
Ⅲ区空中写真 (上が北)
- 巻頭図版 3
Ⅳ区空中写真 (上が南)
Ⅴ区空中写真 (上が北)
- 巻頭図版 4
Ⅳ区 SR401 出土遺物
Ⅴ区 SD516 出土遺物
- 巻頭図版 5
Ⅵ区 SR602・604 出土遺物
- 巻頭図版 6
Ⅵ区 SR602 出土遺物
Ⅵ区 SD604 出土遺物
- 巻頭図版 7
Ⅶ-2区 SH701 出土遺物
Ⅵ区 SR602・Ⅶ-1区 SB803 出土遺物
- 巻頭図版 8
Ⅶ-1区 SB801・802・805、SD805・816ABC、
柱穴・包含層出土遺物
Ⅶ-1区 SB803・805、SD805・816B・823、柱穴出土遺物
- 図版 1
元塚遺跡周辺空中写真 (上が北)
- 図版 2
Ⅰ区空中写真 (上が北)
Ⅱ区空中写真 (上が北)
- 図版 3
Ⅲ区第2水田面 (上が北)
Ⅲ区第 SR301～303 (上が北)
- 図版 4
Ⅳ区空中写真 (上が北)
Ⅴ-1区空中写真 (上が北)
Ⅴ-2区空中写真 (上が北)
- 図版 5
Ⅵ区空中写真 (上が北)
Ⅶ-1区空中写真 (上が北)
Ⅶ-2区空中写真 (上が北)
- 図版 6
Ⅶ-3区空中写真 (上が北)
Ⅶ-4区空中写真 (上が北)
Ⅶ-1区空中写真 (上が北)
- 図版 7
Ⅶ-2区空中写真
Ⅷ-1区空中写真
Ⅰ区全景 (西から)
Ⅰ区 SR202 土層断面 (北から)
- 図版 8
Ⅲ区第1水田面全景 (西から)
Ⅲ区第2水田面全景 (東から)
Ⅲ区第2水田面全景 (南から)
Ⅲ区第2水田面全景 (南から)
Ⅲ区第2水田面全景 (北東から)
Ⅲ区 SD301 全景 (南から)
Ⅲ区 SR301 全景 (南西から)
- Ⅲ区 SR302 全景 (南東から)
- 図版 9
Ⅲ区 SR303 全景 (南から)
Ⅲ区 SR303 土層断面 (北から)
Ⅲ区第2水田面畦畔 308 土層断面 (北から)
Ⅲ区第2水田面畦畔 313 土層断面 (北から)
Ⅲ区第2水田面畦畔 308・313 土層断面 (北から)
Ⅳ区 SD401 全景 (南から)
Ⅳ区 SD402・403 全景 (南から)
Ⅳ区 SR401 全景 (北から)
- 図版 10
Ⅳ区 SR401 最下層木製品出土状況 (北から)
Ⅳ区 SR401 最下層木製品出土状況 (南から)
Ⅴ区 SK509 (南から)
Ⅴ区 SK510 (南から)
Ⅴ区 ST501 全景 (北から)
Ⅴ区 ST501 全景 (南から)
Ⅴ区 ST501 P1 出土状況 (西から)
Ⅴ区 ST502 全景 (北から)
- 図版 11
Ⅴ区 ST502 P1 出土状況 (北から)
Ⅴ区 SD502 全景 (東南から)
Ⅴ区 SD517 全景 (南から)
Ⅵ区 SB607、SD603 全景 (北から)
Ⅵ区 SD603、SR604 全景 (南から)
Ⅵ区掘立柱建物群全景 (東から)
Ⅵ区 SB601・603 全景 (北から)
Ⅵ区 SB601 全景 (北東から)
- 図版 12
Ⅵ区 SB603・604 全景 (北から)
Ⅵ区 SB605 全景 (北から)
Ⅵ区 SB606 全景 (北から)
Ⅵ区 SK602 全景 (南から)
Ⅵ区 SD601・602 全景 (北から)
Ⅵ区 SD602 全景 (南から)
Ⅵ区 SD602 土層断面 (南から)
Ⅵ区 SD603、SK606 土層断面 (北から)
- 図版 13
Ⅵ区 SD604 遺物出土状況 (南から)
Ⅵ区 SD604 完掘状況 (南から)
Ⅵ区 SX601・602 全景 (北から)
Ⅵ区 SD601、SX605 全景 (南から)
Ⅵ区 SR601 全景 (南から)
Ⅵ区 SR602 全景 (南から)
- 図版 14
Ⅵ区 SR602 北半土層鉄線出土状況
Ⅵ区 SR602 遺物出土状況 (南から)
Ⅵ区 SR603 南部中・下層遺物出土状況 (南から)
Ⅵ区 SR603 南部中・下層遺物出土状況 (南から)
Ⅵ区 SR604 中・下層遺物出土状況 (東から)
Ⅵ区 SR604 中層遺物出土状況 (北から)
Ⅶ-1区全景 (東から)
Ⅶ-2区 SH701 全景 (南から)
- 図版 15
Ⅶ-2区 SH701 遺物出土状況 (北から)
Ⅶ-2区 SH701 遺物出土状況 (南から)
Ⅶ-2区 SH701 遺物出土状況 (西から)

- Ⅶ-2区 SB713・721 全景 (東から)
- Ⅶ-2区 SB715・716 全景 (南から)
- Ⅶ-2区 SB718 全景 (南から)
- Ⅶ-2区 SB717・719 (南から)
- Ⅶ-3区 SB727 完掘状況南 (東から)

図版 16

- Ⅶ-3区 SB710・727・728 全景 (東から)
- Ⅶ-3区 SB728 全景 (南から)
- Ⅶ-3区 SB730 全景 (西から)
- Ⅶ-3区 SD708～710 全景 (西から)
- Ⅶ-4区 全景 (西から)
- Ⅷ-1区 全景 (東から)
- Ⅷ-1区 SB801 (南から)
- Ⅷ-1区 SB804 全景 (西から)

図版 17

- Ⅷ-1区 SB806 全景 (南から)
- Ⅷ-1区 SB807 全景 (南から)
- Ⅷ-1区 SB807・808 全景 (南から)
- Ⅷ-1区 SB808 全景 (西から)
- Ⅷ-1区 SD816 遺物出土状況 (東から)
- Ⅸ-1区 全景 (東から)
- Ⅸ-1区 SB901・902 全景 (東から)
- Ⅸ-1区 ST901 (北から)

図版 18～25

元塚遺跡出土遺物

第1表 年度別発掘調査担当一覧

年度	調査担当	調査区	面積 (㎡)	調査期間
平成7年度	藤原・蔵本・門脇	I、II、III、IV、V-1、VI	4,280	H7. 9～H8. 3
平成8年度	森下・榎本・三好	V-2、VI、VII-1・2・4、VIII-1・2・4、IX-1・2	3,529	H8. 4～9
平成9年度	宮崎・岡本・東条	VIII-3	338	H9. 4～5
計			8,147	

第2表 平成7～9年度調査体制

平成7年度

香川県教育委員会事務局文化行政課			財団法人香川県埋蔵文化財調査センター		
総括	課長 主幹 課長補佐	高本 尚 (～10.23) 藤原 章夫 (10.24～) 小原 克己 高本 一義	総括 総務	所長 次長 参事 係長 主査 主任主事	大森 忠彦 真鍋 隆幸 別枝 義昭 前田 和也 西村 厚二 大西 健司 (～5.31) 西川 大 (6.1～)
総務	係長 係長 主査 主事	瀬田 和之 (～5.31) 山崎 隆 (6.1～) 星加 宏明 高倉 秀子	調査	主任主事 主任文化財専門員 係長 文化財専門員 主任技師 調査技術員	藤原 秀徳 末夫 廣瀬 常雄 大山 真充 藤本 晋司 門脇 鏡子
埋蔵文化財	副主幹 主任技師 技師	渡部 明夫 森下 英治 塩崎 誠司			

平成8年度

香川県教育委員会事務局文化行政課			財団法人香川県埋蔵文化財調査センター		
総括	課長 課長補佐 課長補佐	藤原 章夫 高本 一義 北原 和利	総括 総務	所長 次長 参事 係長 主査 主任主事	大森 忠彦 小野 善範 別枝 義昭 前田 和也 西川 大 西村 厚二 (～5.31) 佐々木隆司 (6.1～)
総務	係長 主査 主事 主事	山崎 隆 星加 宏明 國方 秀子 (～5.31) 打越 和美 (6.1～)	調査	主任主事 主任文化財専門員 主任文化財専門員 文化財専門員 文化財専門員 調査技術員	近藤 和史 藤原 秀徳 大山 真充 森下 友子 橋本 清輝 三好 弘美
埋蔵文化財	副主幹 文化財専門員 技師	渡部 明夫 木下 晴一 塩崎 誠司			

平成9年度

香川県教育委員会事務局文化行政課			財団法人香川県埋蔵文化財調査センター		
総括	課長 課長補佐	菅原 直弘 北原 和利	総括 総務	所長 次長 参事 副主幹 係長 主査 主任主事 主事 参事	大森 忠彦 小野 善範 別枝 義昭 田中 秀文 (6.1～) 前田 和也 (～5.31) 西川 大 佐々木隆司 藤川 信哉 (6.1～) 近藤 和史
総務	係長 主査 主査 主事	山崎 隆 星加 宏明 (～5.31) 松村 崇史 (6.1～) 打越 和美	調査	主任文化財専門員 主任文化財専門員 文化財専門員 文化財専門員 文化財専門員 調査技術員	藤原 秀徳 大山 真充 藤本 晋司 宮崎 哲治 岡本 利 東条 貴美
埋蔵文化財	副主幹 文化財専門員 技師	渡部 明夫 木下 晴一 塩崎 誠司			

第2節 整理作業の経過

元塚遺跡の整理作業は平成24年と25年の2カ年に分けて実施した。平成24年度は4月～9月までの6ヶ月間、平成25年度は8～10月までの3ヶ月間の合計9ヶ月間で整理を実施した。

初年度にあたる平成24年度は、まず遺構から出土した土器の接合と抽出作業を先行した。その結果、抽出された実測遺物は当初予定していた数量を超え、土器912点、石器93点、木器12、鉄器3点、合計1,020点に至った。実測作業は6月から土器実測から開始し、9月までの4ヶ月間を要した。

遺構図面の整理は遺物整理と並行し順次進めた。まず原因のチェックと、図面のスキャニングを行い、原因をデジタル化した後に全体図作りから開始した。その後、個別の遺構挿図作りに移行した。なお、遺構の整理に際しては、整理担当が発掘担当と異なるため、残された資料から個別の遺構の状況を把握する際に、苦慮する局面が多々あった。

先述したように、本整理作業の報告遺物点数が当初予定より超過したことから、整理工程の再考を計る必要が出てきた。その結果、専門の民間業者に実測遺物のトレース業務の一部を委託することで、作業工程の短縮を計る事になった。また、出土遺物の写真撮影に際しては、基本的には直営で実施したが、集合写真など難易度の高いものについては、平成24年度に民間業者に委託して撮影を実施した。

各種分析委託業務については、平成24年度内に実施する必要がある、年度末に間に合うように発注を急いだ。分析対象としては、Ⅲ区の自然河川から古代～中世の水田跡を検出したこともあり、水田の有無や当時の自然環境を復元するため、プラントオパールや花粉分析、樹種同定等を平成24年度に実施した。また、河川の河床から古代の建築部材の良品が数点出土しており、保存処理を委託することになった。

平成25年度の整理作業は8月から再開した。平成25年度の主になる業務は報告書原稿執筆及び編集作業である。順次作業を進め各種作業が完了した段階で、遺物や図面類の収納作業を行い、遺構・遺物の整理作業を終了した。

平成24・25年度の整理作業に係わる調査体制は次表のとおりである。

第3表 平成24・25年度整理体制

平成24年度

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課			香川県埋蔵文化財センター		
総括	課長	炭井 宏秋	総括	所長	藤好 史郎
	副課長(総括)	木虎 淳		次長	真鍋 正彦
総務・生涯学習 推進グループ	副主幹	松下 由美子	総務課	総務課長(兼務)	真鍋 正彦
	主任主事	白川 弘二		副主幹	林 文夫
				主任	宮武 ふみ代
文化財グループ	課長補佐	西岡 達哉		主任	中川 美江
	主任文化財専門員	森下 英治		主任	高木 秀哉
	文化財専門員	松本 和彦	資料普及課	課長	森 悟也
				主任文化財専門員	西村 尋文
				嘱託整理作業員	山地 眞理子
					猪木原美恵子
					甲斐 美智子
					香西 榮理
					佐々木博子
					竹内 悦子
					東潤 愛
					原 節子

平成25年度

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課			香川県埋蔵文化財センター		
総括	課長	増田 宏	総括	所長	真鍋 昌宏
	副課長	木虎 淳		次長	前田 和也
総務・生涯学習 推進グループ	副主幹	松下 由美子	総務課	総務課長(兼務)	前田 和也
	主任主事	白川 弘二		主任	熊野 英二
	主任主事	丸山 千晶		主任	宮武 ふみ代
文化財グループ	課長補佐	片桐 孝浩		主任	中川 美江
	主任文化財専門員	山下 平重		主任	高木 秀哉
	文化財専門員	松本 和彦	資料普及課	課長	森 悟也
				主任文化財専門員	西村 尋文
				嘱託整理作業員	山地 眞理子
					猪木原美恵子
					中野 優美
					佐々木博子
					西本 智子
					田中 沙千子
					原 節子
					香川 和子

(参考文献)

- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1996 平成7年度「元塚遺跡」[県道関係埋蔵文化財発掘調査概報]
 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1997 平成8年度「元塚遺跡」[県道関係埋蔵文化財発掘調査概報]
 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1998 平成9年度「元塚遺跡」[県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報]

第Ⅱ章 調査の方法

第1節 発掘調査の方法

瓦塚遺跡の調査区は、幅約18m、延長約570m、面積8,147㎡を測り、対象地は全面農地であった。発掘調査は平成7年度から9年度までの3ヵ年で実施する必要上、調査対象地は最低3区域に分けて調査を行う必要があった。また、対象地の延長が長いので、周辺の土地区画をもとに東から西に向けてⅠ区～Ⅹ区に区分し、各調査区単位で調査を実施することにした。発掘調査に際しては、残土の仮置き場を調査区内で設ける必要があった。調査区内で仮置き場を確保するには、調査地区と仮置き場地区を交互に入れ替えて調査を進める必要があり、調査区は更に細分された。そのため、Ⅴ区をⅤ-1・2区、Ⅶ区をⅦ-1～4区、Ⅷ区をⅧ-1・2区、Ⅹ区をⅩ-1・2区に細分し、合計15区画に区分して調査を進める事になった。

機械掘削は地元の土木業者と契約し重機で行った。調査事務所や仮設電力及び主な調査用具は地元業者とリース契約を結び調査に用いた。現場作業員はセンターとの直接契約により雇用し、人力掘削等の作業にあたった。

調査の基準点については測量業者に委託して設定した。遺構の全体測量は航空測量業者に委託し1/100と1/50の全体図を作成した。測量の方法としては、ヘリコプターによる航空測量により実施した。なお、現場の個別写真撮影や遺物の出土状況・土層断面図等の個別の実測作業については、適宜担当職員が分担して実施した。

なお、Ⅲ区の自然河川からは古代～中世の水田跡を検出したこともあり、周辺の自然河川に水田域が広がる可能性が推定された。そのため、Ⅲ区周辺では水田の有無や当時の自然環境を復元するため、ブランドオパールや花粉分析を視野に入れて土壌を採集した。

第2節 整理作業の方法

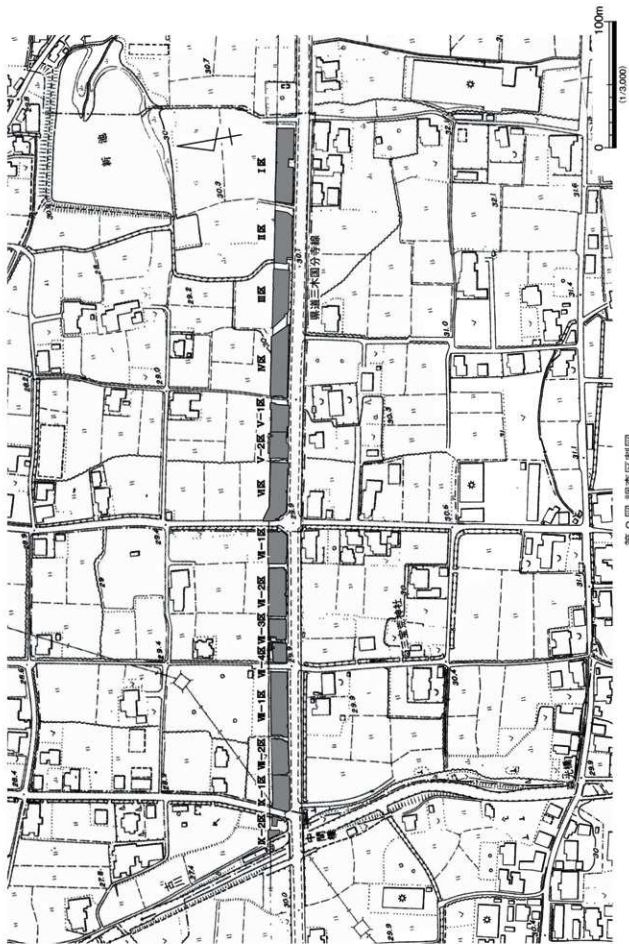
1. 遺構名の整理

瓦塚遺跡の発掘調査は多年度に及び調査区が細分され、遺構名は年度単位ないしは調査区単位で01番から付されているため、報告の都合上再整理を必要とした。遺構名を付す方法としては、調査区の名称を残した通し番号を付けるのが混乱を防ぐ得策と考え、番号の先頭に調査区番号を付した三桁の遺構名を付けることにした。

例) 検出時遺構名:Ⅰ区のSD01 → 報告遺構名:SD101

2. 遺構の整理

遺構図面の整理は遺物の整理と並行し順次進めた。まず、原図のチェックと、図面のスキャニングを行い、原図をデジタル化した後に全体図作りから開始した。その後、個別の遺構挿図を作成した。また、掘立柱建物は抽出しきれていないものや、柱穴の組み合わせ等を含め再整理を行った。その結果Ⅶ区以西で数棟の建物の追加と、建物に伴う廂の確認や構造の修正等が出てくることになった。



第2図 調査区劃図

3. 遺物の整理

遺物実測については、出土遺物の中で図化可能な遺物については極力図化した。なお、本整理作業の報告遺物は数が多く、整理期間との関係で効率化を計る必要が出てきた。そのため、実測遺物のトレース作業の一部を民間業者に委託した。

遺物写真撮影については、基本的に担当者が実施したが、難易度の高いものについては専門業者に撮影を委託した。

4. 自然科学分析、保存処理

Ⅲ区周辺 naturally 河川から古代～中世の水田跡を検出したこともあり、水田の有無や当時の自然環境を復元するため、プラントオパールや花粉分析、樹種同定等の化学分析を平成 24 年度に実施した。

本遺跡からは、木製品、金属製品等の保存対象の遺物が数点出土している。木製品については、自然河川の河床から古代の建築部材の良品が数点出土している。また、掘立柱建物の柱穴から数点柱材が出土している。建築部材については平成 24 年度に委託で保存処理を行った。柱材については、劣化が進んでいることもあり、当センターの PEG 槽で平成 24 年度から保存処理作業を開始し、翌 25 年度に終了した。本遺跡の金属製品中に鉄鏝が 1 点出土している。この遺物は材質上緊急性を伴うことから、平成 7 年度の発掘調査時に委託で保存処理を行った。

(参考文献)

- | | | |
|----------------------------|------|-----------------------------------|
| 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター | 1996 | 平成 7 年度「元塚遺跡」『県道関係埋蔵文化財発掘調査概報』 |
| 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター | 1997 | 平成 8 年度「元塚遺跡」『県道関係埋蔵文化財発掘調査概報』 |
| 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター | 1998 | 平成 9 年度「元塚遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』 |

第三章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

高松平野は東西約11.0km、南北約10.0kmの広さを持つ香川県を代表する平野の一つである。西方には五色台・六ツ目山・堂山、東方には立石山・雲附山・五瀬山、南方には上佐山などの山塊が取り囲み、北には瀬戸内海が開ける。この高松平野は本津川・香東川・春日川・新川等の中小河川により形成された扇状地性の沖積平野である。元塚遺跡は高松平野西辺部、高松市檀紙町元塚から円座町佐古・川向までの区間に位置する遺跡である。西辺には本津川の支流の一つ古川が、香東川の上流附近から本津川まで蛇行しながら北上しており、この遺跡は古川東岸を西端として、東方の香東川方面に位置する。

遺跡周辺は農地が広範囲に広がり多数の溜池が点在し、標高は約30m前後を測る。調査対象地の東半部では、香東川ないし古川の上流域から流下していたであろう旧河川の跡が南北方向へかなり長区間確認できる。事実、発掘調査の際には複数の埋没小河川を検出している。

第2節 歴史的環境

高松市檀紙町周辺は、最近の四国横断自動車の工事や県道の新設に伴う発掘調査により、埋蔵文化財の資料は増加傾向にあるが、いまだに資料不足が指摘されるのは否定できない。そのため、今回報告する元塚遺跡の調査成果を含めたうえで、この地域の歴史的な流れを簡単に触れる。

旧石器時代に係わる資料は比較的豊富で、数遺跡の調査例がある。中間西井坪遺跡の調査ではAT火山灰層上位で、ナイフ形石器・角錐状石器を含む2万点あまりの石器類を検出した。これらの資料は多数の石器ブロックや接合資料を伴う良好な一括資料であり、香川県の旧石器を研究するうえで大変貴重な調査成果になった。また、中間西井坪遺跡より東方の中間東井坪遺跡・正箱遺跡・中森遺跡等の諸遺跡でも瀬戸内技法以降の特徴を留めた石器群を確認している。

縄文時代の遺跡は少ない。草創期の資料では元塚遺跡の河川から出土したサスカイト製の有舌尖頭器がある。また、正箱遺跡では後期の溝状遺構、国分寺六ツ目遺跡では後期のサスカイト集積遺構等を確認している。

弥生時代になると遺跡数は増加する。前期～中期の資料は少ないが、元塚遺跡の河川中より後期の土器に混じて弥生時代前期～中期の土器が少量出土している。また、元塚遺跡では中期中葉以降の円形周溝墓の可能性が高い周溝状の遺構を検出している。ただ、削平で主体部を欠いているため、この遺構の評価については問題を残している。集落に伴う遺構としては、正箱遺跡で中期前半以降の円形竪穴建物跡を1棟確認した。また、中間西井坪遺跡では後期後半～古墳時代初頭頃の集落の一部を確認しているが、いずれも集落の中心には至っていない。そのため、正箱遺跡や中間西井坪遺跡の周辺域には、中期～後期の集落の中心が所在することは間違いない。

古墳時代では古墳と集落跡の調査がある。古墳の調査例としては、国分寺六ツ目古墳と中間西井坪遺跡の調査例があげられる。国分寺六ツ目古墳は4世紀中頃の小型の前方後円墳で、竪穴石室・粘土椀・箱式石棺等の主体部を確認した。中間西井坪遺跡内では小規模な古墳を3基確認した。中間西井坪遺跡1号は前期後半の前方後円墳、中間西井坪遺跡2・3号墳は円墳で中期後半以降の古墳である。

古墳以外で注目できるのは中間西井坪遺跡で、埴輪生産関係の焼成土坑・作業場としての大型堅穴住居跡等の工房跡を確認した点である。円筒埴輪、盾形などの形象埴輪を始めとして、箱形・割竹形・円筒形の土製棺が出土した。また、円筒埴輪、箱形土製棺の形状などから、土製棺は香東川下流域の今岡古墳への供給が想定されている。

古代集落の調査としては、本遺跡をはじめ中間西井坪遺跡・正箱遺跡の調査例があげられる。これらの調査で確認した建物群の配置には比較的共通する点が見出せる。例えば6世紀末～7世紀段階の建物配置は不揃いであるが、正箱遺跡等で確認されている8世紀以降の集落では、条里地割の坪界に相当する東西溝を調査区内で検出している。建物群もその溝跡を基準に分布し、建物主軸も条里方位に向きを揃えており、正箱遺跡周辺の条里地割の施行時期が8世紀中頃以降を示している良事例となっている。なお、当地を含めた香東川の東・西両岸に広がる条里地割は、北から約10°前後東へ向く方に合わせた地割である。

条里地割と密接に係わる課題として、南海道の問題がある。讃岐国の南海道と条里地割の代表的な研究に、歴史地理学の金田氏の研究がある。氏は空中写真と地形図を基に讃岐国を東西に貫通する路線を復元した。氏の視点としては、平野部に良好に残る条里地割を復元するにあたり、基準となる地形の変化点を数地点で抽出し、その基点間を結ぶ基準線をもとに条里地割を復元した。その復元の過程で抽出した条里地割の余剰帯や切り通し状の地形から、古代南海道の路線を復元した。高松平野の南海道は、①三木郡・山田郡郡境木田郡三木町「白山」付近→②高松市国分寺町「伽藍山・六ツ目山」→③香川郡・阿野郡の郡境を直線で結ぶ路線で、主軸は北から約10°前後東に傾く方位を基準にしている。

金田氏によれば、元塚遺跡の約200m南には条里地割の東西軸の余剰帯が認められ、古代南海道ルートに推定されている。このルート上で行われた川原遺跡の調査では、南海道の一部と考えられる8世紀後半頃の道路側溝を検出しており、このルート上に南海道が敷設されていた可能性が更に高くなった。南海道が通っていた8世紀後半頃は元塚遺跡や正箱遺跡の盛期とも重複するため、これらの集落跡との係わりが今後も問題視される。

中世～近世の遺跡としては、元塚遺跡、薬王寺遺跡等で集落跡を確認している。また、中世の当地は讃岐の国人「羽床氏」の勢力圏に含まれ、国分寺町の「堂山」に所在する堂山城跡はその家臣にあたる「福家氏」の拠点と言われている。また、堂山の山麓には堂山城の里城と考えられる福家居館の推定地もあるが、実態はいまだに不明瞭で今後の調査に期待したい。

(参考文献)

- 金田 章裕 1988「条里と村落生活」『香川県史第1巻通史編原始・古代』四国新聞社
西村 尊文 1994「第4章 第2節 正箱遺跡における古代集落の展開」『県道山崎御経線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 正箱遺跡・薬王寺遺跡』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター
香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1994「県道山崎御経線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 正箱遺跡・薬王寺遺跡」
香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団 1996「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第25冊 中間西井坪遺跡」
香川県教育委員会 2003「香川県中世城館跡詳細分布調査報告」
香川県教育委員会・国土交通省四国地方整備局・日本道路公団 2004「中森遺跡」『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第53冊』
香川県教育委員会 2008「県道円座香南線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 本郷遺跡・川原遺跡」
西村 尊文 2011「第4章土地区画が語ること、第5章道が語ること」『讃岐国府の時代』香川県埋蔵文化財センター



- | | | |
|-------------|----------------|-----------|
| 1 川原遺跡 | 16 中間西井坪3号墳 | 31 石ヶ鼻古墳 |
| 2 本郷遺跡 | 17 中間東井坪遺跡 | 32 大谷塚3号墳 |
| 3 うたい塚古墳 | 18 矢塚北古墳 | 33 奈良深池古墳 |
| 4 飯籃山遺跡 | 19 矢塚南古墳 | 34 大谷塚4号墳 |
| 5 飯籃山東麓古墳 | 20 堂山城跡 | 35 万灯塚4号墳 |
| 6 山王神社古墳 | 21 弓塚下古墳 | 36 新池東遺跡 |
| 7 国分寺六ツ目遺跡 | 22 西山崎1号墳 | 37 川岡遺跡Ⅰ区 |
| 8 御殿池遺跡 | 23 西山崎2号墳(権倶塚) | 38 川岡遺跡Ⅱ区 |
| 9 御殿池古墳 | 24 西山崎3号墳 | 39 八幡遺跡 |
| 10 御殿天神社古墳 | 25 西山崎4号墳 | 40 中森2号墳 |
| 11 三ツ塚古墳 | 26 北岡城跡(中間城跡) | 41 中森1号墳 |
| 12 御殿大塚 | 27 本免寺北1号墳 | 42 中森遺跡 |
| 13 中間西井坪遺跡 | 28 本免寺北2号墳 | 43 正箱遺跡 |
| 14 中間西井坪2号墳 | 29 本免寺西古墳 | 44 薬王寺遺跡 |
| 15 中間西井坪1号墳 | 30 本村古墳 | |

第3図 周辺遺跡位置図

第IV章 瓦塚遺跡の調査

第1節 瓦塚遺跡の概要

瓦塚遺跡の調査区は、幅約18m、延長約570m、面積8,147㎡の調査区で、対象地はほぼ全面農地であった。調査区は周辺の土地区画をもとに東から西に向けてⅠ区～Ⅸ区の9調査区に区分したが、調査の都合上更に細分を必要とする区域がでてきたため、15区画に細分して調査を実施した。

Ⅰ～Ⅳ区は平成7年度に実施した調査区東半部の東部に位置し、延長約233mを測る調査区である。Ⅰ・Ⅱ区では香東川水系の上流域から派生する3条の埋没小河川SR201～203を検出した。遺物が少なく時期を決めるのが難しいが、古墳時代後期末頃から埋没が開始し、古代前半頃に埋没が完了しているようである。Ⅲ区からは2条の幅広の河川SR301・302と、両者を繋ぐ小規模なSR303を検出した。河川からは集落からの廃棄物として、①弥生時代中期中葉～後期後半、②7世紀初頭、③8～9世紀、④12世紀頃の遺物が出土した。河川の埋没が終了した段階で、SR301・302の上面には、古代・中世の水田跡を上下2面確認した。検出した水田跡は河川跡を利用した水田跡で、流路方向に畦畔の向きを揃え、旧流路の水源を利用した水田跡であり、坂出市下川津遺跡等で確認した古代の水田跡に類似している。Ⅳ区からは幅広で北東方向へ延びる河川SR401を検出した。この河川からは集落からの廃棄物として、弥生時代中期・後期後半、7世紀前半～8世紀頃の遺物が出土した。注目できる遺物としては、8世紀中頃の杯底部外面に「中」と記載した墨書土器や、河床から出土した大型の建築部材などがあり、瓦塚遺跡の古代集落の性格を推定するうえで重要な資料になっている。

Ⅴ・Ⅵ区は平成7・8年度に実施した調査区東半部の西部に位置し、延長約96mを測る調査区である。Ⅴ区からは、2基の弥生時代中期以降の円形周溝状遺構、数条の7世紀前半～8世紀後半の溝状遺構、近世以降の外郭溝を伴う屋敷地等を検出した。円形周溝状遺構は住居の外周を巡る周溝の可能性もあるが、周溝の規模等から墓の可能性が高い。ただ、削平により主体部を欠くため、若干の問題を残している。Ⅵ区からは古代の7棟の建物からなる集落グループと、3条以上の流路が重複する河川跡SR602・603・604を検出した。河川からは弥生時代中期～後期後半、6世紀末～7世紀頃の遺物が多量に出土している。遺物の出土状況から推定して、SR602・603・604は弥生時代後期後半以降には初期の流路が存在し、7世紀前半以降に本格的に埋没が開始し始め、完全に平坦化するのは古代前半頃と考えられる。注目できる遺物としては、形状から土馬の脚部と推定される資料や、鉄鏝が1点出土しており、先述したⅣ区SR401の墨書土器を含め、瓦塚遺跡の古代集落の性格を推定するうえで極めて重要な資料になった。

Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ区は平成8・9年度に実施した調査区西半部に位置し、延長約241mを測る調査区である。Ⅶ区からⅨ区にかけては平坦な微高地が続き、微高地上には7世紀前半、12～13世紀、近世以降等の集落が展開している。住居跡としては堅穴建物1棟、掘立柱建物はⅦ区30棟、Ⅷ区8棟、Ⅸ区4棟合わせて43棟の住居を確認した。大まかな傾向としては、7・8世紀頃の古代の建物が約6割、12～13世紀頃の中世の建物が約4割を占める。建物の分布傾向としては、概ねⅦ・Ⅷ・Ⅸ区の全域から確認しているのであるが、古代の建物はⅦ-1～3・Ⅸ-1区、中世の建物はⅦ-2区・Ⅷ-1区に集中する傾向がある。

注目される遺構としては、Ⅸ-1区で梁間6m、桁行13m以上、面積78㎡以上の条里地割方向に向く南北棟の大型建物SB901を確認している。遺物が極めて少量のため、時期判断に問題を残すが、検

出状況から推定して古代の建物跡と考えられる。周辺に同時代の建物等が認められないため、具体的な性格については不明瞭な点が多いが、先述したように近くの河川から墨書土器や土馬片等が出土しており、公的施設の一端の可能性が高い。

Ⅹ-2区は調査区西端部に位置し香東川の支流「古川」の東岸の氾濫源にあたる区域である。そのため、Ⅷ区から延びる微高地は途切れ、レベルも極端に下がる。耕作土直下には細砂・粗砂層が広範囲に堆積しており、遺構・遺物性に検出できなかったため、部分調査で調査を終えた。浅いトレンチ数本で調査を終えたため、下層の堆積層中からの遺物を採集していない。そのため、古川がいつ頃この微高地周辺に至ったのか問題を残すことになった。

第2節 基本層位

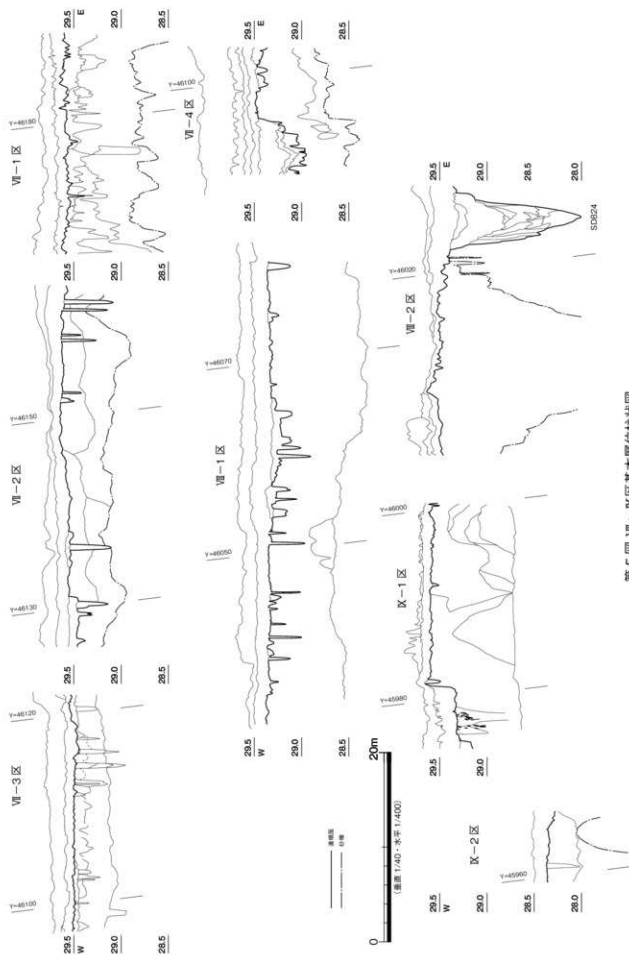
元塚遺跡は香東川、古川等で形成された沖積地上に位置する。本遺跡の調査対象地は、一部の宅地を残しほぼ全面農地であった。遺構面上位には、現在の耕作土や中・近世頃の耕作に伴う土層が、平均0.3～0.4m程の厚さで堆積し、これらの上層の堆積層を除去した後に、弥生時代以降の遺構面に至る。遺構面は丸亀平野や高松平野で通常黄褐色系の粘質土ないしシルト層をベースにし、その下位に河川堆積によるものと考えられる砂礫層が広範囲に堆積しているのが一般的である。

I～VI区では、香東川や古川の上流域から続く数条の埋没河川を確認している。何れの河川も小規模な河川でⅡ区で2条、Ⅲ区で3条、Ⅳ区で1条、Ⅴ区で3条、合わせて9条の河川を確認している。河川間は平坦な微高地が広がり、微高地には古代～中世の集落が展開している。

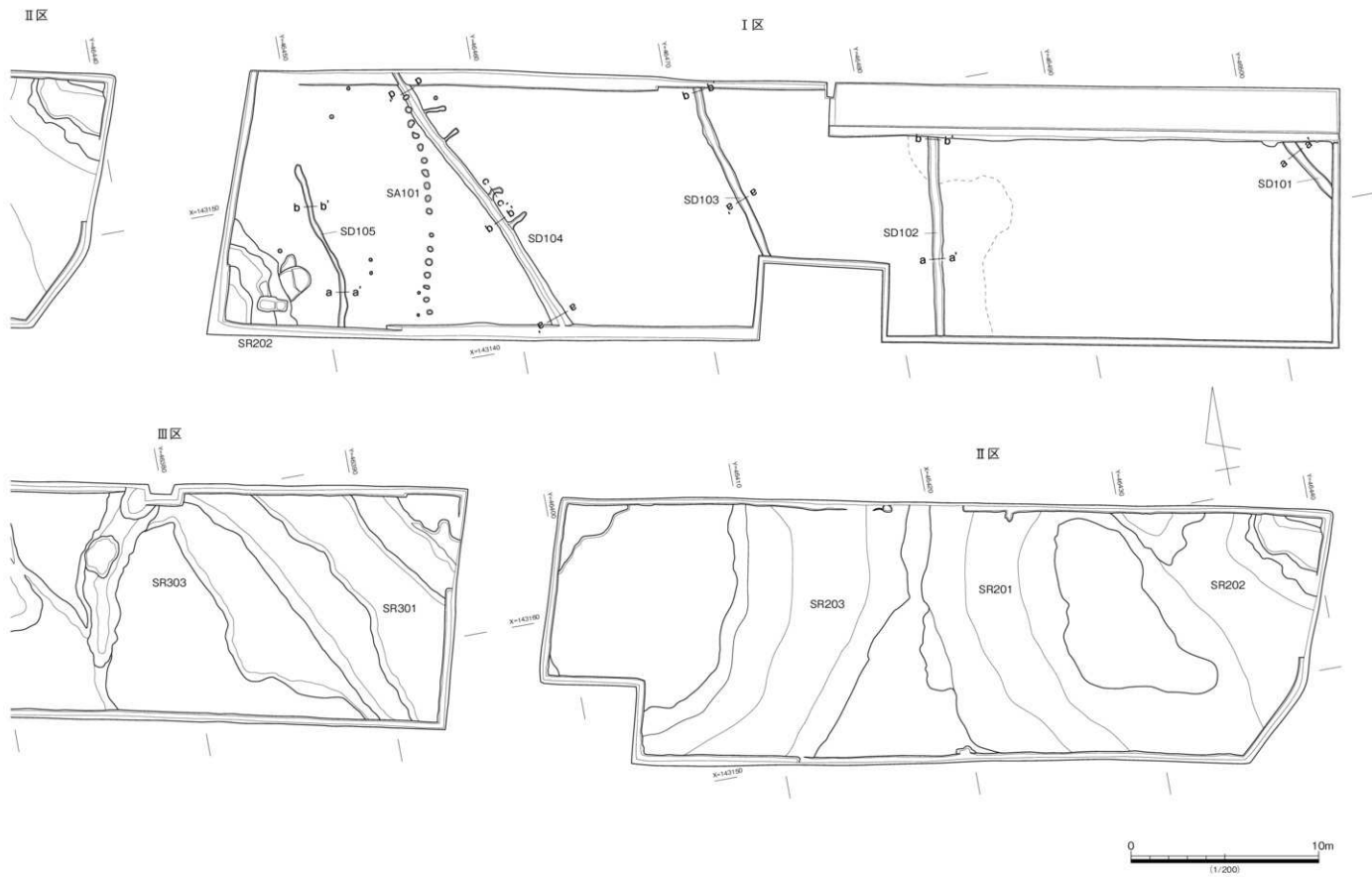
I～VI区の地表面は標高29.4～29.9mを測る。遺構面は東端部にあたるI・Ⅱ区で標高29.0m、Ⅲ・Ⅳ区で29.1～29.3m、Ⅴ・Ⅵ区で29.4mを測り、緩やかに東へ傾斜していることが解る。遺構面を形成するベースは、黄褐色系粘質土～シルト層や灰色系砂質土を主体にしている。黄褐色系粘質土～シルト層と灰色系砂質土の割合については、確認した埋没河川の河川堆積作用により、灰色系砂質土をベースにしている区域の方が多い。先のベース層は地点にもよるが層厚は薄く、平均すれば約0.3～0.4mを測る。ベース層下には砂礫層が広範囲に堆積している。I・Ⅱ区で標高28.6m、Ⅲ・Ⅳ区で28.8m、Ⅴ・Ⅵ区で29.9mを測り、緩やかに東へ傾斜していることが解る。

Ⅶ～Ⅹ-1区ではⅥ区の西端部から続く微高地が安定して広がっている。Ⅹ-2区は古川の氾濫源にあたりレベルもⅩ-1区に比べ大きく下がる。微高地では、古代～中世の集落が広範囲に展開している。氾濫源にあたるⅩ-2区は、耕作土直下には細砂・粗砂層が広範囲に堆積しており、遺構・遺物性に検出できなかったためトレンチ数本で調査を終えた。下層からの遺物採集を行えていないため、古川がいつ頃この微高地周辺に至ったのか不明である。

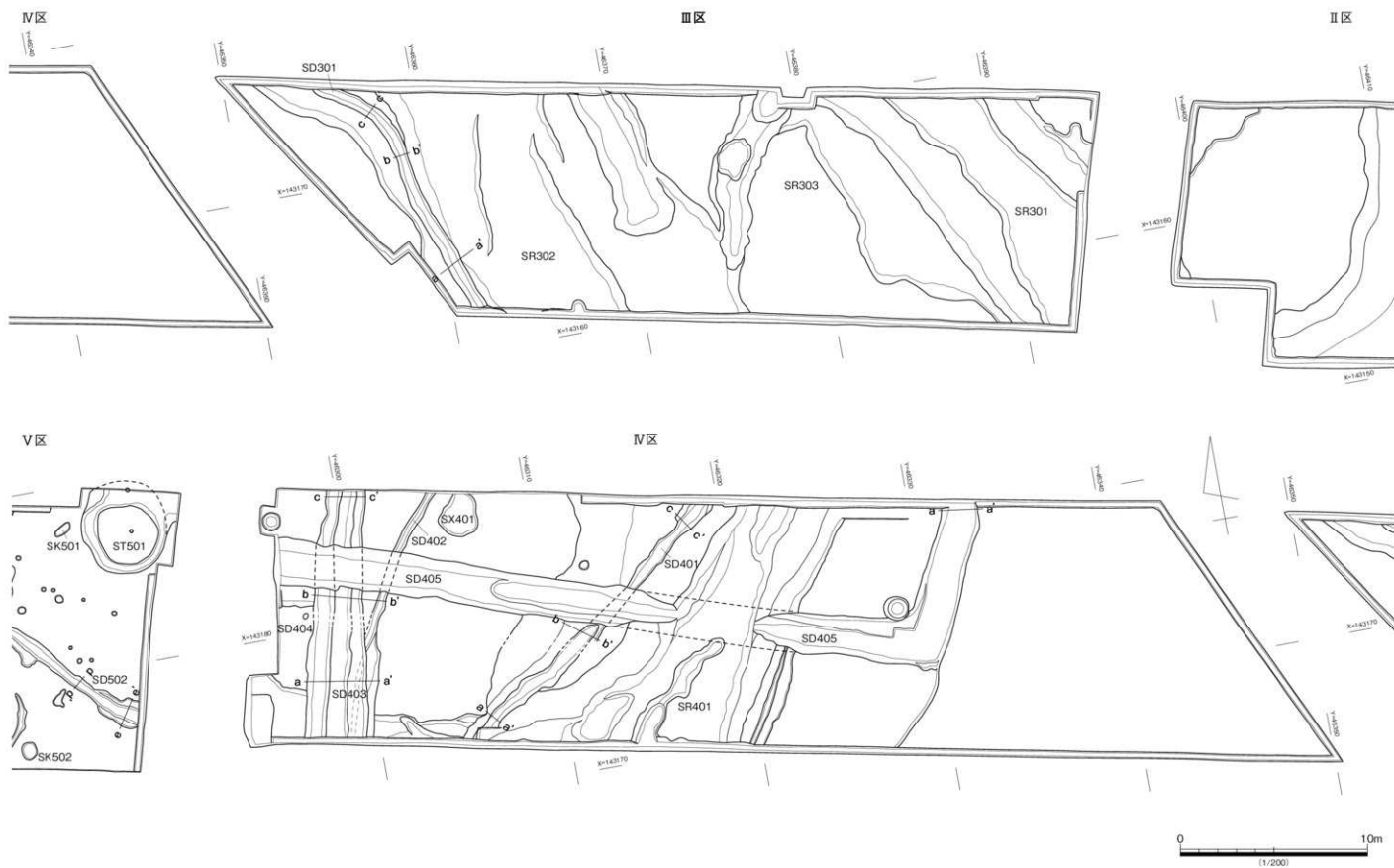
Ⅶ～Ⅹ-1区の地表面は標高約29.7mを測る。遺構面はⅦ・Ⅷ区で標高29.3～29.5m、Ⅹ-1区で29.3m、Ⅹ-2区で28.5mを測り、古川氾濫源にあたるⅩ-2区で大きく下がっている事が解る。遺構面を形成するベースは灰色系砂質土層が主体を占め、一部砂礫層が遺構面上に表れる区域もある。



第5图 VII~IX区基本层位柱状图



第6图 I~II区遗构配置图



第7图 Ⅲ~Ⅳ区遗构配置图

第3節 I～IV区の調査

1. はじめに

I～IV区は調査区東半部の東部に位置し、延長約233mを測る調査区である。I・II区からは河川SR201～203を検出した。遺物が少なく時期を決めるのが難しいが、古代前半頃に埋没したようである。III区からは2条の幅広の河川SR301・302と、小規模なSR303を検出した。河川からは集落からの廃棄物として、①弥生時代中期中葉～後期後半、②7世紀初頭、③8～9世紀、④12世紀頃の遺物が出土した。また、SR301・302の上面には、古代・中世の水田跡を上下2面確認した。

IV区からは幅広で北東方向へ延びる河川SR401を検出した。この河川からは集落からの廃棄物として、弥生時代中期～後期後半、7世紀初頭～8世紀頃の遺物が出土した。注目できる遺物としては、8世紀中頃の杯底部外面に「中」と記載した墨書土器や、河床から出土した大型の建築部材などがあり、元塚遺跡の古代集落跡の性格を推定する上で重要な資料になった。

2. I区の調査

(1) 柵列状遺構

SA101 (第8図)

I区西半部で検出したビット列の遺構である。不整形で浅い小ビット17基で構成される。略南北方向へ配されているが、僅かに東に湾曲している。径約0.2～0.4m、深さ約0.1mを測る。配置に規則性等が認められなく、柱痕も認められないことから、柵列とみるより底面の凹凸が著しい溝跡が、削平により底面の窪み部分が残存した遺構の可能性が高い。

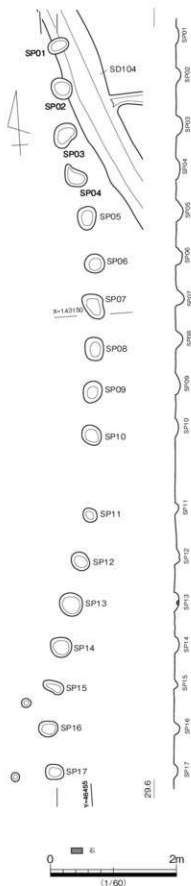
検出したビットからは明瞭な遺物は出土しなかった。そのため詳細な時期判断には無理がある。

(2) 溝状遺構

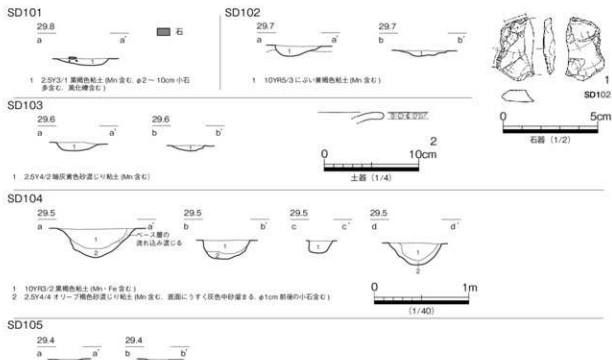
SD101 (第9図)

I区東端部で検出した北西方向に延びる直線溝である。検出長4.0m、幅0.45～0.6m、深さ0.08m、主軸方位N30.0°Wを測る。断面は不整形な皿状を呈し、埋土は黒褐色粘土である。

埋土からは弥生土器の細片が1点出土した。この溝跡は出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理がある。



第8図 SA101 平・断面図



第9図 SD101～105 断面図，出土遺物

SD102 (第9図)

I 区中央で検出した条里地割の方向に揃えて、南北方向に延びる直線溝である。検出長 10.01 m、幅 0.5～0.6 m、深さ 0.06～0.1 m、主軸方位 N8.0° E を測る。断面は不整形な皿状を呈し、埋土はにぶい黄褐色粘土からなる。

埋土からは弥生土器の細片と石器が 1 点出土した。1 はサヌカイト製の楔形石器である。形状から推定して、おそらく石庖丁の転用品であろう。SD102 からは弥生時代の遺物が数点出土しているが、条里地割の方向に向きを揃えている事や、埋土の状況等から、少なくとも古代以降の可能性が高い。

SD103 (第9図)

I 区中央、SD102 の西側で検出した南北方向に延びる直線溝である。検出長 9.5 m、幅 0.4～0.6 m、深さ 0.06～0.08 m、主軸方位 N12.0° W を測る。断面は不整形な皿状を呈し、埋土は暗灰黄色粘土である。

埋土からは弥生土器の細片が出土した。2 は弥生前期前半以降の甕口唇部である。弥生土器が出土しているが、出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理がある。

SD104 (第9図)

I 区西半部で検出した北西方向に延びる直線状の溝跡である。検出長 15.4 m、幅 0.22～0.84 m、深さ 0.12～0.3 m、主軸方位 N25° W を測る。断面は浅い U 字状を呈し、埋土は上下 2 層に分かれ、上層は黒褐色粘土、下層はオリーブ褐色粘土からなる。

埋土からは弥生土器の細片が数点出土したが、出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理がある。

SD105 (第9図)

I区西端部で検出した西方に湾曲気味に延びる溝跡である。検出長9.0m、幅0.2～0.4m、深さ0.02～0.03m、主軸方位N110°Wを測る。断面は浅い皿状を呈する。埋土から遺物が出土していないため時期判断は出来ない。

3. II区の調査

(1) 自然河川

SR201・202 (第10・11図)

II区東半部で検出した幅広で、浅い2条の自然河川である。2条の河川は北端部と南端部で合流しているが、明瞭な切り合いは認められないため、ほぼ同時期に埋没した自然河川と考えられる。また、上層はSR201の東に隣接するSR203の堆積層と同一の堆積層で、最終的にはSR203と同時期に埋没したことが解る。

検出長約14.0m、合流している北端部の幅は約17.0m、中央部は二股に分かれ西側のSR202は幅約7.0m、東側のSR201は幅約6.5m、合流する南端部では幅約19.0mを測る。深さは北端部で約0.6mを測る。断面は地点により微妙に異なるが、概ね浅い谷状を呈する。底面は比較的平坦である。堆積層は7層前後に分かれる。図中の3層は最上層、4層は上層、5・13・18層は中層、14・15・16層は下層に対応する。概ね上層は黄褐色系粘土、中層は灰色系粘土、下層は黒色系粘土を呈する。堆積層から推定して、かなり長期間湿地状を呈しており、時間をかけてゆっくりと埋没したことが推定される。

堆積層からは土師器・須恵器、サヌカイト裂石器等が出土した。3～7は須恵器の資料である。3・4は杯蓋、5・6は杯身、7は須恵器鉢の上半部である。8は土師器の甕の口縁部片である。9～12はサヌカイト裂石器で混入品であろう。9・10・11は石鏃である。11は平基式の大型石鏃である。12は横長剥片の側縁部に刃部を設けた削器である。出土遺物が少なく問題を残すが、SR201・202はSR203同様に8世紀後半以降に埋没を開始し、9～10世紀頃に平坦化した可能性が高い。

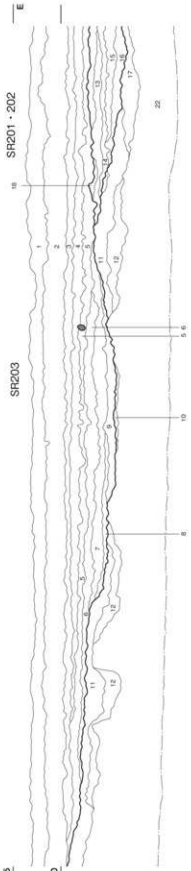
SR203 (第10・11図)

II区西半部、SR202の西に隣接して検出した幅広で、浅い自然河川である。北東方向から北方へ湾曲気味に向く。検出長約15.0m、北端部の幅約9.5m、南端部の幅約7.0m、北端部深さ約0.6m、断面は浅い皿状を呈し、底面は比較的平坦である。堆積層は上層から3～9層に分かれる。3層は最上層、4層は上層、5・6層は中層、7～9層は下層にあたる。上層は黄褐色系粘土層、下層は黄褐色～黒褐色系粘土を呈する。3～5層の上層～中層上位では、SR201・202の上位にまで堆積層が広範囲に広がっており、最終的にはSR201・202と同時期に埋没しているようである。

堆積層からは土師器・須恵器・陶磁器、サヌカイト裂石器類等が出土した。13～17は須恵器の資料で、13は6世紀後半の杯蓋、14は8世紀頃の杯蓋である。15・16・17は杯の上半部である。20は土師器の鍋の口縁部片である。18・19が陶磁器の椀で混入品であろう。21～25はサヌカイト製の石器で混入品であろう。21・22は凹基式の石鏃である。23は石庖丁片に分類したが、削器の可能性もある。24は削器に分類した。25は截断面が認められることから、最終的には楔形石器に転用した槍先形石器、または石庖丁であろう。出土遺物が少なく問題を残すが、SR203は8世紀後半以降に埋没した自然河川の可能性が高い。

II区北壁

29.5
W

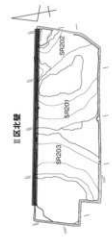


29.5
W

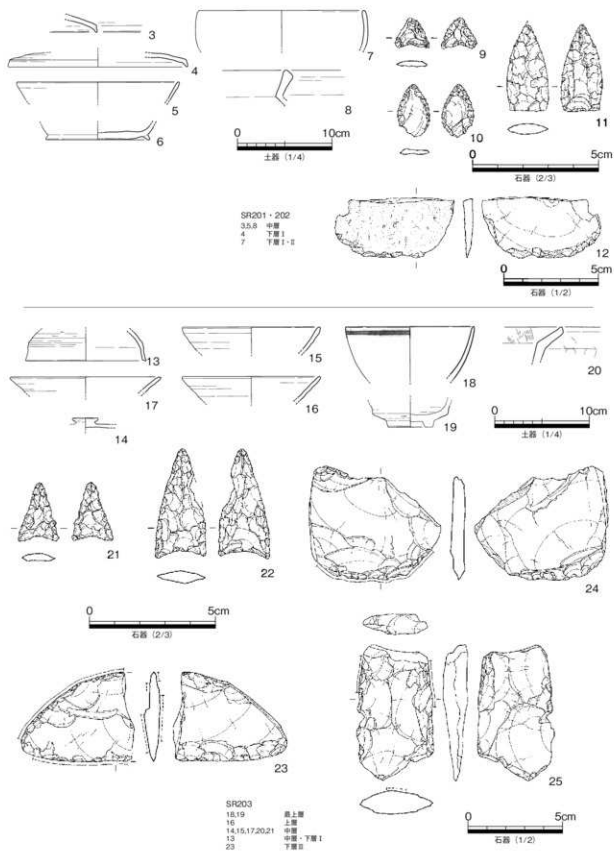


- 断面名称
- 1 障子：障子（障子）
 - 2 2.0771 障子部（障子）
 - 3 2.0771 障子部（障子）
 - 4 2.0765.1 障子部（障子）
 - 5 2.0765.2 障子部（障子）
 - 6 2.0765.3 障子部（障子）
 - 7 2.0765.4 障子部（障子）
 - 8 2.0765.5 障子部（障子）
 - 9 2.0765.6 障子部（障子）
 - 10 障子部（障子）
 - 11 障子部（障子）
 - 12 障子部（障子）
 - 13 障子部（障子）
 - 14 障子部（障子）
 - 15 障子部（障子）
 - 16 障子部（障子）
 - 17 障子部（障子）
 - 18 障子部（障子）
 - 19 障子部（障子）
 - 20 障子部（障子）
 - 21 障子部（障子）
 - 22 障子部（障子）

- 1 障子：障子（障子）
- 2 2.0771 障子部（障子）
- 3 2.0771 障子部（障子）
- 4 2.0765.1 障子部（障子）
- 5 2.0765.2 障子部（障子）
- 6 2.0765.3 障子部（障子）
- 7 2.0765.4 障子部（障子）
- 8 2.0765.5 障子部（障子）
- 9 2.0765.6 障子部（障子）
- 10 障子部（障子）
- 11 障子部（障子）
- 12 障子部（障子）
- 13 障子部（障子）
- 14 障子部（障子）
- 15 障子部（障子）
- 16 障子部（障子）
- 17 障子部（障子）
- 18 障子部（障子）
- 19 障子部（障子）
- 20 障子部（障子）
- 21 障子部（障子）
- 22 障子部（障子）



第10図 II区北壁土層断面図



第 11 図 SR201・202・203 出土遺物

4. Ⅲ区の調査

(1) 溝状遺構

SD301 (第12・13図)

Ⅲ区西端部のSR302の上面で検出した溝状遺構である。南端から中央までは、直線気味の南北方向の溝跡であるが、北端部で湾曲気味に西へ振る。検出長14.5m、幅0.64～0.9m、深さ0.14～0.2mを測る。断面は不整形で凹凸のある浅いU字状を呈する。埋土は数層に分かれるが、主体を占めるのは黒色粘土である。

埋土からは弥生土器・土師器の細片が数点出土した。26・27は弥生土器の壺または甕の底部片であるが、出土状況から混入品と考えられる。この溝跡は出土遺物が少なく、詳細な時期判断には無理がある。

(2) 自然河川

SR301 (第12・14・17図)

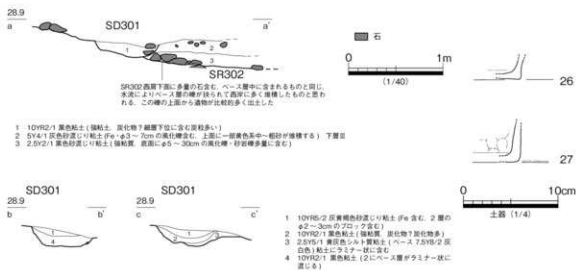
Ⅲ区東半部で検出した自然河川である。平面形は幅広で不整形な形状を呈し、概ね北西方向へ延びる。西方には同規模で同方向に延びるSR302が位置する。また、SR301とSR302の間には、二つの流路を繋ぐ小規模なSR303が位置している。SR301・302の中層～上層では、古代と中世頃の水田面を2面検出した。

検出長約17.0m、幅11.0～13.0m、深さ約0.7mを測る。断面の形状は浅い谷状を呈し、底面は比較的平坦である。堆積層は9層前後に分かれる。南壁土層断面の中で堆積層を大別すれば、下層は8～11層、中層は5～7・18層、上層は4層に区分できる。概ね下層は黒色～褐灰色系粘土、中層は黄褐色系粘土、上層は明黄褐色粘土を呈する。堆積層から推定して、かなり長期間湿地状を呈しており、時間をかけてゆっくり埋没したことが考えられる。なお、南壁7層は古代の水田耕土層に対応し、北壁面の50層は中世水田耕土層に対応する。

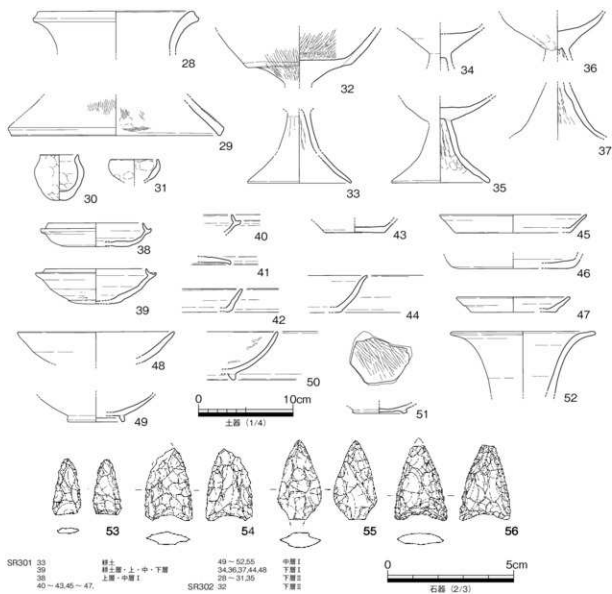
堆積層中からは弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器・瓦器、サヌカイト裂石器等が出土した。28・29は弥生時代後期後半頃の弥生土器で、28は壺口縁部、29は高杯の脚部片である。30・31は弥生の甕と鉢のミナヅ土器である。32～37は古墳時代前期頃の土師器高杯である。38～43・45～47・52は須恵器の資料である。41は蓋、38～40・42・43は杯である。38～40はTK217の杯身、42は8世紀頃の杯、45～47は8世紀頃の皿である。44は土師器の杯、48は土師器の碗の上半部、49・50は黒色土器の碗、51は瓦器椀底部である。なお、土師器高杯33及び須恵器杯39は、上位の古代水田面の耕土層から出土した土器で、水田面の上限期を示す資料になる。53～56はサヌカイト製の石礮である。出土遺物よりSR301は弥生時代後期後半頃から埋没が進行し、7～8世紀頃には河川機能は失われ、その後、耕地化がなされたものと考えられるが、具体的な時期については不明瞭である。

SR302 (第12・13・15～17図)

Ⅲ区西半部で検出した自然河川である。平面形は幅広で不整形な形状を呈し、概ね北西方向へ延びる。西方には同規模で同方向に延びるSR301が位置する。また、SR302とSR301の間には、二つの流路を繋ぐ小規模なSR303が位置している。SR301・302の中層～上層では、古代と中世頃の水田面を2面検出した。検出長約14.0m、幅13.0～15.0m、深さ約0.6mを測る。断面の形状は浅い谷状を呈し、底面は部分的に凹凸がある。堆積層は10層前後に分かれる。



第13図 SD301・SR302 断面図、出土遺物



第14図 SR301 出土遺物

北壁土層断面図中で堆積層で大別すれば、最下層は24層、下層は10・11・13・14層、中層は6～9層、上層は5層に区分できる。概ね下層は黒色～褐灰色系粘土、中層～上層は明黄褐色系粘土が主である。堆積層から推定して、かなり長期間湿地状を呈しており、時間をかけてゆっくり埋没したことが考えられる。なお、南壁7層は古代の水田耕土層に対応し、北壁面の50層は中世水田耕土層に対応する。

堆積層中からは縄文土器・弥生土器・須恵器・黒色土器、ササカイト製石器類が出土した。57は縄文土器の浅鉢の上半部である。口縁端部には一対の穿孔が施されている。58～66は弥生土器である。58・59は弥生時代中期後半頃の壺の口頸部である。60・61は壺の口縁部片、62～66は壺の底部である。64～66の底部は弥生時代中期後半頃の可能性が高い。68・69は弥生土器の甕転用の紡錘車である。67は土師器高杯の脚部である。70～87は須恵器杯の資料である。70・71は7世紀前半のTK217並行の杯身片である。73～75は8世紀頃の杯である。76～87の杯は、おそらく10世紀前後の杯であろう。88は土師器碗、89・90は黒色土器の碗、92は須恵器壺の高台付底部である。なお、須恵器杯78は、河川の上位で確認した古代水田面の耕土層から出土した土器で、水田面の上限期を示す資料になる。

93～100はササカイト製の石器である。93・94は凹基式の石鏃である。95・96は大型の横長剥片を素材にした割器である。95の側縁部には、ほぼ全周にツブレ痕を残している。97～99は裁断面が認められることから楔形石器に分類した。100は石核である。平坦打面から剥片剥離を行っている。101は棒状の不明鉄器である。出土遺物よりSR302は弥生時代中期頃から埋没が進行し、SR301同様に7～8世紀頃には河川機能は失われ、その後耕地化がなされたものと考えられるが、具体的な時期については不明瞭である。

SR303 (第12図)

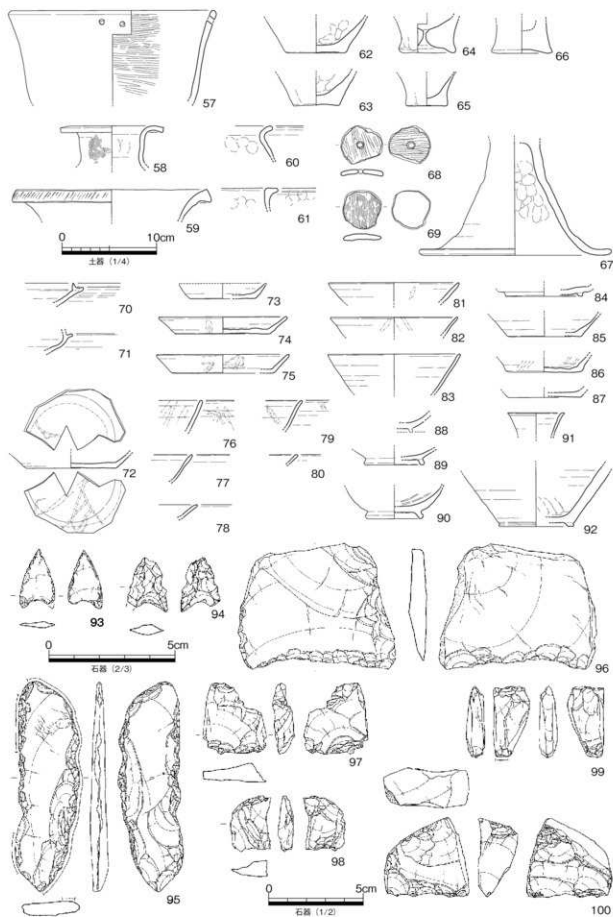
Ⅲ区中央のSR302とSR301の間で検出した二つの流路を繋ぐ小規模な流路である。平面形は不整形な形状を呈し、SR302の南東の肩口から僅かに東に湾曲し、SR301の北西の肩口に繋がる状況で検出した。二つの流路との切り合いが確認できないことから、他の二つの流路と同一歩調で埋没した流路と考えられる。検出長約10.0m、幅1.5～2.8m、深さ約0.65mを測る。断面の形状は凹凸がある逆台形状を呈する。底面には北端部と中央部で窪状の落ち込みが認められる。堆積層は4層前後に分かれ、上層は褐灰色系粘土、下層は黄灰色系粘土を呈する。堆積層からは弥生土器の細片、古代の須恵器片等が少量出土した。

SR301・302水田跡 (第17・18図、第4表)

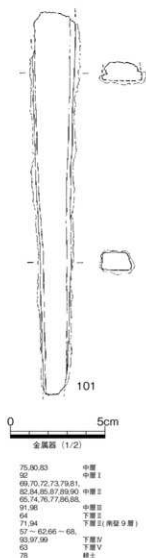
Ⅲ区SR301・302の最終埋没層の上面で、中世前半と古代の水田面を検出した。中世水田面を第1水田面、古代の水田面を第2水田面と仮称する。

第1水田面はSR301の上面で部分的に検出した。SR301周辺のSR201～203及びSR302上面では、後世の削平等により、この時期の水田面は確認できなかった。水田跡は機械掘削の際に一部を欠いたため、残りは極めて悪い。検出した畦畔は、SR301の河川を東西に横断するように、東西方向の畦畔301と、その畦畔に短く南北方向の畦畔が2条取り付く。水田は①～④等の4筆が推定できるが、いずれも残りが悪く形状等不明瞭な点が多い。Ⅲ区北壁50層が水田面のベースになる土層、北壁13層前後が耕土層にあたる。水田面の標高は29.3m前後を測る。

東西畦畔301は推定検出長約13.0m、幅約1.0m、高さ0.08mを測る。主軸方向はN52°Eを測り、



第15図 SR302出土遺物(1)



第16図 SR302 出土遺物 (2)

第4表 元塚遺跡 SR301・302 水田跡一覧

遺構名	形態	縦横 (m)	面積 (㎡)	平均高 (m)
水田①	-	4.0 以上 × -	-	29.3 前後
水田②	-	6.0 ? × -	-	29.3 前後
水田③	-	2.0 × -	-	29.3 前後
水田④	-	3.3 以上 × 0.9 以上	-	29.3 前後
水田⑤	長方形?	9.1 以上 × 6.0	38.8 以上	29.2 前後
水田⑥	長方形?	3.7 以上 × 3.3 以上	11.1 以上	29.2 前後
水田⑦	台形	5.7 × 2.8	12.2	29.2 前後
水田⑧	長方形?	6.8 以上 × 4.1 以上	13.1 以上	29.2 前後
水田⑨	台形	5.7 以上 × 4.1 以上	12.4 以上	29.2 前後
水田⑩	台形?	2.7 以上 × 1.8 以上	4.3 以上	28.8 前後
水田⑪	方形?	4.0 × 1.8 以上	5.1 以上	28.8 前後
水田⑫	-	1.2 以上 × 0.7 以上	0.4 以上	28.8 前後
水田⑬	台形?	3.7 以上 × 2.0 以上	5.4 以上	28.8 前後
水田⑭	長方形	10.3 × 4.2 以上	51.9 以上	28.8 前後
水田⑮	長方形	9.9 × 5.5	46.6	28.8 前後
水田⑯	長方形?	7.6 以上 × 2.7 以上	19.8 以上	28.8 前後
水田⑰	-	1.3 以上 × 1.0 以上	0.6 以上	28.8 前後
水田⑱	台形?	6.5 以上 × 5.3	19.4 以上	28.8 前後
水田⑳	長方形?	7.0 以上 × 3.0 以上	21.2 以上	28.8 前後

現地表の地割(条里地割)とは大きく異なり、下層の流路方向に規制された状況が窺える。畦畔の断面は台形状を呈し、造成土中には径0.02~0.1m程度のベース黄褐色粘土ブロックを多量に含んでいる。耕土層からの出土遺物は極めて少ないが、瓦器碗、西村産の須恵器碗片などが出土しており、概ね12世紀以降の水田跡と考えられる。

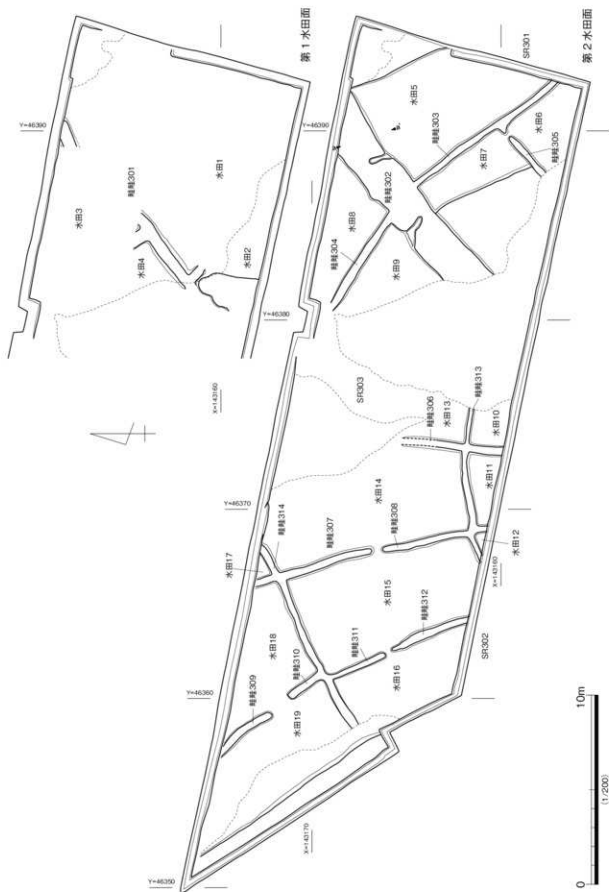
第2水田面は第1水田面より下位のSR301・302の最終埋没層の上面で検出した。水田域は、SR301水田域とSR302水田域の二つの範囲に分かれる。検出状況から、本来、広範囲に広がっていた水田域が、後世の削平によりSR301・302間の水田域が消失し、結果的に二つの水田域に分離したものと考えられる。

第2水田面SR301域は、流路を横断する形で配された、幅2.2~2.3m、高さ0.15mを測る大型畦畔302により大きく南北に二分され、小畦畔304・303・305がとりつくことにより、計5筆の水田(水田⑤~⑨)に分かれる。Ⅲ区北壁51層が水田面のベースになる土層、北壁13層が耕作土層にあたる。水田面の標高は29.2m前後を測る。水田⑤・⑧間の畦畔302、⑥・⑦間の畦畔305では、田渡しの水口を確認した。また、大畦畔302は上層水田面の畦畔301とはほぼ重複して検出しており、上層水田と基本的な地割方向に大きな変化はない。水田面のベース層中には、径0.01~0.1m程度のベース黄褐色粘土及び下位層のブロックを多量に含んでおり、水田造成に伴い整地された可能性が高い。

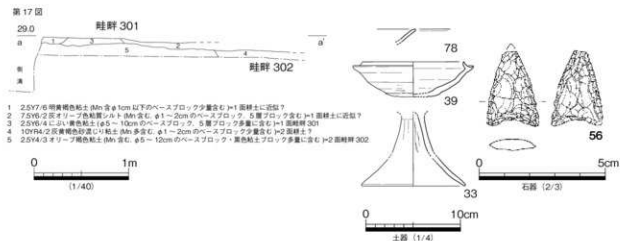
第2水田面SR302域は、河川の流路方向に向きを揃え主軸と

なる長軸畦畔を南北方向に3条配し、更に長軸畦畔に直交する形で短軸畦畔を2条配している。検出した水田は不整長方形~不整形形状を呈し、水田⑩~⑰の計10筆を確認した。Ⅲ区南壁8層が水田畦畔を構成する土層、南壁7層が耕作土層にあたる。水田面の標高は28.8m前後を測る。水田の面積は残りが良好な水田⑭・⑱等で約47.0~52.0㎡を測る。また、水田⑭・⑱間、水田⑱・⑲間、水田⑱・⑲間の長軸畦畔には田渡しの水口を確認した。

第2水田面の時期を示す資料は少ないが、水田面のベース層より7世



第 17 図 SR301・302 第 1・2 水田面



第18図 畦畔301・302断面図, 出土遺物

紀前半頃の須恵器・土師器片を少量出土した。また、水田面上面の包含層から古代前半の遺物が少量出土している。39は水田⑤の水田ベース層から出土したTK217並行期頃の須恵器杯身で7世紀初頭頃の土器である。33は水田⑤から出土した7世紀前半頃の土師器高杯の脚部である。これらの資料は第2水田面の上限を示す資料の一つであるが、SR301・302の両河川共に11~12世紀頃までの古代後半の土器を含んでおり、おそらく、この頃が第2水田面の形成時期と考えられる。

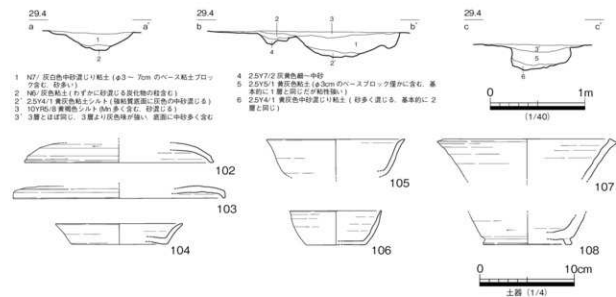
5. IV区の調査

(1) 溝状遺構

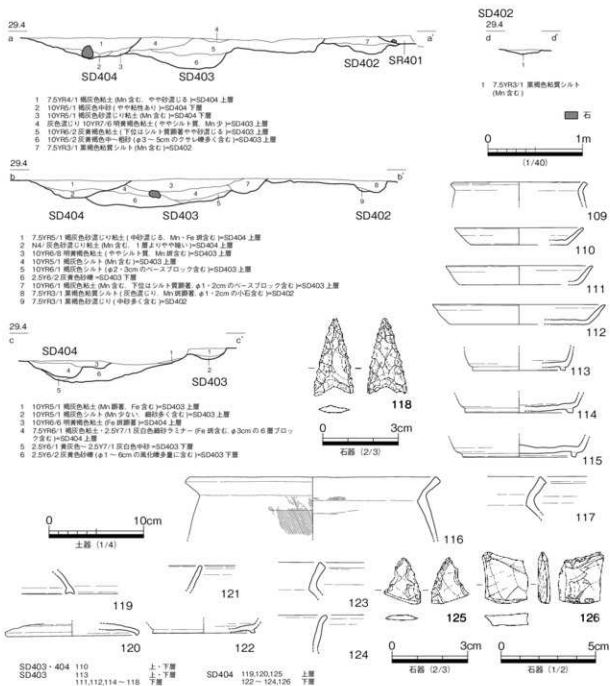
SD401 (第19・20・23図)

IV区中央のSR401上面で検出した北東方向に延びる直線溝である。検出長173m、幅0.9~1.94m、深さ0.18~0.28m、主軸方位N54.0°Eを測る。断面は幅広なU字状を呈し、埋土は灰色~黄灰色系の粘土・シルト等からなる。

埋土からは古代の土師器・須恵器、中世土師器片が出土した。102~108はSD401から出土した8~



第19図 SD401断面図, 出土遺物



第20図 SD401~404断面図, 出土遺物

9世紀頃の須恵器の資料である。102・103は杯蓋の口縁部、104~106は杯、107は甕の口縁部片、108は高台付の壺底部である。SD401は出土遺物から中世以降の溝跡と考えられる。

SD402 (第20・23図)

Ⅳ区西端部に位置し、SD403・404に切られる形で検出した直線気味の溝である。検出長13.9m、幅0.4~1.3m、深さ0.04~0.18m、主軸方位N34.5°Eを測る。断面形状は地点により様々な形状を呈し、埋土は上層が褐灰色粘土、下層は黒褐色粘土からなる。

埋土からは弥生・土師器の小片が数点出土した。109は弥生土器の甕口縁部片である。この溝跡は出

土遺物が少なく、詳細な時期判断には無理があるが、8世紀中頃のSD403・404に切られていることから、8世紀中頃以前の時期が考えられる。

SD403 (第20・23図)

Ⅳ区西端部に位置し、SD404に切り込まれている直線溝である。なお、SD403・404は条里地割の南北の坪境に隣接するため、条里地割の溝状遺構の可能性が高い。検出長13.2m、幅1.9～2.1m、深さ0.22～0.32m、主軸方位N13.0°Eを測る。断面は幅広く不整形な形状を呈し、埋土は上層が褐灰色シルト、下層が灰黄色砂～砂礫からなる。

埋土からは7～8世紀の土師器・須恵器が出土した。110～115は8世紀中頃の須恵器である。110～112は皿、113～115は杯底部、116・117は土師器の甕口縁部である。118は凹基式のサヌカイト製の石楕で混入品であろう。SD403は出土遺物から8世紀中頃以降に埋没した溝跡と考えられる。

SD404 (第20・23図)

Ⅳ区西端部に位置し、SD403を切り込む直線溝である。なお、先述したようにSD403・404は条里地割の南北の坪境に隣接するため、条里地割の溝状遺構の可能性が高い。検出長13.2m、幅0.9～1.1m、深さ0.18～0.22m、主軸方位N13.0°Eを測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は褐灰色粘土・灰色粘土等からなる。

埋土からは7～8世紀の土師器・須恵器片が出土した。119～122はSD404出土の須恵器である。119・120は杯蓋、121・122は杯、123・124は土師器の甕口縁部片である。125・126はサヌカイト製の石器で混入品であろう。125は石楕未製品の先端部片、126は裁断面が認められることから楔形石器に分類した。SD404は出土遺物から8世紀中頃以降に埋没した溝跡と考えられる。

SD405 (第21・23図)

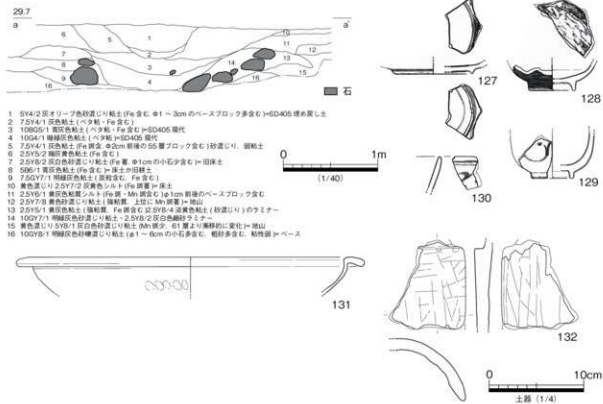
Ⅳ区西半部の耕作土直下で検出したL字型に折れ曲がる直線溝である。検出状況からこの溝跡は、近現代の溝跡である。切り込み面はベース面より約1.0m上位の包含層上面から切り込んでいる。検出長42.5m、幅0.7～1.0m、深さ0.9m、方位N72°W26.0°Eを測る。断面は不整形な逆台形状を呈し、埋土の堆積状況から2回以上の改修が考えられる。

埋土からは土師器・陶磁器・瓦等が出土した。127は磁器の皿、128～130は陶器の碗、131は瓦質土器の焙烙、132は丸瓦片である。SD405は出土遺物から近世以降の溝跡と考えられる。

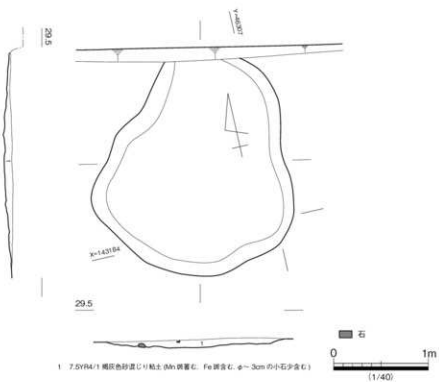
(2) 不整形遺構

SX401 (第22図)

Ⅳ区西半部、北壁際に検出した不整形な落ち込み状の遺構である。平面形状は不整形な楕円形状を呈し、長径2.3m、短径2.14m、深さ0.08mを測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は単層で、褐灰色砂混じり粘土からなる。埋土からは7世紀頃の須恵器細片が出土しているが、資料が少なく詳細な時期判断には無理がある。



第 21 図 SD405 断面図, 出土遺物



第 22 図 SX401 平・断面図

(3) 自然河川

SR401 (第23～27図)

Ⅳ区中央で検出した自然河川である。平面形は幅広で不整形な形状を呈し、概ね北東方向へ延びる。検出長約15.0m、幅12.0～15.0m、深さ約1.0mを測る。断面は幅広い皿状を呈し、埋土は複数層に分かれる。埋土からは少量の弥生時代前期・後期の土器と、7～8世紀の土師器・須恵器等が多量に出土した。出土状況としては、弥生土器は主に最下層から出土している。7世紀の土器は最下層前後～上層まで、8世紀の土器は最上層前後を中心に出土している。

埋土からは133～226の土器・石器類が出土した。133～136・138は弥生土器の資料で、主に最下層ないし下層から出土している。133は弥生時代後期前半頃の長頸壺の口縁部で、135は壺の底部である。136は如意状の口縁部を呈する、弥生時代前期末～中期前半の甕上半部である。

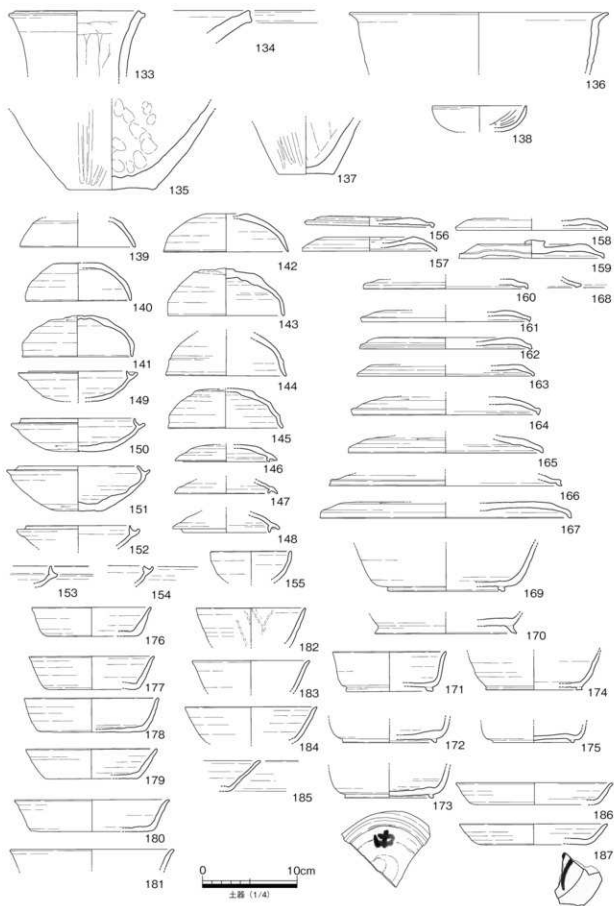
139～193・195～198は7世紀前半～8世紀後半頃の須恵器である。139～154はTK209・217並行の7世紀初頭頃の杯で139～145は杯蓋、146～148は杯部内面にかえりが付く杯蓋、149～154は杯身である。169～175は8世紀中頃～後半の高台が付く杯である。173は墨書土器で、底部外面の上部に「中」の記載があり注目される。底部下半部には記載は確認できないが、あと1～2字は記入できるスペースがある。「中」が何を意図した記載か判断が難しいが、一つの見方として瓦塚遺跡は古代の香川郡中間郷に位置する。そのため、記載している「中」は地名の「中間郷」を指す可能性も考えられるが、詳細な点は今後の課題となる。186・187は皿である。187は墨書土器と考えられるが記載内容については不明である。188～191は7世紀前半頃の高杯である。192・193は鉢である。195～197は甕上半部である。198は壺口縁部である。口縁部内面にはヘラ記号を残している。

199～207は土師器の資料である。199～204は甕片である。194は外面に縄目タタキを施しており、下半部を欠く韓式土器の小型の平底の鉢と考えられる。205は甕片、206は飯蛸壺、207は土錘である。

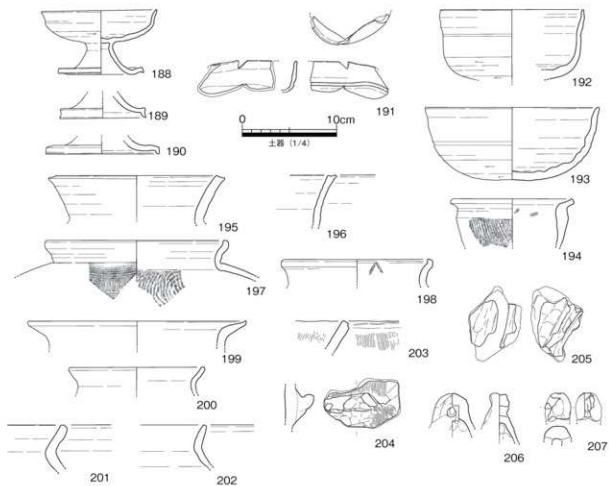
208～226はサスカイト製石器類である。208～219は石鏃である。208・209は凹基式、211～213は平基式、214～216は凸基式の石鏃である。217～219は形状から石鏃の未製品と考えられる。220は削器、221～223は打製石斧の基部及び先端部、225は円盤状の形状をした敲き石である。側縁部には潰れ痕が顕著に認められる。

227～230はSR401から出土した木製品である。227・228は最下層から出土した大型の木製品で、形状から建築部材と考えられる。227は角柱状に整形した部材で、おそらく柱材と考えられる。外面にはヤリガンナの工具痕を顕著に残している。材質は同定結果によればブナ科アカガシ亜属に分類される。228は残りが悪いが、形状からミカン部材と考えられる。材質は同定結果によればブナ科アカガシ亜属に分類される。229・230は小型の板材である。材質は同定結果によればヒノキ科ヒノキ亜属に分類される。

遺物の出土状況からSR401の埋没過程は概ね2段階に分けられる。第1段階は弥生時代後期前半以降、第2段階は7世紀前半～8世紀後半頃と考えられる。



第 24 図 SR401 出土遺物 (1)



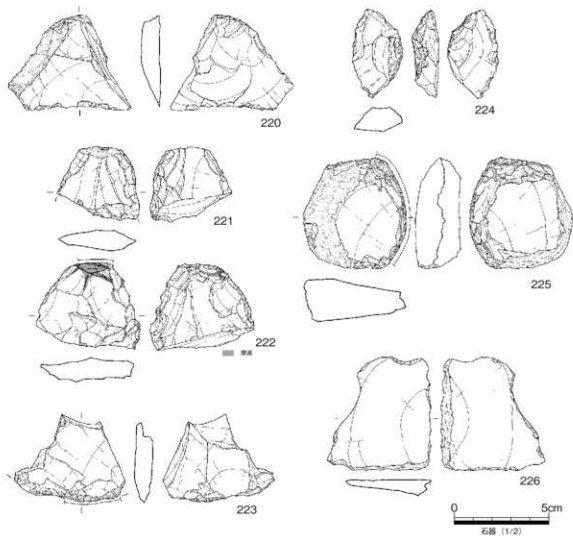
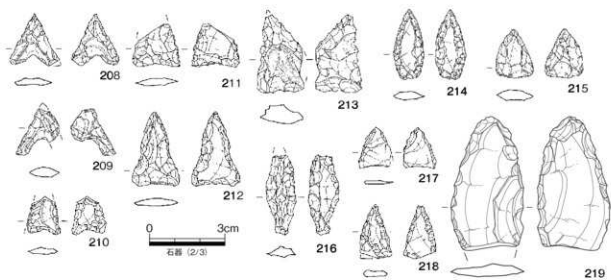
134,157,176,187,196,200 最上層(南段13層)
 186,190,177,179,182 最上層(南段16層)
 156,159,161 ~ 164,167,
 169,170,173,
 178,180,185,186,190,203
 204,207 最上層南段17層)
 166,174,206 最上層北段18層)
 171 最上・上層(南段17・21層)
 152 最上・上層(南段13・18層)

147,154,155,205 166,172,175,183,184,194,
 195,199,201 141
 146
 145
 197
 153,168

上層(南段18層)
 上層(南段21層)
 上・中層(南段18・20層)
 上・中層(南段14・18層)
 上・中・下層(南段18・20・22層)
 上・下層(南段18・22層)
 上・下・最下層(南段18・22・28層)
 中層(南段20層)

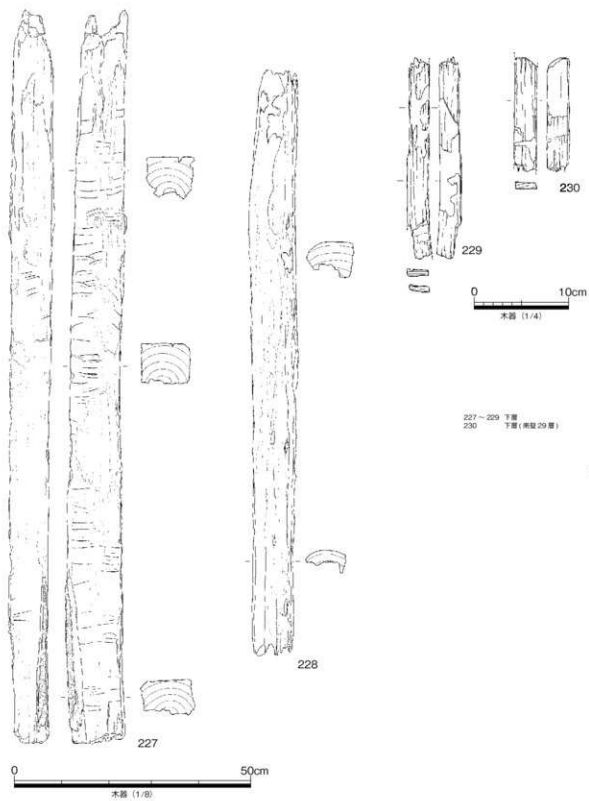
136,139,144 下層(南段22・29層)
 142,189 下層(南段22層)
 138,191,202 下層北段19層)
 143,191,193 下・最下層(南段22・28層)
 133,135,137,140,148,149,
 151,158,192,198 最下層南段26層)

第25図 SR401 出土遺物(2)

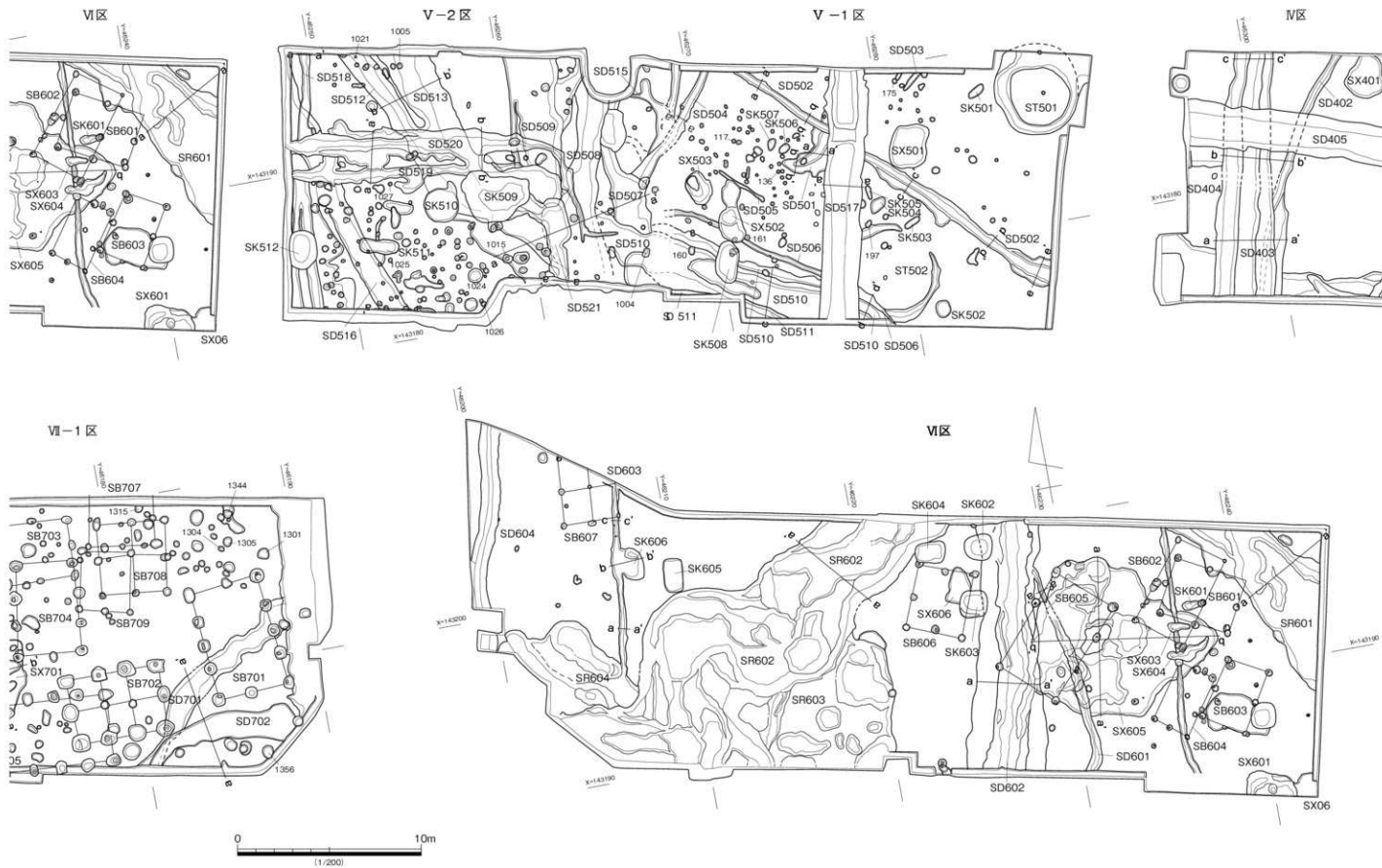


210,214,215	最上層(南段13層)
213,216,218,224	最上層(南段17層)
208,211,221	土層(南段10層)
223	土層(南段21層)
206,217	中層(南段20層)
225	下層(南段22層)
212,219,220,222,226	最下層(南段28層)

第26図 SR401出土遺物(3)



第27図 SR40



第28图 V~VI区遺構配置図

第4節 V・VI区の調査

1.はじめに

V・VI区は調査区東半部の西部に位置し、延長約96mを測る調査区である。V区からは2基の弥生時代中期以降の円形周溝状遺構、数条の7世紀初頭～8世紀後半の溝状遺構、近世以降の外郭溝を伴う屋敷地等を検出した。円形周溝状遺構は住居の外周を巡る周溝の可能性もあるが、周溝の規模等から墓の可能性が高い。ただ、削平により主体部を欠くため若干の問題を残している。VI区からは7世紀初頭頃の7棟の掘立柱建物からなる集落グループと3条以上の流路が重複する河川跡SR602～604を検出した。河川からは、弥生時代中期～後期後半、7世紀初頭頃の遺物が多量に出土しており、遺物の出土状況から推定して、SR602～604は弥生時代後期後半以降には初期の流路が存在しており、7世紀前半以降に本格的に埋没が開始し、完全に平坦化するのとは古代前半頃と推定される。注目できる遺物としては、土馬の脚部と考えられる資料や鉄鍬が1点出土しており、先述したIV区SR401から出土した墨書土器を含め、周辺域に所在する集落の性格を推定するうえで重要な遺物になる。

2. V区の調査

(1) 土坑跡

SK501 (第29図)

V区東端部、ST501の西側で検出した土坑である。削平を受けたものと考えられ残りは極端に悪い。平面は長楕円形状を呈し、長径1.08m、短径0.43m、深さ0.02m、主軸方位N61°Eを測る。断面は皿状を呈し、埋土からは弥生土器か土師器か判断できない土器の細片が数点出土した。出土遺物が少ないため、SK501の時期の判断は出来ない。

SK502 (第29図)

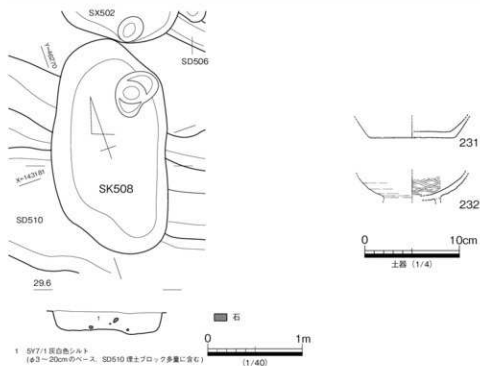
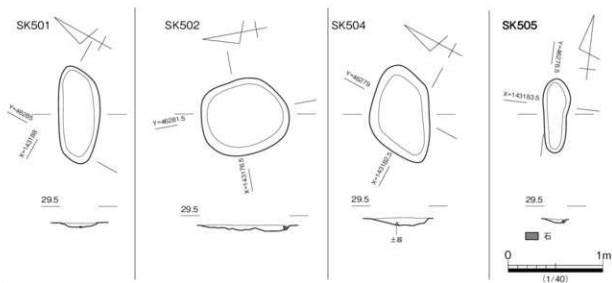
V区東半部、ST502の南東側で検出した土坑である。削平を受けたものと考えられ残りは悪い。平面は円形状を呈し、長径0.94m、短径0.84m、深さ0.08mを測る。断面は凹凸のある皿状を呈し、埋土から遺物は出土しなかったため、SK502の時期の判断は出来ない。

SK503 (第35図)

V区東半部、ST503の北東側で検出した土坑である。削平を受けたものと考えられ残りは極端に悪い。平面は長楕円形状を呈し、長径1.0m、短径0.34m、深さ0.02m、主軸方位N65°Eを測る。断面は皿状を呈し、埋土からは弥生土器か土師器か判断できない土器の細片が数点出土だけで、出土遺物が少ないため、SK503の時期の判断は出来ない。

SK504 (第29図)

V区東半部、ST502の北側で検出した土坑である。削平を受けたものと考えられ残りは悪い。平面は不整形円形状を呈し、長径1.04m、短径0.64m、深さ0.08m、主軸方位N61°Eを測る。断面は皿状を呈し、埋土からは土師器片、須恵器片等が数点出土した。出土遺物からSK504の詳細な時期判断を下すには無理があるが、概ね古代の遺構と考えられる。



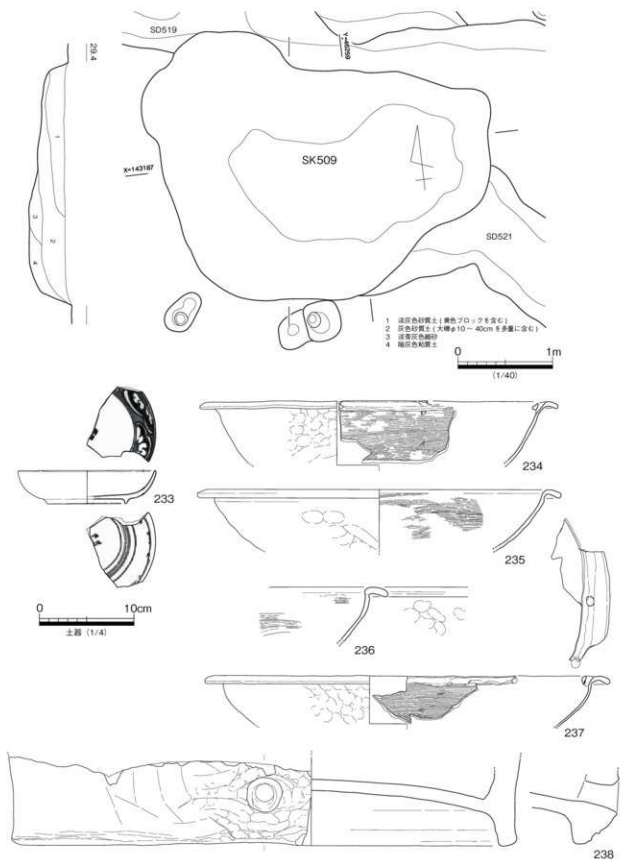
第 29 図 SK501・502・504・505・508 平・断面図，出土遺物

SK505 (第 29 図)

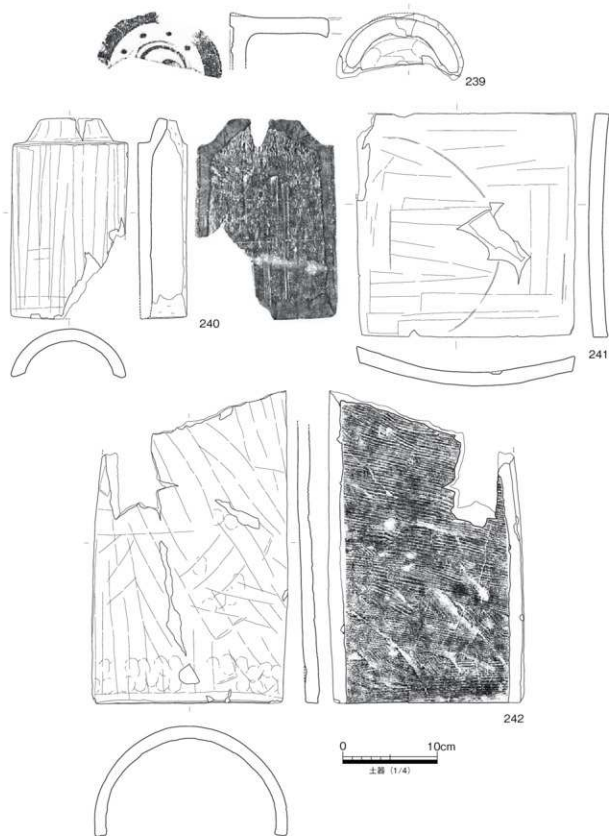
V区中央部、SD517の東側で検出した土坑である。削平を受けたものと考えられ残りは悪い。平面は長楕円形状を呈し、長径 0.8 m、短径 0.3 m、深さ 0.04 m、主軸方位 $N6^{\circ} W$ を測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土からは土師器片が数点出土しただけで、詳細な時期判断を下すには無理がある。

SK508 (第 29 図)

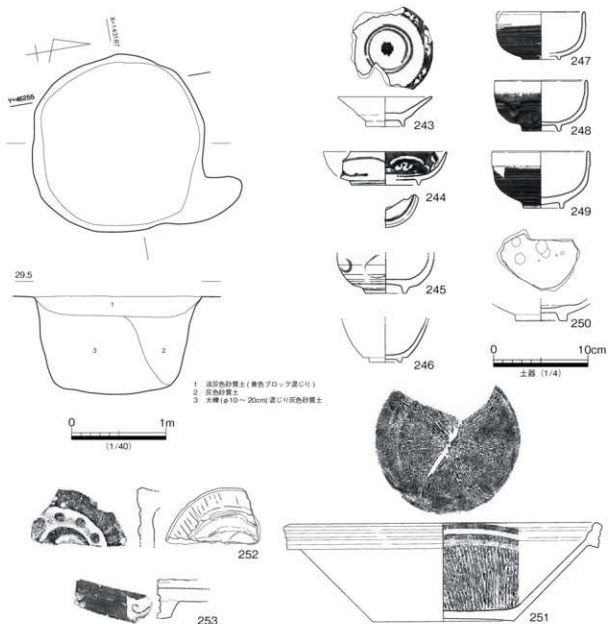
V区中央に位置し、SD510を切り込んで検出された土坑である。平面は不整楕円形状を呈し、長径 2.24 m、短径 1.2 m、深さ 0.21 m、主軸方位 $N20^{\circ} E$ を測る。断面は幅広な U 字状を呈し、埋土は灰白色シルトの単層である。



第30図 SK509平・断面図, 出土遺物(1)



第31図 SK509出土遺物(2)

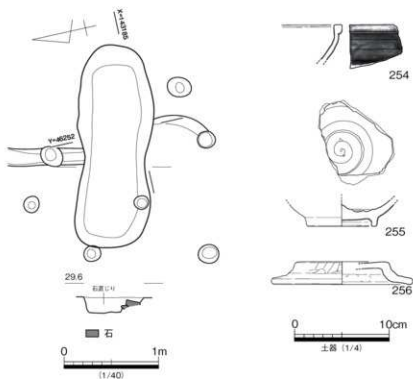


第32図 SK510平・断面図，出土遺物

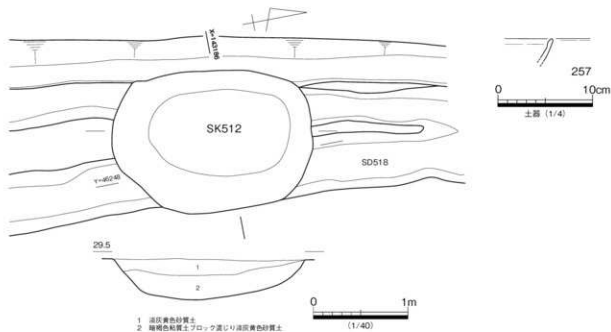
埋土からは土師器・須恵器が少量出土した。231は土師器の杯底部である。232は黒色土師の椀の底部片である。出土遺物からSK508は古代末の12世紀頃の時期が考えられる。

SK509 (第30・31図)

V区西半部、SK510の東側、SD519・521を切り込む形で検出した土坑である。平面は不整楕円形状を呈し、底面は比較的平坦である。掘方の下位層ではベースの砂層を掘りこんでおり、湧水がみられることから水溜め状の遺構の可能性が高い。長径3.72m、短径2.82m、深さ0.24～0.38mを測る。断面は幅広い隅丸逆台形状を呈し、上層は径10～40cmの礫混じり灰色砂質土、下層は淡青灰色細砂、暗灰色粘質土である。



第33図 SK511平・断面図, 出土遺物



第34図 SK512平・断面図, 出土遺物

埋土からは19世紀頃の染付、瓦質土器、瓦等が出土した。233は染付皿、234～237は瓦質土器の焙烙、238は土師質の風呂釜の底部、239は軒丸瓦、240～242は丸瓦と平瓦である。出土遺物からSK509は近世後半以降の時期が考えられる。

SK510 (第32図)

V区西半部、SD519の南、SK509の西側で検出した土坑である。平面は円形状を呈し、底面は比較的平坦である。掘方の下位層ではベースの砂層を掘りこんでおり、かなり湧水がみられることから井戸であった可能性が高い。長径2.24 m、短径1.9 m、深さ1.04 mを測る。断面はU字状を呈し、上層は淡灰黄色砂質土、下層は径10～20cm程の礫混じりの灰色砂質土をからなる。

埋土からは近世陶磁器、瓦片等が出土した。243・244は染付皿、245～250は陶器の椀、251は備前の搦鉢、252・253は軒丸瓦と軒平瓦である。出土遺物からSK510は近世以降の時期が考えられる。

SK511 (第33図)

V区西端部、SK512の東側で検出した土坑である。平面は長楕円形状、断面は逆台形状を呈する。長径2.16 m、短径0.84 m、深さ0.16 m、主軸方位N14°Eを測る。

埋土からは19世紀頃の陶磁器等が出土した。254は陶器の鉢、255は陶器壺、256は土師器の蓋である。出土遺物からSK511は近世後半以降の時期が考えられる。

SK512 (第34図)

V区西端部、SD518を切り込んで検出した土坑である。平面は楕円形状を呈し、長径2.12 m、短径1.52 m、深さ0.42 m、主軸方位N11°Eを測る。断面は幅広のU字状を呈し、上層は淡灰黄色砂質土、下層は暗褐色粘質土ブロック混じり淡灰黄色砂質土からなる。

埋土からは土師器・須恵器片が数点出土した。257は土師器の杯口縁部片である。出土遺物から詳細な時期判断を下すには無理があるが、検出状況からSK512は近世以降の土坑と考えられる。

(2) 円形周溝状遺構

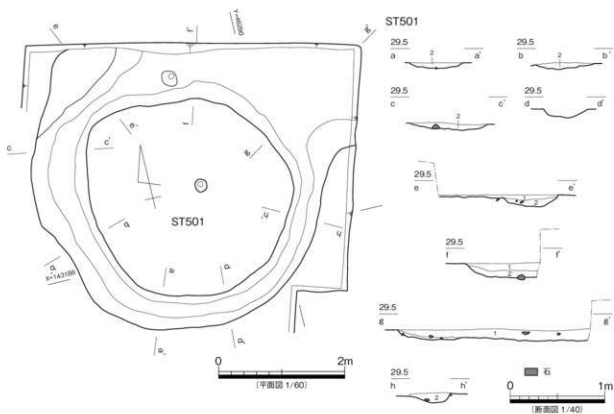
ST501 (第35・36図)

V区北東端部で検出した円形周溝墓と考えられる遺構である。削平を受けたものと考えられ残りは悪く主体部は残っていない。周溝内側の径は約3.4 mを測る。周溝は約0.5～0.9 mの幅で南半部を巡るが、北半部は壁際に向けて広がることから、おそらく調査区外にもう一基の周溝墓が所在しているものと推定される。周溝の深さは0.1～0.2 mを測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土の上層は黒褐色粘質シルト、下層は暗灰黄色粘質シルトからなる。

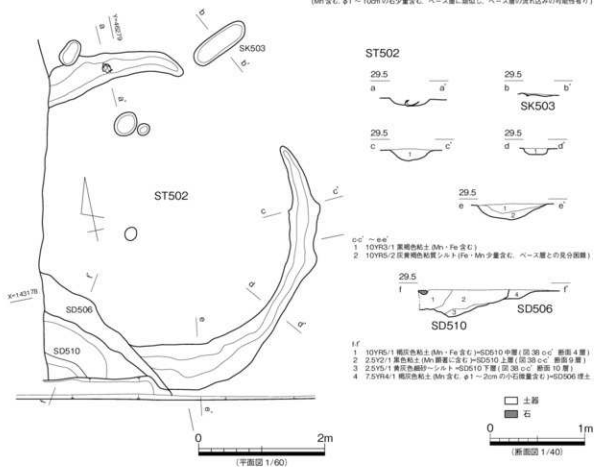
周溝からは弥生土器と石器片が数点出土した。258・259は弥生土器の甕と鉢の口縁部片である。260はサヌカイトの石鏃の先端部片である。出土遺物が少なく、これらの出土遺物からST501の詳細な時期判断を下すには無理がある。

ST502 (第35・36図)

V区東半部の南壁際で検出した円形周溝墓である。削平を受けたものと考えられ残りは悪く主体部は残っていない。周溝内側の径は約4.4 mを測る。西半部をSD517・510・506等に切られている為、東半部の約2/3が残存している。周溝は円形状に巡るが、北東部がブリッジ状に2.0 m程空いた形状を呈する。溝幅約0.2～0.7 m、深さ0.1～0.2 mを測る。断面の形状は浅いU字状を呈する。埋土は黒色粘土及び褐灰色粘土からなる。



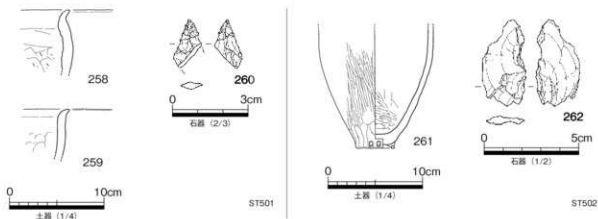
- ST501
- 10YR2-2 黄褐色粘質シルト (中流石、Mn 含有、φ1 ~ 10cm の石少量含む)
 - 2.5Y5-2 緑灰黄色粘質シルト (Mn 含有、φ1 ~ 10cm の石少量含む、ベース層に類似し、ベース層の流れ込みの可能性有り)



- c'c' ~ e'e'
- 10YR3-1 黄褐色粘土 (Mn・Fe 含有)
 - 10YR5-2 灰黄褐色粘質シルト (Fe・Mn 少量含む、ベース層との区分困難)

- f'f'
- 10YR5-1 褐色粘土 (Mn・Fe 含有) → SD510 中層 (図 38 c'c' 断面 4 層)
 - 2.5Y2-1 黒色粘土 (Mn 豊富に含む) → SD510 上層 (図 38 c'c' 断面 9 層)
 - 2.5Y5-1 黄灰色粘質シルト → SD510 下層 (図 38 c'c' 断面 10 層)
 - 7.5YR4-1 褐色粘土 (Mn 含有、φ1 ~ 2cm の小石少量含む) → SD506 壁土

第 35 図 ST501・502, SK503, SD506・510 平・断面図



第36図 ST501・502出土遺物

埋土からは弥生土器と石器が数点出土した。261は口縁部を欠く甕である。262はサヌカイト製の剥片である。出土遺物からST502は弥生時代前期末～中期前葉頃の遺構と考えられる。

(3) 溝状遺構

SD501 (第37図)

V区東半部で検出したSD517・502に切り込まれている不整形な溝跡である。弧を描くように若干湾曲しているが、削平を受けたものと考えられ残りは悪い。形状から円形周溝墓の一部が残存している可能性がある。検出長約4.0m、幅約1.2m、深さ約0.1mを測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は上層が黒褐色シルト、下層が黄灰色シルトからなる。

埋土からは土器片が数点出土した。出土遺物から詳細な時期判断を下すには無理があるが、SD502との切り合い関係から、少なくとも7・8世紀より前の溝跡であることは間違いなく、弥生時代まで遡る可能性もある。

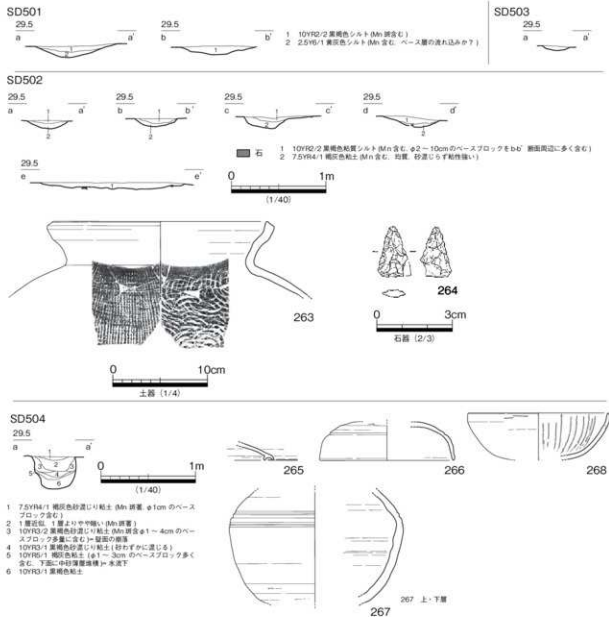
SD502 (第37図)

V区東半部で検出した北西方向へ延びる直線溝である。溝跡の中央部分でSD517に切り込まれ、SD501を切り込んでいる。検出長20.6m、幅0.42～1.52m、深さ0.08～0.12m、主軸方位N45.0°Wを測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は上層が黒褐色粘質シルト、下層が褐灰色粘土からなる。

埋土からは弥生土器・須恵器・石器等が少量出土した。263は7・8世紀頃の須恵器甕上半部、264はサヌカイトの石織で混入品である。出土遺物からSD502は7・8世紀頃の溝跡と考えられる。

SD503 (第37図)

V区東半部、北壁際で検出した溝跡である。削平を受けたものと考えられ、残りは極めて悪い。検出長約1.4m、幅約0.3m、深さ0.05m、主軸方位N51°Eを測る。断面は浅い皿状を呈する。埋土からは須恵器片が数点出土した。遺物から詳細な時期判断を下すには無理があるが、SD503は古代の溝跡の可能性はある。



第 37 図 SD501 ~ 504 断面図, 出土遺物

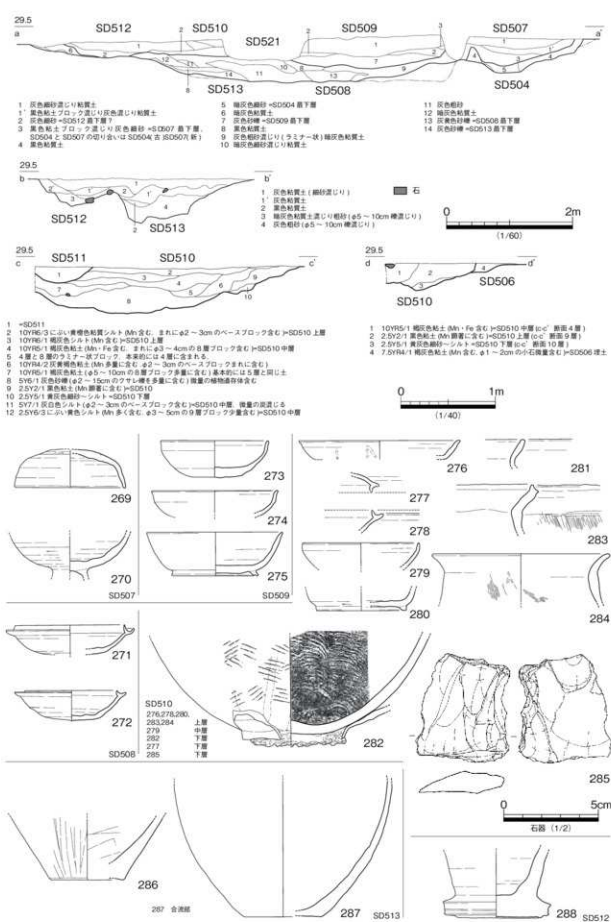
SD504 (第 37 ~ 39 図)

V区中央で検出した北東方向へ延びる直線溝である。西辺はSD515を切り込み、南半部はSD507に切り込まれている。検出長6.9m、幅0.46m、深さ0.34m、方位N38.5°Eを測る。断面は不整形なU字状を呈し、埋土は複数層に分かれる。

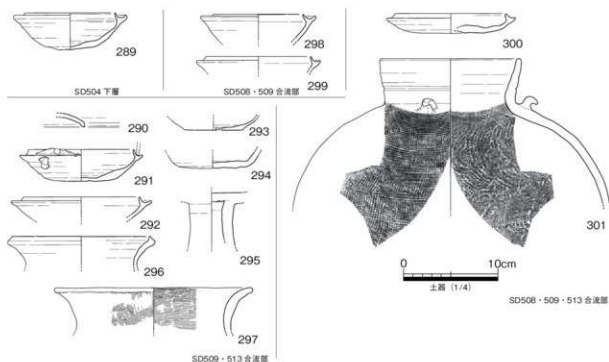
埋土からは7世紀初頭頃の土師器・須恵器片等が出土した。265・266は須恵器の杯蓋、267は口縁部と底部を欠く須恵器の小型の壺、268は土師器の杯で、内面にはヘラ磨きを顕著に残している。出土遺物からSD504は7世紀初頭頃に埋没した溝跡と考えられる。

SD506 (第 35・38 図)

V区東半部で検出した北西方向へ延びる直線溝である。溝跡の東端部では、SD517・510に切り込ま



第38図 SD504・506~513・521 断面図，出土遺物



第 39 図 SD504・508・509・513 出土遺物

れている。検出長 13.5 m、幅 0.3～0.5 m、深さ 0.1 m 以上、主軸方位 N55° W を測る。断面は浅い U 字状を呈し、埋土は褐色粘土からなる。埋土からは弥生土器の細片が数点出土した。遺物から詳細な時期判断を下すには無理があるが、SD506 は SD510 に切られており、SD510 の時期をもとにすれば、8 世紀後半以前の時期が考えられる。

SD507 (第 38 図)

V 区中央部で検出した不整形な溝状遺構である。概ね南北方向に延びるが、南端では SD512 に切り込まれ、北端では SD504 を切り込み、SD508 に切り込まれている。検出長 7.4 m、幅 0.8～1.8 m、深さ 0.45 m を測る。断面は幅広で不整形な U 字状を呈し、上層が灰色系砂混じり粘質土、下層が黒色粘土ブロック混じり灰色細砂層からなる。

埋土からは 6 世紀末頃の須恵器が少量出土した。269・270 は須恵器の杯蓋と高杯の杯部である。出土遺物から SD507 は 6 世紀末以降に埋没した溝跡と考えられる。

SD508 (第 38・39 図)

V 区中央部で検出した不整形な溝状遺構である。東辺部は SD507 を切り込み、西辺部は SD509、南端部は SD512 に切り込まれている。検出長約 6.7 m、幅約 1.5 m、深さ 0.7 m を測る。

埋土からは 7 世紀初頭頃の須恵器が少量出土した。271・272 は須恵器の杯である。出土遺物から SD508 は 7 世紀初頭以降に埋没した溝跡と考えられる。

SD509 (第 38・39 図)

V 区西半部で検出した不整形で南北方向の溝状遺構である。南端部では SD508 を切り込み、SD512

に切り込まれている。検出長約 9.3 m、幅 1.7～2.8 m、深さ約 0.5 m を測る。

埋土からは土師器・須恵器が少量出土した。273・274 は 7 世紀前半の須恵器杯、275 は 8 世紀初頭の須恵器高台付杯である。SD509 は出土遺物が少なく時期を決め難いが、8 世紀前半以降に埋没した溝跡と考えられる。

SD510 (第 35・38 図)

V 区中央南半部で検出した北西方向に延びる幅広な溝跡である。東半部では ST502・SD506 を切り込み、SD517 に切り込まれている。SD510 の流路方向の西側の延長には、SD512・513 等の溝跡が位置し、SD510 との連続する見方もできるが、両者の中間地点にあたる SD510 の西端部では、SD507・508・509・513 等の古代の溝跡と近世の SD520・521 等が複雑に重複しており不明瞭な点が多い。これらの溝跡との前後関係については、SD510 は近世の SD520・521 等より先行することは間違いないが、SD507～509 等の古代の溝跡との切り合いについては、遺構が複雑に錯綜しているため、関係は不明瞭であるが、SD510 がこれらの溝跡を切り込んでいる可能性が高い。検出長 17.5 m、幅 2.1～3.2 m 以上、深さ約 0.47 m、主軸方位 N61° W を測る。断面は幅広い皿状を呈し、埋土の上層は粘土・シルト、下層は砂礫層からなる。

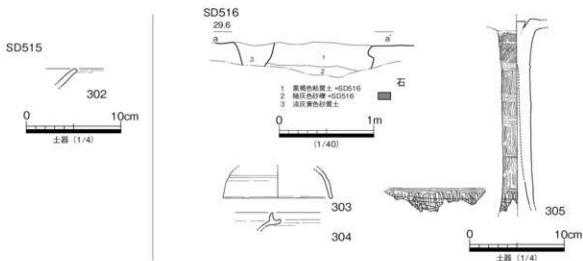
埋土からは 7 世紀初頭・8 世紀後半頃の須恵器・土師器や石器等が出土した。276 は須恵器皿、277 は須恵器杯蓋である。278～280 は 7 世紀初頭・8 世紀中頃の須恵器杯、281・282 は須恵器甕、283・284 は土師器の甕口縁部である。285 はサヌカイト製で、側縁部を作業にあてた交互剥離の石核である。出土遺物から SD510 は 8 世紀中頃以降に埋没した溝跡と考えられる。

SD512・513 (第 38・39 図)

V 区西半部で検出した北西方向へ湾曲気味に延びる溝状遺構である。東半部では幅広な一条の溝跡であるが、西半部の下層では 2 条の溝跡に別れる。流路方向から推定して、V 区中央部の SD510 と連続する可能性もあるが、接続地点にあたる SD513・512 の東端部では、古代の SD507～509、近世の SD520・521 等が複雑に重複しており、不明瞭な点が多い。これらの溝跡との前後関係については、SD512・513 は近世の SD520・521 等より先行することは間違いない。古代の SD507～509 との切り合いについては、土層断面図等の記録が少ないため不明瞭であるが、東端部の合流地点の土層断面図の記録でみる限り、上層には SD512 が広範囲に広がり、中層で SD513、最下層には SD504・508・513 等の埋土が観察できる。断面図の状況を整理し前後関係をまとめれば、SD504・508・513→SD509→507→512 の順番が考えられる。なお、SD512・513 と SD510 の関係については、連続する可能性が高いが、証明できる記録がないため今後の課題にしておく。検出長約 17.7 m、幅約 4.0 m、深さ (SD513: 約 0.6 m、SD512: 約 0.4 m) を測る。

SD512 からは弥生時代後期前半頃の弥生土器や 8 世紀頃の須恵器が少量出土した。SD513 からは、弥生時代後期前半頃の弥生土器や 7・8 世紀頃の須恵器が出土した。286・287 は SD513 から出土した弥生時代後期前半頃の甕の下半部と壺の底部である。288 は SD512 から出土した 7 世紀の須恵器鉢の底部である。

289～301 は V 区の SD504・508・509・513 等から出土した遺物の中で、遺構を越えて接合した土器や、複数の遺構が重複する地点で出土した遺物の中で、出土遺構を特定できなかった遺物である。289 は、



第40図 SD515・516 断面図, 出土遺物

SD504・508 出土の破片同士が接合した7世紀初頭頃の須恵器杯である。290～297は、SD509・513の合流部で出土した遺物である。290は8世紀頃の須恵器蓋の口縁部片、291～294須恵器杯、295須恵器高杯の脚部片である。296は須恵器甕口縁部である。297は土師器甕の口縁部である。298・299は、SD508・509合流部で出土した須恵器杯である。300・301は、SD509・508・513出土の破片同士が接合した須恵器壺及び杯である。301は須恵器の短頸壺の上半部である。体部肩部には小型の突起が付されている。

SD515 (第40図)

V区中央の北半部で検出した不整形で湾曲気味に延びる溝跡である。SD504・SD507等が切り込んでいて、残りがかなり悪い。形状から円形周溝墓の溝跡とも考えたが、詳細な記録がないため検証できなかった。検出長約5.0m、幅0.2～0.3m以上、深さ約0.3mを測る。

埋土からは弥生土器が数点出土した。302は弥生土器の甕口縁部片である。

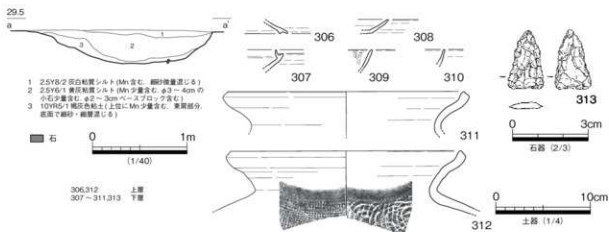
SD516 (第40図)

V区西端部の南辺で検出した直線溝である。検出長12.8m、幅1.1～1.4m、深さ0.38m、主軸方位N16.5°Wを測る。断面は不整形な形状を呈し、埋土上層は黒褐色粘質土、下層は暗灰色砂礫層からなる。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器等が出土した。303・304は6世紀後半の須恵器蓋・杯、305は須恵器の異型土器に類する土器で、当初高杯とも考えたが、特殊扁壺土器の可能性が高い。把手部は異常に長く、上端部は充填しているが、下半部は中空である。外面には櫛描を顕著に施している。外面下端部は若干「ハ」の字状に広がり、外面はヘラ削りにより整形後、ヘラ状工具により線刻を施している。出土遺物からSD516は6世紀末頃に埋没した溝跡と考えられる。

SD517 (第41図)

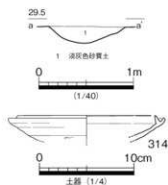
V区中央部に位置し、SD502・506・ST502を切り込んでいる南北方向の直線溝である。検出長13.6m、幅2.1m、深さ0.36m、主軸方位N13.0°Eを測る。断面は幅広く浅いU字状を呈し、埋土は



第41図 SD517 断面図，出土遺物

上層が灰白色シルト、中層が黄灰色シルト、下層が褐灰色粘土からなる。

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器・陶磁器、石器等が出土した。306・307は7世紀前半の須恵器蓋・杯片で、308は須恵器皿の口縁部片である。309は黒色土器椀の口縁部片、310は陶器椀の口縁部片、311・312は7世紀頃の須恵器甕口頸部である。313はササカイト製の平基式石剣である。出土した須恵器・黒色土器・石器等は混入品で、出土した陶磁器等からSD517は近世以降に埋没した溝跡と考えられる。



第42図 SD518 断面図，出土遺物

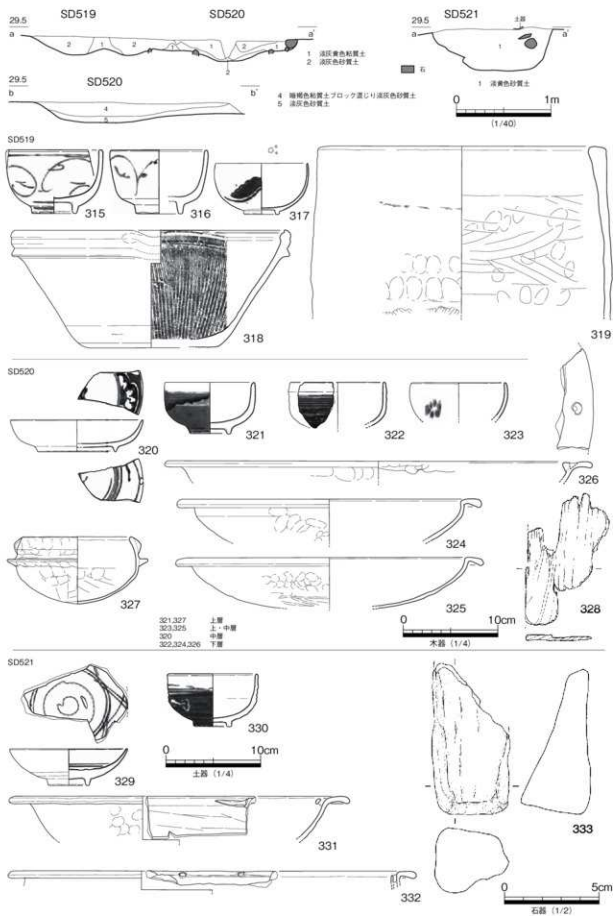
SD518 (第42図)

V区西端部で検出した南北方向の直線状の溝で、南半部では二股状に2条の溝に別れている。溝中央でSD520・519、南半部でSK512等に切り込まれている。検出長13.8m、幅0.82m、深さ0.18m、主軸方位N8.0°Eを測る。断面は浅いU字状を呈し、埋土は淡灰色砂質土の単層である。

埋土からは7世紀初頭頃の須恵器杯、近世以降の土師器甕等が少量出土した。314は7世紀初頭頃の須恵器杯上半部である。出土遺物からSD518は近世以降に埋没した溝跡と考えられる。

SD519 (第43図)

V区西半部で検出した近世屋敷地の外郭の北辺と東辺を画く溝状遺構と考えられる。区画内には同時期の土坑や柱穴等が分布している。SD519は鋸形に曲がる不整形な溝状遺構で、北半部は東西方向に直線気味に延び、東端部で南方へ短く屈曲する。SD520の北側には約1.0m隔て、同方向のSD520が位置し、部分的に切り合っている。また、南半部ではSK509から延びるSD521と切り合っている。検出状況からSD519が先行しSD520・521が後出する。SD519と同形状のSD520はSD519が埋没後、屋敷地の新たな区画溝として掘削された溝跡と考えられる。検出長(東西溝約14.5m、南北溝1.0m)、幅0.6～1.6m、深さ約0.2m、主軸方位N83°Wを測る。主軸方位から、この溝は条里地割の方位に



第 43 図 SD519～521 断面図，出土遺物

揃えていることが解る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は淡灰色系の砂質土である。

埋土からは土師器・陶磁器等が出土した。315～317は陶器の椀、318は備前の播鉢、319は土師器の甌である。出土遺物からSD519は18世紀以降に埋没した区画溝と考えられる。

SD520 (第43図)

V区西半部で検出した近世屋敷地の外郭の北辺と東辺を画くする溝状遺構と考えられる。区画内には同時期の土坑や柱穴等が分布している。SD520は鍵形に曲がる不整形な溝状遺構で、北半部は東西方向に直線気味に延び、東端部で南方へ直角気味に屈曲する。削平を受けたものと考えられ、残りはかなり悪い。SD520の南側には約1.0m隔て、同方向のSD519が位置し、部分的に切り合っている。検出状況からSD519が先行しSD520が後出する。同形状のSD519はSD520が埋没後、屋敷地の新たな区画溝として掘割された溝跡と考えられる。検出長(東西溝約15.0m、南北溝5.5m)、幅(東西溝0.7～1.4m、南北溝0.3～0.6m)、深さ約0.25m、主軸方位(東西溝

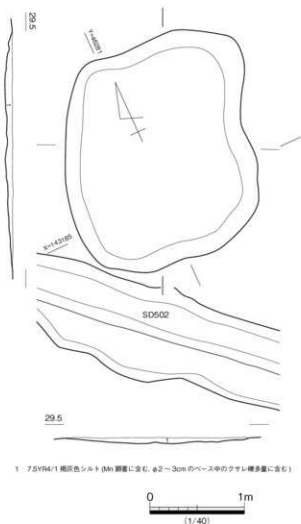
N81°W、南北溝N45°E)を測る。主軸方位から、この溝は条里地割の方位に揃えていることが解る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は淡灰色系の砂質土である。

埋土からは須恵器・土師器・陶磁器等が出土した。320染付皿、321・322・323陶器椀、324・325・326は瓦質土器焙烙、327は土師器の鍋、328は残りの悪い板材片である。材質は同定結果によれば、ヒノキ科アスナロ属に分類される。出土遺物からSD520は19世紀以降に埋没した区画溝と考えられる。

SD521 (第38・43図)

V区西半部、SD519・520等で画された屋敷地内の北東隅に位置するSK509から、区画溝SD519の東辺の溝跡を切り込み、南北方向へ延びる溝跡である。形状から、この溝跡もSD519・520等と同様の近世屋敷地の東辺区画溝と考えられる。なお、SD521は水溜め状の遺構であるSK509の上端部から延びており、SK509の排水路の機能も伴うものと考えられる。検出長約5.0m、幅約0.7～1.3m、深さ約0.45m、主軸方位N35°Eを測る。断面は隅丸逆台形状を呈し、埋土は淡黄色砂質土である。

埋土からは瓦質土器・陶磁器・瓦・砥石等が出土した。329・330は陶磁器、329は磁器の皿、330は陶器の椀、331・332は瓦質土器の焙烙、333は砂岩の砥石である。出土遺物からSD521は19世紀以降



第44図 SX501 平・断面図

に埋没した区画溝と考えられる。

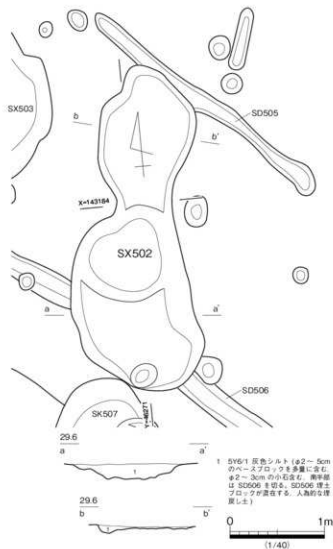
(4) 不整形遺構

SX501 (第44図)

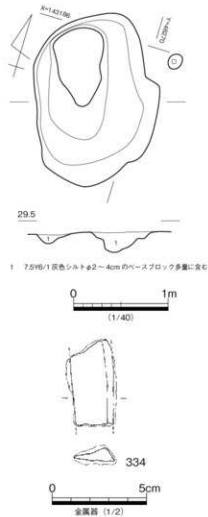
V区東半部、SD502の北側で検出した不整形な落ち込みである。平面は不整形な楕円形状を呈し、長径2.6m、短径2.06m、深さ0.08mを測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は単層で褐灰色シルトである。埋土からは土師器細片が数点出土しただけで、SX501の時期判断には無理がある。

SX502 (第45図)

V区中央SK508の北、SX503の東側で検出した不整形な落ち込みである。南半部ではSD506を切り込んでいる。平面は二つの楕円形状の落ち込みが重なった形状を呈し、底面の中央部分が凹んでいる。長径3.44m、短径1.32m、深さ0.08～0.18mを測る。断面は凹凸のある不整形な皿状を呈し、埋土は単層で灰色シルトである。埋土からは土師器・須恵器、近世瓦片等が出土した。



第45図 SX502 平・断面図



第46図 SX503 平・断面図, 出土遺物

SX503 (第46図)

V区中央SD506の北、SX502の西側で検出した不整形な落ち込み状の遺構である。形状は楕円形状を呈し、北半部中央に鳥状の高まりを残し、周囲を浅くて不整形な落ち込みが溝状に巡る。不整形な溝跡は、南半部は幅広く、北半部は極端に幅が狭い。長径1.86 m、短径1.36 m、南半部の溝幅は最大約0.85 m、北半部の溝幅は最小約0.05 m、深さ0.1～0.22 mを測りかなり差がある。不整形な溝跡の断面は凹凸が著しく、埋土は単層で灰色シルトを呈する。

埋土からは染付椀、鉄製品等が少数出土した。334は器種不明の鉄製品である。側縁には刃部状のエッジが認められる。SX503は形状から推定して、人為的な遺構とは考え難い。

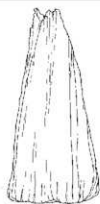
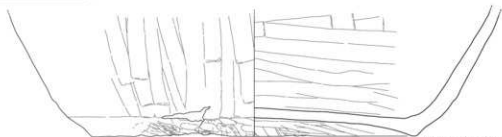
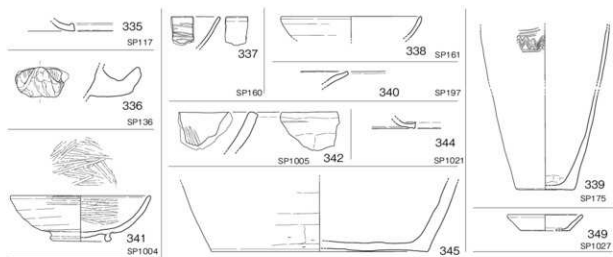
(5) 柱穴・包含層出土遺物

V区の主要な遺構・遺物については先に報告したが、次にその他の柱穴出土遺物と包含層出土遺物を報告する。なお、包含層出土遺物中には機械掘削・遺構検出・側溝掘削時等に出土した、個別の遺構に区分できない遺物までを含めている。

335～349は柱穴から出土した遺物である。出土しているのは中世の土器が多いが、少数弥生土器や石器類が出土している。335はSP117から出土した7世紀頃の須恵器高杯の脚部片である。336はSP136から出土した土師器甕の把手である。337はSP160から出土した黒色土器碗の口縁部片で、338はSP161から出土した土師器碗の上半部である。340はSP197弥生土器甕の口縁部片である。339はSP175から出土した弥生時代中期前半の甕である。外面には櫛描波状文を顕著に残している。341はSP1004から出土した黒色土器の碗である。342はSP1005から出土した土師器播鉢の口縁部片である。344はSP1021から出土した7世紀頃の須恵器高杯の脚部片である。349はSP1027から出土した小型の土師器杯である。345はSP1024から出土した須恵器甕の底部、346はSP1024.1026の二つに柱穴から出土した備前焼甕の底部である。

343・347・348は柱穴から出土した円柱状の柱材である。出土地点として343はSP1015、347はSP1024、348はSP1025から出土した。材質としては同定結果によれば、343・347・348伴に、ブナ科クワリ属クワリに分類される。

350～354は包含層出土の遺物の中で代表的な遺物である。350土師器の杯、351は須恵器の杯、352は高台が付く8世紀後半頃の須恵器の杯、353は西端部の包含層から出土した、6世紀後半以降の製塩土器の口縁部片である。354はサヌカイトの横長剥片石核である。側縁部を作業面にあて、交互剥離の手法で剥片剥離を行なっている。形状から旧石器に属する可能性が高い。



343

SP1015



348

SP1025

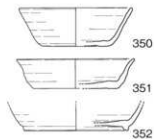


347

SP1024

0 10cm

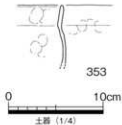
木製品 (1/6)



350

351

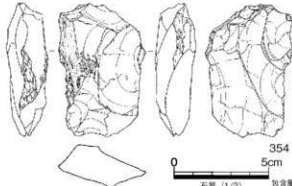
352



353

0 10cm

土器 (1/4)



354

0 5cm

石器 (1/2) 包含層

第 47 図 V区柱穴、包含層出土遺物

3. VI区の調査

(1) 掘立柱建物跡

SB601 (第48図)

VI区東端部で検出した梁間2間、桁行2間の東西棟の掘立柱建物である。削平を受けているため、柱穴の残りは悪い。この建物はSB602とSR601と重複しており、SB601とSB602とは柱穴が切り合わないため前後関係は不明であるが、SB601とSR601は、SB601の北東隅の柱穴をSR601が切り込んでいるので、SB601はSR601より先行する建物と考えられる。2間(3.1m)×2間(4.0m)、面積12.4㎡、主軸方位N62.0°W(N28.0°E)、柱間は梁間1.5～1.6m、桁行1.8～2.1mを測る。柱穴掘方は円形ないし不整形円形を呈し、径0.3～0.45m、深さ0.2～0.35mを測る。

柱穴からは弥生土器・土師器片が少量出土している。355はSP03から出土した弥生時代後期後半頃の高杯の脚部片であるが、他の出土遺物から判断して混入品と考えられる。出土遺物が少ないためSB601の時期判断については無理がある。

SB602 (第48図)

VI区東端部で検出した梁間1間、桁行2間の南北棟の掘立柱建物である。北半部は削平を顕著に受けているので柱穴の残りは悪い。この建物はSB601とSR601と重複しており、SB601とは柱穴が切り合わないため前後関係は不明である。SB602とSR601とは、SB602の北東隅の柱穴をSR601が切り込んでいるので、SB602はSR601より先行する建物と考えられる。1間(3.0m)×3間(5.1m)、面積は15.3㎡、主軸方位N37.0°E、柱間は梁間2.9～3.0m、桁行2.2～2.7mを測る。柱穴掘方は円形ないし不整形円形を呈し、径0.2～0.5m、深さ0.05～0.4mを測る。

柱穴から土師器・須恵器片が少量出土している。356はSP03から出土した7世紀前半頃の須恵器杯である。出土遺物からSB602は7世紀前半以降の建物と考えられる。

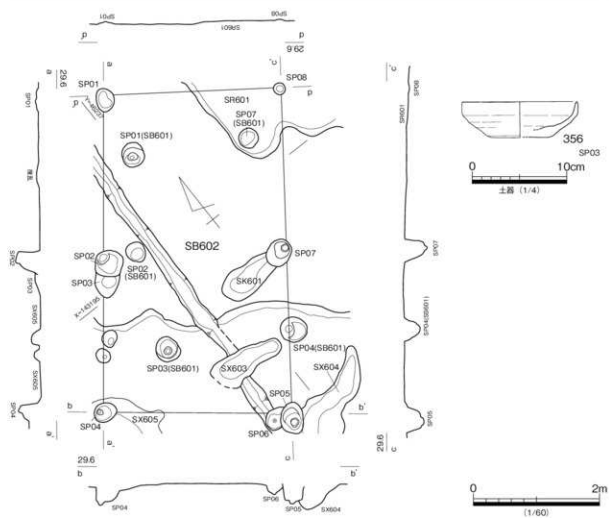
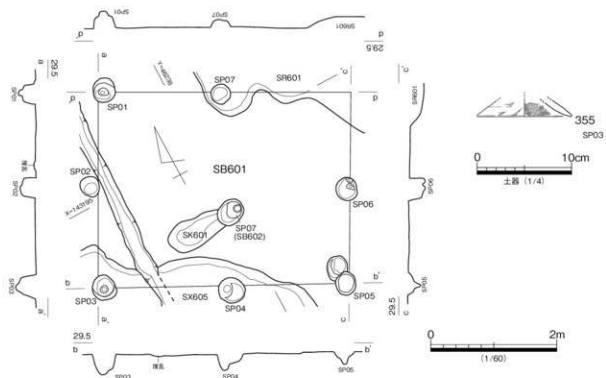
SB603 (第49図)

VI区東端部で検出した梁間2間、桁行2間の南北棟の掘立柱建物である。西側柱列の西には、SB604の東側柱列が隣接しており、両者は時期差があるものと考えられるが、柱穴が切り合わないため前後関係は不明である。北半部は削平を受けたのか、梁間の1穴を欠く。2間(2.5m)×2間(3.0m)、面積7.5㎡、主軸方位N30.0°E、柱間は梁間1.1～1.4m、桁行1.7～1.9mを測る。柱穴掘方は円形ないし不整形円形を呈し、径0.2～0.35m、深さ0.15～0.3mを測る。

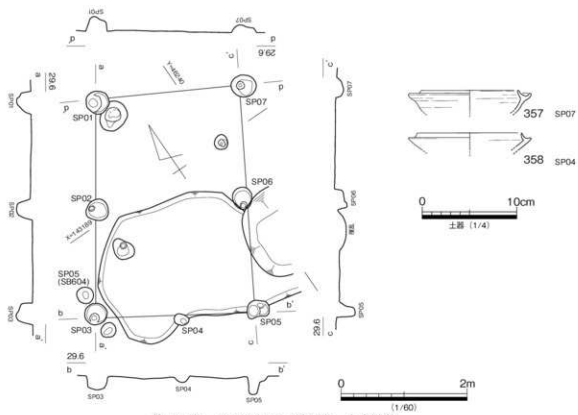
柱穴からは弥生土器・土師器・須恵器片が少量出土している。357・358はSP04・07から出土した7世紀初頭頃の須恵器の杯である。出土遺物よりSB603は7世紀初頭以降の建物と考えられる。

SB604 (第50図)

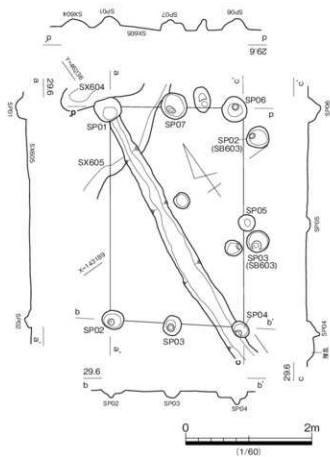
VI区東端部で検出した梁間2間、桁行2間の南北棟の掘立柱建物である。東側柱列の東には、SB603の東側柱列が隣接しており、両者は時期差があるものと考えられるが、柱穴が切り合わないため前後関係は不明である。削平を受けたものと考えられ西側柱列の1穴を欠く。2間(2.1m)×2間(3.5m)、面積7.35㎡、主軸方位N34.5°E、柱間は梁間1.0～1.1m、桁行1.7～1.8mを測る。柱穴掘方は円形ないしは不整形円形を呈し、径0.3～0.4m、深さ0.1～0.2mを測る。



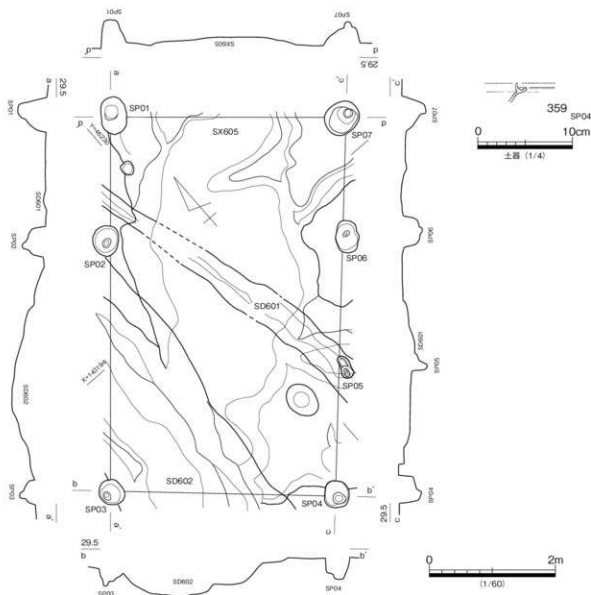
第48图 SB601・602平・断面图, 出土遗物



第 49 図 SB603 平・断面図, 出土遺物



第 50 図 SB604 平・断面図



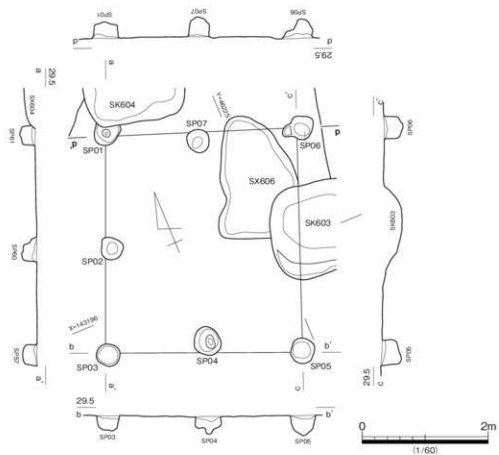
第51図 SB605平・断面図，出土遺物

柱穴からは弥生土器・土師器片が少量出土した。出土遺物が少ないためSB604の詳細な時期判断には無理があるが、古代の建物跡の可能性が高い。

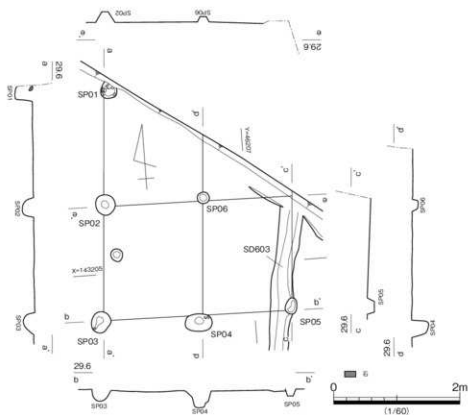
SB605（第51図）

Ⅵ区東半部で検出した梁間1間、桁行3間の南北棟の掘立柱建物である。この建物はSD601・602、SX601等と重複し、切り合い関係から、SB604はSD601・602より先行し、SX601より後出することが解る。1間（3.7m）×2間（6.0m）、面積は22.2㎡、主軸方位N41.0°Eを測る。柱間は梁間3.6～3.7m、桁行1.9～2.2mを測る。柱穴掘方は円形ないし不整楕円形を呈し、径0.2～0.6m、深さ0.25～0.4mを測る。

柱穴からは土師器・須恵器片が少量出土している。359はSP04から出土した、7世紀初頭頃の須恵器杯の口縁部片である。出土遺物よりSB605は7世紀初頭以降の建物と考えられる。



第 52 图 SB606 平·断面图



第 53 图 SB607 平·断面图

SB606 (第52図)

Ⅵ区中央で検出した梁間2間、桁行2間の南北棟の掘立柱建物である。この建物はSK603・604、SX606等重複し、切り合い関係からSB606はSK603・604より先行することが解る。2間(3.1m)×2間(3.5m)、面積は10.85㎡、主軸方位N21.0°E(69.0°W)を測る。柱間は梁間1.5～1.6m、桁行1.7～1.8mを測る。柱穴掘方は円形ないし不整形円形を呈し、径0.3～0.4m、深さ0.2～0.3mを測る。

柱穴からは弥生土器・土師器片が少量出土した。出土遺物が少ないためSB606の詳細な時期判断には無理があるが、概ね古代の建物跡の可能性が高い。

SB607 (第53図)

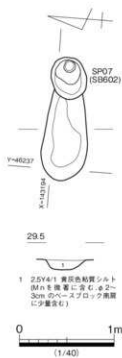
Ⅵ区東端部で検出した梁間2間、桁行2間の南北棟の総柱建物である。北半部は調査区より外れるため、全体の約1/2程度を検出した。建物はSD603と重複し、切り合い関係からSB607はSD603より先行することが解る。2間(3.0m)×2間(3.85m)以上、面積は11.55㎡以上、主軸方位N6.0°Eを測る。柱間は梁間1.4～1.6m、桁行1.8mを測る。柱穴掘方は円形ないし不整形円形を呈し、径0.2～0.35m、深さ0.1～0.3mを測る。

柱穴からは土師器片が少量出土した。出土遺物が少ないためSB607の詳細な時期判断には無理があるが、概ね古代の建物跡の可能性が高い。

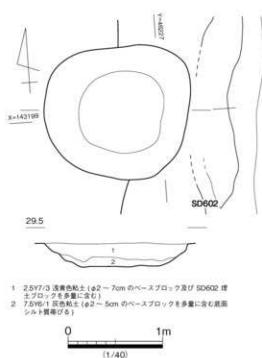
(2) 土坑跡

SK601 (第54図)

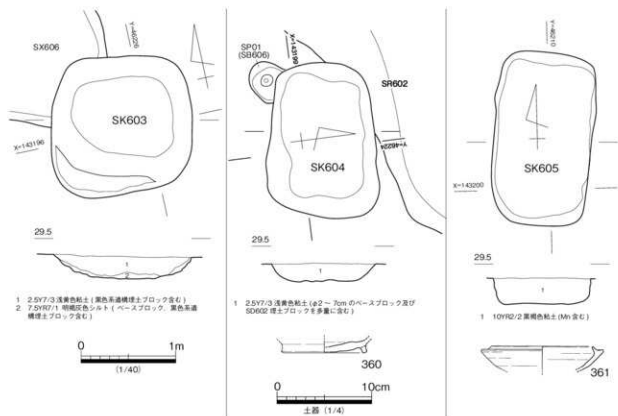
Ⅵ区東半部で検出した不整形な土坑である。東端部はSB602の柱穴により切り込まれており、切り合い関係からSK601はSB602より先行することが解る。平面は不整形な楕円形状、断面は幅広い皿状を呈している。長径1.3m、短径0.5m、深さ0.1mを測る。埋土は黄灰色のシルトからなる。



第54図 SK601平・断面図



第55図 SK602平・断面図



第56図 SK603・604・605 平・断面図, 出土遺物

埋土からは弥生土器・土師器の細片が数点出土した。出土遺物が少ないためSK601の詳細な時期判断については無理がある。

SK602 (第55図)

VI区中央の北壁際で検出した土坑である。東半部は南北に延びるSD602を切り込んでおり、切り合い関係からSK602はSD602より後出することが解る。平面は不整形円形、断面は幅広なU字状を呈し、底面は比較的平坦である。長径1.6m、短径1.3m、深さ0.26mを測る。埋土上層は浅黄色粘土、下層は灰色粘土からなる。

埋土からは須恵器の細片が数点出土した。出土遺物が少ないためSK602の詳細な時期判断については無理がある。

SK603 (第56図)

VI区中央で検出した土坑である。東半部は南北に延びるSD602を切り込んでおり、切り合い関係からSK604はSD602より後出することが解る。平面は隅丸形状、断面は幅広な碗状を呈し、底面は比較的平坦である。長径1.5m、短径1.5m、深さ0.24m、主軸方位N13°Eを測る。埋土上層は浅黄色粘土、下層は明褐色灰色シルトからなる。

埋土からは弥生土器・土師器の細片が数点出土した。出土遺物が少ないためSK603の詳細な時期判断については無理がある。

SK604 (第56図)

Ⅵ区中央で検出した土坑である。北西辺はSR602を切り込んでおり、切り合い関係からSK604はSR602より後出することが解る。平面は隅丸長方形、断面は幅広なU字状を呈し、底面は比較的平坦である。長径1.66m、短径1.2m、深さ0.2m、主軸方位N83°W(N7°E)を測る。埋土は浅黄色粘土からなる。

埋土からは弥生土器・須恵器の細片が数点出土した。360はSK604から出土した8世紀中頃の須恵器杯の高台部である。出土遺物からSK604は8世紀中頃以降の土坑であろう。

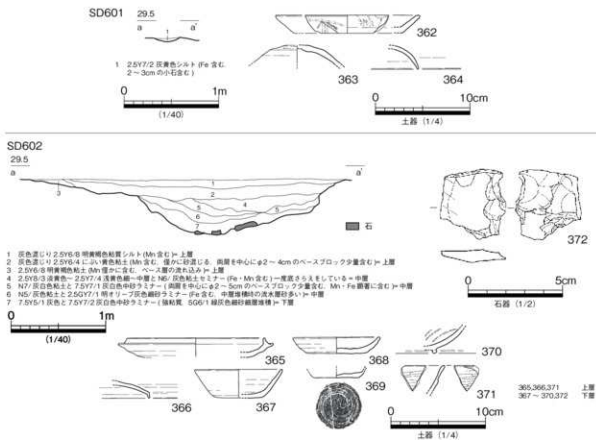
SK605 (第56図)

Ⅵ区西半部で検出した土坑である。南東隅はSR602の西屑と接しているが、切り合い関係までには至っていない。平面は隅丸長方形、断面は隅丸逆台形状を呈し、底面は比較的平坦である。長径1.9m、短径1.08m、深さ0.3m、主軸方位N3°Eを測る。埋土は黒褐色粘土を呈し、埋土からは須恵器の細片が数点出土した。361はSK605から出土した7世紀初頭頃の須恵器の杯である。出土遺物からSK605は7世紀初頭以降の土坑であろう。

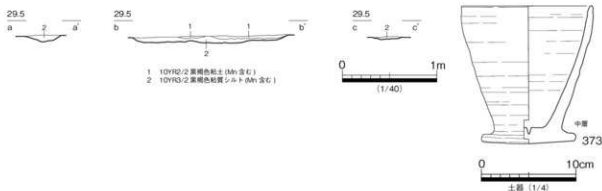
(3) 溝状遺構

SD601 (第57図)

Ⅵ区東半部で検出した南北方向へ直線気味に延びる溝状遺構である。北端部はSD602と合流し、南端部は北西方向に折曲がり調査区外へ延びる。溝中央部でSB605と重複し、切り合い関係からSD601



第57図 SD601・602断面図, 出土遺物



第 58 図 SD603 断面図, 出土遺物

は SB605 より後出することが解る。検出長 11.7 m、幅 0.26 m、深さ 0.03 m を測る。断面の形状は浅い皿状、埋土は灰黄色シルトを呈する。

埋土からは土師器・須恵器が出土した。362 は 8 世紀中頃の須恵器皿、363・364 は 6 世紀末～7 世紀初頭頃の須恵器杯蓋である。出土遺物から SD601 は 8 世紀中頃以降に埋没した溝状遺構と考えられる。

SD602 (第 57・64 図)

VI 区中央で検出した南北方向へ直線気味に延びる幅広は溝状遺構である。南北両端部は調査区外へ延びる。溝中央部で SB605、SK602・603 と重複し、切り合い関係から SK602・603 より先行し、SB605 より後出することが解る。検出長 13.5 m、幅 3.36 m、深さ 0.6 m、方位 N12° E を測る。断面の形状は上端がハ字状に開き、下半部は凹凸のある椀状を呈する。埋土は数層に分かれるが、概ね灰色系のシルトないし砂質土が主体を占める。

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器・瓦器等が出土した。365・367 は須恵器の杯、366 は須恵器蓋の口縁部片で、これらは混入品と考えられる。368 は須恵器小皿、369 は土師器小皿の底部である。370 は黒色土器椀の下半部、371 は瓦器椀の口縁部片である。372 はサヌカイト製で、残りが悪い二次加工のある剥片で、混入品である。出土遺物から SD602 は 12 世紀以降に埋没した溝状遺構と考えられる。

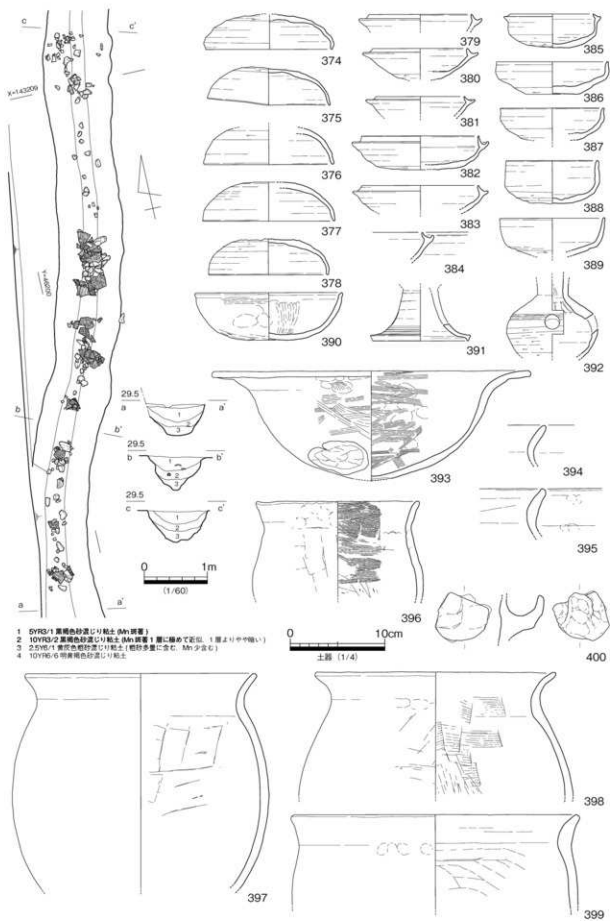
SD603 (第 58 図)

VI 区西半部で検出した南北方向へ延びる直線溝である。北端部は調査区外へ延び、南端部は SR604 に合流している。溝中央部で SK606 と重複するが、明瞭な切り合い関係は掴めていない。検出長 10.4 m、幅 0.3～0.38 m、深さ 0.02～0.08 m、方位 N7.0° E を測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は黒褐色シルトからなる。

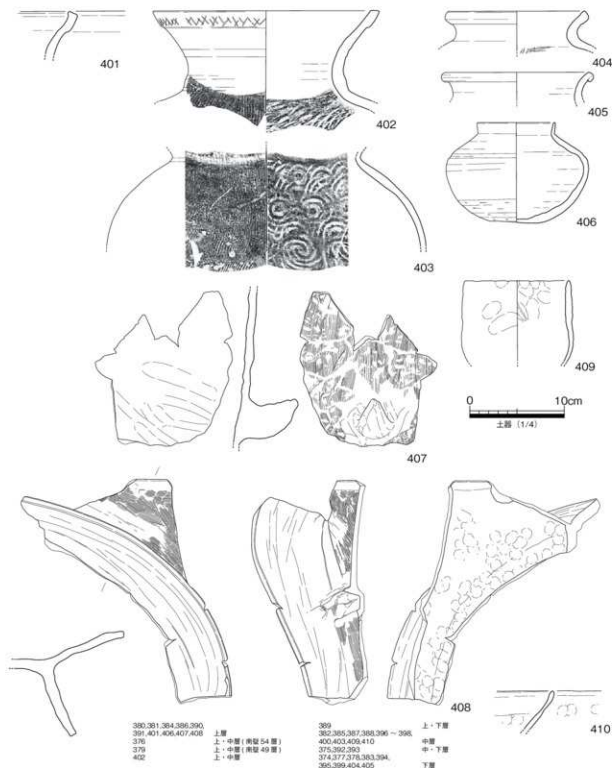
埋土からは土師器・須恵器等が出土した。373 は 7 世紀前半頃の須恵質の鉢蓋である。出土遺物が少なく時期判断が難しいが、SD603 は 7 世紀前半以降に埋没した溝状遺構と考えられる。

SD604 (第 59・60・64 図)

VI 区西端部で検出した若干湾曲気味に南北方向へ延びる直線溝で、南北両端部は調査区から外れる。検出長 12.4 m、幅 0.66～0.74 m、深さ 0.34～0.38 m、主軸方位 N11° E を測る。断面は椀状～不整逆台形状を呈し、埋土上層は黒褐色砂混じり粘土、下層は黄灰色砂混じり粘土からなる。



第 59 図 SD604 平・断面図, 出土遺物 (1)



第60図 SD604 出土遺物(2)

埋土からは多量の7世紀前半頃の土師器・須恵器が出土した。出土状況から比較的一括性の高い遺物と考えられる。374～378は須恵器の杯蓋、379～389は須恵器の杯身である。390は土師器の杯である。391は杯部を欠く須恵器高杯の脚部である。392は口縁部を欠く甕の体部である。393は土師器の大型鍋である。394～400は土師器甕の上半部である。口縁部は逆「ハ」字状に開き端部は丸く仕上げ

ている。401～403は須恵器甕の上半部である。401・402は口頸部で端部は肥厚し、402の外面にはヘラ描文を施している。また、形状から402・403は同一個体の可能性がある。404・405は須恵器壺の口縁部片、406は須恵器短頸壺である。407は土師器甌である。体部と把手の資料であるが、甌として分類できる数少ない土器である。408は土師器甌の焚口片である。409はコップ型の土師器製塩土器である。410は弥生土器鉢の口縁部片で混入品である。

SD604附近は条里地割の南北軸の坪界線が通る区域で、SD604は坪界に概ね合致しており、条里地割に伴う溝跡の可能性が指摘できるが、この地域は8世紀後半以降に条里地割が施行された事例が数例あり、時期差がありすぎるため条里地割に伴う遺構としての認識には無理がある。ただ、今後の事例の増加と共に再評価される可能性までは否定できない。

(4) 不整形遺構

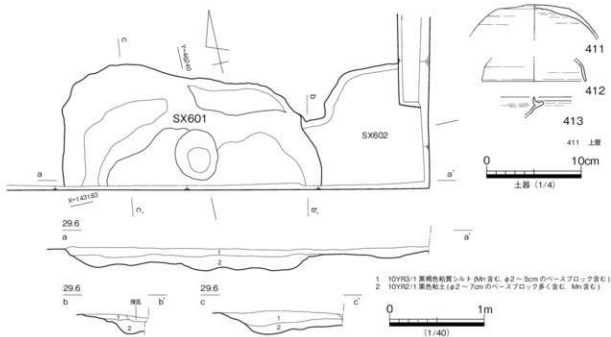
SX601 (第61・64図)

Ⅵ区東端部の南壁際で検出した不整形な落ち込みである。東辺部はSX602と重複している。南半部は調査区から外れるのため約1/2を検出した。長径2.8m、短径1.4m以上、深さ0.14～0.24mを測る。平面は隅丸方形形状、断面は幅広の逆台形状を呈する。埋土は上下2層に分かれ、上層は黒褐色シルト、下層は黒色粘土からなる。

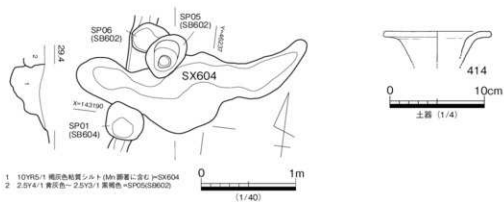
埋土からは弥生土器細片、須恵器片等が少量出土した。411～413は7世紀初頭頃の須恵器杯蓋と杯身である。出土遺物からSX601は7世紀初頭頃に埋没した遺構と考えられる。

SX604 (第62図)

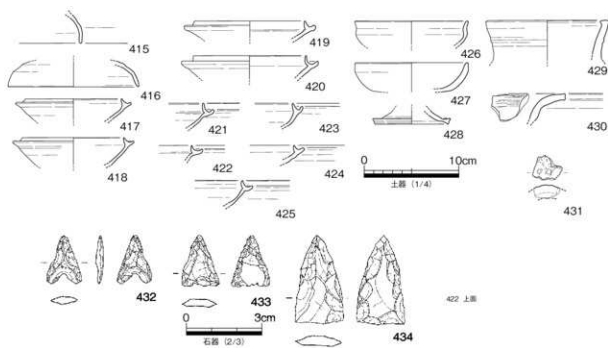
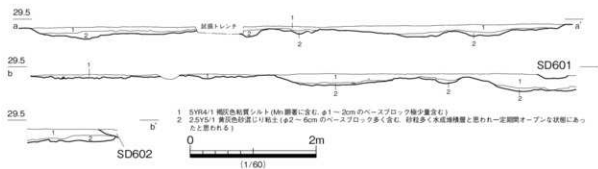
Ⅵ区東半部中央で検出した不整形な落ち込みである。SB602、SX605等と重複している。検出状況よりSX605はこれらの遺構より先行する。長径2.4m、短径0.8m、深さ0.32mを測る。平面は不整形な



第61図 SX601 平・断面図, 出土遺物



第 62 図 SX604 平・断面図, 出土遺物



第 63 図 SX605 断面図, 出土遺物

楕円形状、断面も不整形な逆台形状を呈し、埋土は褐灰色シルトからなる。

埋土からは弥生土器・土師器片が少量出土した。414は弥生土器の壺である。出土遺物が少ないためSX604の詳細な時期判断については無理がある。

SX605 (第63図)

Ⅵ区東半部で検出した不整形で浅い落ち込みである。SB601・602・604・605、SD601・602等と重複する。検出状況からSX605とこれらの遺構より先行する。長径9.7m、短径8.5m、深さ約0.4mを測る。平面は凹凸が著しい不整形な形状を呈し、底面は長径2.0m前後の楕円形状の掘り込み随所に認められ、起伏が顕著である。断面は浅く、埋土は上下2層に分かれ、上層は褐灰色シルト、下層は黄灰色砂混じり粘土が平坦に堆積している。

埋土からは7世紀初頭頃の土師器・須恵器と石器等が出土した。415・416は須恵器杯蓋、417～425は須恵器杯身、426・427は須恵器杯、428は須恵器高杯の脚部片、429は須恵器の直口壺の口縁部である。430は土師器甕の口縁部片である。431は比熱が著しい輪の羽口片である。432～434はサヌカイトの石鏝で混入品であろう。出土遺物からSX605は7世紀初頭以降の時期が考えられる。

(5) 自然河川

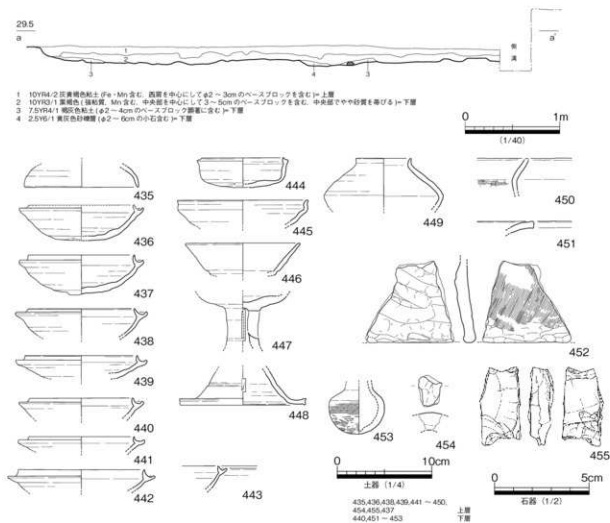
SR601 (第64・65図)

Ⅵ区東端部に所在する自然地形の浅い谷状の遺構である。SB601・602と重複し、SR601はこれらの遺構より後出する。検出長約12.0m、幅3.2～4.5m、深さ約0.4mを測る。平面は幅広く凹凸のある不整形な形状を呈し、北西方向へ向く。断面も凹凸のある不整形で浅い落ち込み状の形状を呈し、埋土は概ね上下2層に分かれ、上層は灰黄褐色粘土、下層は黒褐色粘土からなる。

堆積層からは7世紀初頭頃の土師器・須恵器等出土した。435は須恵器杯蓋、436～443は須恵器杯身、444・445は須恵器杯、446は須恵器甕の口縁部である。447・448は長脚2段透かしの須恵器高杯脚部で、おそらく同一個体であろう。449は底部を欠く須恵器短頸壺である。450・451は土師器甕の口縁部片である。452は形状から推定して甕の底部片であろう。453はミナヅメの須恵器壺、454は輪の羽口片である。455はサヌカイトの楔形石器で混入品である。出土遺物からSR601は7世紀初頭以降の埋没時期が考えられる。

SR602 (第64・66～74図)

Ⅵ区中央から西半部にかけて所在する。調査区内を南西から北東方向にクランク状に蛇行しながら延びる自然河川である。調査区南端付近ではSR603・604等の流路に分かれるようであるが、大半が調査区から外れるため詳細は不明。発掘調査に際しては、河川の堆積が安定した段階で、その上面から人為的な溝を数条開削している可能性が考えられたが、その状況を明らかにするまでには至らなかった。検出長約16.0m、幅約5.0m(北端部)～8.0m(南端部)、深さ約0.8mを測る。断面の形状は北端部では幅広い椀状、南端部では不整形な隅丸逆台形状を呈する。底面は旧流路の痕跡と考えられる凹凸が著しい。埋土は大別して上・中・下層の3層、細分して6層に区分し、遺物の取り上の基準とした。上層：黒褐色系粘土層で流路死滅後の自然堆積層にあたる。注目される遺物としては鉄鏝が1点や馬骨等が出土している。中層Ⅰ：灰色系の砂～粘土層である。流路埋没後に人為的に再掘削された堆積状況を示し



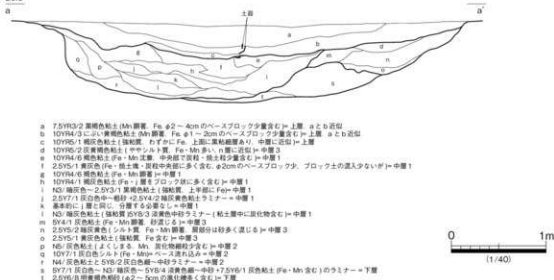
第65図 SR601 断面図, 出土遺物

ており、当初この中層を人為的な溝跡として調査を進めたが、下層の遺物内容や流路方向から、自然河川と溝跡を明瞭に分離することはできず、途中で中層Ⅰと名称を変更した。中層Ⅱ：中層Ⅰ同様に人為的な掘削後に堆積した土層である。下層Ⅰ：黄色系粘土～シルトの水平堆積層である。出土遺物は極めて少ない。下層Ⅱ：灰色系粘土・細砂～粗砂の厚0.4m以上のラミナー層である。活発な水流活動を示しており、弥生土器が少量出土した。下層Ⅲ：黄色系の小礫混じりの粗砂層である。底面に張り付くような状況で弥生土器・石器が出土した。時期は前期末～中期初頭・中期中葉・後期後半の3時期あり、周辺にこの時期の集落跡が存在している可能性を示唆する。

出土遺物の出土状況から推定して、SR602は弥生時代後期後半以降には基になる流路が既に存在しており、7世紀前半以降に本格的に埋没が開始し、完全に平坦化するのには古代前半頃と推定される。

SR602 出土土器 (第67～74図)

SR602からは多量の遺物が出土した。傾向として下層からは弥生中期・弥生時代後期後半～古墳時代前期の遺物が、中層～上層からは6世紀末～7世紀初頭頃のTK209・217並行期の須恵器や、古代前半頃の土器が出土した。



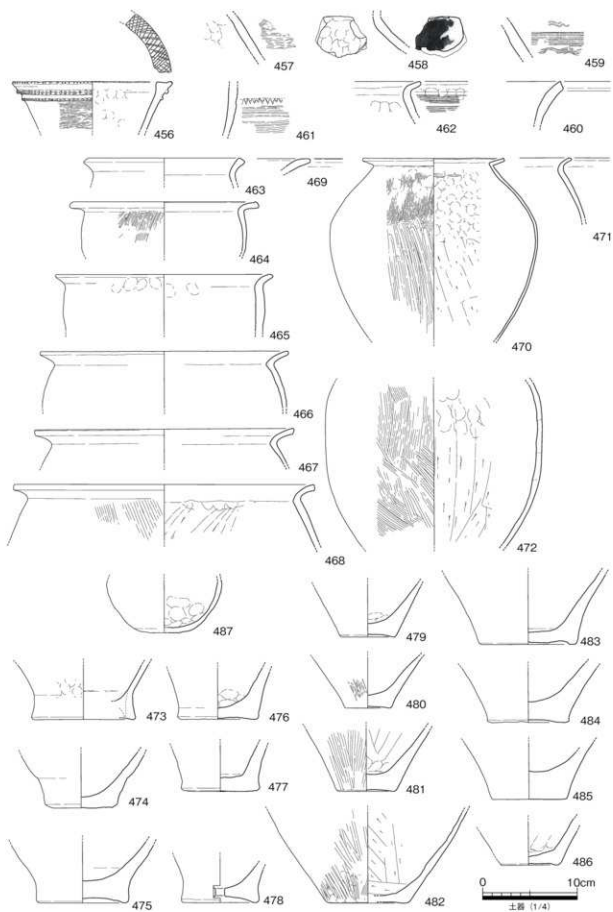
第 66 図 SR602 断面図

出土遺物を説明する都合上、弥生土器・土師器・須恵器・石器、その他の遺物の順で報告する。なお出土層位については、挿図の注記及び観察表を参照して頂きたい。

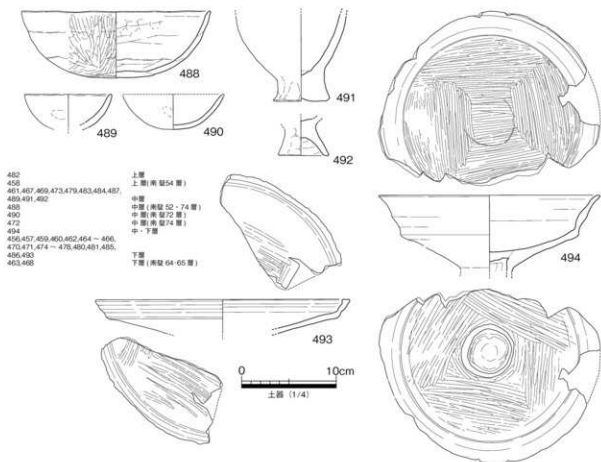
456～494 は弥生土器の資料である。456～462 は中期前半頃の壺片である。463～472 は甕の資料である。463～468 は中期中葉以降の甕口縁部片である。470 は後期後半以降の底部を欠く下川津 B 類甕に類似した土器である。473～486 は壺と甕の底部である。478 には穿孔が認められる事から、甕としての機能が考えられる。488～492 は鉢である。488 の外面にはヘラミガキが顕著に認められる。493・494 は高杯である。493 は後期初頭、494 は後期中頃の高杯の杯部である。

495～516 は古墳時代前期～古代の土師器の資料である。495～499 は高杯の資料である。495 は古墳時代前期前半の高杯である。500～513 は甕の資料である。500 は底部を欠く、古墳時代前期前半の土師器甕である。511・512 は甕の把手である。517 は形状から甕の基底部片と考えられる。515・516 は甕の上半部である。把手までは残っていないが、比較的残りの良い資料である。514 は古墳時代末以降のボール状の製塩土器である。内外面ともにオサエが顕著に残り、器壁は比熱を受け劣化している。518 は土製品の羽片で、内外面共に比熱が著しい。

519～590 は主に中～上層から出土した須恵器の資料である。6 世紀末～7 世紀初頭の TK209・217 並行期の土器が主体を占める。519～534 は杯壺である。天井部の調整としては、ヘラ切り後、回転ナデとの境に回転ヘラケズリを施している資料が多い。532 は天井部の外面には「×」印の線刻を施した杯壺である。533 の口縁部には片口状の歪みが認められる。535～560 は杯身である。杯壺同様、底部はヘラ切りとヘラ削りを併用している事例が多い。535 は TK10 並行期の杯身で、他は 6 世紀末～7 世紀初頭の TK209・217 並行期の杯身である。561～567 は杯である。形状から数タイプに区分できる。568～576 は短脚の高杯である。577 は TK43 並行期の高杯である。578 は口縁部を欠く提瓶で、579 は横瓶の体部片である。580～582 は口縁部と底部を欠く短頸壺である。583・584 は壺の口縁部である。585～587 は甕の口縁部である。588 は甕の把手部である。590 は形状や外面のヘラケズリの状況等から土馬の脚部片と考えられる。土馬は県下でも事例が少なく希少な遺物である。



第 67 図 SR602 出土遺物 (1)

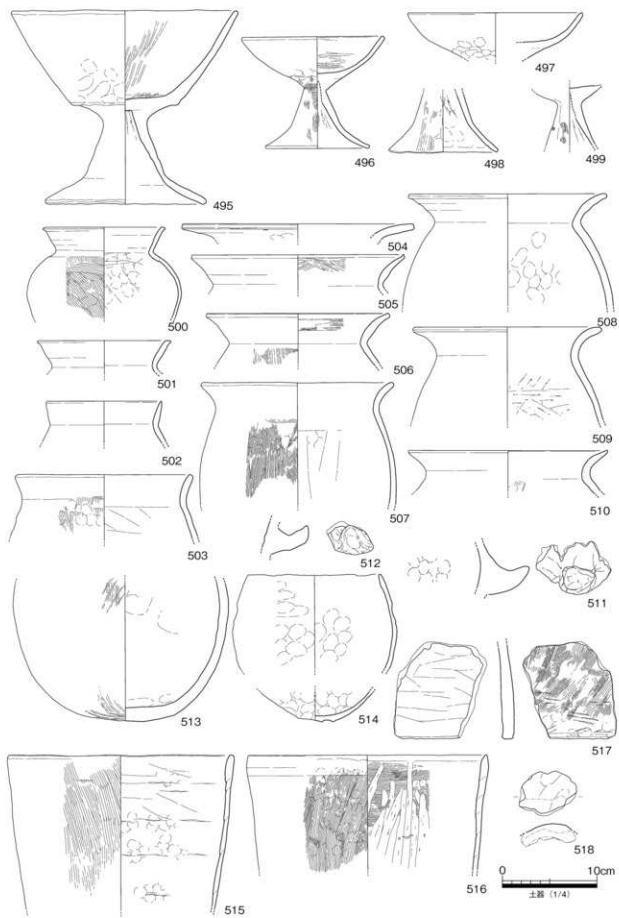


482 上層 (南段54層)
 483 上層 (南段54層)
 481,407,409,473,479,483,484,487, 489,491,492 中層 (南段52~74層)
 485 中層 (南段52~74層)
 490 中層 (南段72層)
 472 中層 (南段74層)
 494 中・下層
 456,457,409,460,462,464~466, 470,471,474~476,480,481,485, 486,493 下層 (南段64~65層)
 463,468

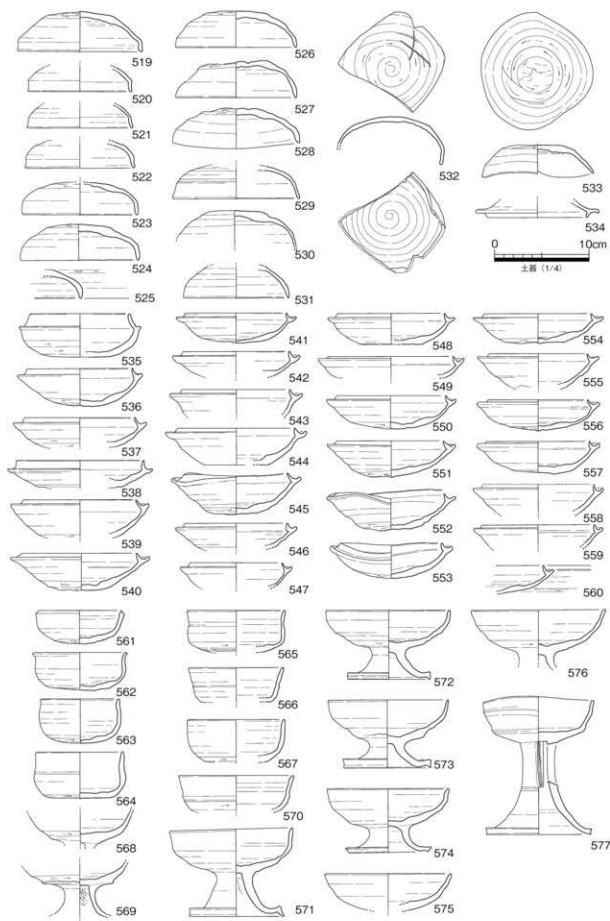
第68図 SR602 出土遺物 (2)

SR602 出土石器・鉄器・木器等 (第72~74図)

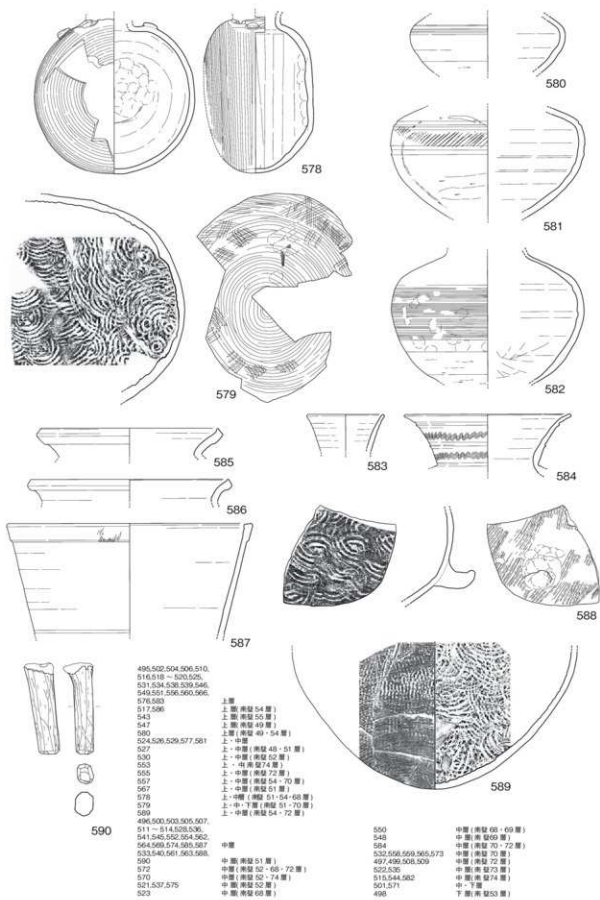
591~603はサスカイト製の石器類である。591は有舌尖頭器である。比較的肉厚な横長剥片を素材に用い、両側縁部より調整を加えている。592~594は石鏃である。593はV字状の形態をしており、縄文期の特徴を有する。595は槍先形石器の未製品である。横長の大型剥片を素材にし、両側縁部から調整を加えている。596は形状から石砲丁の未製品と考えられる。597は形状から半裁状に2分割した石匙片と考えられる。598は不整形は形状を呈する石器で、一応削器に分類したが他の器種で再検討する必要もある。599・600は石鏃片である。601~603は石核である。602は長さ19cm×幅11.2cm×厚さ8.0cm測る大型のサスカイト分割礫を素材に用い、側縁の稜線上を交互剥離で剥片剥離を行っている石核である。器面に残る剥離痕は長さ8.0~10.0cm×幅5.0~7.0cm程の比較的大型の剥離痕が主体を占めることから、602は石核素材を生産した石核と考えられる。603は厚さ2.5cm程の肉厚な横長状の剥片を素材に用いた石核である。604は形状から推定して、花崗岩製の敲き石と考えられる。605は上層から出土した本遺跡唯一の鉄鏃である。606は木製品の柱材で、断面の形状からミカン割材と考えられる。



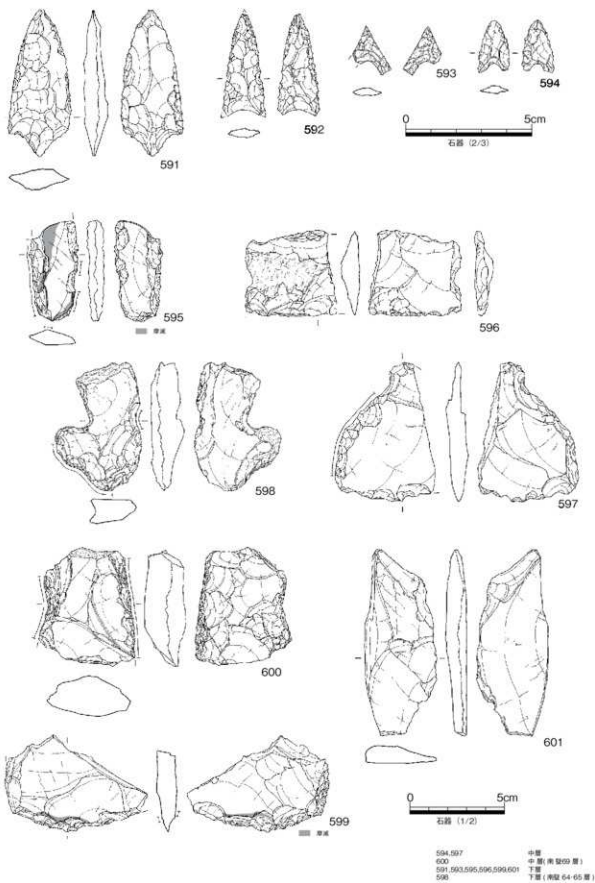
第69図 SR602 出土遺物 (3)



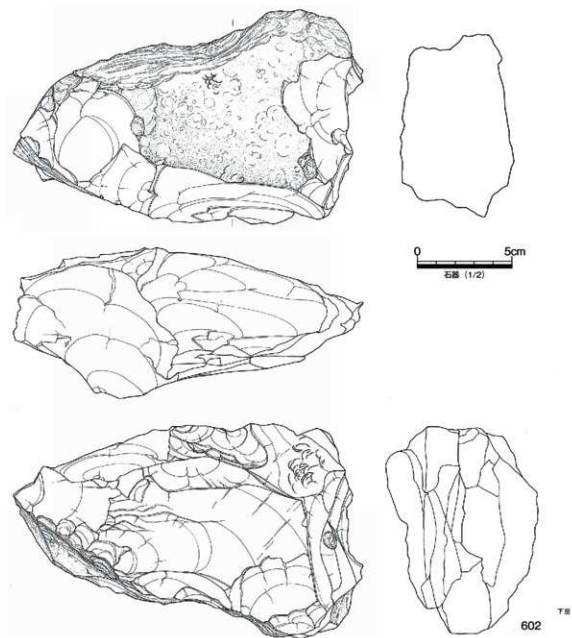
第70図 SR602 出土遺物(4)



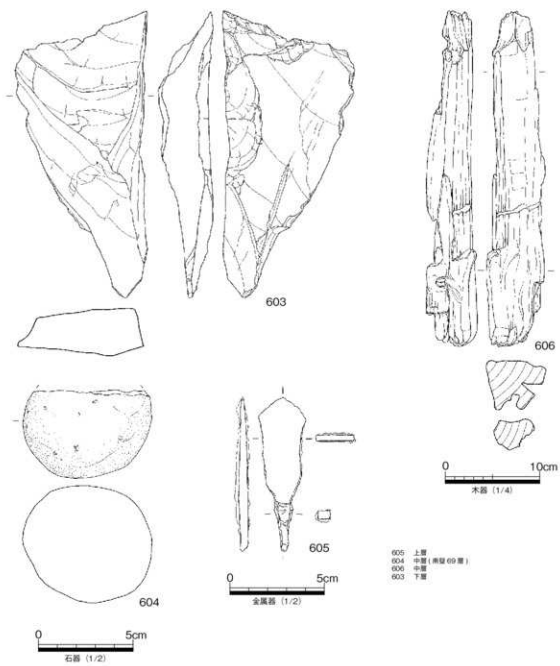
第 71 図 SR602 出土遺物 (5)



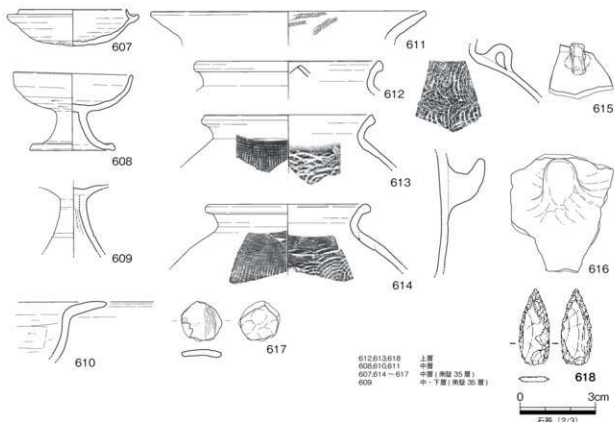
第 72 圖 SR602 出土遺物 (6)



第 73 図 SR602 出土遺物 (7)



第74図 SR602出土遺物(8)



第75図 SR603 出土遺物

SR603 (第64・75図)

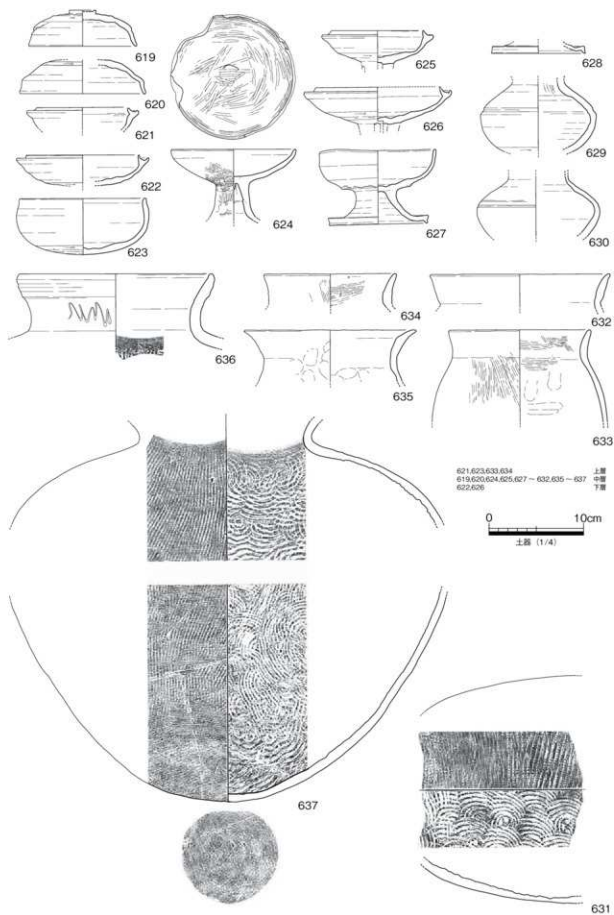
Ⅵ区中央に所在するSR602の南半部の東側で、SR602と重複する自然河川である。SR602との前後関係は南壁で見る限り不明瞭である。平面は不整形な形状で南から北西方向へ湾曲気味に蛇行するようである。また、SR602との境界は不明瞭である。断面の形状は南壁で見る限り東西二つの流路に分かれるようであるが、平面では不明瞭である。底面は不整形で凹凸が著しい。検出長約7.0m、幅約5.8m、深さ0.1～0.55mを測る。埋土上位は黒色～灰色系粘土、下位は灰色系砂が主体を占める。

堆積層からは須恵器・土師器、石器等が出土した。607は6世紀末頃の須恵器杯身、608・609は7世紀前半の須恵器高杯である。610は土師器鍋の口縁部片、611は土師器甕の口縁部である。612は須恵器壺の口頸部にあたり、内面にはヘラ描で記号文を記している。613・614・615は須恵器甕で、615は耳付甕の肩部にあたる。616土師器甕の把手部、617は弥生土器転用の紡錘車の未製品である。618はサスカイトの石鎌である。出土遺物からSR603は6世紀末～7世紀初頭頃に埋没した自然河川と考えられる。

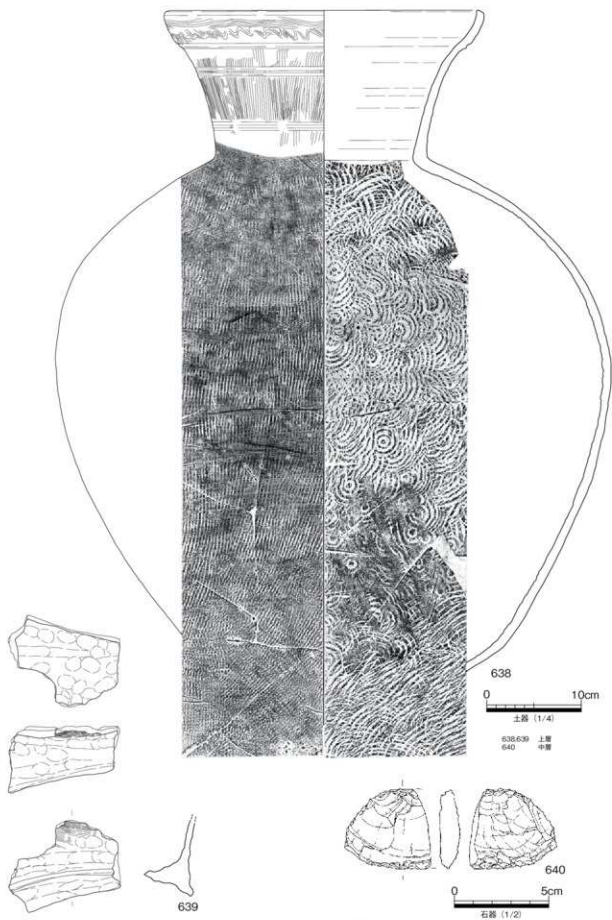
SR604 (第64・76・77図)

Ⅵ区中央に所在するSR602の南半部の西側で、SR602と重複する自然河川である。SR602との前後関係は不明瞭である。底面は不整形で凹凸が著しい。検出長約6.0m、幅約5.0m、深さ約0.8mを測る。

堆積層からは須恵器・土師器、石器等が出土した。619・620は須恵器杯蓋、619は天井部に摘まみの付くタイプである。621・622は須恵器杯身、623は須恵器の鉢である。624は土師器の高杯、625～628は須恵器の高杯で、625・626は脚部を欠く有蓋高杯である。629・630は須恵器の甕の体部、636・



第76図 SR604 出土遺物 (1)



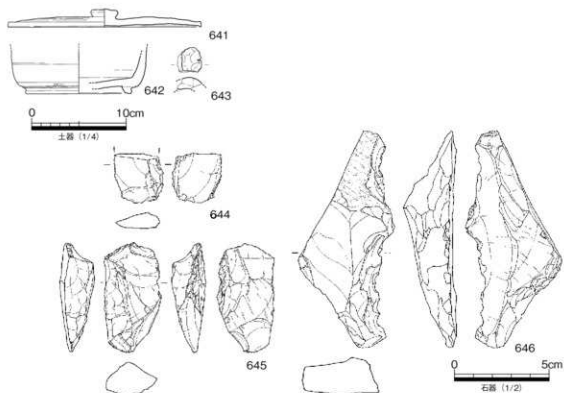
第77図 SR604出土遺物(2)

637・638は須恵器の甕である。636は甕口頸部で、外面にはヘラ描で波状の記号文を施している。637は口縁部と体部の一部を欠くが、比較的残りが良好な大甕である。638は口縁部から底部まで揃っている比較的稀な大甕である。632～635は土師器の甕の口縁部、631は須恵器横瓶の体部片である。639は土師器の甕片である。640はサヌカイトの石庵丁に分類したが、削器とも考えられる。出土遺物からSR604は6世紀後半～7世紀初頭頃に埋没した自然河川と考えられる。

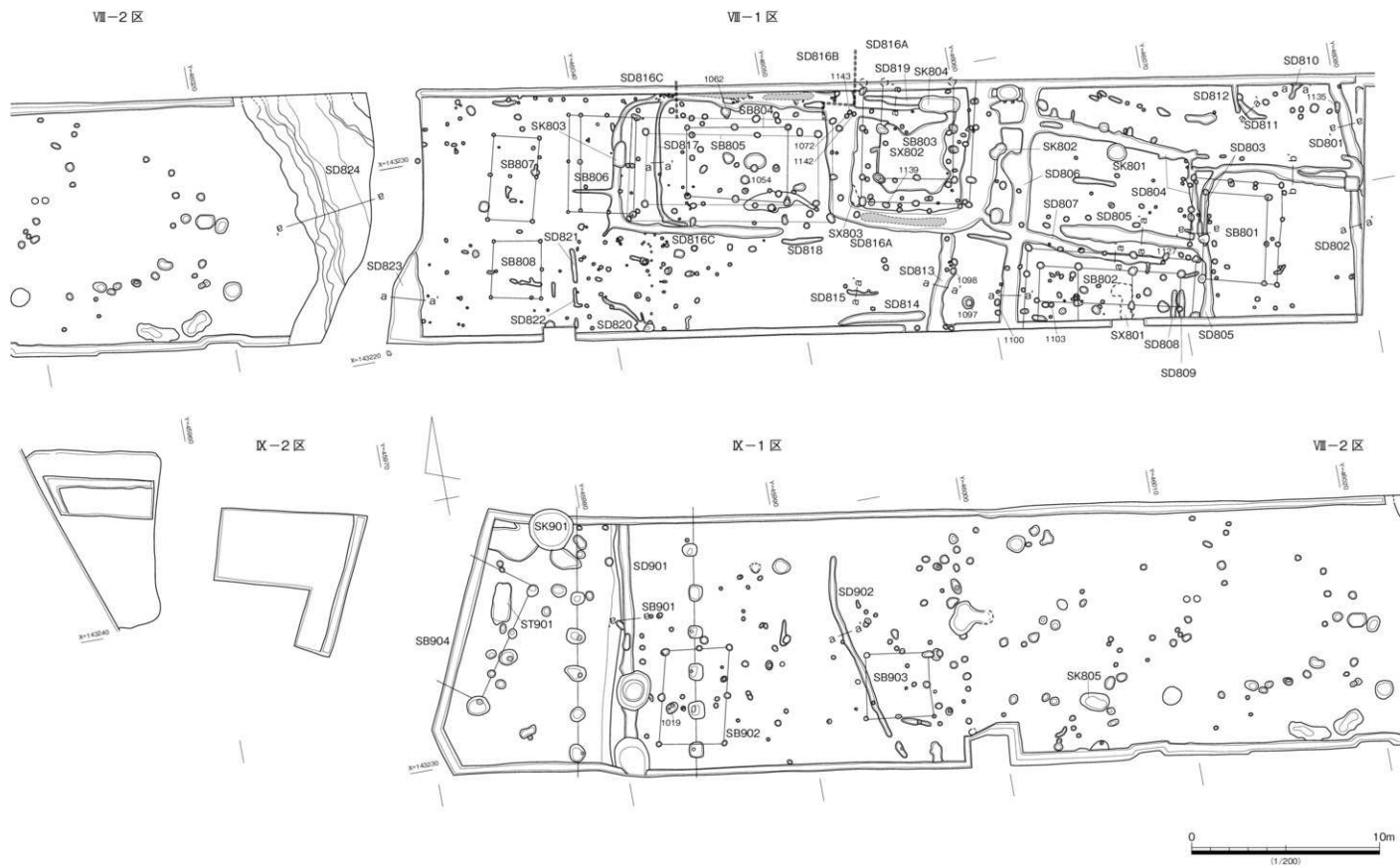
(6) 包含層出土遺物

VI区の主要な遺構・遺物については先に報告したが、次に包含層出土遺物を報告する。なお、包含層出土遺物中には機械掘削・遺構検出・側溝掘削時等に出土した、個別の遺構に区分できない遺物までを含めている。

641は8世紀頃の須恵器杯蓋、642は口縁部を欠く8世紀中頃の須恵器杯身である。643は輪の羽口片である。表裏面とも比熱を顕著に受けている。644はサヌカイトの横長状の剥片である。645はかなり小型ではあるが、サヌカイトの交互剥離の横長剥片石核である。646は大型の板状剥片を素材に用い、打面調整を顕著に施した横長剥片石核である。なお、646は形状から旧石器の可能性もある。



第78図 VI区包含層出土遺物



第 80 图 VII·IX 区遺構配置図

第5節 VII～IX区の調査

1. はじめに

VII・VIII・IX区は調査区西半部の東部に位置し、延長約241mを測る調査区である。VII区～IX区は平坦な微高地が続き、微高地上には7世紀前半、12～13世紀、近世以降等の集落跡が展開している。竪穴建物跡1棟、掘立柱建物跡42棟を確認した。大まかな傾向としては古代の建物が約6割、12～13世紀の建物が約4割を占める。分布傾向としては古代の建物はVII-1～3区、IX-1区、12～13世紀代の建物はVII-2、VIII-1区に集中する傾向がある。

IX-1区では梁間6m、桁行13m以上、面積78㎡以上の条里方向に向く南北棟SB901を確認している。遺物が極めて少量のため時期の判断に問題を残すが、検出状況から推定して古代の建物跡と考えられる。周辺に同時代の建物等の遺構が確認できないため、具体的な性格については不明瞭な点が多いが、先述した河川出土の墨書土器、土馬、鉄鏝、建築部材等を含め古代の瓦塚遺跡の性格を推定するうえで極めて示唆的である。

IX区は調査区西端部に位置し「古川」東岸の氾濫源にあたる区域である。そのため、VIII区から延びる微高地は途切れる。遺構・遺物共に検出できなかったためトレンチで調査を終えた。

2. VII-1区の調査

(1) 掘立柱建物跡

SB701 (第81図)

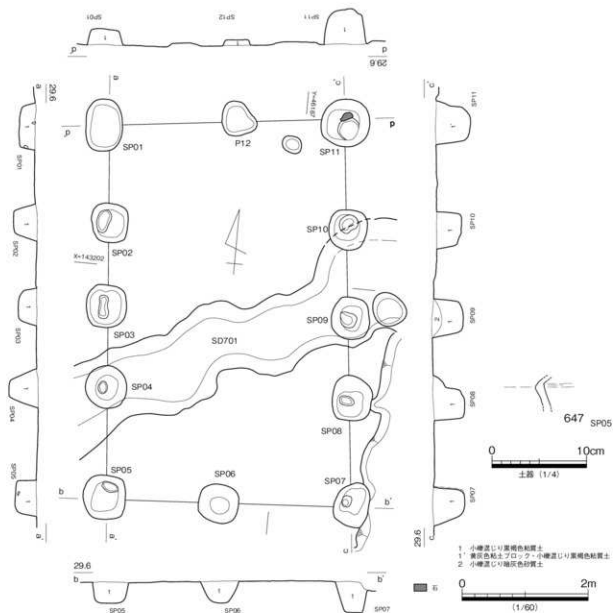
VII-1区東端部で検出した梁間2間、桁行4間の南北棟の建物である。建物はSD701と重複し、切り合い関係からSB701はSD701より後出することが解る。2間(3.9m)×4間(6.1m)、面積は23.79㎡、主軸方位N6.5°Wを測る。柱間は梁間1.65～2.1m、桁行1.3～1.8mを測る。柱穴掘方は不整形～不整形を呈し、径0.55～0.7m、深さ0.1～0.6mを測る。柱穴埋土は小礫混じりの黒褐色粘質土が主体を占める。

柱穴からは土師器細片・須恵器片等が少量出土した。647はSP05から出土した土師器甕の肩部片である。SB701の出土遺物中には7世紀代の須恵器杯が含まれており、7世紀以降の建物の可能性が高い。

SB702 (第82図)

VII-1区中央の南半部で検出した梁間2間、桁行3間の東西棟の総柱建物である。建物はSB705と重複し、柱穴の切り合い関係からSB702はSB705より先行する可能性がある。2間(3.6m)×3間(5.1m)、面積は18.36㎡、主軸方位0°を測る。柱間は梁間1.7～1.85m、桁行1.4～1.9mを測る。柱穴掘方は不整形を呈し、側柱の柱穴径0.7～1.0m、深さ約0.45mを測る。東柱の柱穴径約0.45m、深さ0.3～0.4mを測る。柱穴埋土は黄色粘土ブロック・小礫混じり黒褐色粘質土からなる。

柱穴からは土師器・須恵器等が出土している。648・650・651は須恵器である。648はSP03から出土した杯の口縁部片である。650はSP06から出土した7世紀初頭頃の甕の口縁部である。651はSP02から出土した壺の口縁部である。外面には櫛掻波状文を顕著に施している。649・652・653は土師器である。649はSP08から出土した高杯の脚部、652・653はSP03、04・10から出土した甕口縁部である。654はSP01から出土した瓦器碗の口縁部で混入品であろう。出土遺物からSB702は7世紀初頭以降の



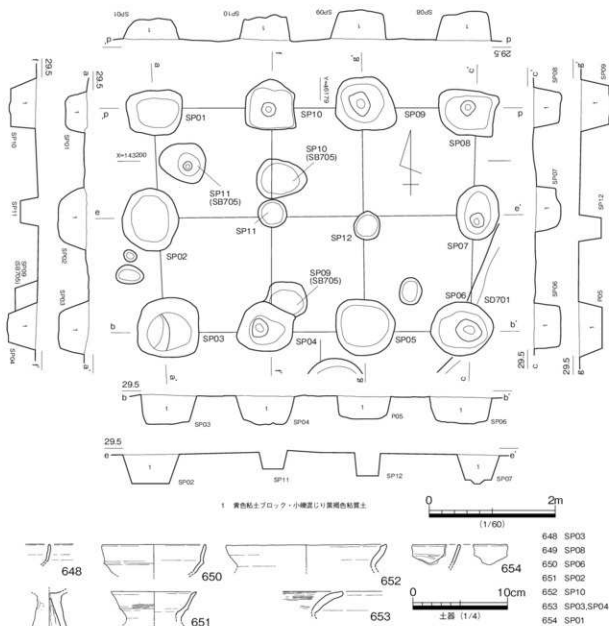
第 81 図 SB701 平・断面図，出土遺物

建物と考えられる。

SB703 (第 83 図)

Ⅴ-1 区中央の北半部で検出した梁間 2 間、桁行 2 間の東西棟の建物である。建物は SB704 と重複するが柱穴が切り合わない為、建物間の詳細な前後関係は不明である。2 間 (3.35 m) × 2 間 (3.95 m)、面積は 12.35m²、主軸方位 N85.0° W (5.0° E) を測る。柱間は梁間 1.45 ~ 1.8 m、桁行 1.8 ~ 2.0 m を測る。柱穴掘方は不整形形～不整形円形を呈し、径 0.3 ~ 0.5 m、深さ 0.2 ~ 0.4 m を測る。埋土は小礫混じり暗灰褐色粘質土の単層である。

柱穴からは古代の土師器・須恵器片等が少量出土した。出土遺物が少ないため、SB703 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況や出土遺物から古代の建物と考えられる。

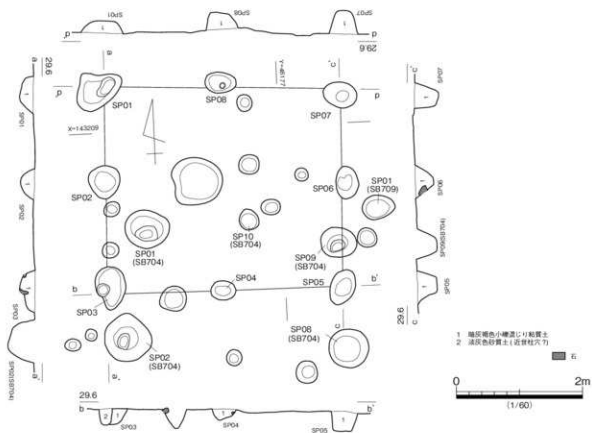


第 82 図 SB702 平・断面図，出土遺物

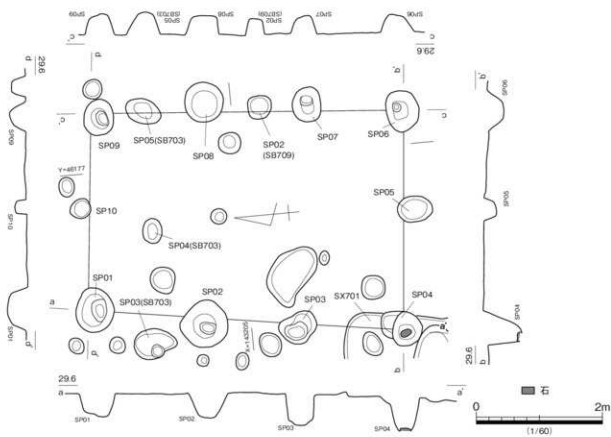
SB704 (第 84 図)

Ⅶ-1 区中央で検出した梁間 2 間、桁行 3 間の南北棟の建物である。建物は SB703 と重複するが柱穴が切り合わない為、建物間の詳細な前後関係は不明である。2 間 (3.5 m) × 3 間 (5.05 m)、面積は 16.67㎡、主軸方位 N5.0° E を測る。柱間は梁間 1.5 ~ 1.9 m、桁行 1.5 ~ 1.9 m を測る。柱穴掘方は不整形円形を呈し、径 0.55 ~ 0.7 m、深さ 0.2 ~ 0.5 m を測る。南西隅の SP04 では根石を検出した。

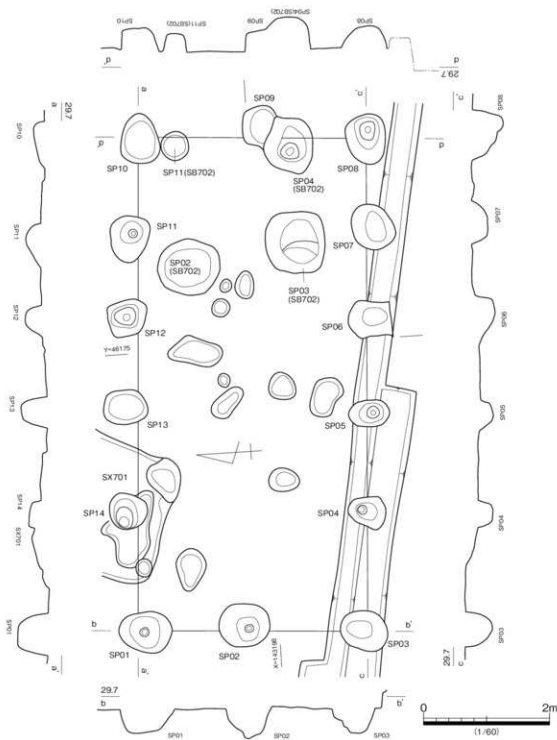
柱穴からは古代の土師器杯・須恵器杯・甕等の細片が少量出土したが、図化できる遺物は抽出できなかった。遺物中には特に 7 世紀頃の遺物が目に付くことから、この建物は 7 世紀以降の建物の可能性が高い。



第 83 図 SB703 平・断面図



第 84 図 SB704 平・断面図

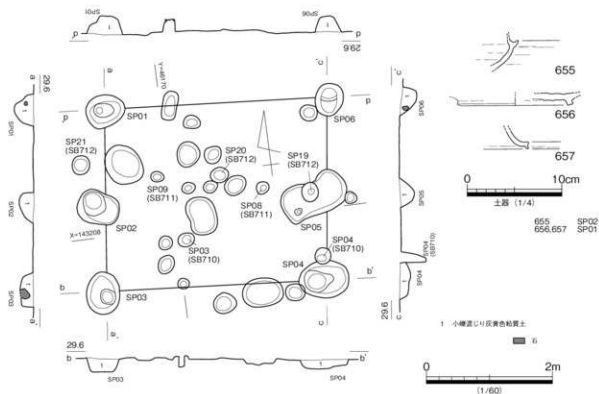


第 85 図 SB705 平・断面図

SB705 (第 85 図)

Ⅶ-1 区中央の南半部で検出した梁間 2 間、桁行 5 間の東西棟の建物である。建物は SB702 と重複し、柱穴の切り合い関係から SB705 は SB702 より後出する可能性がある。2 間 (3.65 m) × 5 間 (7.9 m)、面積は 28.84m²、主軸方位 N86.5° W (3.5° E) を測る。柱間は梁間 1.6 ~ 2.05 m、桁行 1.3 ~ 1.9 m を測る。柱穴掘方は不整形円形~不整形楕円形を呈し、径 0.4 ~ 0.8 m、深さ 0.2 ~ 0.5 m を測る。

柱穴からは弥生土器の細片や土師器片等が少量出土している。出土遺物が少ないため、SB705 の詳細



第86図 SB706平・断面図，出土遺物

な時期判断には無理があるが，検出状況や出土遺物から古代の建物の可能性が高い。

SB706（第86図）

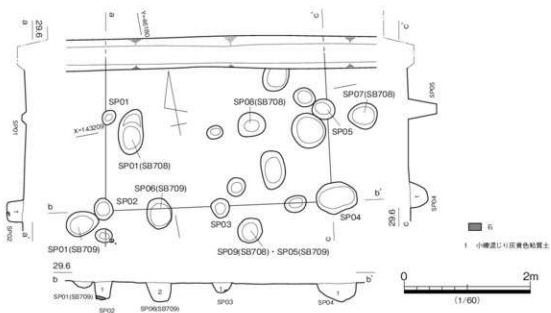
Ⅲ-1区西半部北寄りで検出した梁間2間、桁行1間の東西棟の建物である。建物はSB710・711・712と重複し、切り合い関係からSB706はこれらの建物より先行する。2間（2.9m）×1間（3.35m）、面積は10.3㎡、主軸方位N86.5°W（3.5°E）を測る。柱間は梁間1.3～1.6m、桁行3.5～3.55mを測る。柱穴掘方は不整形を呈し、径0.5～0.8m、深さ0.15～0.3mを測る。柱穴埋土は小礫混じり灰黄色粘質土の単層である。

柱穴からは須恵器片が少量出土した。655はSP02から出土した7世紀初頭頃の須恵器杯身、656はSP01から出土した8世紀前半以降の須恵器高台付杯の底部、657はSP01から出土した7世紀前半頃の須恵器高杯の脚端部片である。出土遺物からSB706は8世紀前半以降の建物の可能性が高い。

SB707（第87図）

Ⅲ-1区中央の北半部の北壁際で検出したため、北半部は調査区から外れ南半部の約1/2を検出した。梁間1間以上、桁行2間の東西棟の建物である。建物はSB708・709と重複するが柱穴が切り合わない為、建物間の詳細な前後関係は不明である。1間（2.2m）以上×2間（3.6m）、面積は7.92㎡以上、主軸方位N8.5°Eを測る。柱間は梁間1.4～1.5m、桁行1.8mを測る。柱穴掘方は円形～不整形を呈し、径0.2～0.7m、深さ0.15～0.5mを測る。柱穴埋土は小礫混じり灰黄色粘質土の単層である。

柱穴からは土師器片が数点出土した。出土遺物が少ないため、SB707の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況などから古代の建物の可能性がある。



第 87 図 SB707 平・断面図

SB708 (第 88 図)

Ⅶ-1 区中央の北半部で検出した梁間 2 間、桁行 2 間の南北棟の総柱建物である。建物は SB707・709 と重複するが柱穴が切り合わない為、建物間の詳細な前後関係は不明である。2 間 (3.35 m) × 2 間 (3.75 m)、面積は 1387m²、主軸方位 N7.5° E を測る。柱間は梁間 1.65 ~ 1.9 m、桁行 1.9 ~ 2.0 m を測る。柱穴掘方は不整形円形~不整形楕円形を呈し、径 0.3 ~ 0.7 m、深さ 0.15 ~ 0.5 m を測る。

柱穴からは土師器や古代の須恵器片が少量出土した。出土遺物が少ないため、SB708 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況などから古代の建物の可能性がある。

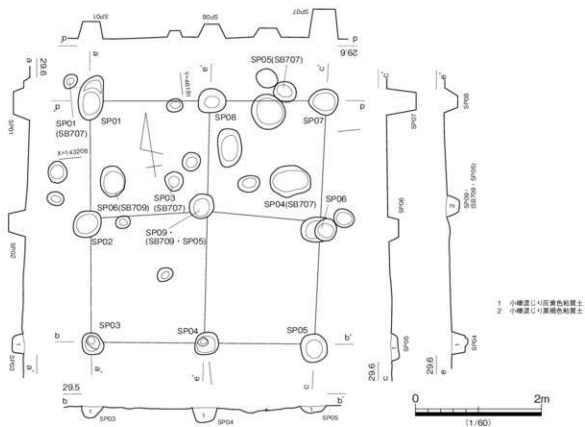
SB709 (第 89 図)

Ⅶ-1 区中央で検出した梁間 2 間、桁行 1 間の南北棟の建物である。北辺梁間の 1 柱穴を欠く。建物は SB708・707・703・704 と重複するが柱穴が切り合わない為、建物間の詳細な前後関係は不明である。2 間 (2.75 m) × 1 間 (3.3 m)、面積は 9.08m²、主軸方位 N11.5° E を測る。柱間は梁間 1.3 ~ 1.4 m、桁行 3.2 ~ 3.3 m を測る。柱穴掘方は円形~不整形円形を呈し、径 0.35 ~ 0.5 m、深さ 0.15 ~ 0.2 m を測る。柱穴埋土は小礫混じり黒褐色粘質土の単層である。

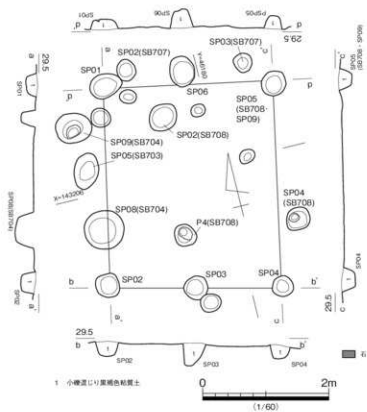
柱穴からは土師器片が数点出土した。出土遺物が少ないため、SB709 の詳細な時期判断には無理がある。

SB710 (第 90 図)

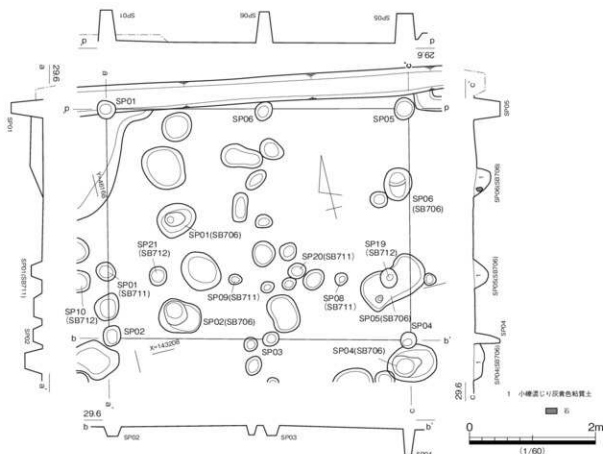
Ⅶ-1 区西半部北壁際で検出した梁間 1 間、桁行 2 間の東西棟の建物である。建物は SB706・711・712 と重複し、切り合い関係から SB706 より後出することは確かであるが、SB711・712 とは柱穴が切り合わない為不明である。1 間 (3.9 m) × 2 間 (4.8 m)、面積は 18.72m²、主軸方位 N76.0° W (14.0° E) を測る。柱間は梁間 3.65 ~ 3.7 m、桁行 2.2 ~ 2.6 m を測る。柱穴掘方は円形を呈し、径 0.15 ~ 0.3 m、深さ 0.2 ~ 0.4 m を測る。柱穴埋土は小礫混じり灰黄色粘質土の単層である。



第 88 図 SB708 平・断面図



第 89 図 SB709 平・断面図



第90図 SB710平・断面図

柱穴からは土師器・須恵器の細片が少量出土した。出土遺物が少ないため、SB710の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況から中世の建物と考えられる。

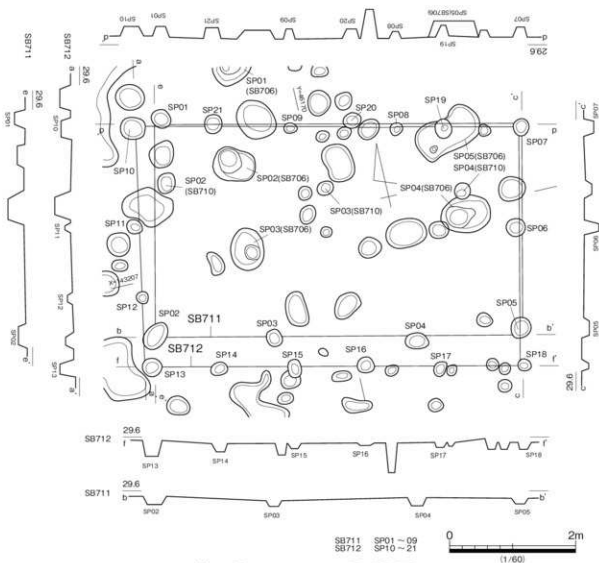
SB711 (第91図)

Ⅶ-1区西端部で検出した梁間1間、桁行3間の東西棟の建物である。建物はSB706・710・712と重複している。柱穴同士が切り合わない為、不明瞭な点が多いがSB706より後出するようである。また、SB712とは棟軸方向を合わせかなり隣接しており、SB711・712は建替えの状況が現れている可能性が高い。1間(3.3m)×3間(5.8m)、面積は19.14㎡、主軸方位N76.0°W(14.0°E)を測る。柱間は梁間3.3～3.4m、桁行1.7～2.3mを測る。柱穴掘方は円形～楕円形を呈し、径0.2～0.5m、深さ0.1～0.15mを測る。

柱穴からは土師器・須恵器の細片が少量出土した。出土遺物が少ないため、SB711の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況から中世の建物と考えられる。

SB712 (第91図)

Ⅶ-1区西端部で検出した梁間3間、桁行5間の東西棟の建物である。建物はSB706・710・711と重複している。柱穴同士が切り合わない為、不明瞭な点が多いが、SB706より後出するようである。また、先述したがSB712とは棟軸方向を合わせかなり隣接しており、SB711・712は建替えの状況現れている



第91図 SB711・712平・断面図

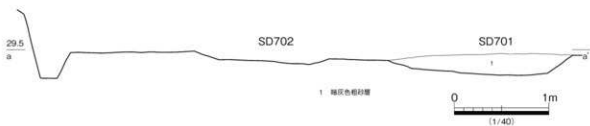
可能性が高い。3間(4.8m)×5間(5.9m)、面積は28.32㎡、主軸方位N76.0°W(14.0°E)を測る。柱間は梁間3.3～3.4m、桁行1.7～2.3mを測る。柱穴掘方は円形を呈し、径0.2～0.45m、深さ0.1～0.2mを測る。

柱穴からは土師器・須恵器の細片が少量出土した。出土遺物が少ないため、SB712の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況から中世の建物と考えられる。

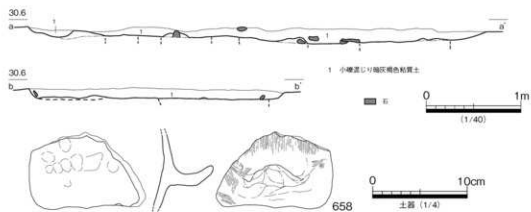
(2) 溝状遺構

SD701 (第92図)

Ⅶ-1区東南部で検出した若干湾曲気味に北東方向へ延びる不整形で浅い溝状遺構である。南北両端部は調査区から外れる。SD702と重複し、切り合い関係からSD701はSD702より先行する。検出長11.5m、幅1.0～1.5m、深さ約0.2mを測る。断面は楕状～逆三角形状を呈し、埋土は暗灰色粗砂層からなる。



第92図 SD701・702 断面図



第93図 SX701 断面図, 出土遺物

SD702 (第92図)

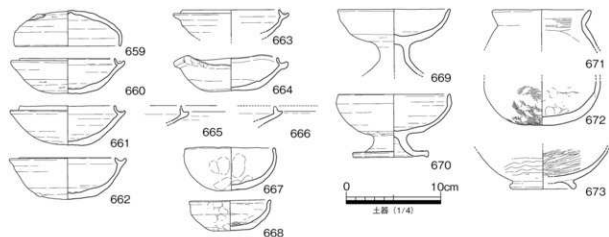
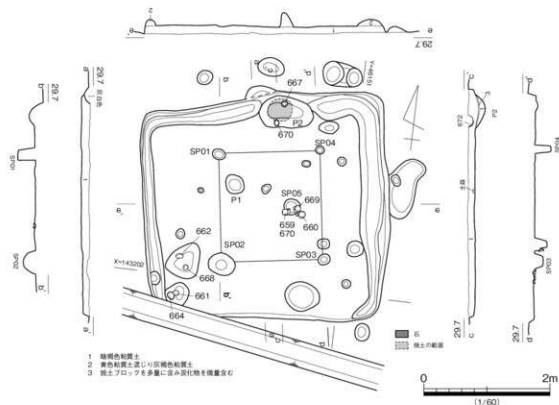
Ⅶ-1 東南部で検出した若干湾曲気味に北東方向へ延びる溝状遺構である。南北両端部は調査区から外れる。SD701と重複し、切り合い関係からSD702はSX701より後出する。検出長8.5m、幅0.7～1.5m、深さ約0.1mを測る。断面は浅い落ち込み状を呈する。

(3) 不整形遺構

SX701 (第93図)

Ⅶ-1 西半部中央で検出した不整形な落ち込みである。SB704・705と重複している。これらの建物の柱穴は、SX701の底面で検出していることから、SX701がSB704・705より後出する可能性がある。長径約4.3m、短径約2.6m、深さ約0.1mを測る。平面は不整形な楕円形状、断面は浅い皿状を呈する。底面は比較的平坦であるが、複数の柱穴の切り込みが認められる。埋土は小礫混じり暗灰色粘質土からなる。

埋土からは土師器片が数点出土した。658は土師器甕の把手である。出土遺物からSX701は7～8世紀頃の時期が考えられる。



第94図 SH701 平・断面図, 出土遺物

3. VII-2区の調査

(1) 堅穴建物跡

SH701 (第94図)

VII-2区東半部の南壁際で検出した方形の堅穴建物跡である。北にはSB722が隣接する。住居跡の平面形は方形状を呈し、長径7.8m、短径7.0m、深さ約0.1m、面積は54.6㎡、主軸方位N8.0°Wを測る。床面上からは、壁溝、竈状遺構、主柱穴4基を検出した。壁溝は南辺を除く3辺の床面上の外周で検出した。壁溝は幅0.3～0.6m、深さ0.1mを測る。竈状遺構は北辺中央で確認した。平面は楕円形状を呈し、長径0.9m、短径0.5m、深さ0.1mを測る。断面は椀状を呈し、埋土は上下2層に分かれ、上層は黄色粘土混じり灰褐色粘質土、下層は焼土ブロックを多量に含んでいる。主柱穴と考えられる柱

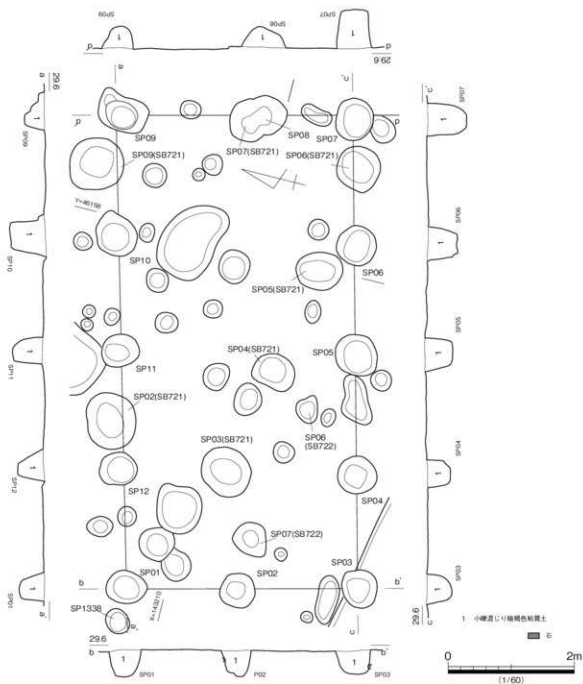
穴は、SP01～04の4柱穴である。径約0.15～0.4m、深さ0.2～0.3mを測る。

埋土からは比較的一括性の高い須恵器・土師器が出土した。659～666は須恵器、667～672は土師器の資料である。659は杯蓋、660～666は7世紀初頭頃の杯身である。667・668は土師器の杯である。669・670は7世紀前半頃の須恵器と土師器の高杯、671・672は土師器の小型甕である。673は黒色土師器の椀の底部で混入品である。出土遺物からSH701は7世紀初頭頃の堅穴建物跡と考えられる。

(2) 掘立柱建物跡

SB713 (第95図)

Ⅶ-2区東端部北で検出した梁間2間、桁行4間の東西棟の建物である。この建物はSB721・722と



第95図 SB713平・断面図

重複し、検出状況や切り合い関係からSB713はSB721・722より先行することが解る。2間(3.75m)×4間(7.55m)、面積は28.31㎡、主軸方位N75.0°E(15.0°W)を測る。柱間は梁間1.5～2.25m、桁行1.8～2.1mを測る。柱穴掘方は円形～不整形を呈し、径0.55～0.7m、深さ0.3～0.6mを測る。柱穴埋土は小礫混じり暗褐色粘質土が主体を占める。

柱穴からは古代の土師器・須恵器片等が少量出土したが、図化できる遺物は抽出できなかった。出土した遺物の中でSP03・04からは、7世紀頃の須恵器タタキ甕の体部片が出土しているおり、この建物の時期を示唆する遺物と考えられる。

SB714 (第96図)

Ⅶ-2区中央の北半部の北壁際で検出した。北半部は調査区から外れるため南半部の約1/2を検出した。梁間2間、桁行1間以上の南北棟の建物である。2間(3.25m)×1間(2.7m)以上、面積は8.78㎡以上、主軸方位N6.0°Wを測る。柱間は梁間1.6m、桁行2.2mを測る。柱穴掘方は円形を呈し、径0.25～0.45m、深さ0.2～0.4mを測る。

柱穴からは土師器・須恵器片が少量出土した。出土遺物が少ないため、SB714の詳細な時期判断には無理があるが、出土遺物中には古代の須恵器杯片が含まれており、この建物の時期を示唆する遺物と考えられる。

SB715 (第97図)

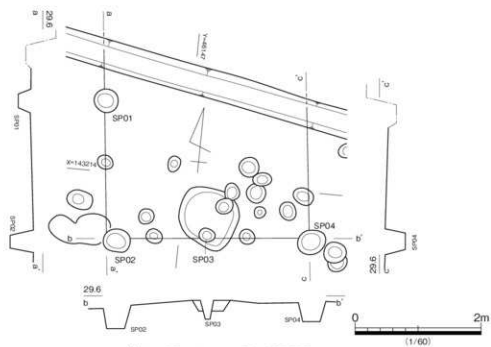
Ⅶ-2区西半部で検出した梁間2間、桁行2間の南北棟の総柱建物である。この建物はSB723・724、SD707と重複し、切り合い関係等からSB715はこれらの遺構より先行する可能性がある。2間(3.05m)×2間(4.0m)、面積は12.2㎡、主軸方位N8.0°Wを測る。柱間は梁間1.4～1.6m、桁行1.9～2.1mを測る。柱穴掘方は不整形を呈し、側柱の柱穴径0.6～1.0m、深さ約0.45mを測る。東柱の柱穴径約0.45m、深さ約0.2mを測る。柱穴埋土は暗褐色粘質土からなる。

柱穴からは7世紀初頭頃の土師器・須恵器片等が少量出土している。674はSP07、675はSP06から出土した須恵器杯身の口縁部である。676はSP03から出土した土師器の杯片である。出土遺物からSB715は7世紀初頭以降の建物と考えられる。

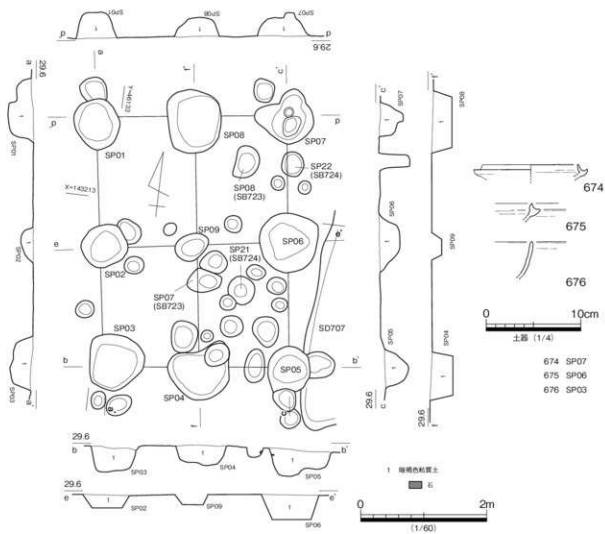
SB716 (第98図)

Ⅶ-2区西半の南半部で検出した梁間2間、桁行2間の南北棟の総柱建物である。北に位置するSB715とは概ね棟方向を揃えていることから、同時期で同グループの総柱建物の可能性が高い。この建物はSB724と重複し、切り合い関係等からSB716はSB724より先行する。2間(3.15m)×2間(3.6m)、面積は11.34㎡、主軸方位N16.5°Wを測る。柱間は梁間1.5～1.65m、桁行1.7～1.85mを測る。柱穴掘方は主に不整形を呈するが、南半部のSP03・04・06等は不整形な楕円形状を呈し、形状から推定して、本来抜き取り穴が重複していたものを、明瞭に掘り分けられていないものと考えられる。側柱の柱穴径0.5～1.4m、深さ約0.25～0.7mを測る。東柱の柱穴径約0.3m、深さ約0.3mを測る。柱穴埋土は主に礫混じり暗褐色粘質土からなる。

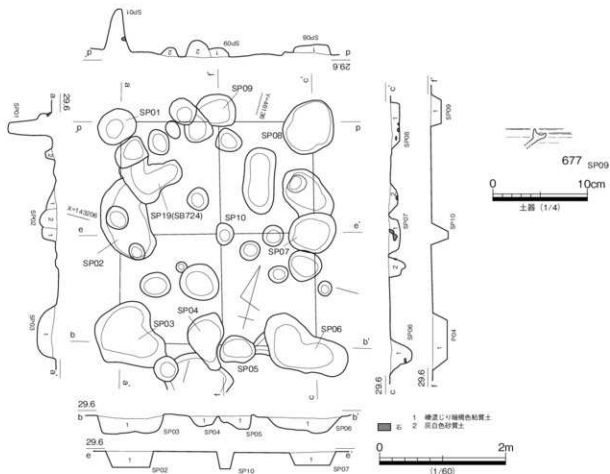
柱穴からは、須恵器片が少量出土した。677はSP09から出土した7世紀初頭頃の須恵器杯身の口縁部片であり、極少量であるがSB716の時期を示唆する遺物になる。



第96図 SB714平・断面図



第97図 SB715平・断面図, 出土遺物



第98図 SB716平・断面図，出土遺物

SB717 (第99図)

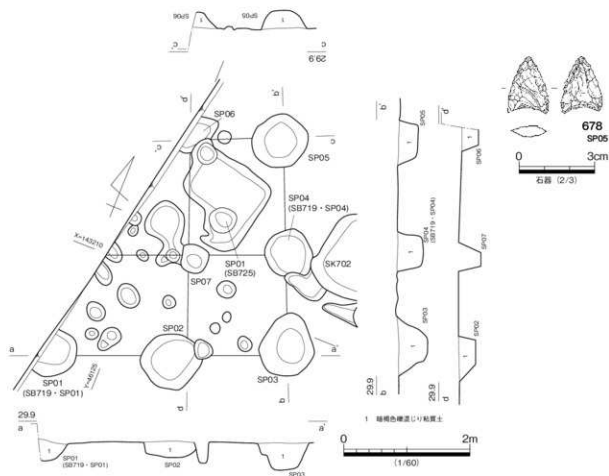
Ⅷ-2区西端部の西壁際に検出した。西半部は調査区から外れるため東半部の約1/2を検出した。梁間2間、桁行2間以上の東西棟の総柱建物である。この建物はSB719・725と重複し、検出状況等からSB717はSB719・725より先行する。2間(3.5m)×2間(3.9m)以上、面積は13.65㎡以上、主軸方位N68.5°E(21.5°W)を測る。柱間は梁間1.6～1.9m、桁行1.8～2.0mを測る。柱穴掘方は不整形円形を呈し、側柱の柱穴径約1.0m、深さ0.3～0.45mを測る。東柱の柱穴径約0.5m、深さ約0.4mを測る。柱穴埋土は主に礫混じり暗褐色粘質土からなる。

柱穴からは土師器片と石器が1点出土している。678はSP05から出土したサヌカイトの凹基式石鏃である。出土遺物が少なくSB717の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から古代の建物跡と考えられる。

SB718 (第100図)

Ⅷ-2区中央で検出した梁間2間、桁行4間の南北棟の建物である。2間(3.8m)×4間(6.2m)、面積は23.56㎡、主軸方位N4.0°Eを測る。柱間は梁間1.8～1.9m、桁行1.55～1.85mを測る。柱穴掘方は不整形円形を呈し、径0.5～0.7m、深さ0.1～0.4mを測る。柱穴埋土は暗褐色粘質土からなる。

柱穴からは7世紀前半頃の土師器細片・須恵器片等が少量出土した。679はSP04から出土した須恵



第99図 SB717平・断面図，出土遺物

器杯の口縁部片である。680はSP12から出土した須恵器高杯の脚部である。

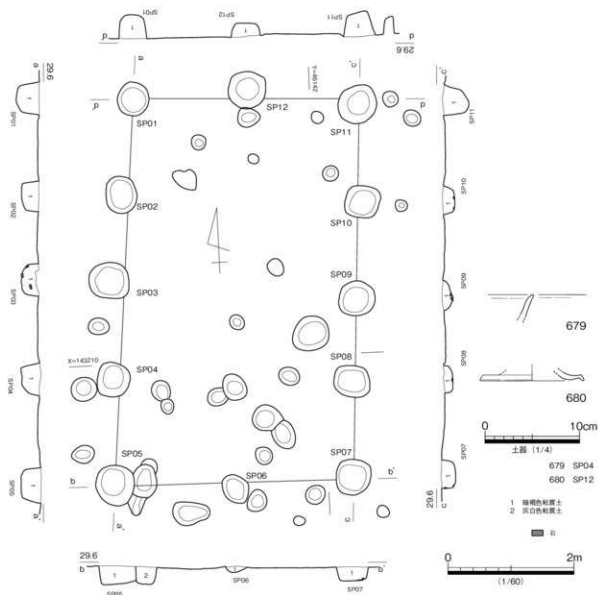
SB719（第101図）

Ⅶ-2区西端部の西壁際で検出した。西半部は調査区から外れるため東半部の約1/2を検出した。SB717・725等と重複するが、柱穴が切り合わない為、前後関係は不明である。梁間1間以上、桁行4間の南北棟の建物である。1間（3.0m）以上×4間（6.7m）、面積は20.1㎡以上、主軸方位N20°Eを測る。柱間は梁間3.0m、桁行1.5～1.7mを測る。柱穴掘方は不整形を呈し、径0.3～1.05m、深さ0.2～0.4mを測る。柱穴埋土は暗褐色粘質土からなる。

柱穴からは土師器・須恵器片が少量出土した。出土遺物が少ないため、SB719の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から古代の建物の可能性が高い。

SB720（第102図）

Ⅶ-2区東端部の東壁際で検出した。東半部は調査区から外れ西半部の約1/2を検出した。梁間2間、桁行2間以上の東西棟の建物である。2間（3.35m）×2間（4.4m）以上、面積は14.74㎡、主軸方位N78.0°W（12.0°E）を測る。柱間は梁間1.65～1.7m、桁行1.45～2.25mを測る。柱穴掘方は円形を呈し、径0.3～0.6m、深さ0.2～0.4mを測る。



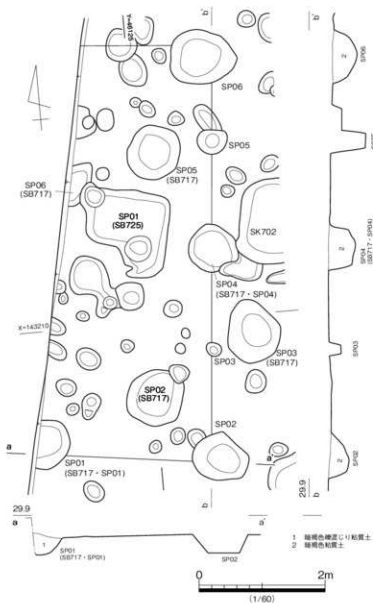
第100図 SB718平・断面図，出土遺物

柱穴からは土師器・須恵器の細片が極微量出土した。出土遺物が少ないため、SB720の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から中世頃の建物の可能性がある。

SB721 (第102図)

Ⅲ-2区東端部の北壁際で検出した梁間2間、桁行3間以上の東西棟の建物である。この建物はSB713と重複し、柱穴の切り合い関係からSB721は後出する。2間(3.9m)×3間(5.3m)、面積は20.67㎡、主軸方位N77.0°W(13°E)を測る。柱間は梁間1.7～2.05m、桁行1.7～1.8mを測る。柱穴掘方は円形～不整形を呈し、径0.6～0.9m、深さ0.2～0.45mを測る。

柱穴からは土師器・須恵器片が少量出土した。681はSP06から出土した、7世紀初頭頃の須恵器の杯身の口縁部片である。図化できる遺物が少なく時期判断が難しいが、検出状況や出土遺物からSB721は7世紀初頭以降の建物跡と考えられる。

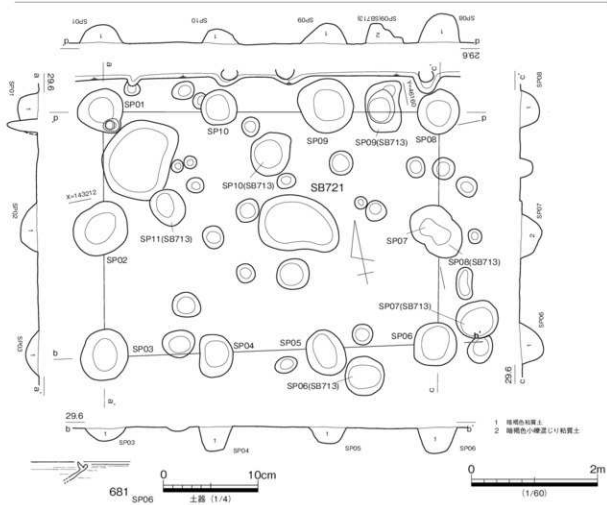
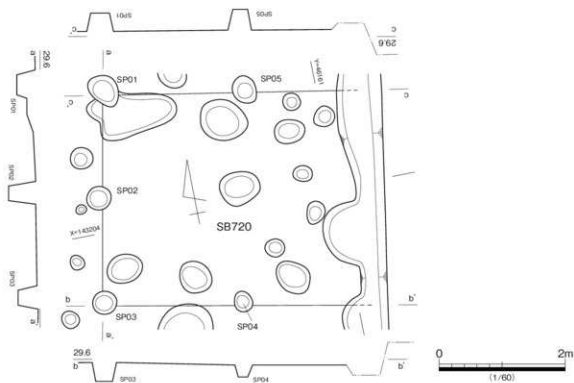


第 101 図 SB719 平・断面図

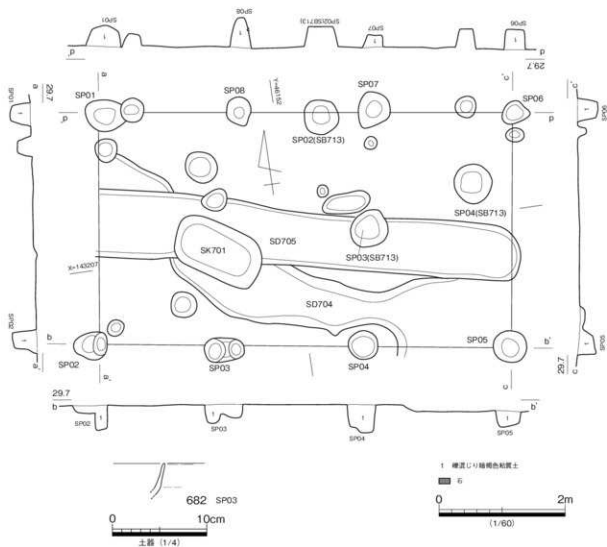
SB722 (第 103 図)

Ⅶ-2 区東半部で検出した梁間 1 間、桁行 3 間の東西棟の建物である。この建物は SB713、SD704・705 と重複するが、前後関係は不明瞭である。柱穴掘方は円形～楕円形状を呈し、径 0.4～0.7 m、深さ 0.25～0.45 m を測る。1 間 (3.8 m) × 3 間 (6.5 m)、面積は 24.7㎡、主軸方位 N81.0° W (9.0° E) を測る。柱間は梁間 3.7～3.8 m、桁行 2.0～2.3 m を測る。

柱穴からは 7～8 世紀頃の古代の土師器・須恵器片等が少量出土した。682 は SP03 から出土した土師器の杯片である。図化できる遺物が少なく時期判断が難しいが、検出状況や出土遺物から SB722 は 8 世紀頃の建物跡と考えられる。



第102図 SB720・721平・断面図，出土遺物



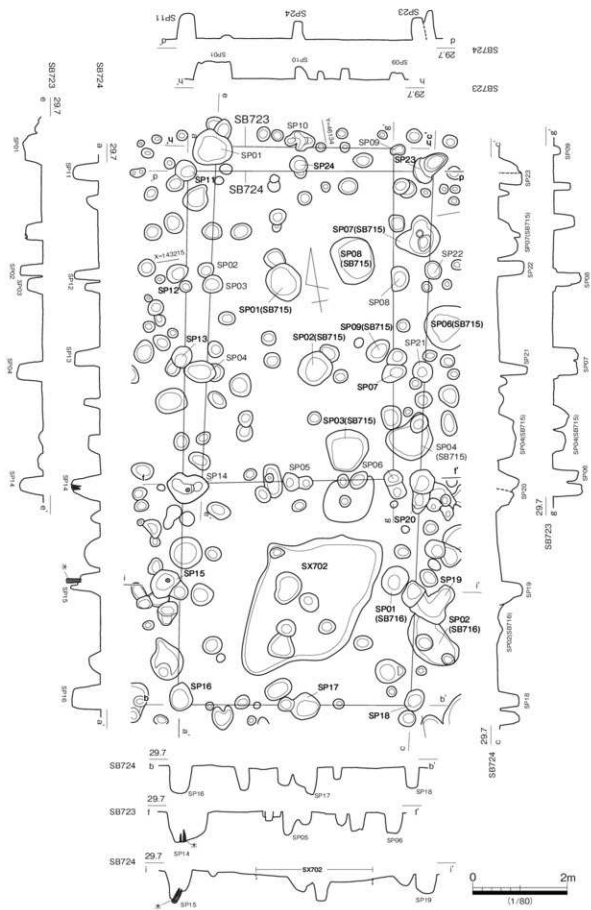
第103図 SB722平・断面図，出土遺物

SB723 (第104・105図)

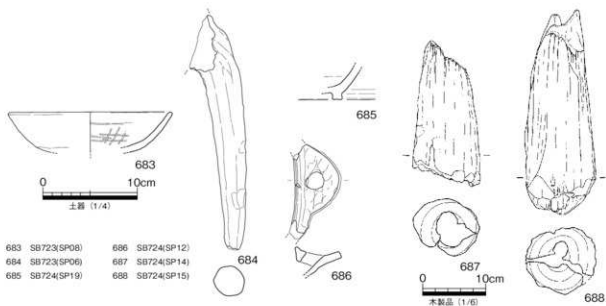
Ⅶ-2区西半部で検出した梁間2間、桁行3間の南北棟の建物である。外周には一回り大型のSB724が棟方向を合わせて重複しており、SB723とSB724は建て替え等の関連があるものと考えられる。北辺と東辺には1.0～1.55m程離れて直角気味にクランクするSD707が存在する。この溝状遺構跡は屋敷地の北辺と東辺を区画する区画溝と考えられ、その区画内にSB723・724・725等は棟筋を揃えて配置している。

SB723はSD707のコーナー付近に位置する。この建物はSB715・724・SD707と重複するが、明瞭な柱穴の切り合いが認められないため前後関係については不明瞭である。出土遺物等を加味すれば、少なくともSB715より後出する。2間(4.0m)×3間(7.2m)、面積は28.8㎡、主軸方位N9.5°Eを測る。柱間は梁間1.7～2.2m、桁行1.7～2.7mを測る。柱穴掘方は不整楕円形を呈し、柱穴径0.3～0.85m、深さ約0.2～0.7mを測る。

柱穴からは土師器・須恵器片等が少量出土した。683はSP08から出土した底部を欠く黒色土器碗で、684は足釜の脚部である。検出状況や出土遺物からSB723は12世紀以降の建物跡と考えられる。



第104图 SB723·724平·断面图



第105図 SB723・724 出土遺物

SB724 (第104・105図)

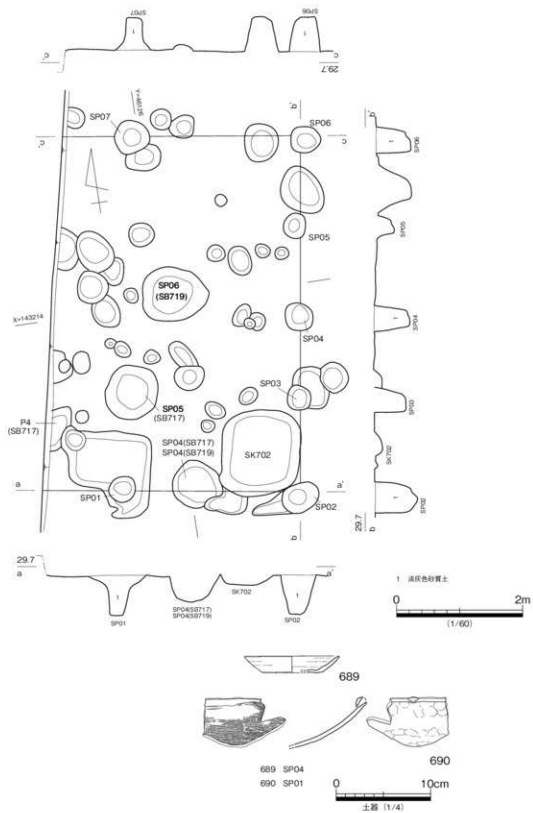
Ⅶ-2区西半部で検出した梁間2間、桁行5間の南北棟の建物である。先述したように、建物の内側にはSB723が棟方向を合わせて重複しており、SB723とSB724は建て替え等の関連があるものと考えられる。SB724はSD707のコーナー付近に位置する。この建物はSB715・723、SD707と重複するが、明瞭な柱穴の切り合いが認められないため前後関係については不明瞭である。出土遺物等を加味すれば、少なくともSB715より後出する。2間(5.2m)×5間(11.3m)、面積は58.7㎡、主軸方位N125°Eを測る。柱間は梁間1.7～2.0m、桁行1.45～2.0mを測る。柱穴掘方は不整形～不整形円形を呈し、柱穴径0.3～0.85m、深さ約0.2～0.7mを測る。なお、西側柱列のSP14・15からは柱材を検出した。

柱穴からは土師器・須恵器片等が少量出土した。685はSP19から出土した須恵器壺の高台部片である。686はSP12から出土した土師器鍋の把手である。687はSP14、688はSP15から出土した柱材である。検出状況や出土遺物からSB724は12世紀以降の建物跡と考えられる。

SB725 (第106図)

Ⅶ-2区東端部で検出した梁間1間以上、桁行4間の南北棟の建物である。SB725の西半部は調査区から外れるため約1/2を検出した。この建物はSB717・719・725と重複するが、切り合い関係が不明瞭なため明確に前後関係を示せない。検出状況からこれらの遺構より後出する可能性が高い。2間(4.0m)以上×2間(5.7m)、面積は22.8㎡、主軸方位N8.0°Eを測る。柱間は梁間2.7～2.8m、桁行2.85mを測る。柱穴掘方は不整形形状を呈し、径0.4～0.6m、深さ0.5～0.65mを測る。

柱穴からは中世の土師器・須恵器片等が少量出土した。689はSP04から出土した土師器杯、690はSP01から出土した土師器焙烙片である。検出状況や出土遺物からSB725は14～15世紀頃の建物跡と考えられる。



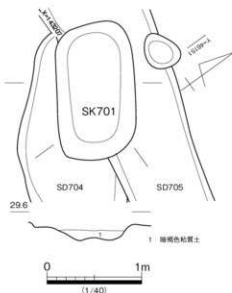
第106図 SB725平・断面図，出土遺物

(3) 土坑跡

SK701 (第107図)

Ⅶ-2区東半部で検出した土坑である。SB722、SD701・704と重複しているが、この遺構は切り合い関係から最も後出する。平面は隅丸長方形形状、断面は凹凸がある逆台形状を呈する。長径1.45m、短径0.85m、深さ0.3m、主軸方位N54°Wを測る。埋土は暗褐色粘質土を呈している。

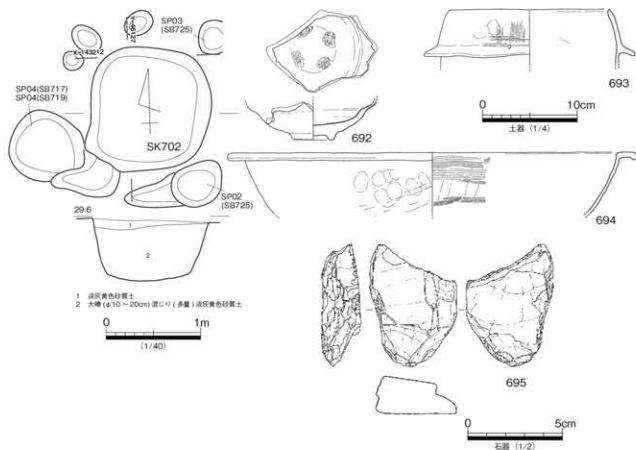
埋土からは土師器片が数点出土した。691はSK701から出土した土師器高杯脚部である。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、SK701は古代に属する可能性がある。



SK702 (第108図)

Ⅶ-2区西半部で検出した土坑である。SB725の南東隅に位置し、SB717・719・725等と重複しているが切り合わない為、前後関係は不明瞭である。平面は隅丸方形形状、断面は逆台形状を呈する。長径1.34m、短径1.34m、深さ

第107図 SK701平・断面図, 出土遺物



第108図 SK702平・断面図, 出土遺物

0.66 m、主軸方位 $N0^\circ$ を測る。埋土は上層が淡灰黄色砂質土、下層は大礫混じり淡灰黄色砂質土からなる。

埋土からは土師器・陶磁器、石器等が数点出土した。694は土師器の焙烙、692は陶器の皿、693は瓦質土器の羽釜、695はサヌカイトの石核である。出土遺物からSK702は近世以降の土坑と考えられる。

(4) 溝状遺構

SD704 (第109図)

Ⅶ-2区東半部のSB720の西側で検出した不整形な溝状遺構である。大まかにみて、北・南辺部は東西方向の不整形で短い溝状遺構が位置し、両溝を南北方向の短い直線溝が繋いでいる。形状から推定して、SB720の雨落ち溝と考えられる。北辺溝:検出長約8.5 m、幅0.9 m、深さ0.1 m、南辺溝:検出長約4.0 m、幅1.0 m以上、深さ0.1 m、南北溝:検出長約5.0 m、幅0.58 m、深さ0.12 mを測る。

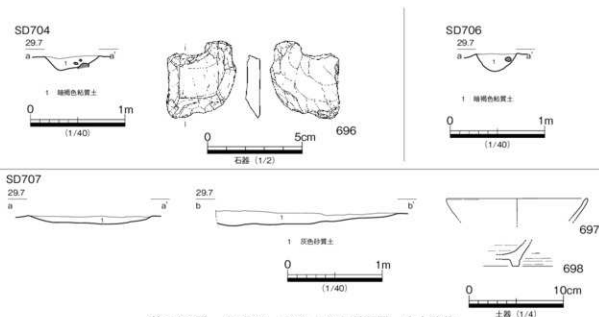
埋土からは土師器・須恵器片が少量出土した。696はサヌカイトの調整ある剥片で混入品である。出土遺物が少なく、詳細な時期判断には無理があるが、SD704はSB720に係わる雨落溝の可能性があり、中世に属する溝跡と考えられる。

SD706 (第109図)

Ⅶ-2区中央南端部で検出した、直線状の溝跡である。SD704の南北溝と向きを揃えている為、SD706はこの溝跡に係わる溝の可能性がある。検出長5.2 m、幅0.42 m、深さ0.2 m、方位 $N180^\circ E$ を測る。断面は碗状を呈し、埋土は暗褐色粘質土からなる。埋土からは時期判断ができる遺物は出土しなかった。

SD707 (第109図)

Ⅶ-2区北西端部で検出した屋敷地の東辺と北辺を区画する区画溝である。区画内にSB723・724・725等が棟筋を揃えて配置しており、同時期の建物と考えられる。北辺溝は検出長12.5 m、幅0.3～1.3 m以上、深さ0.15 m、東辺溝は検出長8.0 m、幅0.6～1.6 m以上、深さ0.15 m、主軸方位 $N7.0^\circ E$ を測る。埋土は灰色砂質土からなる。



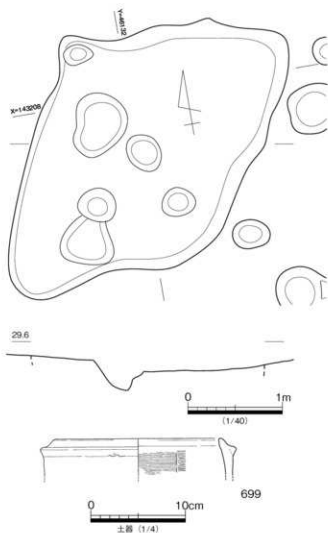
第109図 SD704・706・707 断面図, 出土遺物

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器・陶磁器片等が出土した。697は黒色土器の椀、698は須恵器の壺の底部片である。出土遺物及び検出状況からSD707は、12世紀以降の溝状遺構と考えられる。

(5) 不整形遺構

SX702 (第110図)

Ⅶ-2区西半部のSB724の床面上で検出した不整形な落ち込みである。検出長3.9m、幅2.5m、深さ0.2mを測る。断面は凹凸のある浅い皿状を呈し、埋土からは中世以降の土師器・須恵器・瓦質土器等が出土した。699は足釜の口縁部片である。出土遺物及び検出状況より、SX702は中世後半以降の時期が考えられる。



第110図 SX702平・断面図、出土遺物

4. Ⅶ-3・4区の調査

(1) 掘立柱建物跡・欄列

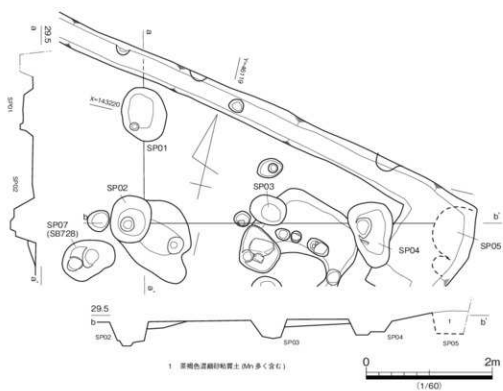
SB726 (第111図)

Ⅶ-3区北東端部で検出した梁間1間以上、桁行3間以上の東西棟の建物である。SB726の北半部は調査区から外れるため約1/2を検出した。この建物はSB727・728等と隣接し、時期差があるものと考えられる。1間(2.75m)以上×3間(5.25m)以上、面積は1444㎡以上、主軸方位N76.0°E(24.0°W)を測る。柱間は梁間1.75m、桁行1.5～2.0mを測る。柱穴掘方は不整形円形～不整形楕円形状を呈し、径0.6～1.05m、深さ0.2～0.4mを測る。

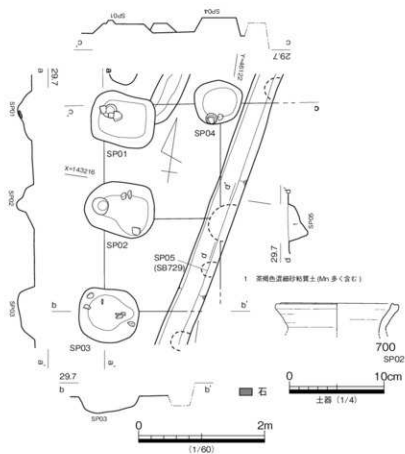
柱穴からは土師器・須恵器片等が少量出土した。出土遺物が少ないため、SB726の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況や配置等から古代の建物と考えられる。

SB727 (第112図)

Ⅶ-3区北東端部で検出した梁間2間、桁行1間以上の東西棟の総柱建物である。SB727の東半部は調査区から外れるため約1/3を検出した。この建物はSB729と重複し、SB726・728・729等と隣接する。これらの建物とは時期差があるものと考えられるが、柱穴が切り合わない為不明瞭である。2間(3.3m)×1間(2.7m)以上、面積は891㎡以上、主軸方位N9.0°Wを測る。柱間は梁間1.6～1.7m、桁行1.5～1.8mを測る。柱穴掘方は不整形円形～不整形楕円形状を呈し、径0.6～1.05m、深さ0.2～0.4mを測る。柱穴からは土師器・須恵器片等が少量出土した。700はSP02から出土した須恵器壺の口頸部である。



第111図 SB726 平・断面図



第112図 SB727 平・断面図, 出土遺物

出土遺物が少ないため、SB727の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況や配置等から古代の建物と考えられる。

SB728 (第113図)

Ⅶ-3区東半部で検出した梁間2間、桁行2間の南北棟の建物である。この建物はSB729、SX703・704等と重複している。切り合いからSB728はSB729、SX703・704等より先行する。2間(3.05m)×2間(3.7m)、面積は11.29㎡、主軸方位N36.0°Wを測る。柱間は梁間1.35~1.65m、桁行1.65~2.0mを測る。柱穴掘方は不整形形状を呈し、径0.6~0.9m、深さ0.3~0.5mを測る。

柱穴からは土師器・須恵器片等が少量出土したが、図化できる遺物は抽出できなかつた。出土遺物が少ないため、SB728の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況や配置等から古代の建物と考えられる。

SB729 (第114図)

Ⅶ-3区東端部で検出した梁間1間、桁行1間以上の東西棟の建物である。この建物はSB727・729等と重複している。検出状況からSB729はこれらの建物より後出する。1間(3.05m)×1間(2.4m)以上、面積は7.32㎡以上、主軸方位N10.0°Eを測る。柱間は梁間3.05m、桁行2.35~2.4mを測る。柱穴掘方は円形状を呈し、径0.3~0.45m、深さ0.5~0.6mを測る。

柱穴からは土師器・須恵器片等が少量出土した。出土遺物が少ないため、SB729の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況や配置等から中世の建物と考えられる。

SB730 (第115図)

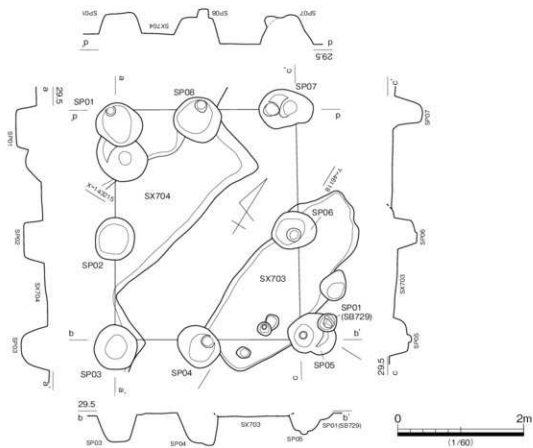
Ⅶ-3区中央部で検出した梁間2間、桁行3間の東西棟の建物である。この建物はSK703、SX704、SD710等と重複している。検出状況からSK703より後出し、SX704より先行する。2間(4.3m)×3間(5.7m)、面積は24.51㎡、主軸方位N81.0°W(9.0°E)を測る。柱間は梁間1.9~2.4m、桁行1.6~2.15mを測る。柱穴掘方は円形~不整形円形状を呈し、径0.4~1.0m、深さ0.3~0.5mを測る。

柱穴からは土師器・須恵器片等が少量出土した。出土遺物が少ないため、SB730の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況や配置等から古代の建物と考えられる。

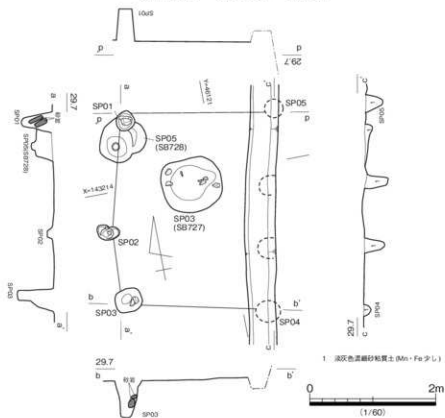
SA701 (第116図)

Ⅶ-3区北西端部で検出した柱穴3基からなる2間の東西方向の柵列である。調査区の幅が狭いため形状は不明である。本来は南北棟の南辺ないしは北辺の梁間部分に相当する建物跡と考えられるが、根拠が乏しく柵列に区分した。2間(3.8m)、面主軸方位N8.0°Eを測る。柱間は1.8~2.0m、柱穴掘方は円形を呈し、径0.3~0.4m、深さ約0.1mを測る。柱穴埋土は淡灰褐色混細砂質土からなる。

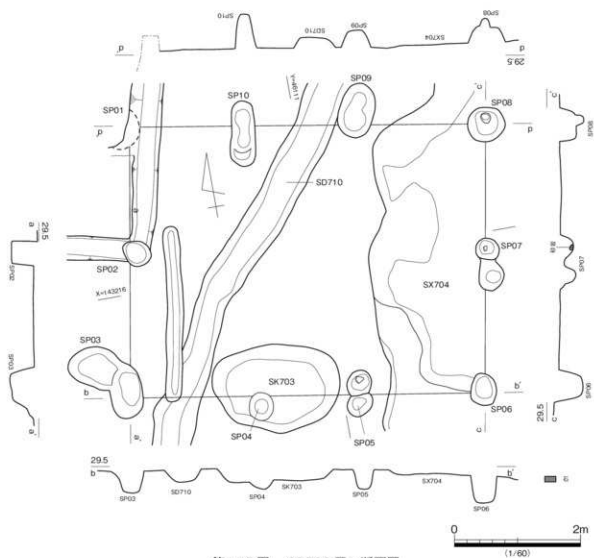
柱穴からは図化できる遺物は出土しなかつた。出土遺物が少ないため、SA701の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況や配置等から中世の柵列と考えられる。



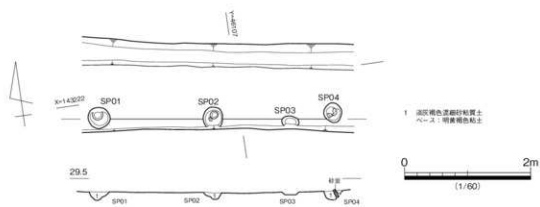
第 113 図 SB728 平・断面図



第 114 図 SB729 平・断面図



第 115 図 SB730 平・断面図

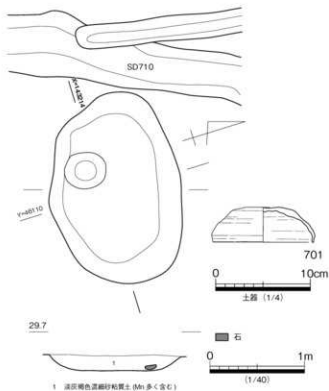


第 116 図 SA701 平・断面図

(2) 土坑跡

SK703 (第117図)

Ⅲ-3区中央で検出した土坑である。この土坑はSB730と重複している。平面は楕円形状、断面は皿状、底面は比較的平坦である。長径0.22m、短径0.13m、深さ0.16mを測る。埋土は淡褐色混細砂粘質土からなる。出土遺物としては、中世の土師器皿や古代の須恵器片が少量出土した。701は須恵器の杯蓋であるが混入品であろう。



第117図 SK703平・断面図, 出土遺物

(3) 溝状遺構

SD708 (第118図)

Ⅲ-3区南西端部で検出した若干湾曲気味に北西方向に延びる溝状遺構である。SD709・710と重複し、これらの溝跡に切り込まれている。検出長約7.0m、幅約0.5m、深さ0.2mを測る。

埋土からは6世紀末～7世紀初頭前後の土師器・須恵器等が出土したが、図化できる遺物は抽出できなかった。出土遺物及びSD709・710との切り合い関係から、SD708は6世紀末～7世紀初頭頃の溝跡と考えられる。

SD709 (第118図)

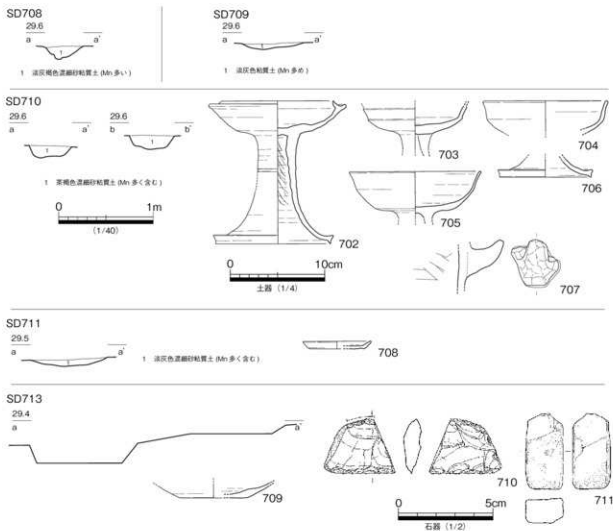
Ⅲ-3区中央南端部で検出した条里方向に延びる溝状遺構である。SD708と重複し、この溝跡を切り込んでいる。検出長4.1m、幅0.66m、深さ0.06m、方位N7.0°Eを測る。断面は皿状を呈し、埋土は淡灰色粘質土からなる。

埋土からは土師器片等が少量出土したが、図化できる遺物は抽出できなかった。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、配置等からSD709は中世の溝跡と考えられる。

SD710 (第118図)

Ⅲ-3区中央で検出した条里方向気味に延びる溝状遺構である。SD708と重複し、この溝跡を切り込んでいる。検出長13.6m、幅0.48～0.5m、深さ0.12～0.14m、方位N24～36°Eを測る。断面は不整逆台形状を呈し、埋土は茶褐色混細砂粘質土からなる。

埋土からは7世紀初頭前後の土師器・須恵器等が少量出土した。702は6世紀末頃のTK209並行期の須恵器長脚高杯、703～706はTK217並行期の須恵器高杯である。707は土師器甕の把手片である。出土遺物からSD710は7世紀初頭以降埋没した溝跡と考えられる。



第118図 SD708～711・713断面図，出土遺物

SD711 (第118図)

Ⅶ-3区中央北端で検出した直線気味の溝状遺構である。SD710と重複し、この溝はSD710を切り込んでいる。検出長4.8m、幅0.82m、深さ0.08m、方位N66.0°Eを測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は砂混じり淡灰色粘質土からなる。

埋土からは土師器片が少量出土した。708は15世紀以降の土師器小皿である。出土遺物からSD711は中世後半に埋没した溝状遺構と考えられる。

SD713 (第118図)

Ⅶ-4区中央で検出した北西方向に延びる溝状遺構である。北端部ではSD712と部分的に交わっているが、切り合い等は不明である。形平面の形状は不整形で凹凸が顕著に認められる。検出長約11.0m、短径約28m以上、深さ0.1～0.3mを測る。形状から推定して人為的な遺構でない可能性がある。

埋土からはTK209～217並行期の土師器・須恵器、石器片等が少量出土した。709は須恵器杯身の底部片である。710はサヌカイトの削り片である。711は粘板岩製の砥石片である。出土遺物から7世紀初頭以降の遺構と考えられる。

(4) 不整形遺構

SX704 (第119図)

Ⅴ-3区中央で検出した不整形で浅い落ち込みである。SB728・730等と重複し、これらの柱穴は底面上で検出した。長径6.9～7.2m、短径3.4～6.2m、深さ0.14～0.24mを測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は上下2層に分かれる。上層は淡灰褐色混細砂粘質土、下層は淡灰色粘質土からなる。

埋土からは中世以降の土師器・須恵器等が出土した。712は土師器小皿、713は土師器播鉢、714・715は足釜である。717はサヌカイトの石織末製品で混入品であろう。716は砂岩の凹み石片である。出土遺物よりSX704は中世後半以降の落ち込み状の遺構と考えられる。

SX706 (第120図)

Ⅴ-4区の西南部で検出した不整形で幅広な落ち込みである。東端部ではSD713と部分的に交わっているが、切り合い等は不明である。長径6.5m、短径4.7m以上、深さ0.1～0.3mを測る。底面は凹凸が顕著である。埋土は3層に分かれ、上層から黄色ブロック混じり黒褐色粘質土、黒色粘質土、灰色粘質土などからなる。

埋土からはTK209～217並行期の土師器・須恵器片等が出土した。718・719は須恵器杯蓋、720・721は須恵器高杯の脚部、722は土師器鍋の上半部である。出土遺物よりSX706は7世紀初頭以降に埋没した遺構と考えられる。

(5) 柱穴・包含層出土遺物

Ⅴ区の主要な遺構・遺物については先に報告したが、次にその他の柱穴出土遺物と包含層出土遺物を報告する。

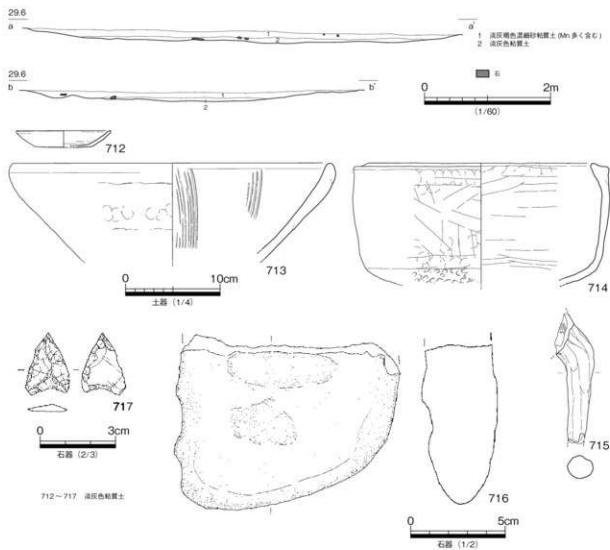
723～732はⅤ-1区の柱穴から出土した遺物である。出土しているのは古代の須恵器が主であるが、少数弥生土器や石器類が出土している。

723はSP1005から出土した土師器鉢、725はSP1304から出土した土師器甕の口縁部片である。726はSP1305、728はSP1335から出土したTK217並行期の須恵器杯身の口縁部片である。727はSP1315から出土した弥生土器壺の口縁部片である。729はSP1338から出土した8世紀中頃の高台付須恵器杯である。

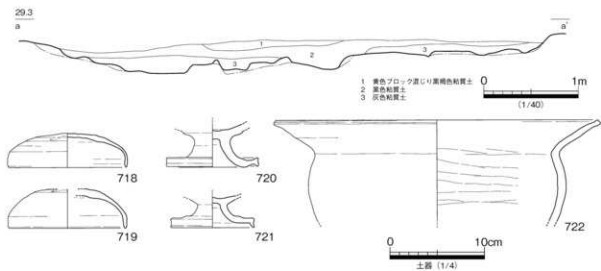
724～732は弥生時代中期後半～後期前半頃の弥生土器である。724はSP1301から出土した壺底部、731・732はSP1356から出土した甕の底部である。

733～753はⅤ-2区の柱穴から出土した遺物である。出土しているのは12世紀以降の中世土器が主体を占める。

733はSP1001から出土した12世紀頃の瓦器碗である。734・735はSP1004から出土した14世紀以降の土師器小皿、736はSP1019から出土した8世紀後半頃の須恵器杯蓋、737はSP1031から出土した14・15世紀以降の土師器小皿、738はSP1044から出土した土師器鉢、739はSP1045から出土した龍青窯跡系の青磁碗で、底部内面には「金玉満堂」の刻印が認められる。740はSP1065から出土した高台付須恵器杯片である。741はSP1075から出土した土師器小皿、742はSP1083から出土した土師質甕の焚口付近の小片と考えられる。743はSP1093から出土した黒色土器碗底部片である。744はSP1095から出土した土師器小皿、745～747はSP1312から出土した土師器小皿・杯と須恵器碗である。748



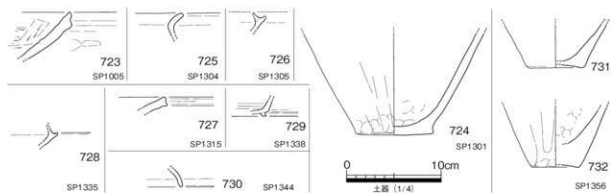
第 119 図 SX704 断面図, 出土遺物



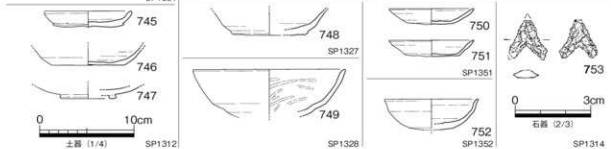
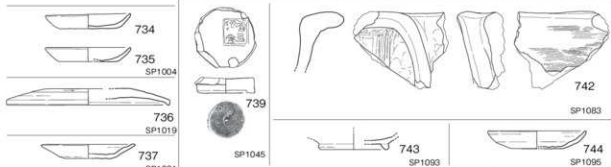
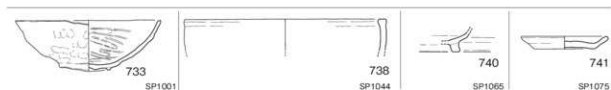
第 120 図 SX706 断面図, 出土遺物

はSP1327から出土した土師器杯、749はSP1328から出土した土師器椀、750・751はSP1351から出土した土師器小皿、752はSP1352から出土した須恵器杯、753は唯一SP1314から出土したサヌカイト石鏃である。

754・755はⅦ-3区から出土遺物である。754はSP9728から出土した8～9世紀頃の須恵器杯蓋の



Ⅶ-1区



Ⅶ-2区



第121図 Ⅶ区柱穴、包含層出土遺物

口縁部片、755 は包含層から出土した須恵器甕の上半部である。

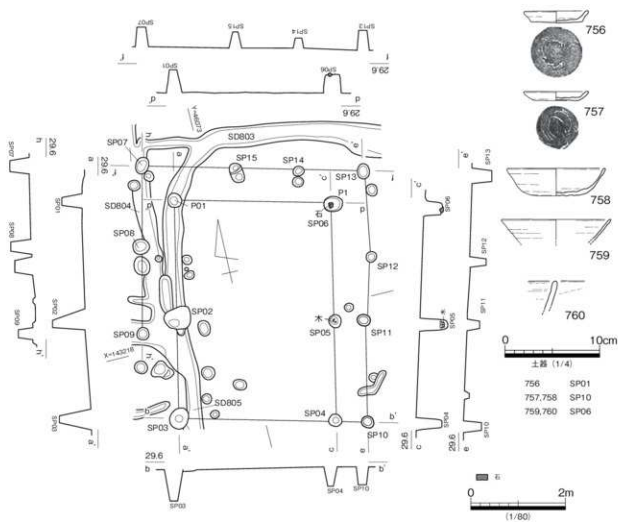
5. VII-1 区の調査

(1) 掘立柱建物跡

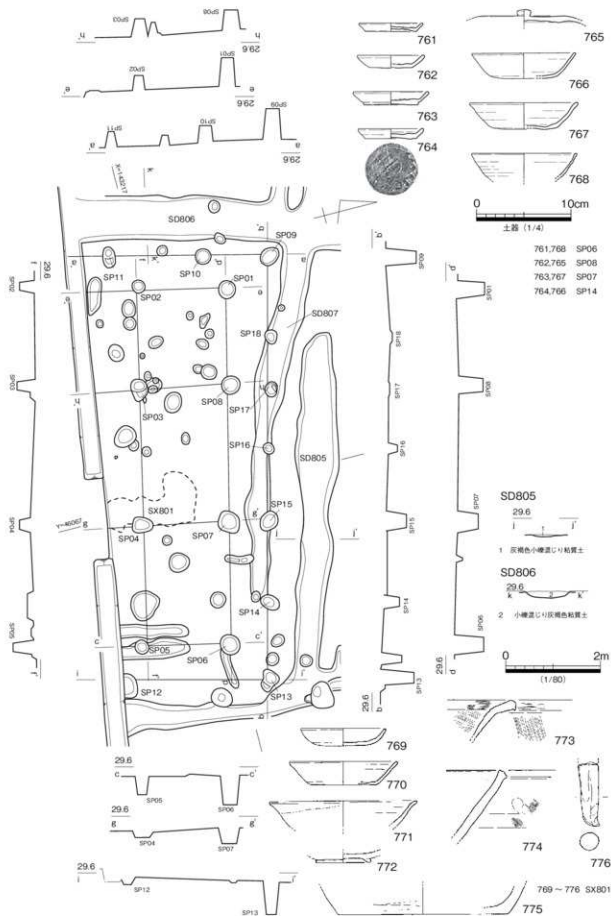
SB801 (第122図)

VII-1 区東半部で検出した梁間1間、桁行2間で南辺を除く3面に廂ないし縁側が備わる建物と考えられる。この建物はSD803・804・805等と重複している。検出状況からSB801はこれらの溝跡より先行する可能性が高い。1間(1.68m)×2間(2.28m)、面積は3.83㎡、主軸方位N120°Eを測る。柱間は梁間1.68m、桁行1.08～1.2mを測る。柱穴掘方は円形状を呈し、径0.2～0.45m、深さ0.35～0.5mを測る。一部の柱穴底部には柱材及び根石を残している。なお廂は柱筋が悪く、1.5～2.2m間隔で配されており、身舎の柱筋に合致するものではない。そのため、縁側の可能性も指摘できる。

柱穴からは土師器・須恵器片等が少量出土した。756はSP01から出土した土師器小皿である。759・760はSP06から出土した土師器の杯の上半部と須恵器碗の口縁部片である。757・758はSP10から出土した土師器小皿と杯である。出土遺物や検出状況からSB801は、12～13世紀以降の建物跡と考えられる。



第122図 SB801 平・断面図, 出土遺物



第123図 SB802, SD805・806, SX801 平・断面図, 出土遺物

SB802 (第123図)

Ⅷ-1区東半部の南壁際で検出した廂を備えた梁間1間以上、桁行3間の総柱建物で東西棟の建物跡である。南半部は調査区から外れるため約1/2を検出した。建物の外周には雨落溝と考えられるSD805・806等が廂に隣接して検出した。また、この建物の北辺廂はSD807と重複している。身舎は1間(3.0m)以上×3間(7.46m)、面積は19.69㎡以上、主軸方位N76.0°W(14.0°E)を測る。柱間は梁間2.8~2.86m、桁行2.0~2.86mを測る。柱穴掘方は円形~不整形円形を呈し、径0.3~0.5m、深さ0.2~0.7mを測り特に四隅の柱穴は深い。なお廂は柱筋が悪く、身舎の柱筋に精緻に合致するものではない。廂は3間(4.0m)以上×6間(9.0m)、主軸方位N76.0°W(14.0°E)を測る。柱間は梁間0.8~1.4m、桁行1.0~1.8mを測る。

柱穴からは土師器・須恵器片が少量出土した。761~763は土師器小皿である。761はSP06、762はSP08、763はSP07から出土した。764は須恵器小皿で、SP14から出土した。765はSP08から出土した8~9世紀頃の須恵器杯蓋の天井部である。766はSP14、767はSP07、768はSP06から出土した土師器杯である。

769~776は床面中央で検出した不整形な落ち込みであるSX801からの出土遺物である。SX801の上面にはSB802の柱穴が切り込んでおり、SB802より先行する遺構であることは間違いない。そのため、これらの遺物はSB802の上限期を推定する良資料である。

769・770は土師器杯、771・772は12世紀後半以降の須恵器碗である。2点に分かれているが本来同一個体であろう。773は土師器鍋の口縁部片、774は土師器鉢口縁部片、775は須恵器鉢の底部である。776は土師器足釜片である。

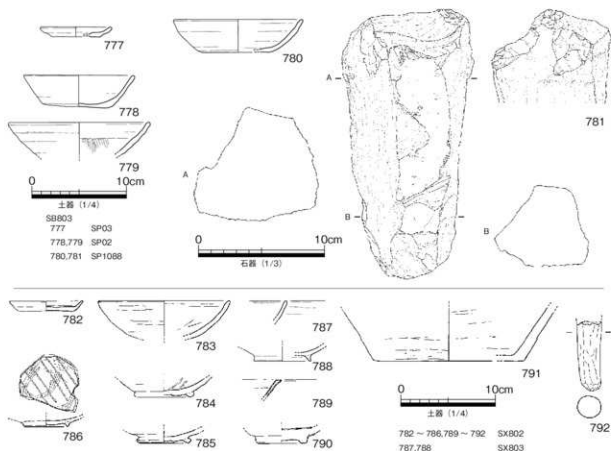
SB803 (第124・125図)

Ⅷ-1区中央の北壁際で検出した廂を備えた梁間2間、桁行2間以上の南北棟の建物跡である。

北半部は調査区から外れるため約2/3を検出した。廂は北半部を除き3辺で検出した。廂の外周には雨落溝と考えられるSD816Aを検出した。また、この建物はSD819、SX802・803等と重複している。特にSX802・803は不整形で浅い落ち込みで、身舎の南半部の大部分を占めており、検出状況から建物を建てる際の整地層の可能性がある。2間(4.0m)×2間(5.2m)以上、面積は20.8㎡以上、主軸方位N11.0°Eを測る。柱間は梁間2.0m、桁行2.4~2.6mを測る。柱穴掘方は円形~不整形円形を呈し、径0.4~0.7m、深さ0.5~0.7mを測り特に四隅の柱穴は深い。廂は2間(5.7m)×3間(6.5m)以上、主軸方位N11.0°Eを測る。柱間は梁間2.8m、桁行1.2~2.7mを測る。

SB803の時期を判断する遺物としては、柱穴や床面で検出したSX802、建物の周囲で検出した雨落溝SD816出土遺物などがある。柱穴からは土師器・須恵器、サヌカイト原石等が出土した。777はSP03から出土した土師器小皿、778・779はSP02から出土した須恵器の杯と碗である。780・781はSP1088から出土した土師器杯及びサヌカイトの原石素材である。781は柱穴の詰石として使用されたサヌカイト原石素材と考えられるが、本来は石器の素材として搬入された可能性が高い。

SX802は不整形な形状を呈し、長径4.0m、短径3.9m、深さ0.1mを測る。782~786・789~792はSB803の床面上で検出した土器で、SB803の上限期を検討する上で重要な資料になる。782は土師器小皿、783は底部を欠く須恵器碗、784・785は12世紀以降の須恵器碗の底部である。789は白磁碗口縁部片、790は青磁碗底部、791は口縁部を欠く須恵器捏鉢、792は土師器足釜の脚部片である。787・



第125図 SB803, SX802・803 出土遺物

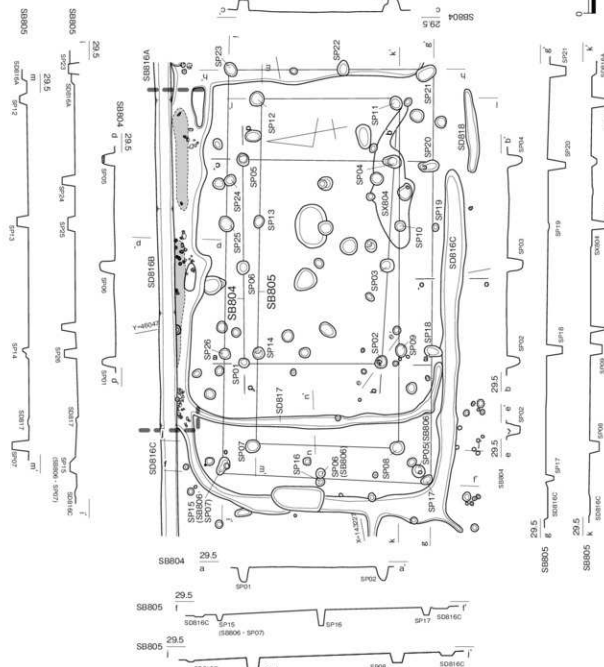
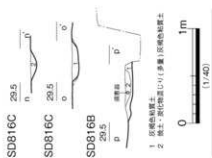
788はSX803から出土した土師器椀である。SB803の柱穴やSX802・SX803の出土遺物を総合してSB803の時期を判断すれば、概ね12世紀後半以降の時期が考えられる。

SB804 (第126・127図)

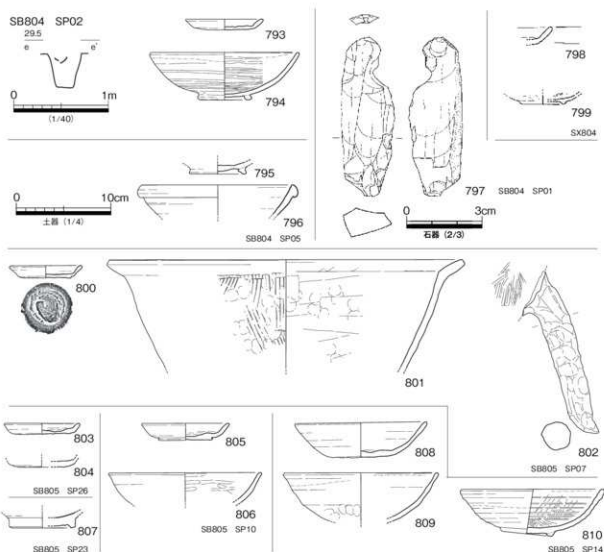
Ⅷ-1区西半部、SB803の西側、SB806の東側で検出した梁間1間、桁行2間の東西棟の建物跡である。この建物はSB805と重複しているが、柱穴同士の切り合いが認められないため、遺構から前後関係を明らかにすることはできない。SB804の外周にはこの建物の雨落溝と考えられるSD816・817が隣接して検出した。1間(4.0m)×2間(5.4m)、面積は20.52㎡、主軸方位N80.0°W(10.0°E)を測る。柱間は梁間3.6～4.0m、桁行2.6～2.8mを測る。柱穴は円形～不整形円形を呈し、径0.25～0.5m、深さ約0.4mを測り、根石を据えた柱穴も認められる。

なお、SB804・805の南東隅周辺には不整形で浅い落ち込み状の遺構SX804が所在し、SB804・805の柱穴はSX804を切り込んでおり、ここから出土する遺物はSB804・805の上限界を推定する補足資料になる。また、SB804・805の外周には雨落溝跡SD816・817が巡り、多量の遺物が出土しているが、雨落溝の遺物については次項で報告する。

柱穴からは土師器・須恵器・黒色土器・白磁、石器類等が出土した。793・794はSP02から出土した土師器小皿と13世紀前半以降の須恵器椀である。795・796はSP05から出土した黒色土器椀の高台部と白磁鉢の上半部である。797はSP01から出土したサヌカイト縦長剥片である。背面には先行して剥離された縦長状の剥片剥離痕を残し、側面部には平坦な素材面、打面には打面調整を顕著に残している。



第126図 SB804・805、SD816B・816C平・断面図



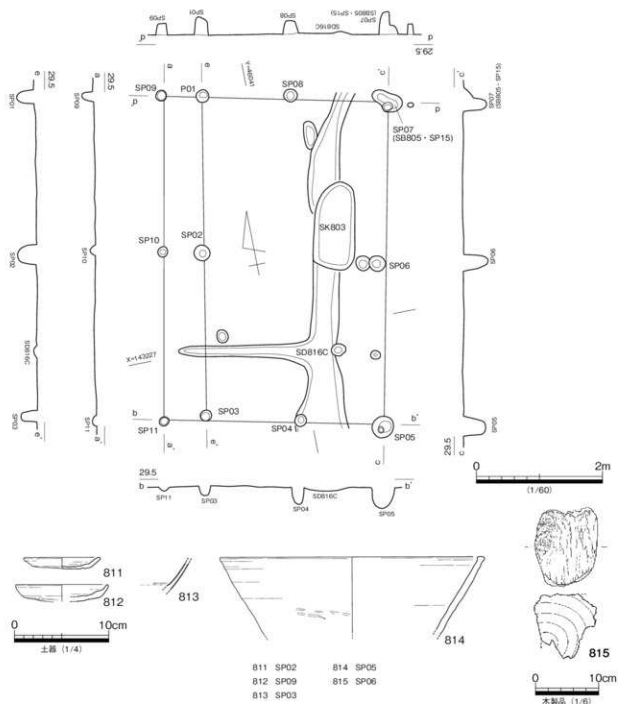
第 127 図 SB804・805 断面図，出土遺物

798・799 は SX804 から出土した土師器小皿と 13 世紀以降の瓦器椀底部である。出土遺物から SB804 は 13 世紀前半以降の時期が考えられる。

SB805 (第 126・127 図)

Ⅷ-1 区西半部、SB803 の西側、SB806 の東側で検出した廂を備えた梁間 1 間、桁行 3 間の東西棟の建物跡である。この建物は SB804 と重複しているが、柱穴同士の切り合いが認められないため、遺構から前後関係を明らかにすることはできない。廂は 4 面で検出した。廂の外周には雨落溝と考えられる SD816A・B・C を検出した。1 間 (3.8 m) × 3 間 (9.2 m)、面積は 34.96m²、主軸方位 N79.0° W (11.0° E) を測る。柱間は梁間 3.6 ~ 3.7 m、桁行 2.5 ~ 3.2 m を測る。廂は 3 間 (5.4 m) × 3 間 (10.8 m) 以上、主軸方位 N78.5° W (N11.5° E) を測る。柱間は梁間約 1.3 ~ 2.5 m、桁行 3.0 ~ 3.5 m を測る。柱穴は円形を呈し、径 0.25 ~ 0.4 m、深さ約 0.2 ~ 0.5 m を測る。なお、SB804・805 の南東隅周辺には不整形で浅い落ち込み状の遺構 SX803 が所在し、SB804・805 の柱穴は SX803 を切り込んでおり、ここから出土する遺物は SB804・805 の上限期を推定する補足資料になる。また、SB804・805 の外周には雨落溝跡 SD816 が廻り多量の遺物が出土しているが、雨落溝の遺物については次項で報告する。

柱穴からは土師器・須恵器・瓦器等が出土した。800～802はSP07から出土した土師器小皿・鍋・足釜脚部である。803・804はSP26から出土した土師器小皿である。805・806はSP10から出土した土師器小皿と底部を欠く瓦器椀である。807はSP23から出土した白磁碗の高台部にあたり、削り出しの状況を顕著に残している。808～810はSP14から出土した土器である。808が土師器杯、809・810が須恵器椀である。798・799はSX804から出土した土師器小皿と13世紀以降の瓦器碗底部である。出土遺物から推定してSB805は13世紀前半以降の時期が考えられる。

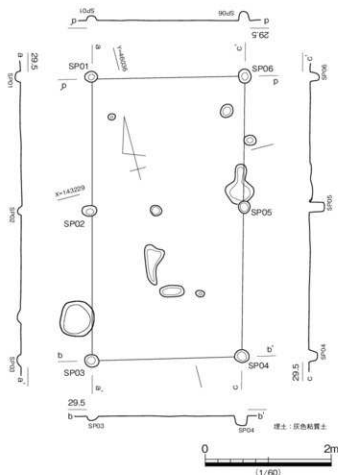


第128図 SB806平・断面図，出土遺物

SB806 (第128図)

Ⅷ-1区西半部で検出した梁間2間、桁行2間、西辺に扉を備えた南北棟の建物である。西にはSB806、東にはSB805が隣接する。なお、SD816と重複するが、切り合い関係については不明瞭である。2間(29m)×2間(5.2m)、面積は15.08㎡、主軸方位N11.0°Eを測る。柱間は梁間1.3~1.5m、桁行1.68m~1.74mを測る。柱穴掘方は円形~不整形円形状を呈し、径0.1~0.3m、深さ0.1~0.3mを測る。

柱穴からは土師器・須恵器・磁器、柱材等が少量出土した。811はSP02、812はSP09から出土した土師器小皿である。813はSP03から出土した白磁碗の体部片である。814はSP05から出土した底部を欠く須恵器捏鉢である。815はSP06から出土した柱材である。出土遺物からSB806は13世紀後半以降の時期が考えられる。

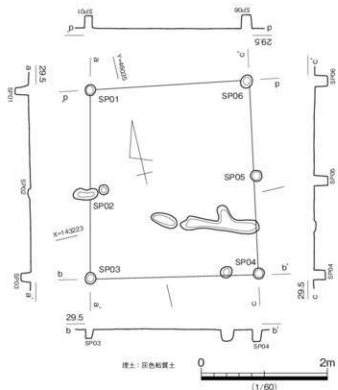


第129図 SB807平・断面図

SB807 (第129図)

Ⅷ-1区西端部で検出した梁間1間、桁行2間の南北棟である。南にはSB808、東にはSB806が棟方向を合わせて隣接する。1間(2.45m)×2間(4.4m)、面積は10.78㎡、主軸方位N15.5°Eを測る。柱間は梁間2.4m~2.45m、桁行2.1~2.4mを測る。柱穴掘方は円形~楕円形状を呈し、径0.2m、深さ0.1~0.2mを測る。

柱穴からは古代の土師器・須恵器片等が少量出土したが、図化できる遺物は抽出できなかった。SB807は周囲のSB806・808等と向きを揃えて配置しており、これらの建物と類似した時期が考えられる。



第130図 SB808平・断面図

SB808 (第130図)

Ⅷ-1区西点部で検出した梁間1間、桁行2間の南北棟である。北にはSB807が

棟方向を合わせて隣接する。1間 (2.65 m) × 2間 (3.1 m)、面積は 8.21㎡、主軸方位 N10.0° E を測る。柱間は梁間 2.5 ~ 2.65 m、桁行 1.35 ~ 1.65 m を測る。柱穴掘方は円形～楕円形状を呈し、径 0.2 ~ 0.4 m、深さ 0.05 ~ 0.2 m を測る。

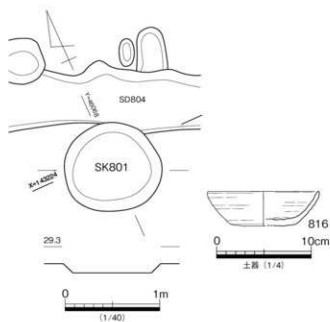
柱穴からは古代の土師器片等が数点出土したが、図化できる遺物は抽出できなかった。SB808 は周囲の SB806・807 等と向きを揃えて配置しており、これらの建物と類似した時期が考えられる。

(2) 土坑跡

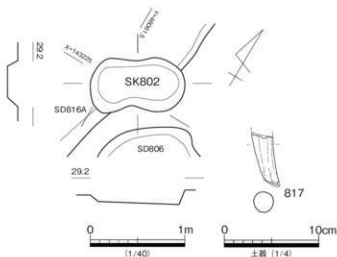
SK801 (第 131 図)

Ⅳ-1 区東半部で検出した土坑である。この土坑は僅かに SD804 と重複している。平面は円形状、断面は浅い逆台形状、底面は比較的平坦である。長径 1.06 m、短径 0.92 m、深さ 0.1 m を測る。

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器片等が少量出土した。816 は SK801 から出土した須恵器杯である。出土遺物から SK801 は 12 世紀以降の時期が考えられる。



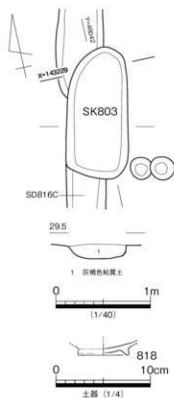
第 131 図 SK801 平・断面図, 出土遺物



第 132 図 SK802 平・断面図, 出土遺物

SK803 (第 133 図)

Ⅳ-1 区中央で検出した SD816A と重複している土坑である。平面は楕円形状を呈し、断面は浅い逆台形状、底面は比較的



第 133 図 SK803 平・断面図, 出土遺物

平坦である。長径 1.0 m、短径 0.6 m、深さ 0.1 m を測る。

埋土からは土師器・須恵器片が極少量出土した。817 は SK802 から出土した土師器足釜の脚部片である。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世以降の時期が考えられる。

SK803 (第 133 図)

Ⅷ-1 区西半部の SD816B の上面を切り込んでいる土坑である。平面は楕円形状を呈し、断面は幅広く浅い U 字状を呈する。埋土は灰褐色粘質土からなり、長径 1.42 m、短径 0.66 m、深さ 0.16 m を測る。埋土からは土師器・須恵器・黒色土器・青磁片等が少量出土した。818 は 12 世紀前後の黒色土器椀の高台部である。

(3) 溝状遺構

SD801 (第 134 図)

Ⅷ-1 区北東端部のコーナーで検出した真北方向に延びる溝状遺構である。南端部では SD803 に切り込まれている。検出長約 6.0 m、幅約 0.56 m、深さ 0.16 m、方位 N3.0° W を測る。断面は浅い椀状を呈し、上層は暗褐色粘質土、下層は灰色小礫混じり砂質土からなる。

埋土からは土師器・須恵器片が少量出土した。819 は底部を欠く土師器杯である。820 は口縁部を欠く須恵器椀である。出土遺物から SD801 は 12～13 世紀以降に埋没した溝状遺構と考えられる。

SD802 (第 134 図)

Ⅷ-1 区東端部で検出した真北気味に延びる直線溝である。北端部では SD803 に切り込まれているが、その延長に位置する SD801 とは、一時期共存する可能性もあるが詳細な関係は不明である。検出長 6.6 m、幅 0.56 m、深さ 0.08 m、方位 N7.0° E を測る。

埋土からは土師器・須恵器等が少量出土した。821 土師器杯、822 は須恵器椀の高台部片である。823 は下半部を欠く土師器足釜である。824 は土師器鍋の口縁部片である。出土遺物から SD802 は連続する SD801 同様、12 世紀以降に埋没した溝状遺構と考えられる。

SD803 (第 134 図)

Ⅷ-1 区で多数確認した建物の周囲を囲む雨落ち溝と考えられる溝状遺構の一つである。Ⅷ-1 区東南部のコーナーに位置する。北辺と西辺を画する、東西溝と南北溝の一部を検出した。区画内には、西辺の南北溝に接する状態で SB801 を検出した。区画内には主体となる建物は確認できなかった。東端部では SD801・802、西端部では SD804・805 等重複するが、前後関係としては SD805 より先行し、SD801・802 から後出する。東西溝は東半部で二股に分かれる。検出長約 9.0 m、幅 0.4～0.7 m、深さ約 0.2 m、主軸方位 N76° W (N14.0E) を測る。南北溝は東西溝から湾曲し南北の軸線にいたる。南半部では SD805 に切り込まれている。検出長約 4.2 m、幅約 0.4 m、深さ約 0.2 m を測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は灰褐色小礫混じり粘質土からなる。

埋土からは須恵器片が少量出土した、825 は底部を欠く古代の須恵器杯であるが、おそらく混入品であろう。

SD804 (第134図)

Ⅷ-1区で多数確認した建物の周囲を囲む雨落ち溝と考えられる溝状遺構の一つである。Ⅷ-1区東半部の先述したSD803の南北溝と、調査区中央のSD806の間で検出した区画溝である。雨落ち溝は四辺を画していると推定される。南北2辺の東西溝と東西2辺の南北溝を検出した。これらの区画溝のうち北・南辺を区画するのがSD804・807、東・西辺を画するのが、SD804・816A等の溝跡である。区画内には数基の柱穴が分布しているが、削平によるものか、区画内には主体となる建物は確認できなかった。

SD804 東西溝: 検出長約9.5 m、幅0.3～0.9 m、深さ0.2 m、主軸方位N68.0° W (N22.0E)を測る。SD804 南北溝は東西溝から屈曲し南北の軸線にいたる。南半部ではSD805に切り込まれている。検出長約4.7 m、幅約0.4 m、深さ約0.2 mを測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は灰褐色小礫混じり粘質土からなる。

埋土からは須恵器片が少量出土した。826は底部を欠く土師器杯、827は土師器鍋の口縁部片である。

SD805 (第134図)

Ⅷ-1区で多数確認した建物の周囲を囲む雨落ち溝と考えられる溝状遺構の一つである。推定される四辺の区画溝のうち、北辺東西溝と東・西2辺の南北溝を確認した。SD805は北辺の東西溝と東辺の南北溝にあたる。区画内には堀を備えたSB802の北半部を検出した。東西溝: 検出長約8.0 m、幅0.5～0.9 m、深さ0.04 m、主軸方位N72.0° W (N18.0E)を測る。南北溝は東西溝から屈曲し南北の軸線にいたる。北半部ではSD804を切り込んでいるが明瞭な切り合いではない。検出長約4.1 m、幅約0.3～0.7 m、深さ約0.1 mを測る。断面は浅い皿状を呈する。埋土は灰褐色小礫混じり粘質土からなる。

埋土からは土師器・須恵器片等が少量出土した。828・829は土師器小皿、830は土師器杯、831は須恵器鉢、832は土師器鍋の口縁部である。

SD806 (第134図)

Ⅷ-1区中央で検出した条里地割方向に向いた比較的基準となる溝状遺構である。SD804・807等と重複するか前後関係は明瞭ではない。検出長133 m、幅0.6～1.5 m、深さ0.14 m、主軸方位N16.0° Eを測る。

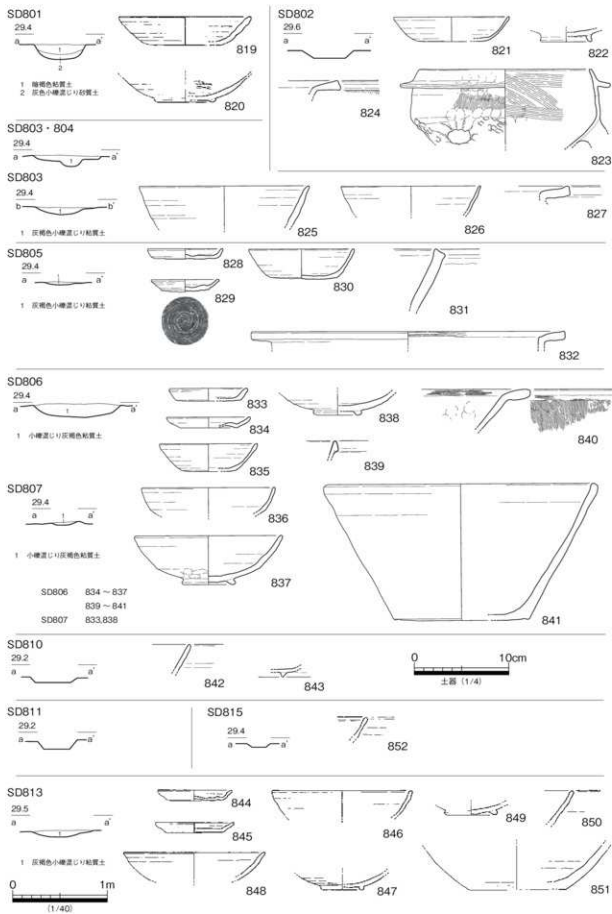
埋土からは土師器・須恵器・瓦器・陶磁器等が出土した。834は須恵器小皿、835は土師器杯である。836・837土師器椀、839は12世紀後半頃の白磁椀口縁部片である。840は土師器鍋口縁部片、841は須恵器控鉢である。出土遺物からSD806は12世紀後半以降に埋没した溝状遺構と考えられる。

SD807 (第134図)

Ⅷ-1区で多数確認した建物の周囲を囲む雨落ち溝と考えられる溝状遺構の一つと考えられる。

推定されるSD807に係わる雨落ち溝としては、西辺のSD806、東辺のSD808・809、北辺のSD807等の溝状遺構が考えられるが、これらの区画内には、雨落ち溝の対象となる遺構は確認できなかった。検出長約10.0 m、幅約0.3～0.5 m、深さ約0.2 mを測る。断面は浅い皿状を呈する。埋土は灰褐色小礫混じり粘質土からなる。

埋土からは土師器・須恵器片等が少量出土した。833は土師器小皿、838は須恵器椀の底部である。出土遺物からSD807は12世紀後半以降に埋没した溝状遺構と考えられる。



第 134 図 SD801 ~ 807・810・811・813・815 断面図，出土遺物

SD810 (第134図)

Ⅷ-1区の北東端部の北壁際で検出した小規模な溝跡である。平面は不整形な形状で断面も浅い。検出長約1.0m、最大幅0.5m、深さ0.08mを測る。

埋土からは土師器・瓦器片等が少量出土した。842は須恵器の杯口縁部片、843はかなり退化した瓦器椀底部片である。出土遺物からSD810は13世紀以降に埋没した溝状遺構と考えられる。

SD811 (第134図)

Ⅷ-1区のSD810の西側の北壁際で検出した小規模な溝跡である。西辺はSD812が切り込んでいる。平面は不整形な形状で、断面も浅い。検出長約1.8m、最大幅0.5m、深さ0.15mを測る。埋土からは中世土師器の細片が数点出土したが、図化できる遺物はなかった。

SD813 (第134図)

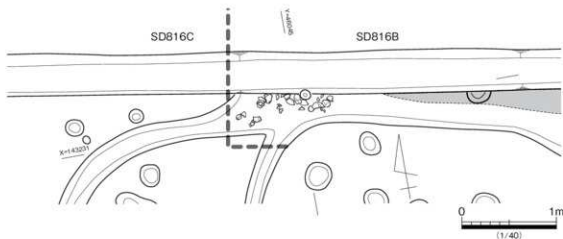
Ⅷ-1区中央のSD806の西約3.0m隔てて検出した、条里地割方向に向いた比較的基準となる溝状遺構である。SD816と重複し、切り合い関係からこの溝跡はSD816より先行する。検出長5.2m、幅0.68m、深さ0.08m、主軸方位N19.0°Eを測る

埋土からは土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器等が少量出土した。844・845は土師器と瓦質土器の小皿、846・847は須恵器椀、848・849は土師器椀、850は瓦器椀口縁部片、851は瓦質土器鉢縁である。椀の形状からSD813は12世紀以降の時期が考えられる。

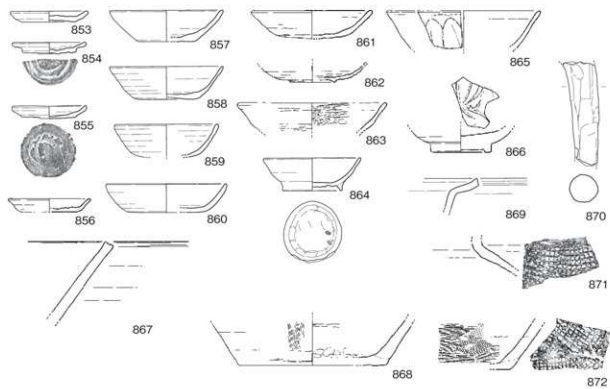
なお約3.0m東へ隔てた位置に同方向で同規模のSD806が所在しているが、検出状況から推定してSD806とSD813は、相互に関連する遺構の可能性が高い。

SD816 (第124・126・135～137図)

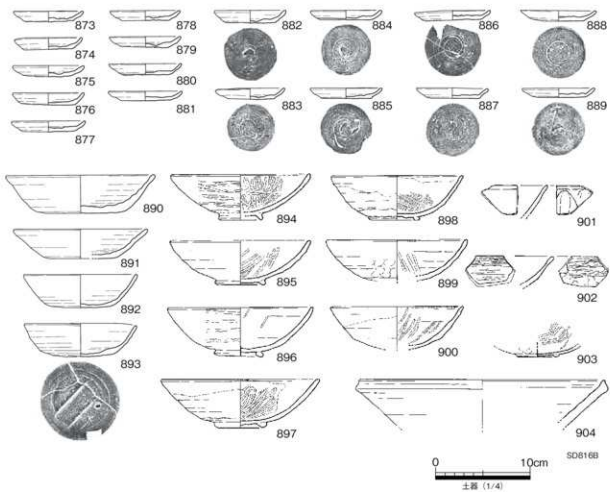
Ⅷ-1区で多数確認した建物の周囲を囲む雨落ち溝と考えられる溝状遺構の一つで、Ⅷ-1区中央から西半部に位置するSB803・804・805の外周を巡る雨落溝である。建物は東と西で2グループに分かれる。東方がSB803、西方がSB804・805の2グループである。SD816は、東西2グループの各外周を「口」字状に巡る。2グループ間を巡るため延長は長い。遺物出土状況の観察や堆積層の観察のため、便宜状東側の区画をSD816A、西側の区画を816B・816C、合せて3区間に分けて報告することにする。



第135図 SD816B 遺物出土状況図

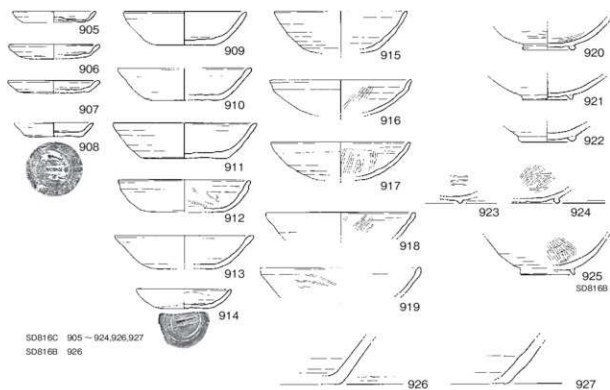


SD816A

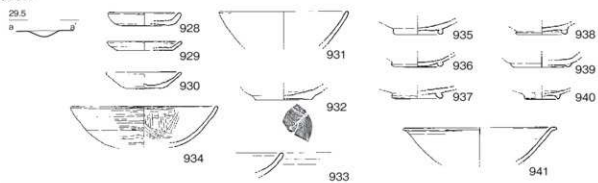


SD816B

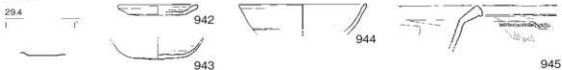
第136図 SD816A・B出土遺物



SD817



SD819



SD823



第 137 図 SD816C・817・819・823 断面図，出土遺物

SD816A はSB803の東西辺と南辺を画する幅広の区画である。SD804・807・813等と重複し、切り合い関係からSD813より後出する。検出長約23.0m、幅1.2～1.8m、深さ0.1～0.15m、主軸方位N10.5°Eを測る。断面の形状は浅い皿状を呈し、埋土は灰褐色砂質土が主であるが、南辺の東西溝の中間層からは焼土片・黒色炭化物が広範囲に出土した。

SD816Aからは土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・青磁等が多量に出土した。傾向として南辺部からの出土が比較的多い。853～855は土師器小皿、856は須恵器小皿、857～860は土師器杯、861は須恵器杯、862は須恵器碗底部、863は瓦器碗上半部である。864は底に初殻の跡が2粒程残る土師器碗、865・866は龍泉窯系の青磁碗で13世紀前半頃の土器である。867・868は須恵器と瓦質土器の捏鉢で、869は土師器鍋口縁部片、871・872は体部外面のタタキが顕著な須恵器甕片である。出土遺物から13世紀前半以降に埋没した溝状遺構と考えられる。

SD816BはSD816Aから西へ屈曲する北辺の区画で、SB805の北辺の雨落溝と考えられる。なお、SB805の東辺はSD816A、西・南辺はSD816Cが画している。検出長約10.5m、幅約1.0m、深さ0.1m、主軸方位N76.0W(N14.0°E)を測る。断面の形状は浅い皿状を呈し、埋土は灰褐色砂質土が主であるが、埋土中からは焼土片・黒色炭化物と伴に大量の遺物が広範囲に出土した。

SD816Bからは土師器・須恵器・瓦器・青磁等が多量に出土した。873～889は土師器と須恵器の小皿である。882～889等ではへら切りの痕跡が顕著のため、拓本を載せた。890～893は土師器杯である。893の底部外面には板状圧痕を顕著に残す。894～900は須恵器碗である。902・903は瓦器碗片である。形状より12世紀後半以降の和泉型と推定される。901は青磁碗口縁部片で、外面には蓮弁を顕著に残す。904は底部を欠く須恵器捏鉢である。

SD816CはSD816Bの西端から南へ屈曲した後、更に東に屈曲する区間で、SB805の西辺と南辺の雨落溝である。検出長約18.0m、幅0.3～0.6m、深さ0.1m、主軸方位N77.0W(N13.0°E)を測る。断面の形状は浅い皿状を呈し、埋土は灰褐色砂質土が主であるが、埋土中からは焼土片・黒色炭化物と伴に大量の遺物が広範囲に出土した。

SD816Cからは土師器・須恵器等が出土している。905～908は土師器小皿である。909～913は土師器杯、914は須恵器杯である。915は底部を欠く瓦器碗である。916～918は底部を欠く須恵器碗である。920～924は須恵器碗の底部である。919は底部を欠く黒色土器碗、925は口縁部を欠く土師器碗である。926は土師器、927は須恵器の捏鉢である。

SD816A～Cは、出土遺物から13世紀前半以降に埋没した溝跡の可能性が高い。

SD817 (第137図)

Ⅷ-1区の区画溝SD806B・Cの西端を東西に分割する区画溝である。SB805と重複するSB804の雨落ち溝と考えられる。削平を受けたものと考えられ、残りは悪い。検出長約7.7m、幅0.3～0.4m、深さ0.1m、主軸方位N9.5°Eを測る。

埋土からは土師器・須恵器・瓦器・白磁等が出土した。928・929は土師器小皿、930～932は須恵器と土師器の杯、933は土師器碗、934～938は須恵器碗、939・940は瓦器碗の底部片、941は白磁碗である。

SD815 (第134図)

Ⅷ-1区中央の南寄で検出した東西方向で残りの悪い小規模な溝跡である。検出長1.7m、幅0.26m、

深さ 0.04 m、方位 N73.0° W を測る。埋土からは土師器・須恵器が少量出土した。852 は須恵器碗の口縁部片である。

SD819 (第 137 図)

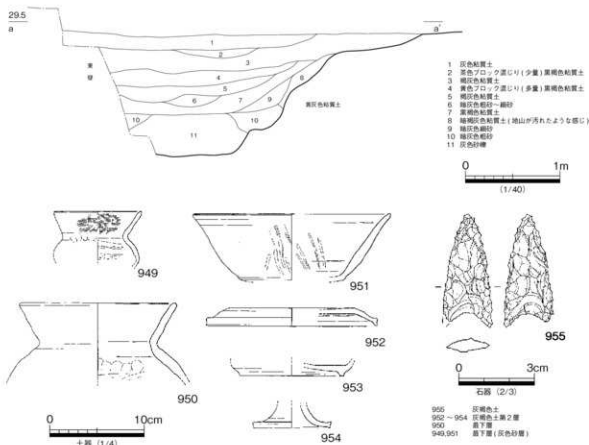
Ⅷ-1 区中央北壁際で検出した東西方向の溝状遺構である。SB803 と重複しているが、切り合わない為、前後関係は不明瞭である。検出長 3.0 m、幅 0.4 m、深さ 0.02 m、方位 N75.0° W を測る。

埋土からは土師器・須恵器・瓦器が少量出土した。942 は土師器小皿、943・944 は土師器杯、945 は土師器鍋の口縁部片である。

SD823 (第 137 図)

Ⅷ-1 区の南西端部で検出した南北方向の幅広な溝跡である。調査区地で検出したため、全体の形状は不明瞭であるが、西隣の調査区Ⅷ-2 区の SD824 の上面に至る溝状遺構と考えられる。検出長約 4.5 m、幅約 1.7 m、深さ約 0.26 m、主軸方位 N45° E を測る。

埋土からは土師器・須恵器・瓦器片等が少量出土した。946 は土師器杯、947・948 は須恵器と瓦器の碗底部片である。出土遺物から SD823 は 13 世紀初頭以降に埋没した溝跡と考えられる。



第 138 図 SD824 断面図、出土遺物

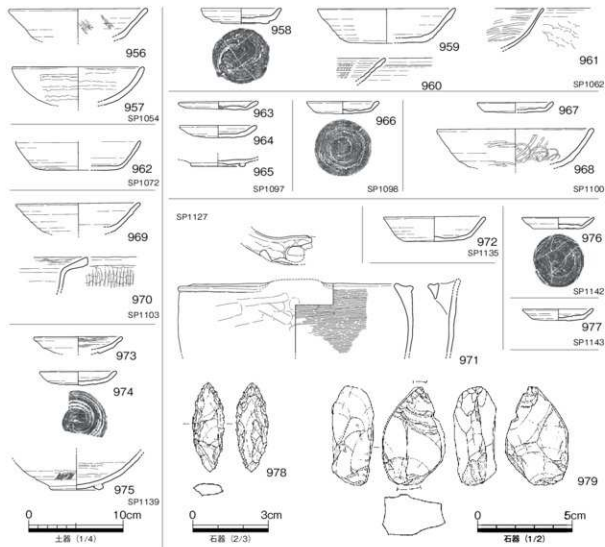
6. VII-2区の調査

(1) 溝状遺構

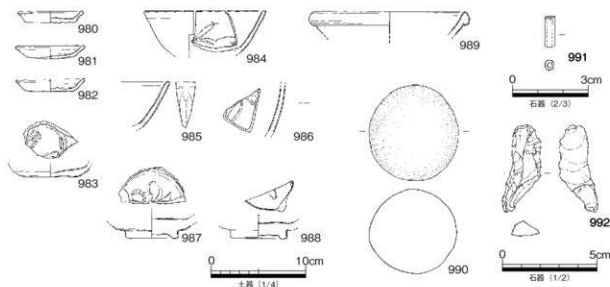
SD824 (第138図)

VII-2区の東端部で検出した比較的大型の溝状遺構である。西に僅かに蛇行状に南北に延びる。平面は凹凸が顕著に認められる、断面の形状は、上端部は幅広く二段掘方の逆台形状を呈する。埋土は細分して11層に分けられるが、大別すれば上下2層に分けられる。上層は灰色～黒褐色系の粘質土が主で層厚0.85mを測る。下層は暗灰色系の砂～砂礫層が主で層厚0.45mを測る。検出長約140m、幅4.2m、深さ1.28m、主軸方位N17.0°Wを測る。

下層からは古式土師器、上層からは7～8世紀後半頃の須恵器が多数出土している。949～951は最下層から出土した古式土師器である。949・950は土師器の小型丸底壺と甕、951は脚部を欠く土師器高杯である。952～954は上層から出土した7～8世紀後半頃の須恵器である。952・953は須恵器杯蓋と杯身、954は7世紀頃の須恵器高杯の脚部である。955はサヌカイトの石鏃で優品である。おそらく下層から出土したものであろう。



第139図 VII区柱穴出土遺物



第140図 VII区包含層出土遺物

出土遺物のうえで、上層と下層で時期が異なることから、SD824は古墳時代前期初頭頃に開削され、その後埋没していたものを、7～8世紀後半頃に改修したものと考えられる。また、この溝跡は規模的な点で当地周辺の基幹水路の一つと考えられる。

(2) 柱穴・包含層出土遺物

Ⅷ-1・2区の主要な遺構・遺物については先に報告したが、次にその他の柱穴出土遺物と包含層出土遺物を報告する。

956～979はⅧ-1区の柱穴出土の遺物である。956・957はSP1054から出土した土師器杯・須恵器碗である。958・959はSP1062から出土した土師器小皿・杯、960は須恵器碗口縁部片、961は瓦器碗片である。962はSP1072から出土した土師器杯である。963～965はSP1097から出土した土師器小皿・瓦器碗の高台部である。966はSP1098から出土した土師器小皿、967・968はSP1100から出土した須恵器小皿、底部を欠く黒色土師器碗である。碗の内面には円弧状の暗文が顕著に施されている。969・970はSP1103から出土した土師器杯・鍋で、971はSP1127から出土した土師器足釜である。972はSP1135から出土した土師器杯、973～975はSP1139から出土した瓦器小皿、土師器小皿、須恵器碗である。976はSP1142から出土した土師器小皿、977はSP1143から出土した須恵器小皿である。978・979はSP1127から出土したサヌカイトの石鏃及び楔形石器である。楔形石器は形状から推定して、他の石核の転用であろう。

980～992はⅧ-1区の包含層から出土した遺物の中で代表的なものを図化した。980～982は土師器小皿である。983は青磁皿の内面には菊描文が認められる。984～988は青磁碗である。989は12世紀頃の白磁碗の上端部である。991は管玉で、この遺跡で唯一の遺物である。990は花崗岩の丸石である。

992はⅧ-2区の包含層から出土した縦長状の剥片で、主要剥離面の上下両端部にツインバルブが認められることから、楔形石器の削片に分類した。

7. IX-1区の調査

(1) 掘立柱建物跡

SB901 (第141図)

IX-1区西半部で検出した梁間1間以上、桁行5間以上の南北棟の大型建物である。削平を受けたものと考えられ、全体的に柱穴の残りが悪い。西にはST901が位置し、東辺にはSB902と重複するが、柱穴が切り合わない為、前後関係は不明である。建物の形状等からおそらくSB901が先行するものと考えられる。1間(6.4m)以上×4間(10.5m)以上、面積は67.2㎡以上、主軸方位N9.5°Eを測る。柱間は梁間6.3~6.4m、桁行2.0~2.1mを測る。柱穴掘方は隅丸方形~不整形形状を呈し、径0.6~0.9m、深さ0.2~0.5mを測る。

梁間は約6.4mを測り、梁間に柱穴が確認できない。南北両梁間周辺には、南北溝SD901や大型の土坑等がみられるため、これらの遺構が本来の梁間の柱穴を削平している可能性があるとしても、検出状況からその可能性は低い。そのため、桁行は調査区外へ更に延長するものと考えられる。なお、梁間が約6.4mを測り、桁行の柱間が2.1mを測るのであれば、梁間は3間を呈する可能性が高く、推定される建物構造は梁間3間(6.4m)×桁行7間(14.7m)、面積94.0㎡を測る大型の建物になる。

柱穴からは弥生土器・土師器片の細片等が極少量出土した。993は弥生土器の銚口縁部片、994はサヌカイトの板状素材を基にした石核である。出土遺物が少なく時期判断には問題を残すが、SB901の南北の主軸線附近は条里地割の南北線が通る位置にあたり、建物の主軸方位も条里地割方向と合致していることから、SB901はこの地域に条里地割が施行された8世紀後半以降の建物の可能性が高い。

SB902 (第142図)

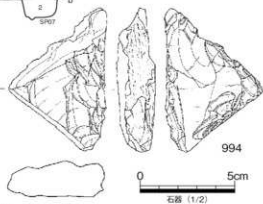
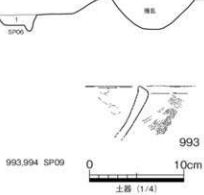
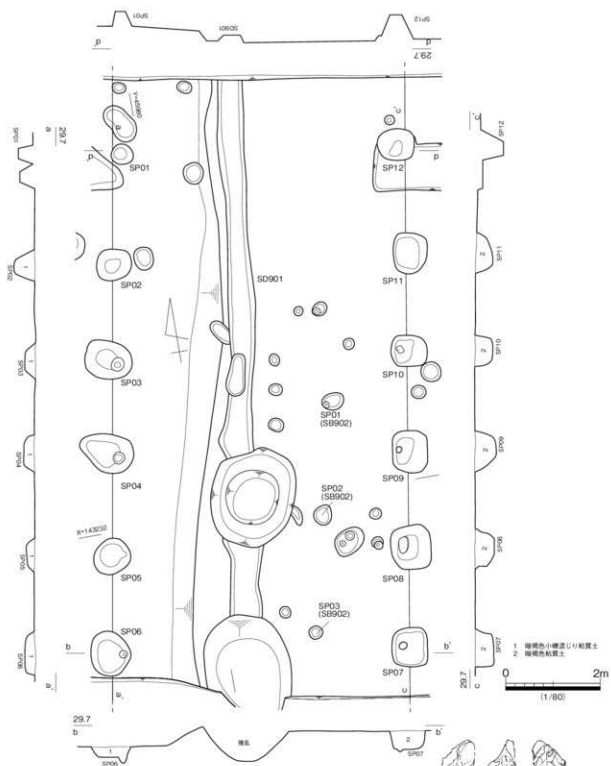
IX-1区中央南寄りで検出した梁間2間、桁行2間の南北棟の建物である。全体の形状として、僅かに南西方向へ斜行している。SB901と重複するが、柱穴が切り合わないため、検出状況からの前後関係は不明である。2間(3.45m)×2間(5.15m)、面積は17.77㎡、主軸方位N13.5°Eを測る。柱間は梁間1.45~2.0m、桁行2.5~2.6mを測る。柱穴からは中世土師器の細片が数点出土したが、図化できる遺物は抽出できなかった。

SB903 (第143図)

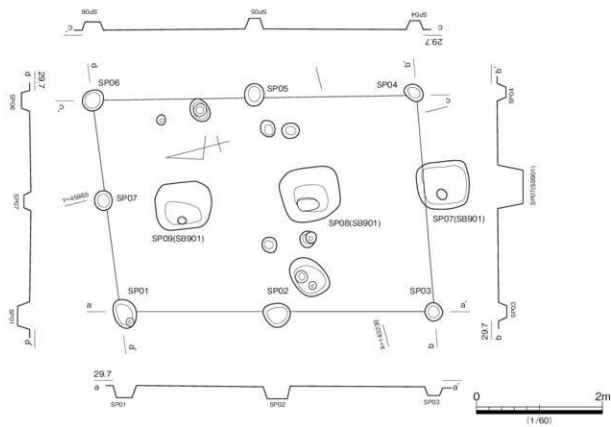
IX-1区南東端部で検出した梁間2間、桁行2間で棟方向の判断ができない小型の建物である。2間(3.3m)×2間(3.5m)、面積は11.55㎡、主軸方位N15.5°Eを測る。柱間は梁間1.5m~1.8m、桁行1.5~1.8mを測る。柱穴掘方は円形~楕円形状を呈し、径0.2~0.6m、深さ0.2~0.3mを測る。柱穴からは中世土師器の細片が数点出土したが、図化できる遺物は抽出できなかった。

SB904 (第144図)

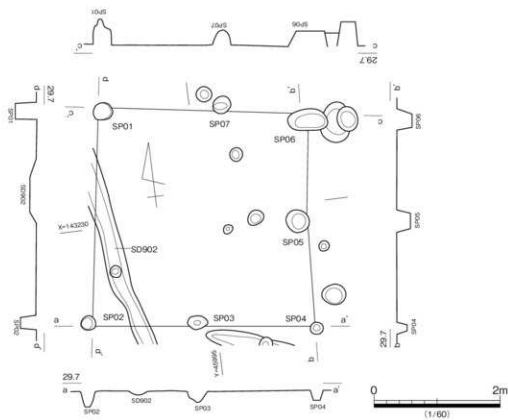
IX-1区西端部で検出した梁間1間以上、桁行3間の南北棟の建物である。1間(3.0m)以上×2間(6.8m)、面積は20.4㎡、主軸方位N34.5°Eを測る。柱間は梁間2.0m、桁行1.6~2.7mを測る。柱穴掘方は円形~楕円形状を呈し、径0.3~1.2m、深さ0.2~0.6mを測る。柱穴からは遺物が出土していないため時期判断には無理がある。



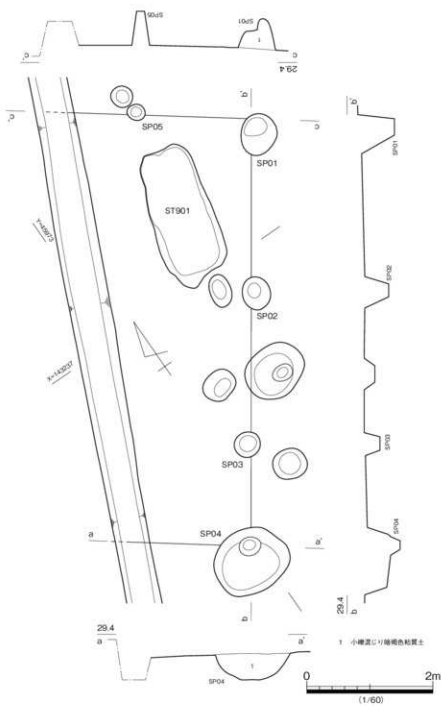
第141図 SB901平・断面図, 出土遺物



第 142 図 SB902 平・断面図



第 143 図 SB903 平・断面図



第 144 図 SB904 平・断面図

(2) 土坑跡・土坑墓跡

SK901 (第145図)

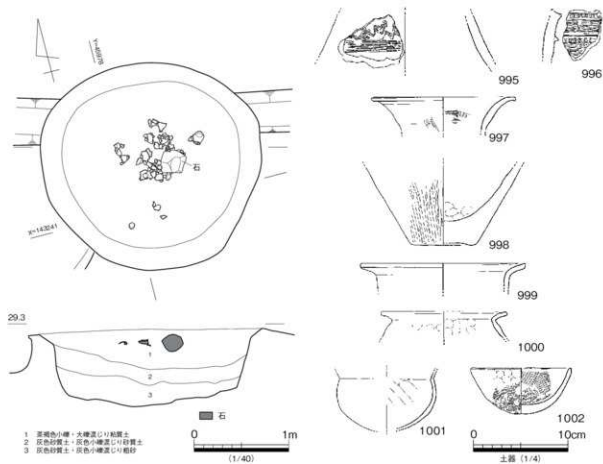
Ⅸ-1区北西端部で検出した土坑である。平面は円形状を呈し、断面は隅丸の逆台形状、底面は比較的平坦である。埋土上層は礫混じりの茶褐色系粘質土、下層は灰色系の砂質土、最下層は灰色系の粗砂からなる。長径2.34m、短径2.2m、深さ0.8mを測る。

埋土からは弥生土器が比較的多数出土したが、須恵器・陶磁器等も少量出土したため、いずれの時期の遺構か判断が難しい点もある。ただ、出土した弥生土器にはマメツした土器が含まれているため、この遺構は近世以降の可能性が高い。出土遺物の中で弥生土器の資料を報告する。995・996は中期前半頃の壺、997～1002は後期後半以降の土器である。997・998壺の口縁部と底部、1000は甕口縁部、1001は口縁部を欠く小型丸底壺、1002は小型の鉢である。

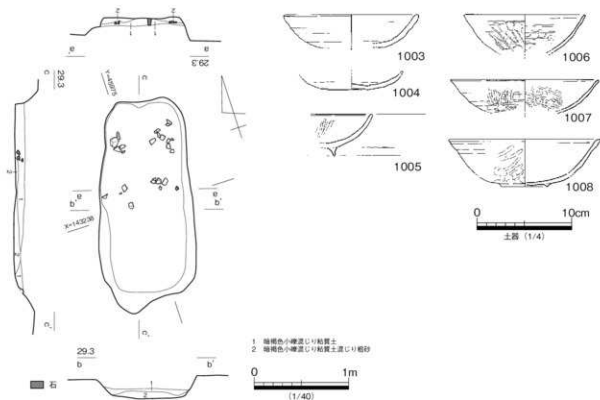
ST901 (第146図)

Ⅸ-1区西端部で検出した中世の土坑墓である。平面は長楕円形状を呈し、断面は幅広の逆台形状、底面は比較的平坦である。埋土は上下2層に分かれ、上層は暗褐色礫混じり粘質土、下層は暗褐色礫混じり粗砂からなる。長径2.3m、短径0.85～1.0m、深さ0.25m、主軸方位N18°Eを測る。

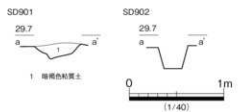
床面付近からは土師器・瓦器等が出土した。1003・1004は土師器杯、1005は土師器碗片である。1006～1008は瓦器碗である。瓦器の形状等からST901は、12世紀後半～13世紀初頭頃の時期が考えられる。



第145図 SK901平・断面図, 出土遺物



第146図 ST901 平・断面図, 出土遺物



第147図 SD901・902 断面図

(3) 溝状遺構

SD901 (第147図)

Ⅸ-1区西半部で検出した南北方向の直線溝跡である。SB901と重複し、おそらくSB901より後出する。検出長11.4 m、幅0.5 m、深さ0.16 m、方位N8.5° Eを測る。断面は不整形な形状を呈し、埋土は暗褐色粘質土からなる。

埋土からは中世土師器の細片が数点出土したが、図化できる遺物は抽出できなかった。

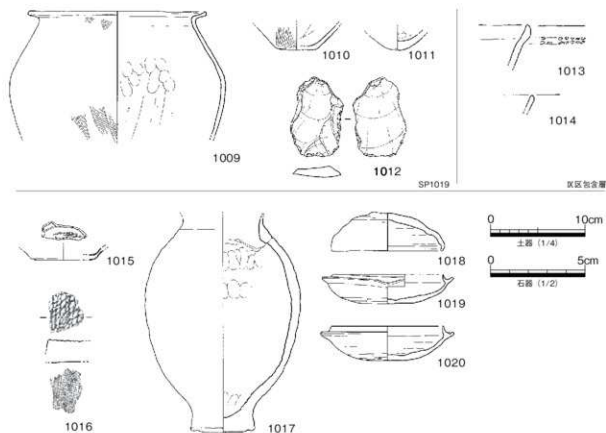
SD902 (第147図)

Ⅸ-1区東半部で検出した僅かに湾曲しながら南北方向へ延びる直線状の溝跡である。SB903と重複し、おそらくSB903より後出する。検出長約10.1 m、幅0.32 m、深さ0.24 mを測る。埋土からは中世土師器の細片が数点出土したが、図化できる遺物は抽出できなかった。

(4) 柱穴・包含層出土遺物

Ⅸ-1区の主要な遺構・遺物については先に報告したが、次にその他の柱穴出土遺物と包含層出土遺物を報告する。

1009～1012はⅨ-1区の柱穴出土の遺物である。1009～1011はSP1019から出土した弥生土器甕である。1009は形状から下川津B類甕に類似している。1012はSP1019から出土したサヌカイトの調



第148図 IX区柱穴、包含層出土遺物

整ある剥片である。縦長状の剥片を素材にし、側縁に微細な調整を施している。1013・1014はIX区の包含層出土遺物である。1013はの縄文土器の鉢片、1014・1015は青磁の椀と皿、1016は平瓦片である。内外面には縄目・布目圧痕が顕著に残す。1015～1020は出土地点が不明な遺物の中で良資料を図化した。1017は口縁部を欠く弥生時代中期後半頃の壺である。1018～1020はTK217並行期の須恵器杯蓋・杯身である。1019の口縁部端部には僅かに窪みが認められ、片口の機能も考えられる。

8. IX-2区の調査

IX-2区は古川の氾濫源にあたりレベルもIX-1区に比べ約1.0m下がる。微高地上では、古代～中世の集落が広範囲に展開しているが、氾濫源にあたるIX-2区は、耕作土直下には細砂・粗砂層が広範囲に堆積しており、遺構・遺物伴に検出できなかつたので部分調査で終えた。ただ、浅いトレンチ数本で調査を終えたため、下層からの遺物採集がなされていない。そのため、古川がいつ頃の微高地周辺に至ったのか問題を残すことになった。

(参考文献)

- 田辺 昭三 1966「陶邑古墳址群1」平安学園考古学クラブ
- 金田 章裕 1988「桑里と村落生活」『香川県史第1巻通史編原始・古代』四国新聞社
- 西村 尋文 1994「第4章 第2節 正箱遺跡における古代集落の展開」『県道山崎御経線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 正箱遺跡・薬王寺遺跡』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1994『県道山崎御経線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 正箱遺跡・薬王寺遺跡』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団 1996『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第25冊 中間西井坪遺跡』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1996 平成7年度「元塚遺跡」『県道関係埋蔵文化財発掘調査概報』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1997 平成8年度「元塚遺跡」『県道関係埋蔵文化財発掘調査概報』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1998 平成9年度「元塚遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』

第Ⅵ章 自然科学分析

第1節 瓦塚遺跡における花粉、プラントオパール分析

川崎地質株式会社

1. はじめに

瓦塚遺跡は、香川県高松市檀紙町瓦塚と円座町佐古・川向にまたがって所在する。本報告は、香川県埋蔵文化財センターの委託により、同遺跡内Ⅱ区において検出されたSR203内の堆積物（8世紀末から9世紀）、Ⅲ区において検出された、SR302内の堆積物（弥生時代から12世紀以降）及びⅣ区SR401内の堆積物（7世紀前半から8世紀中頃）を対象に、埋積時における遺跡内及び周辺の高木を推定する目的で行った花粉分析・プラント・オパール分析の調査報告書である。

試料番号	調査区	遺構名	分析項目	
			花粉	植物ミセル
6	Ⅱ区	SR203 4層北壁 30m	1	1
7	Ⅱ区	SR203 5層北壁 30m	1	1
8	Ⅱ区	SR203 13層北壁 30m	1	1
9	Ⅱ区	SR203 14層北壁 30m	1	
10	Ⅱ区	SR203 15層北壁 30m	1	
11	Ⅱ区	SR203 16層北壁 30m	1	
12	Ⅱ区	SR203 18層北壁 30m	1	1
13	Ⅲ区	SR302 南壁 11層 (南壁壁土塊*6) 1	1	
14	Ⅲ区	SR302 南壁 9層 (南壁壁土塊*6) 2	1	1
15	Ⅲ区	SR302 南壁 8層 (南壁壁土塊*6) 3	1	1
16	Ⅲ区	SR302 南壁 7層 (南壁壁土塊*6) 4	1	1
17	Ⅲ区	SR302 南壁 6層 (南壁壁土塊*6) 5	1	1
18	Ⅲ区	SR302 南壁 5層 (南壁壁土塊*6) 6	1	1
19	Ⅲ区	SR302 南壁 4層 (南壁壁土塊*6) 7	1	
36	Ⅳ区	SR401 土塊*7 北壁 15層	1	1
37	Ⅳ区	SR401 土塊*7 北壁 18層	1	1
合計			16	9
計画数			16	9

2. 試料について

Ⅱ区7試料、Ⅲ区7試料、Ⅳ区2試料の合計16試料の提供を受けた。

表1 微化石調査結果

調査区	試料No.	地層	花粉	炭	植物片	珪藻	火山灰	プラント・オパール
Ⅱ	6	4	○	△×	△	○	○	○
	7	5	○	△×	△	○	△	○
	12	18	○	△×	○	○	○	○
	8	13	○	△×	○	○	○	○
	9	14	○	△×	△	○	○	○
	10	15	○	△×	○	○	△	○
	11	16	○	△×	○	○	○	○
Ⅲ	19	4	○	△×	○	○	○	○
	18	5	○	△×	△	○	△	○
	17	6	○	△×	△	○	○	○
	16	7	○	△×	○	○	△	○
	15	8	○	△	○	○	△	○
	14	9	○	○	○	○	○	○
	13	11	○	○	△	○	○	○
Ⅳ	37	18	○	△×	△	△	○	○
	36	15	○	○	○	△	○	○

凡例 ○：十分な数量が検出できる ○：少ないが検出できる △：非常に少ない
△×：極めてまれに検出できる ×：検出できない

3. 分析方法及び分析結果

(1) 微化石概査

花粉分析用プレパラート、及び花粉分析処理残渣を用いた微化石の概査結果を、表1に示す(植物片、炭は花粉分析用プレパラートを観察した。珪藻、火山ガラス、植物珪酸体(プラント・オパール)は、花粉分析処理の残渣を観察した)。

(2) 花粉分析

分析処理の工程を図1のフローチャートに示した。プレパラートの観察・同定は、光学顕微鏡下で400倍を用いて実施した。また、イネ属(*Oryza*)の同定は、位相差顕微鏡下で1000倍を用いて実施した。

花粉分析では原則的に本本花粉総数が200粒以上になるまで同定を行い、同時に検出される草本・胞子化石の同定も行った。また、光学顕微鏡による検鏡(同定・計数)の後、中村(1977)にしたがってイネ属(*Oryza*)の同定を行い、イネ科をイネ属型、イネ科(不能)、イネ科(その他)に細分した。ここではイネ科100粒を基準としたが、イネ科の花粉の検出量が少なく、基準量に達していない試料もある。

分析結果を図3～5の花粉ダイアグラムと表3に示す。「花粉ダイアグラム」の作成に当たり、本本花粉総数を基数として分類群ごとに百分率を算出し、本本花粉、草本・藤本花粉、胞子に分けてハッチを入れている。「総合ダイアグラム」では本本花粉を針葉樹花粉、広葉樹花粉に細分し、これらに草本・藤本花粉、胞子の総数を加えたものを基数として、分類群ごとに累積百分率として示した。「含有量」では、1g当たりの換算重量を算出して示した。「イネ科花粉の細分」では、それぞれの分類群の割合を累積グラフで示した。

(3) プラント・オパール分析

分析処理の工程を図2のフローチャートに示した。プレパラートの観察・同定は、光学顕微鏡下で400倍を用いて行った。同定は表2に示す「栽培植物との対応が明らかな分類群」：当社分析レベル4について行い、計数は、ガラスビーズ個数が300以上になるまで行った。

分析結果を図6のプラント・オパールダイアグラムと表4に示す。ダイアグラムでは、検出密度(試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、

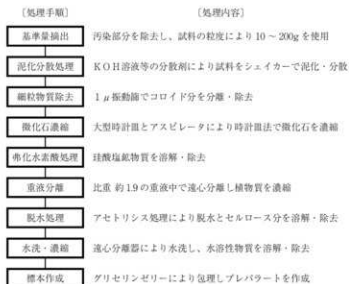


図1 花粉フローチャート

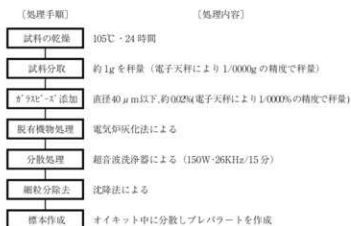


図2 プラント・オパール分析フローチャート

試料 1g 中のプラント・オパール個数を求めたもの。) をスペクトルで示している。

表 2 同定・検鏡対象分類群 (同定分類群と推定母植物の関係)

同定レベル	コード	分類群	対応する栽培植物
1	1	イネ	イネ
栽培植物との対応が明らかな分類群	3	イネ初段 (穎の表皮細胞)	イネ
	21	ムギ類 (穎の表皮細胞)	コムギ・オオムギ
	41	オシロイハ属 (シコクビエ型)	シコクビエ
	61	キビ族型	ヒエ・アワ・キビ
	62	キビ属型	キビ
	64	ヒエ属型	ヒエ
	66	エノコログサ属型	アワ
	84	ウシクサ族 B	サトウキビ
	91	モロコシ属型	モロコシ
	93	ジュズダマ属型	ハトムギ
	母植物との対応が明らかな分類群	11	サヤヌカグサ属
13		マコモ属	マコモ
31		ヨシ属	ヨシ
33		ダンチク属	ダンチク
35		ヌマガヤ属型	ヌマガヤ
51		シバ属	シバ属
71		トゲシバ属	トゲシバ属
81		ススキ属型	ススキ属
83		ウシクサ族 A	チガヤ属など
201		メダケ節型	メダケ節
203		ネギサ節型	ネギサ節
205		チマキサ節型	チマキサ節・チシマザサ節
207		ミヤコザサ節型	ミヤコザサ節
209		マダケ属型	マダケ属
350		カヤツリグサ科 (スゲ属など)	スゲ属
390		シダ類	シダ類
501		ブナ科 (シイ属)	シイ類
503		ブナ科 (アカガシ亜属)	カシ類
510		クスノキ科	バロバロノキなど(クスノキ以外)
520		マンサク科 (イスノキ属)	イスノキ属
530		アワブキ科	アワブキ科
540		モクレン属型	モクレン属
570		マツ科型	マツ科
580		マツ属型	マツ属

4. 耕作について

Ⅲ区の5層(試料18)、7層(試料16)は、現地観察で水田耕土とされていた。これらの層では、イネのプラント・オパール検出密度が通常稲作耕土と見なされる 5000 粒/g に及ばなかった。7層では 3200 粒/g の小ピークが認められたが、5層ではピークは認められなかった。イネ科の花粉も7層でピークを成すが、5層では明解なピークを認めることができなかった。またイネ属花粉の割合が、7層より上位でやや高くなっている。

これらのことから、5層、7層での耕作期間が比較的短期間であったか、耕作土表面が削平を受けていた可能性が示唆される。

一方、(Ⅱ、Ⅳ区含む)他の層でもイネのプラント・オパールやイネ属花粉が少量ながら検出されている。主として上位層から生物擾乱によって混入した可能性が指摘できるが、遺構が検出されないものの水田耕作土であった可能性も指摘できる。

また、Ⅲ区7層、4層、Ⅳ区18層(試料37)では少量であるがソバ属の花粉が検出され、これらの層を耕作土とした栽培が行われていた可能性が指摘できる(ソバは、イネの裏作として栽培される外、畦を利用して栽培されることもある。)

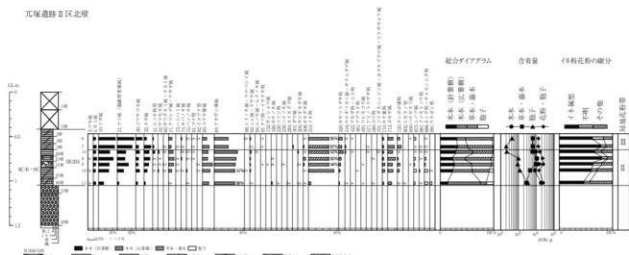


図3 II区北壁の花粉ダイアグラム

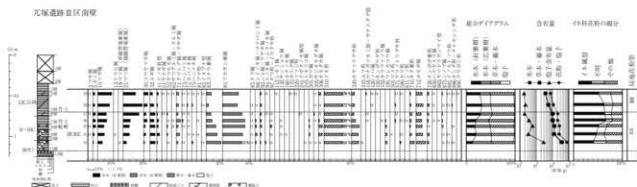


図4 III区南壁の花粉ダイアグラム

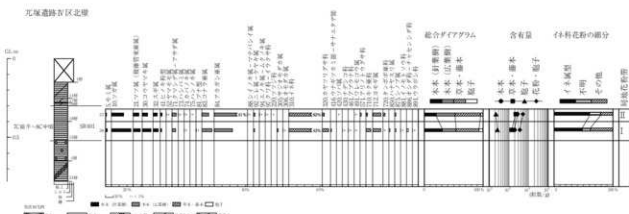


図5 IV区北壁の花粉ダイアグラム

5. 花粉分帯

花粉分析結果を基に局地花粉帯を設定した。以下に、各局地花粉帯の記載を行う。また、時間経過を明解にするために、下位から上位に向かって記載を行った。

(1) I帯 (IV区試料36)

ツガ属、アカガシ亜属が25%、23%と他の種類に比べやや高く、マツ属(複維管束亜属)、コウヤマキ属、コナラ亜属がこれらに次ぐ。

(2) II帯 (II区試料11～12、III区試料13～17、IV区試料37)

アカガシ亜属が30%以上と卓越傾向にあるほか、ツガ属、マツ属(複維管束亜属)、コナラ亜属が10～20%と他の種類に比べやや高い出現率を示す。

(3) II帯 (II区試料7、6、III区試料18、19)

ツガ属、マツ属(複維管束亜属)、アカガシ亜属が20～30%程度と他の種類に比べやや高い出現率を示す。

6. 古植生推定

設定した局地花粉帯ごとに、調査地近辺の古植生を推定する。

(1) I帯 (IV区試料36)

①堆積時期

出土遺物から、7世紀前半から8世紀中頃の植生を示していると考えられる。ほぼ同時期の花粉分析が東方5kmほどの上東原遺跡で行われており、ツガ属、マツ属(複維管束亜属)、コウヤマキ属、コナラ亜属、アカガシ亜属などが特徴的に検出される点が類似する。

②近辺の低地植生

草本・藤本花粉、胞子の割合が46%と比較的高率である。花粉化石の保存も良く、湿潤状態で堆積したと推定され、調査地近辺には湿原(あるいは水田)が広がっていたと考えられる。調査地近辺が湿原であったとすれば、サジオモダカ類、オモダカ類、ヨシ類、カヤツリグサ類などが繁茂していたと考えられる。これらの草本は一般に水田雑草としても認められることから、近辺が水田であった場合、水田内、あるいは水路内に繁茂していたと考えられる。また、やや乾燥した場所(水田であれば畦畔)にはヨモギ類などのキク科やタデ科の草本が繁茂していたと考えられる。

③丘陵の植生

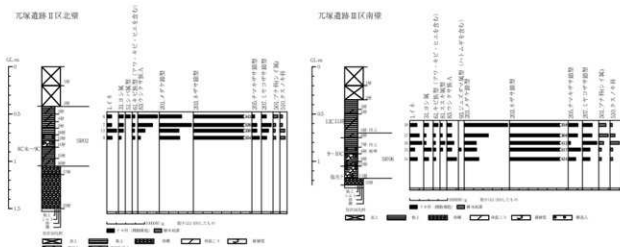


図6 II区北壁、III区南壁のプラントオーバーランドダイアグラム

木本花粉の割合が比較的低く、検出された木本花粉の多くが周辺の丘陵から讃岐山脈にかけての広範な地域から飛来した可能性が高い。現存植生では、低地から山地にかけてアカガシ亜属などの常緑広葉樹を主とする照葉樹林（暖温带林）が分布する。また山地高所では、針葉樹を主として、カシ類やブナ類を混淆する温帯針葉樹林（中間温帯林）が生ずる傾向にある。更に高所では、ブナ、ミズナラを主とする落葉樹林（冷温带林）へと移り変わっていく。

現存植生と得られた花粉化石群集から、調査地南方の讃岐山脈にはツガ属、マツ属（複維管束亜属）、コウヤマキ属などを主要素とする温帯針葉樹林が広く分布したと考えられる。さらに、カシ類を主要素とする照葉樹林が調査地北から西に続く丘陵（浄願寺山、袋山、六ツ目山、堂山）に、所によってナラ類を混淆して分布していたと考えられる。また、局所的にナラ類を主要素とするコナラ林が分布した可能性もある。

前述のように、温帯針葉樹林は照葉樹林より高所に位置するのが一般的であるが、しばしば暖温带林中に混淆することが知られている。さらに、和歌山県新宮市「浮島」のスギ林のように、暖温带林域の海岸近くに天然のスギ林が残る事象もある。このような事象と、現存植生が人為的攪乱による残存植生と捉えると、温帯針葉樹林が冷涼な気候を示すとは考えにくい。また多くの針葉樹種は、カシ類などの極相林要素の樹種に比べ、地形・土壌条件が劣悪な環境でも生育している。このように土地条件を加味して植生を推定すると、ツガ、コウヤマキ、アカマツなどを主とする温帯針葉樹林は、讃岐山脈のみではなく、調査地周辺の丘陵で照葉樹林に混淆していたり、地域のベースを成す「砂礫がちな扇状地堆積物」（高桑、1973）上にも生育していたりした可能性が高い。

(2) II帯（Ⅱ区試料11～12、Ⅲ区試料13～17、Ⅳ区試料37）

①堆積時期

出土遺物から、7世紀前半から古代の植生を示していると考えられる。

Ⅱ区11層（試料13）からは弥生時代の遺物が出土するが、花粉化石群集は上位に向かって連続的に変化する。更に前述上東原遺跡の分析結果と比較しても、花粉化石群集の違いが大きい。これらのことからⅢ区11層（試料13）が、上位の試料からかけ離れた弥生時代に堆積した可能性は低い。

②近辺の低地植生

ほとんどの試料で草本・蕁本花粉、胞子の割合が50%を超える。I帯同様に花粉化石の保存も良い。さらに微化石概査で珪藻化石が多量に含まれているなど、湿潤状態で堆積したと推定され、調査地近辺には湿原（あるいは水田）が広がっていたと考えられる。調査地近辺が湿原であったとすれば、サジオモダカ類、オモダカ類、ヨシ類、カヤツリグサ類、フサモ類（アリノトウグサ科）などが繁茂していたと考えられる。これらの草本は一般に水田雑草としても認められることから、近辺が水田であった場合、水田内、あるいは水路内に繁茂していたと考えられる。やや乾燥した場所（水田であれば畦畔）にはヨモギ類などのキク科やタデ科の草本のほか、プラント・オパールの検出されるネザサ類などが繁茂していたと考えられる。このほか、Ⅲ区ではワレモコウ属が特徴的に検出され、近辺で繁茂していたと考えられる。更にⅣ区18層（試料37）ではソバ属花粉が検出され、近辺での畑作が指摘できる。

Ⅱ区16層（試料11）では木本花粉の割合が高く、イネ科の花粉の出現率も低い。これらのことから、他の時期に比べ森林が近くに迫っていたと考えられ、近辺に水田が存在した可能性は低い。

③丘陵の植生

アカガシ亜属の花粉が高率を示すことから、周辺の丘陵には主にカシ類で代表される照葉樹林が分布していたと考えられる。照葉樹林の要素であるシイ属やクスノキ科のプラント・オパールも検出され、カシ類とともにこれらの樹種が生育していたと考えられる。一方、ツガ属、マツ属（複雑管束亜属）、コウヤマキ属やコナラ亜属の割合も高く、これらの樹種が照葉樹林に混着していた可能性や、局所的に林分を成していた可能性もある。コナラ類についても同様で、照葉樹林内のギャップに生育していたり、（二次植生としての）コナラ林を成していたりした可能性も考えられる。また針葉樹類の起源を、讃岐山脈の「中間温帯林」に求めることも可能である。

(3) III帯（Ⅱ区試料7、6、Ⅲ区試料18、19）

①堆積時期

出土遺物から、8世紀末から古代、中世にかけての植生を示していると考えられる。

②近辺の低地植生

他の時期同様に草本・藤本花粉、胞子の割合が50%を超え、花粉化石の保存も良い。さらに微化石概査で珪藻化石が多量に含まれているなど、調査地近辺には湿原（あるいは水田）が広がっていたと考えられる。調査地近辺が湿原であったとすれば、サジオモダカ類、オモダカ類、ヨシ類、カヤツリグサ類、フサモ類（アリノトウグサ科）などが繁茂していたと考えられる。また、これらの草本は一般に水田雑草としても認められることから、近辺が水田であった場合、水田内、あるいは水路内に繁茂していたと考えられる。やや乾燥した場所（水田であれば畦畔）にはヨモギ類などのキク科やタデ科の草本のほか、プラント・オパールの検出されるネザサ類などが繁茂していたと考えられる。更にⅢ区5層（試料18）、4層（試料19）ではソバ属花粉が検出され、近辺での畑作が指摘できる。

③丘陵の植生

アカガシ亜属の割合が減少し、マツ属（複雑管束亜属）の割合が増加傾向を示す。同時に木本花粉の含有量が減少傾向にあり、周辺の丘陵で照葉樹林が伐採され、局所的にアカマツ林が広がった可能性が指摘できる。

7. まとめ

元塚遺跡発掘調査に係る花粉分析、プラント・オパール分析の結果、以下の事柄が推定できた。

- (1) Ⅲ区7層、5層について、水田耕作土の可能性を論じた。イネのプラント・オパール検出密度は低く、稲作を断定するには至らなかった。ただし7層では、検出密度が小ビークを成すなど、稲作を示唆する結果は得られた。また、ソバ属花粉が検出される層準もあり、Ⅱ帯の時期以降、近辺でソバ栽培が行われた可能性が指摘できる。
- (2) 花粉分析結果からⅠ～Ⅲ帯の局地花粉帯を設定し、出土遺物から局地花粉帯が示す時期を推定した。
- (3) いずれの試料からも多量の花粉化石が検出され、湿地環境（自然環境下では湿原、人為環境では水田など）で堆積・保持されたことが明らかになった。
- (4) 局地花粉帯の示す時期ごとに古植生を推定した。特筆すべき点は、以下の事柄である。

- ①分析層準のほとんどで稲作が行われていた(水田であった)可能性が指摘できる。ただし、Ⅱ区16層(試料11)ではイネ科の花粉の出現率が低いことから、水田であった可能性は低い。
- ②調査時期を通じて、周辺の丘陵はカシ類を主要素としてシイノキ属、クスノキ科を伴う照葉樹林で覆われていたと考えられる。一方、照葉樹林内にはツガ、コウヤマキ、アカマツなどの温帯針葉樹やコナラ類を混生、あるいはこれらが小林分を形成していた可能性もある。またⅢ帯の時期には照葉樹林がやや縮小し、アカマツ林が拡大した可能性がある。

(引用文献)

- 高桑 礼 (1973). 1/50,000土地分類基本調査(地形分類図)「高松南部」, 香川県。
- 中村 純 (1977) 稲作とイネ花粉, 考古学と自然科学, 10, 21-29.

表 3-2 兀塚遺跡の花粉組成表

試料No.	地区名称													
	4	5	12	8	9	10	11	19	16	17	15	14	13	36
330	Cyperaceae													
345	Liliaceae													
436	Euforbiaceae-Perseastr													
439	Polypodiaceae													
442	Chloropodiaceae-Amaranthaceae													
443	Caryophyllaceae													
450	Ranunculaceae													
455	Trickstrum													
461	Cruciferae													
491	Sagittaria													
501	Leguminosae													
507	Hydrogynaceae													
580	Umbelliferae													
611	Lamiaceae													
710	Curtideae													
712	Asteraceae													
720	Chloroflorae													
802	Utricularia subside type													
803	Ophoglossum													
803	Osmunda cinnamomea type													
805	Trillium													
881	Pentdieneae													
886	Aspid-Aspl.													
891	Polypodiaceae													
896	MOSSELATE/TYPESPORE													
899	TRELLATE/TYPESPORE													
	水本 (目録型)													
	水本 (北東型)													
	草本 - 藤本													
	蕨類													
	総数													
302	Cyperus type													
313	Guzmania (indistinct)													
314	Guzmania (subsp.)													
	イネ科総数													
	含有率 (総数 %)													

1/101頁

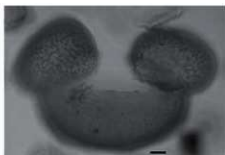
表 4 元塚遺跡の植物珪酸体組成表

調査区	Ⅱ区北壁							Ⅱ区南壁				
	試料No.		7		12		8	18	17	16	15	14
	6	7	12	8	18	17	16	15	14			
地層	4	5	18	13	5	6	7	8	9			
1 イネ	2	2	4	2	3	4	5	2	3			
	13	13	26	14	19	25	32	13	20			
	0.28	0.39	0.76	0.4	0.56	0.75	0.93	0.39	0.58			
31 ヨシ属	2	2	2	1	2	1	1	3	2			
	13	13	13	7	13	6	6	20	13			
	0.82	0.83	0.82	0.43	0.81	0.4	0.4	1.25	0.82			
51 シバ属型	2											
	13											
61 キビ属型(アワ・キビ・ヒエを含む)	1	1	1	1	2	1	1	1	1			
	7	7	6	7	13	6	6	7	7			
81 ススキ属型					1	1	2	1				
					6	6	13	7				
83 ウンクサ属 A	8	6	3	1	2	2	3	2	4			
	52	39	19	7	13	13	19	13	26			
93 ジュズダマ属型(ハトムギを含む)								1				
								7				
201 メダケ属型	9	13	8	8	18	10	5	5	6			
	59	85	52	54	115	64	32	33	39			
	0.68	0.99	0.6	0.63	1.34	0.74	0.37	0.38	0.45			
	68	80	51	82	56	57	65	78	65			
203 ネギサ属型	443	536	330	554	358	363	412	517	424			
	213	252	158	266	172	174	198	248	204			
	1	2	2	3	4	4	1	5	3			
	7	13	13	20	26	25	6	33	20			
205 ナマキザサ属型	0.05	0.1	0.1	0.15	0.19	0.19	0.05	0.25	0.15			
	2	4	3	2	4	4	6	3	3			
	13	26	19	14	26	25	38	20	20			
207 ミヤコザサ属型	0.04	0.08	0.06	0.04	0.08	0.08	0.11	0.06	0.06			
	2	1	1	1	3	4	2	1	1			
501 フナ科(シイ属)	13	7	6	7	19	25	13	7	7			
	1	1	2	2	1	2	4	1	1			
510 タスノキ科	7	7	13	14	6	13	25	7	7			
	98	112	77	103	96	90	95	103	89			
カウントガラスビーズ数	459	458	464	449	469	470	474	451	463			
カウント総数	557	570	541	552	565	560	569	554	552			
試料重量(×0.0001g)	6984	6991	7010	7038	7019	7025	7001	7043	7022			
ガラスビーズ重量(×0.0001g)	132	133	133	135	133	133	133	133	134			

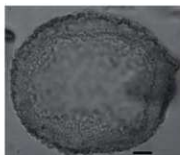
上段 検出粒数
 中段 検出密度(単位: ×100粒/g)
 下段 推定生産量(単位: kg/m²・cm)



マキ属



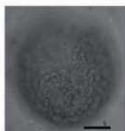
モミ属



ツガ属



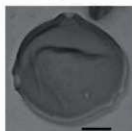
マツ属 (複雑管束亜属)



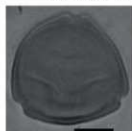
コウヤマキ属



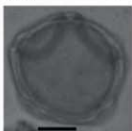
スギ属



クマシデ属-アサダ属



ハシバミ属



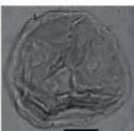
ハンノキ属



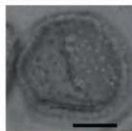
コナラ亜属



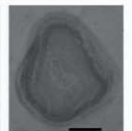
アカガシ亜属



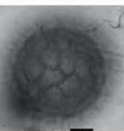
ニレ属-ケヤキ属



オモダカ属



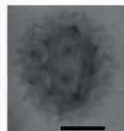
カヤツリグサ科



ウナギツカミ節
・サナエタデ節



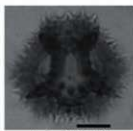
ツバ属



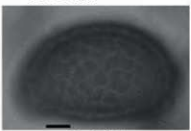
キク亜科



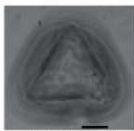
ヨモギ属



タンポポ亜科



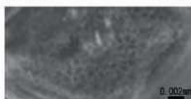
シノブ属



イノモトソウ属



イネ属型

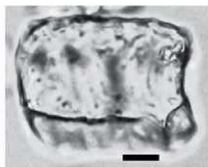


イネ属 (その他)

スケールはすべて 0.01 mm



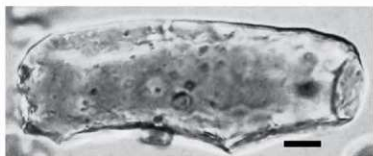
イネ



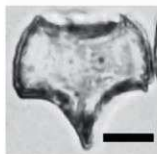
イネ (側面)



ヨシ属



キビ族型



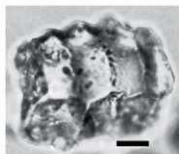
シバ属型



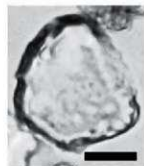
ススキ属型



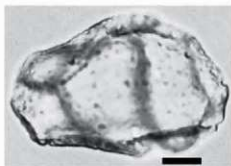
メダケ節型



ネザサ節型



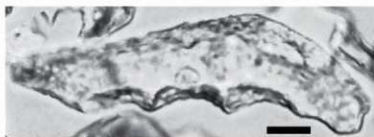
ミヤコザサ節型



バナ科 (シイ属)



チマキササ節型



クスノキ科

スケールはすべて0.01mm

第2節 香川県元塚遺跡出土木製品の樹種調査結果

(株) 吉田生物研究所

1. 試料

試料は香川県元塚遺跡から出土した建築部材7点、用途不明品5点の合計12点である。

2. 観察方法

剃刀で木口(横断面)、柀目(放射断面)、板目(接線断面)の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3. 結果

樹種同定結果(針葉樹3種、広葉樹3種)の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

1) ヒノキ科ヒノキ属 (*Chamaecyparis* sp.)

(遺物 No.229.230)

(写真 No.229.230)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行が急であった。樹脂細胞は晩材部に偏在している。柀目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1~2個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。ヒノキ属はヒノキ、サワラがあり、本州(福島以南)、四国、九州に分布する。

2) ヒノキ科アスナロ属 (*Thuopsis* sp.)

(遺物 No.328)

(写真 No.328)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柀目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からヤスギ型で1分野に2~4個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ(ヒバ、アテ)とヒノキアスナロ(ヒバ)があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

3) コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ (*Sciadopitys verticillata* Sieb. et Zucc.)

(遺物 No.815)

(写真 No.815)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや緩やかで晩材部の幅は極めて狭い。柀目では放射組織の分野壁孔は小型の窓状で1分野に1~2個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。コウヤマキは本州(福島以南)、四国、九州(宮崎まで)に分布する。

4) ブナ科コナラ属コナラ亜属クスギ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* Endlicher sect. *Cerris*)

(遺物 No.606)

(写真 No.606)

環孔材である。木口では大道管（～430 μm）が年輪界にそって1～数列並んで孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、厚壁で円形の小道管が単独に放射方向に配列している。放射組織は単列放射組織と非常に幅の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と対列壁孔を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には柵状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と肉眼でも見られる典型的な複合型の広放射組織が見られる。クスギ節はクスギ、アバマキがあり、本州（岩手、山形以南）、四国、九州、琉球に分布する。

5) ブナ科コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*)

(遺物 No.227,228)

(写真 No.227,228)

放射孔材である。木口では年輪に関係なくまちまちな大きさの道管（～200 μm）が放射方向に配列する。軸方向柔細胞は接線方向に1～3細胞幅の独立帯状柔細胞をつくっている。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織はおおむね平伏細胞からなり、時々上下縁辺に方形細胞が見られる。道管放射組織間壁孔は大型で柵状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と放射柔細胞の塊の間に道管以外の軸方向要素が挟まれている集合型と複合型の中間となる型の広放射組織が見られる。アカガシ亜属はイチイガシ、アカガシ、シラカシ等があり、本州（宮城、新潟以南）、四国、九州、琉球に分布する。

6) ブナ科クリ属クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)

(遺物 No.343,347,348,687,688)

(写真 No.343,347,348,687,688)

環孔材である。木口では円形ないし楕円形で大体単独の大道管（～500 μm）が年輪にそって幅のかなり広い孔圏部を形成している。孔圏外は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは2～3個集まって火炎状に配列している。柾目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり同性である。板目では多数の単列放射組織が見られ、軸方向要素として道管、それを取り囲む短冊型柔細胞の連なり（ストランド）、軸方向要素の大部分を占める木繊維が見られる。クリは北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する。

◆参考文献◆

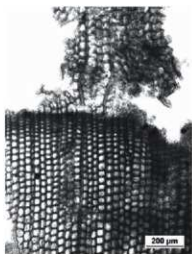
- 林 昭三「日本産木材顕微鏡写真集」京都大学木質科学研究所（1991）
- 伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載 I～V」京都大学木質科学研究所（1999）
- 島地 謙・伊東隆夫「日本の道踏出土木製品総覧」雄山閣出版（1988）
- 北村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編 I・II」保育社（1979）
- 奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第 27 冊 木器集成図録 近畿古代篇」（1985）
- 奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第 36 冊 木器集成図録 近畿原始篇」（1993）

◆使用顕微鏡◆

Nikon DS-Fil

元塚遺跡出土木製品同定表表

No.	品名	樹種
227	角材	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
228	ミカン割材	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
229	板材	ヒノキ科ヒノキ属
230	板材	ヒノキ科ヒノキ属
328	板材	ヒノキ科アスナロ属
343	柱材	ブナ科クリ属クリ
347	柱材	ブナ科クリ属クリ
348	柱材	ブナ科クリ属クリ
606	ミカン割材	ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節
687	柱材	ブナ科クリ属クリ
688	柱材	ブナ科クリ属クリ
815	柱根	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



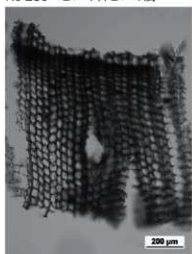
木口
No-230 ヒノキ科ヒノキ属



柁目



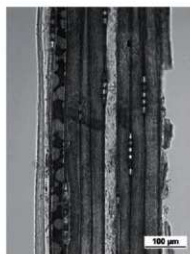
板目



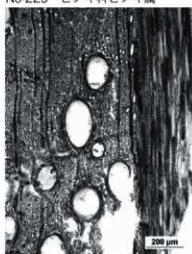
木口
No-229 ヒノキ科ヒノキ属



柁目



板目



木口
No-227 ブナ科コナラ属アカガシ亜属



柁目



板目

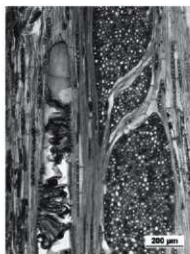


木口

No-228 ブナ科コナラ属アカガシ亜属



杣目



板目



杣目



板目

No-328 木口
ヒノキ科アスナロ属



木口

No-343 ブナ科クリ属クリ



杣目



板目



木口
No-347 ブナ科クリ属クリ



板目



板目



木口
No-348 ブナ科クリ属クリ



板目



板目



木口
No-606 ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節



板目



板目



木口

No-688 ブナ科クリ属クリ



杓目



板目



木口

No-687 ブナ科クリ属クリ



杓目

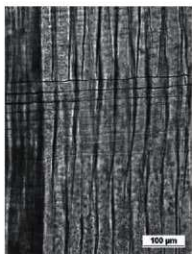


板目



木口

No-815 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



杓目



板目

第3節 元塚遺跡に係わる鍛冶関連遺物の金属学的分析業務委託

株式会社イビソク

1. はじめに

香川県埋蔵文化財センター殿より元塚遺跡に係わる鍛冶関連遺物について、化学成分分析・顕微鏡組織観察を含む金属学的分析調査を依頼された。ファイゴの羽口に付着した鉄滓6点の化学組成分析、マクロ及びミクロ組織観察、ピッカース断面硬度、EPMA分析などの分析結果にもとづき材質、出発原料、製造工程上の位置づけなどを中心に調査した。その結果について報告する。

2. 調査項目および試験・観察方法

(1) 調査項目

調査試料の記号、出土遺構・注記および調査項目を表1に示す。

(2) 調査方法

(i) 重量計測、外観観察および金属探知調査

試料重量の計量は電子天秤を使用して行い、少数点2位以下で四捨五入した。各種試験用試料を採取する前に、試料の外観をmm単位まであるスケールを同時に写し込みで撮影した。試料の出土位置や試料の種類等は提供された資料に準拠した。

着磁力調査については、直径30mmのリング状フェライト磁石を使用し、6mmを1単位として35cmの高さから吊した磁石が動き始める位置を着磁度として数値で示した。遺物内の残存金属の有無は金属探知機(MC: metal checker)を用いて調査した。金属検知にあたっては参照標準として直径と高さを等しくした金属鉄円柱(15mmφ x 1.5mmH、2.0mmφ x 2.0mmH、5mmφ x 5mmH、10mmφ x 10mmH、16mmφ x 16mmH、20mmφ x 20mmH、30mmφ x 30mmH)を使用し、これとの対比で金属鉄の大きさを判断した。

(ii) 化学組成分析

化学組成分析は鉄鋼に関するJIS分析法に準じて行っている。

- ・全鉄(T.Fe): 三塩化チタン還元-ニクロム酸カリウム滴定法。
- ・金属鉄(M.Fe): 臭素メタノール分解-EDTA滴定法。
- ・酸化第一鉄(FeO): ニクロム酸カリウム滴定法。
- ・酸化第二鉄(Fe₂O₃): 計算。・化合物(C.W.): カルフィッシャー法。
- ・炭素(C)、イオウ(S): 燃焼-赤外線吸収法。
- ・ライム(CaO)、酸化マグネシウム(MgO)、酸化マンガン(MnO)、酸化ナトリウム(Na₂O)、珪素(Si)、マンガン(Mn)、リン(P)、銅(Cu)、ニッケル(Ni)、コバルト(Co)、アルミニウム(Al)、ヴァナジウム(V)、チタン(Ti): ICP発光分光分析法。
- ・シリカ(SiO₂)、アルミナ(Al₂O₃)、酸化カルシウム(CaO)、酸化マグネシウム(MgO)、二酸化チタン(TiO₂)、酸化リン(P₂O₅)、酸化カリウム(K₂O): ガラスビード蛍光X線分析法。
但し CaO, MgO, MnO は含有量に応じて ICP 分析法またはガラスビード蛍光X線分析法を選択。
- ・酸化ナトリウム(Na₂O): 原子吸光法。

なお、鉄滓中成分は、16成分（全鉄 T.Fe、金属鉄 M.Fe、酸化第一鉄 FeO、酸化第二鉄 Fe₂O₃、シリカ SiO₂、アルミナ Al₂O₃、ライム CaO、マグネシア MgO、酸化ナトリウム Na₂O、酸化カリウム K₂O、二酸化チタン TiO₂、酸化マンガン MnO、酸化リン P₂O₅、化合物 C.W、炭素 C、ヴァナジウム V）を化学分析している。分析は各元素について分析し、酸化物に換算して表示している。

(iii) マクロ組織及び顕微鏡組織観察

試料の一部を切り出し樹脂に埋め込み、細かい研磨剤などで研磨（鏡面仕上げ）する。炉壁・羽口・粘土などの鉱物性試料については顕微鏡で観察しながら代表的な鉱物組織などを観察し、その特徴から材質、用途、熟履歴などを判断する。滓関連資料も炉壁・羽口などと同様の観察を行うが特徴的鉱物組織から成分的な特徴に結びつけ製・精錬工程の判別、使用原料なども検討する。金属鉄はナイトール（5%硝酸アルコール液）で腐食後、顕微鏡で観察しながら代表的な断面組織を拡大して写真撮影し、顕微鏡組織および介在物（不純物、非金属鉱物）の存在状態等から製鉄・鍛冶工程の加工状況や材質を判断する。原則としてマクロ組織は実体顕微鏡（5～20倍）で、ミクロ組織は顕微鏡で100倍および400倍でそれぞれ撮影する。

(iv) ビッカース断面硬度

ビッカース硬度計を用いて硬度を測定する（JIS Z 2244）。鏡面仕上げた試料面に対面角136°の四角錐ダイヤモンド圧子を一定荷重、荷重時間10秒で押し込み、生じた圧痕の対角線の平均長さdから、次式によって硬度を算出する。

$$\text{ビッカース硬度 (Hv)} = (\text{荷重}) / (\text{圧痕の表面積}) = 2P \sin(a/2) / d^2 (\text{kg/mm}^2)$$

ここで、Hvはビッカース硬度、aは対面角で136°、dは圧痕の対角線の平均長さμm、Pは荷重gfである。本測定に当たっては組織の硬さを考慮して荷重は100gfとしている。

(v) EPMA分析

真空中で試料面の直径1μm程度の範囲に焦点をあて、高速度（5～30kV）の電子線を照射すると試料面から二次電子、反射電子、特性X線などが発生する。その特性X線の波長および強度を測定することにより、存在する元素の定性あるいは定量分析を行う。電子線マイクロプローブX線アナライザー（EPMA）という。試料表面の微小部分（200μm程度以下の範囲）に存在する元素の濃度分布を測定できる。光学顕微鏡による視野（140～560倍、500μm）を同時観察できる。

3. 調査結果および考察

分析調査結果を図表にまとめて表2～5、図1～4に示す。表1に調査試料と調査項目をまとめた。表2～表3に試料の化学組成分析結果を、表4に硬度測定結果を、表5に調査結果のまとめをそれぞれ示した。

全試料の外観写真を図5～10に、試料の切断位置と切断写真を図11～16に、マクロ組織写真を図17に、顕微鏡組織写真を図18～29に、EPMAのポイント分析結果を図30～35に、マッピング分析結果を図36～41にそれぞれ示す。5. 参考には鉄滓関連鉱物の英文名、化学式などと鉄-炭素系状態図を示した。

以下、試料の番号順に述べる。

試料 No.1 鉄滓、着磁度：なし、メタル反応：なし

肉眼観察：外観写真を図5に、切断面写真を図11にそれぞれ示す。重量5.3g、長さ31.1mm、幅24.8mm、厚さ10.2mm。不整三角形をした扁平な鉄滓で軽い。酸化土砂に覆われて茶褐色を呈している。表面には1mm大の砂礫が付着している。試料のほぼ中央部分から分析試料を採取する。マクロ組織観察：20倍の断面写真を図17に示す。鉄滓組織は殆んど見られず、ほぼ全体が錆化鉄の組織である。

顕微鏡組織観察：顕微鏡組織写真を図18、19に示す。ほぼ全域が錆化鉄の組織である。

化学組成分析：化学組成分析結果を表2～3に示す。全鉄51.9%に対して金属鉄は0.22%とわずかである。FeOは1.64%、Fe₂O₃は72.1%、SiO₂は12.7%、Al₂O₃は2.0%、TiO₂は0.11%であり始発原料は砂鉄か否かは判断できない。FeO-Fe₂O₃-SiO₂の3成分系に換算するとFeOは1.9%、Fe₂O₃は83.4%、SiO₂は14.7%となる。図1のFeO-Fe₂O₃-SiO₂系の平衡状態図ではヘマタイト領域(Hematite: Fe₂O₃)にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察と一致する。

以上から本試料は錆化が内部にまで進行した鉄製品と見られる。

試料 No.2 鉄滓、着磁度：なし、メタル反応：なし

肉眼観察：外観写真を図6に、切断面写真を図12にそれぞれ示す。写真右側の滓が付着した痕跡が見られる試料を分析する。重量10.5g、長さ28.4mm、幅27.3mm、厚さ18.0mm。不整五角形で軽量感のあるフイゴの羽口に付着した鉄滓である。表面は約半分が胎土組織と見られる赤褐色を呈した部分で他は灰白色の部分である。滓そのものは黒色で破面は1、破面で見ると気泡が多数観察される。着磁、メタル反応ともになし。黒色を呈した部分から分析試料を採取する。

マクロ組織観察：10倍の断面写真を図17に示す。鉄滓組織は殆んど見られず、ほぼ全体が胎土の組織である。

顕微鏡組織観察：顕微鏡組織写真を図20・21に示す。胎土組織の中に僅かに存在するガラス組織に晶出した微細なマグネタイト(Magnetite: Fe₃O₄)組織が観察される。

化学組成分析：化学組成分析結果を表2～3に示す。胎土組織であり全鉄は8.21%と僅かで、造滓成分が87.1%を示す。FeOは1.00%、Fe₂O₃は10.5%、SiO₂は67.5%、Al₂O₃は12.4%、TiO₂は0.44%であり始発原料は砂鉄か否かは判断できない。FeO-Fe₂O₃-SiO₂の3成分系に換算するとFeOは1.3%、Fe₂O₃は13.3%、SiO₂は85.5%となる。図1のFeO-Fe₂O₃-SiO₂系の平衡状態図ではクリストバライト領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察と一致しない。試料中の鉄滓部分が極めて僅かなため羽口の胎土で希釈されたためと見られる。図2、3、4は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。図2、3、4で見ると本試料は炉壁附着滓の位置にある。

EPMA分析：マグネタイト(Magnetite: Fe₃O₄)と見られる組織をEPMAで定量分析した結果を図30に示す。ポイント分析チャート1に示すようにFe₃O₄が87.1%、SiO₂が6.4%、Al₂O₃が2.6%、MgOが1.6%、CaOが0.9%、TiO₂が0.8%含まれるが、マグネタイトが主要な組織であることが確認される。面的に化学成分を分析したマッピング分析結果を2次電子線像(SE像)とともに図36に示す。鉄(Fe)は化学式に示されるようにマグネタイト(Magnetite: Fe₃O₄)に存在している。ガラス質組織の部分には、珪酸質スラグの珪素(Si)やマグネシウム(Mg)やカルシウム(Ca)が現れている。本試料中に混入していた滓は成分的にもマグネタイトを主要鉱物としていることが明らかである。

ビッカース断面硬度：ビッカース硬度計を用いて断面硬度を測定した結果を表4に示す。マグネタイト (Magnetite: Fe_3O_4) 組織と見られる部分の硬度は Hv592 を示した。

以上から本試料はガラス組織中に微細なマグネタイト組織が晶出した鉄滓が付着したファイゴの羽口片と思われる。

試料 No.3 鉄滓、着磁度：なし、メタル反応：なし

肉眼観察：外観写真を図7に、切断面写真を図13にそれぞれ示す。重量 5.8g、長さ 26.0mm、幅 16.3mm、厚さ 16.1mm。不整四角形で軽量感のあるファイゴの羽口に付着した鉄滓である。表面は灰白色であるが局所的に赤褐色を呈した部分があり、下面側には 1mm 大の気泡が見られる。滓そのものは黒色で破面は 4、破面で見ると気泡が多数観察され、多孔質である。着磁、メタル反応ともになし。黒色を呈した部分から分析試料を採取する。

マクロ組織観察：10倍の断面写真を図17に示す。鉄滓組織は殆んど見られず、ほぼ全体が胎土の組織である。

顕微鏡組織観察：顕微鏡組織写真を図22、23に示す。胎土組織の中に僅かに存在するガラス組織に晶出した微細なマグネタイト (Magnetite: Fe_3O_4) 組織、及びファイヤライト (Fayalite: $2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$) 組織などが観察される。

化学組成分析：化学組成分析結果を表2～3に示す。胎土組織であり全鉄は 4.70% と僅かで、造滓成分が 91.5% を示す。 FeO は 0.50%、 Fe_2O_3 は 6.02%、 SiO_2 は 72.5%、 Al_2O_3 は 14.0%、 TiO_2 は 0.45% であり始発原料は砂鉄か否かは判断できない。 $\text{FeO-Fe}_2\text{O}_3\text{-SiO}_2$ の 3 成分系に換算すると FeO は 0.6%、 Fe_2O_3 は 7.6%、 SiO_2 は 91.7% となる。図1の $\text{FeO-Fe}_2\text{O}_3\text{-SiO}_2$ 系の平衡状態図ではクリストバライト領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察と一致しない。試料中の鉄滓部分が極めて僅かなため羽口の胎土で希釈されたためと見られる。図2、3、4は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。図2、3、4で見ると本試料は炉壁付着滓の位置にある。

EPMA 分析：マグネタイト (Magnetite: Fe_3O_4) と見られる組織を EPMA で定量分析した結果を図31に示す。ポイント分析チャート2に示すように Fe_2O_3 が 91.0%、 SiO_2 が 3.7% で、 Al_2O_3 が 2.3%、 MgO が 1.1%、 CaO が 0.5%、 MnO が 0.6%、 TiO_2 が 0.6% 含まれるが、マグネタイトが主要な組織であることが確認される。面的に化学成分を分析したマッピング分析結果を 2 次電子線像 (SE 像) とともに図37に示す。鉄 (Fe) は化学式に示されるようにマグネタイト (Magnetite: Fe_3O_4)、及びファイヤライト (Fayalite: $2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$) に存在している。ガラス質組織の部分には、珪酸質スラグの珪素 (Si) やマグネシウム (Mg) やカルシウム (Ca) が現れている。本試料中に混入していた滓成分的にもマグネタイト、及びファイヤライトを主要鉱物としていることが明らかである。

ビッカース断面硬度：ビッカース硬度計を用いて断面硬度を測定した結果を表4に示す。マグネタイト (Magnetite: Fe_3O_4) 組織と見られる部分の硬度は Hv594 を示した。

以上から本試料はガラス組織中に微細なマグネタイト、及びファイヤライト組織が晶出した鉄滓が付着したファイゴの羽口片と思われる。

試料 No.4 鉄滓、着磁度：なし、メタル反応：なし

肉眼観察：外観写真を図8に、切断面写真を図14にそれぞれ示す。重量 10.5g、長さ 30.6mm、幅

23.4mm、厚さ 16.7mm。内径がφ 25mm 程度をしたフイゴ羽口の破片に滓が付着した鉄滓で多孔質である。上面側は黄褐色、下面側は淡紫色を呈しており、1 mm 大の気泡が多数観察される。破面は 3、滓は黒色のガラス状を呈し、着磁、メタル反応ともになし。黒色を呈した部分から分析試料を採取する。マクロ組織観察：10 倍の断面写真を図 17 に示す。鉄滓組織は殆んど見られず、ほぼ全体が胎土の組織である。

顕微鏡組織観察：顕微鏡組織写真を図 24、25 に示す。胎土組織の中に僅かに存在するガラス組織に晶出した微細なマグネタイト (Magnetite: Fe_3O_4) 組織、及びファイヤライト (Fayalite: $2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$) 組織などが観察される。

化学組成分析：化学組成分析結果を表 2～3 に示す。胎土組織であり全鉄は 6.74% と僅かで、造滓成分が 88.8% を示す。FeO は 1.44%、 Fe_2O_3 は 7.89%、 SiO_2 は 67.3%、 Al_2O_3 は 13.7%、 TiO_2 は 0.49% であり始発原料は砂鉄か否かは判断できない。FeO- Fe_2O_3 - SiO_2 の 3 成分系に換算すると FeO は 1.9%、 Fe_2O_3 は 10.3%、 SiO_2 は 87.8% となる。図 1 の FeO- Fe_2O_3 - SiO_2 系の平衡状態図ではクリストバライト領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察と一致しない。試料中の鉄滓部分が極めて僅かなため羽口の胎土で希釈されたためと見られる。図 2、3、4 は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。図 2、3、4 で見ると本試料は炉壁付着滓の位置にある。

EPMA 分析：マグネタイト (Magnetite: Fe_3O_4) と見られる組織を EPMA で定量分析した結果を図 32 に示す。ポイント分析チャート 3 に示すように Fe_2O_3 が 75.3%、 SiO_2 が 12.1% で、 Al_2O_3 が 6.9%、MgO が 1.4%、CaO が 0.6%、MnO が 0.8%、 TiO_2 が 1.3% 含まれるが、マグネタイトが主要な組織であることが確認される。面的に化学成分を分析したマッピング分析結果を 2 次電子線像 (SE 像) とともに図 38 に示す。鉄 (Fe) は化学式に示されるようにマグネタイト (Magnetite: Fe_3O_4)、及びファイヤライト (Fayalite: $2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$) に存在している。ガラス質組織の部分には、珪酸質スラグの珪素 (Si) やマグネシウム (Mg) やカルシウム (Ca) が現れている。本試料中に混入していた滓は成分的にもマグネタイトを主要鉱物としていることが明らかである。

ピッカース断面硬度：ピッカース硬度計を用いて断面硬度を測定した結果を表 4 に示す。マグネタイト (Magnetite: Fe_3O_4) 組織と見られる部分の硬度は Hv601 を示した。

以上から本試料はガラス組織中に微細なマグネタイト、及びファイヤライト組織が晶出した鉄滓が付着したフイゴの羽口片と思われる。

試料 No.5 鉄滓、着磁度：2、メタル反応：なし

肉眼観察：親写真を図 9 に、切断面写真を図 15 にそれぞれ示す。試料は大小合わせて 8 個あったが最も大きい写真右下の試料を分析した。重量 13.2g、長さ 24.9mm、幅 22.5mm、厚さ 15.7mm。不整三角形をした栗のような形をした鉄滓の小片であるが緻密で重量感がある。表面は酸化土砂に覆われて茶褐色を呈しているが滓そのものは黒色である。破面は 3 で、4mm 大の穴があいている。着磁度は 2 でメタル反応はない。中央部分から分析試料を採取する。

マクロ組織観察：20 倍の断面写真を図 17 に示す。全面に白色蘭玉状のウスタイト (Wustite: FeO) 組織が見える。

顕微鏡組織観察：顕微鏡組織写真を図 26、27 に示す。全面に白色蘭玉状のウスタイト (Wustite: FeO) 組織、マグネタイト (Fe_3O_4) 組織、及び背面にファイヤライト (Fayalite: $2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$) 組織が観察される。

化学組成分析：化学組成分析結果を表2～3に示した。全鉄56.3%に対して金属鉄は0.13%とわずかである。FeOは58.3%、Fe₂O₃は15.5%、SiO₂は19.1%、Al₂O₃は2.60%、CaOは1.13%、MgOは0.29%、MnOは0.05%、TiO₂は0.13%である。FeO-Fe₂O₃-SiO₂の3成分系に換算するとFeOは62.7%、Fe₂O₃は16.7%、SiO₂は20.6%となり図1のFeO-Fe₂O₃-SiO₂系の平衡状態図ではウスタイト(Wustite:FeO)組織、ファイヤライト(Fayalite:2FeO·SiO₂)組織、及びマグネタイト(Fe₃O₄)組織の境界領域にあり顕微鏡観察結果と一致する。図2、3、4は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。これら図における位置関係では本試料は砂鉄系鍛錬治滓Gr.の位置にあり、CaO、MgO、MnO等が低いことなどからも始発原料は砂鉄の可能性が高いと判断される。

EPMA分析：ウスタイト(Wustite:FeO)、及びファイヤライト(Fayalite:2FeO·SiO₂)と見られる組織をEPMAで定量分析した結果を図33、34に示す。ポイント分析チャート4にウスタイトと見られる組織を示す。FeOが100%を示し、ウスタイトが主要な組織であることが確認される。ポイント分析チャート5にファイヤライトと見られる組織を示す。FeOが55.8%、SiO₂が26.3%で、MgOが0.4%、CaOが17.5%含まれるが、ファイヤライトが主要な組織であることが確認される。面的に化学成分を分析したマッピング分析結果を2次電子線像(SE像)とともに図39、40に示す。鉄(Fe)は化学式に示されるようにウスタイト(Wustite:FeO)、及びファイヤライト(Fayalite:2FeO·SiO₂)に存在している。ガラス質組織の部分には、珪酸質スラグの珪素(Si)やマグネシウム(Mg)やカルシウム(Ca)が現れている。本試料中に混入していた滓は成分的にもウスタイト、及びファイヤライトを主要鉱物としていることが明らかである。

ピッカース断面硬度：ピッカース硬度計を用いて断面硬度を測定した結果を表4に示す。ウスタイト(Wustite:FeO)組織と見られる部分の硬度はHv486、ファイヤライト(Fayalite:2FeO·SiO₂)組織と見られる部分の硬度はHv668をそれぞれ示した。

以上を総合すると、本試料は砂鉄を始発原料とする鉄素材の鍛錬治滓工程で生じた鉄滓と判断される。

試料No.6 鉄滓、着磁度：なし、メタル反応：なし

肉眼観察：外観写真を図10に、切断面写真を図16にそれぞれ示す。重量232g、長さ57.3mm、幅44.9mm、厚さ18.7mm。上面には小山のような凸があるフイゴ羽口の破片に滓が付着した鉄滓で、上面には矩形の窪みがあり、下面側には褶曲模様が見られる。表面は灰白色を呈しているが、鉄滓が付着したと見られる部分は暗黄緑色を呈している。表面には軽石のようにブツブツとした小さな気泡が多数観察される。着磁、メタル反応はともになし。僅かに存在する黑色を呈した部分から分析試料を採取する。**マクロ組織観察：**10倍の断面写真を図17に示す。鉄滓組織は殆んど見られず、ほぼ全体が胎土の組織である。

顕微鏡組織観察：顕微鏡組織写真を図28、29に示す。胎土組織の中に僅かに存在するガラス組織に晶出した微細なマグネタイト組織が観察される。

化学組成分析：化学組成分析結果を表2～3に示す。胎土組織であり全鉄は9.70%と僅かで、造滓成分が85.2%を示す。FeOは1.66%、Fe₂O₃は11.9%、SiO₂は66.9%、Al₂O₃は9.8%、TiO₂は0.44%であり始発原料は砂鉄か否かは判断できない。FeO-Fe₂O₃-SiO₂の3成分系に換算するとFeOは2.1%、Fe₂O₃は14.8%、SiO₂は83.2%となる。図1のFeO-Fe₂O₃-SiO₂系の平衡状態図ではクリストバライト領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察と一致しない。試料中の鉄滓部分が極めて僅かなため羽口

の胎土で希釈されたためと見られる。図2、3、4は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。図2、3、4で見ると本試料は炉壁付着滓の位置にある。

EPMA分析：マグネタイト (Magnetite: Fe_3O_4) と見られる組織をEPMAで定量分析した結果を図35に示す。ポイント分析チャート6に示すように Fe_3O_4 が94.3%、 SiO_2 が0.4%で、 Al_2O_3 が3.0%、 MgO が1.2%、 TiO_2 が1.1%含まれるが、マグネタイトが主要な組織であることが確認される。面的に化学成分を分析したマッピング分析結果を2次電子線像(SE像)とともに図41に示す。鉄(Fe)は化学式に示されるようにマグネタイト(Magnetite: Fe_3O_4) に存在している。ガラス質組織の部分には、珪酸質スラグの珪素(Si)やマグネシウム(Mg)やカルシウム(Ca)が現れている。本試料中に混入していた滓は成分的にもマグネタイトを主要鉱物としていることが明らかである。

ピッカース断面硬度：ピッカース硬度計を用いて断面硬度を測定した結果を表4に示す。マグネタイト(Magnetite: Fe_3O_4) 組織と見られる部分の硬度はHv605を示した。

以上から本試料はガラス組織中に微細なマグネタイト組織が晶出した鉄滓が付着したファイゴの羽口片と思われる。

4. まとめ

瓦塚遺跡から出土した鉄滓6点について材質、出発原料、製造工程上の位置づけなどを中心に調査した結果、No.1は銹化が内部にまで進行した銹化鉄の小片、No.5は砂鉄を始発原料とした鉄源の鍛錬鍛冶工程で生成した鉄滓、他の4点(No.2,3,4,6)は、ガラス質組織の部分に微細なマグネタイト、及びファイヤライト組織が晶出した鉄滓が付着したファイゴの羽口と思われる。

5. 参考

(1) 鉄滓の顕微鏡組織について：鉄滓を構成する化合物結晶には、一般的に表A1のような鉱物組織がある。酸化鉄 (Fe_2O_3 , Fe_3O_4 , FeO)、二酸化ケイ素 (シリカ; SiO_2)、アルミナ (Al_2O_3) および二酸化チタン (TiO_2) を組み合わせた化合物 (固溶体) が多く、これら鉱物結晶は含有量にも依存するが、X線回折により検出され確認できる。鉄滓中の低融点化合物がガラス相 (非晶質) を形成することがあり、X線回折では検出されない。

表 A 1 鉄滓の顕微鏡鉱物組織とその観察状況

鉱物組織名 (和)	鉱物名 (英)	化学式	偏光顕微鏡観察状況
ヘマタイト	Hematite	α - Fe_2O_3	赤褐色～赤紫色
マग्ネタイト	Magnetite	γ - Fe_3O_4	赤紫色～黒紫色
マグネタイト	Magnetite	Fe_3O_4	白青色、四角または多角盤状
ウスタイト	Wustite	FeO	灰白色、薩玉状または樹枝状
ファイヤライト	Fayalite	$2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$	薄い青灰色、短冊状の長い結晶
ウルボスピネル	Ulvospinel	$2\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$	白色、四角～角形板状結晶
イルメナイト	Ilmenite	$\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$	白色、針状・棒状の長い結晶
シュードブルッカイト	Pseudobrookite	$\text{FeO} \cdot 2\text{TiO}_2$	白色、針状の結晶
ハロイサイト	Halkosite	$\text{Al}_2\text{O}_3 \cdot 2\text{SiO}_2 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$	X線で同定できたが組織は不明
ハーシナイト	Hercynite	$\text{FeO} \cdot \text{Al}_2\text{O}_3$	ウスタイト中に析出、ごま粒状。
アカゲナイト	Akaganeite	β - FeOOH	X線で同定できたが組織は不明
ゲーサイト	Goethite	α - FeOOH	白～黄色、リンク状が多い。

(2) 鉄 - 炭素系平衡状態図

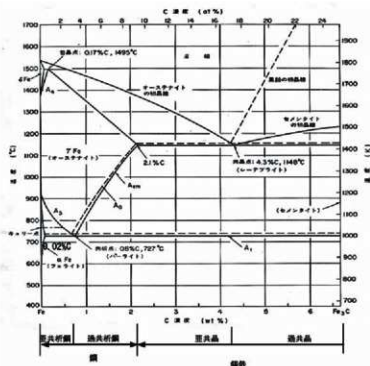


表1 調査試料と調査項目

試料	調査区	遺構名	種別	肉眼観察	マクロ組織観察	顕微鏡組織観察	化学組成分析		EPMA分析	ピッカース断面硬度
No.1	Ⅴ区	SR604	鉄滓	○	○	○	○	-	-	
No.2	Ⅴ区	SX605 北東	鉄滓	○	○	○	○	○	○	
No.3	Ⅴ区	SR601	鉄滓	○	○	○	○	○	○	
No.4	Ⅴ区	SR602 中央	鉄滓	○	○	○	○	○	○	
No.5	Ⅳ区	SR401 南	鉄滓	○	○	○	○	2 ○	2 ○	
No.6	Ⅴ-1区	SX804	鉄滓	○	○	○	○	○	○	

表2 鉄滓の化学組成分析結果 (%)

試料	T. Fe	M. Fe	FeO	Fe ₂ O ₃	SiO ₂	Al ₂ O ₃	CaO	MgO	K ₂ O	Na ₂ O	比率	
											FeO	Fe ₂ O ₃
No.1	51.9	0.22	1.64	72.1	12.7	2.0	0.66	0.13	0.29	0.17	2.2	97.8
No.2	8.21	0.11	1.00	10.5	67.5	12.4	1.85	0.73	3.61	1.02	8.7	91.3
No.3	4.70	0.10	0.50	6.02	72.5	14.0	0.88	0.54	2.67	0.92	7.7	92.3
No.4	6.74	0.10	1.44	7.89	67.3	13.7	2.94	0.94	2.60	1.34	15.4	84.6
No.5	56.3	0.13	58.3	15.5	19.1	2.60	1.13	0.29	0.58	0.72	79.0	21.0
No.6	9.70	0.11	1.66	11.9	66.9	9.80	2.37	0.79	4.23	1.06	12.3	87.7

表3 鉄滓の化学組成分析結果 (続き) (%)

試料	TiO ₂	MnO	P ₂ O ₅	C	化合水	V	TiO ₂ /TFe	MnO/TiO ₂	造滓成分
No.1	0.11	0.30	0.273	0.60	8.81	< 0.001	0.002	27273	16.0
No.2	0.44	0.11	0.093	0.11	0.55	< 0.001	0.054	0.2590	87.1
No.3	0.45	0.06	0.059	0.19	1.09	< 0.001	0.096	0.1333	91.5
No.4	0.49	0.22	0.106	0.21	0.70	< 0.001	0.073	0.4490	88.8
No.5	0.13	0.05	0.171	0.11	1.16	< 0.001	0.002	0.3846	24.4
No.6	0.44	0.10	0.074	0.10	0.51	< 0.001	0.045	0.2273	85.2

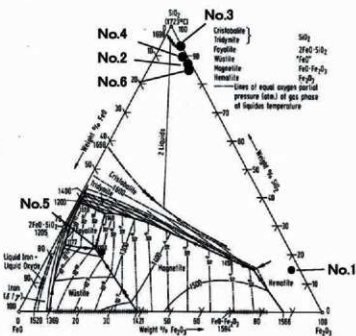
造滓成分 = SiO₂ + Al₂O₃ + CaO + MgO + Na₂O + K₂O

表4 硬度試験結果

No.2	No.3	No.4	No.5		No.6
マグネタイト	マグネタイト	マグネタイト	ウスタイト	ファイヤライト	マグネタイト
592	594	601	486	668	605

表5 個別試料のまとめ

試料	注記番号	調査区	遺構名	種別	調査結果
No.1	D0415	Ⅵ区	SR604	鉄滓	錆化が内部にまで進行した鉄製品
No.2	X0095	Ⅵ区	SX605 北東	鉄滓	微細なマグネタイト組織が晶出した鉄滓が付着したフイゴの羽口片
No.3	R0581	Ⅵ区	SR601	鉄滓	微細なマグネタイト組織が晶出した鉄滓が付着したフイゴの羽口片
No.4	R0584	Ⅵ区	SR602 中央	鉄滓	微細なマグネタイト組織が晶出した鉄滓が付着したフイゴの羽口片
No.5	R0577	Ⅳ区	SR401 南	鉄滓	砂鉄を始発原料とする鉄素材の鍛錬鍛冶工程で生じた鉄滓
No.6	D1141	Ⅴ-1区	SX804	鉄滓	微細なマグネタイト組織が晶出した鉄滓が付着したフイゴの羽口片



FeO-Fe₂O₃-SiO₂系状態図 (by Osborn and Muan) :Slag Atlas
 [ドイツ鉄鋼協会](1981) [Verlag Stahleisen] Düsseldorf, Fig. 106, p.76

図1 FeO-Fe₂O₃-SiO₂系鉄滓の平衡状態図

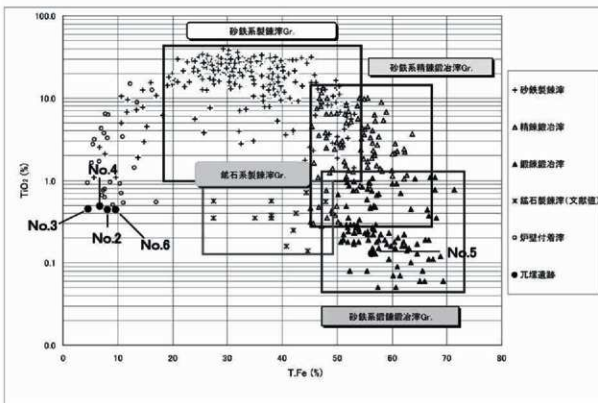


図2 製錬滓、精錬滓、及び鍛錬滓の分類

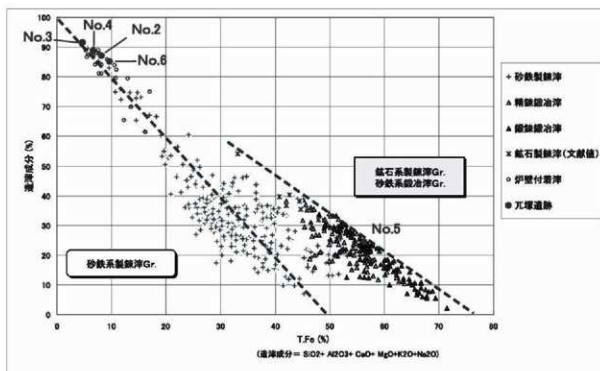


図 3 製錬洋と鋳冶洋の分類

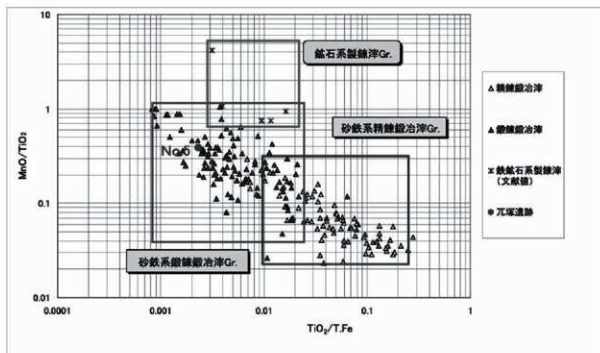


図 4 精錬鋳冶洋と鋳錬鋳冶洋の分類

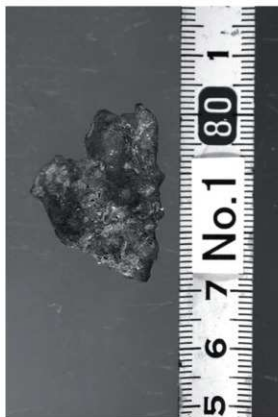


図5 外觀写真 No.1



図6 外觀写真 No.2



図7 外觀写真 No.3



図8 外觀写真 No.4

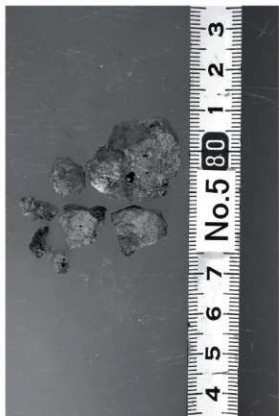


図 10 外觀写真 No. 6

図 9 外觀写真 No. 5

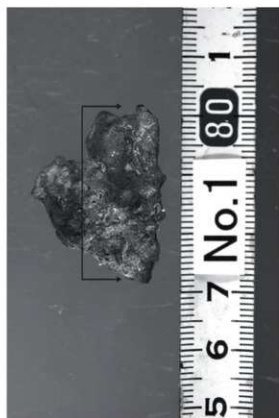


図 11 切断面写真 No.1



図 12 切断面写真 No.2

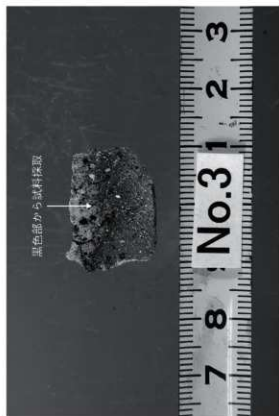
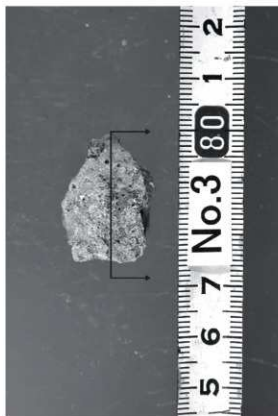


図13 切断面写真 No.3



図14 切断面写真 No.4

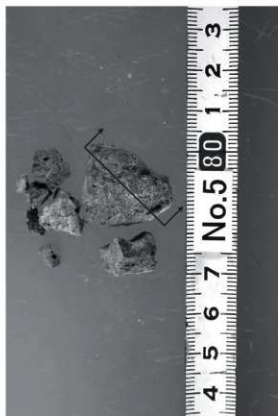
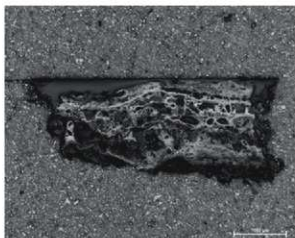


図 15 切断面写真 No.5



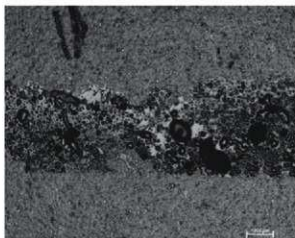
図 16 切断面写真 No.6



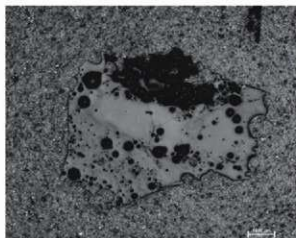
マクロ写真 No.1



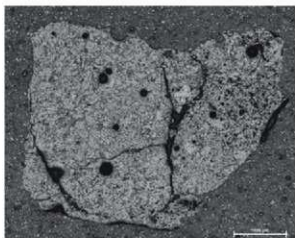
マクロ写真 No.2



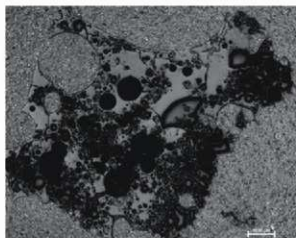
マクロ写真 No.3



マクロ写真 No.4

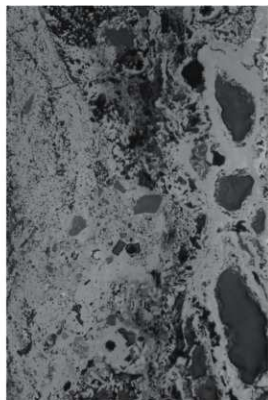


マクロ写真 No.5

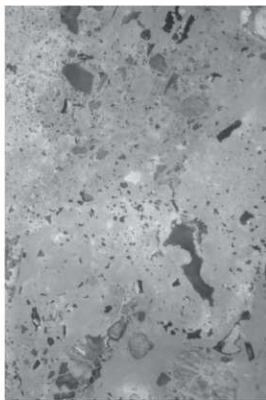


マクロ写真 No.6

図 17 マクロ写真No.1～6

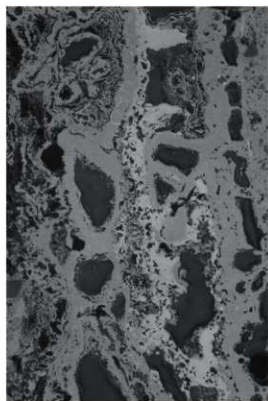


x 100

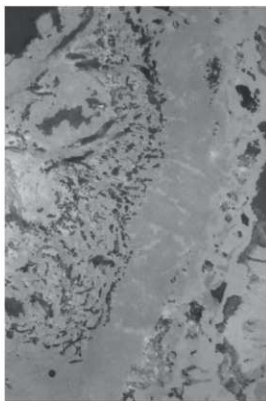


x 400

图 18 显微镜相组织写真 No.1-1



x 100



x 400

图 19 显微镜相组织写真 No.1-2

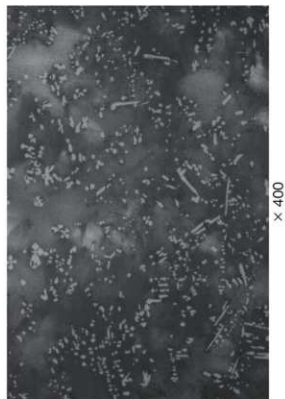
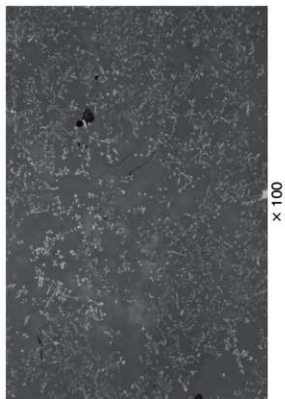


图 20 顕微鏡組織写真 No.2-1

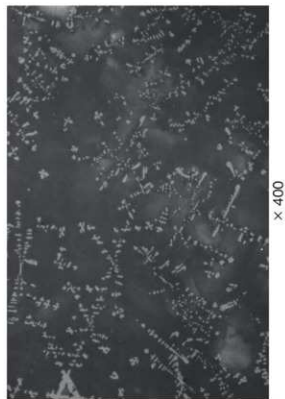
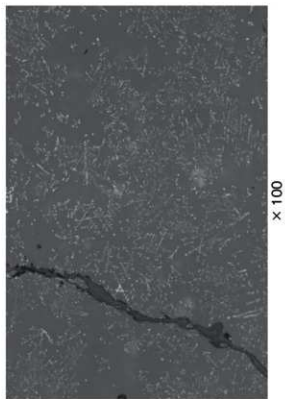
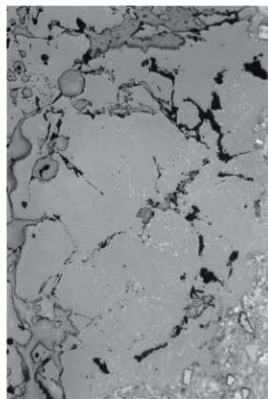
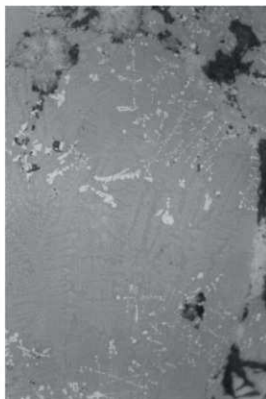


图 21 顕微鏡組織写真 No.2-2

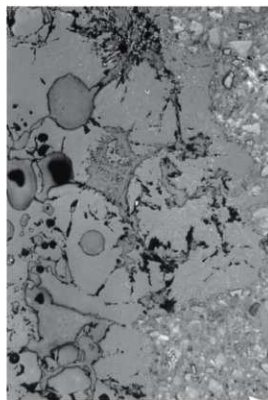


x 100

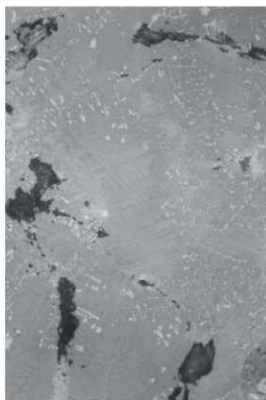


x 400

図 22 顕微鏡組織写真 No.3-1



x 100



x 400

図 23 顕微鏡組織写真 No.3-2

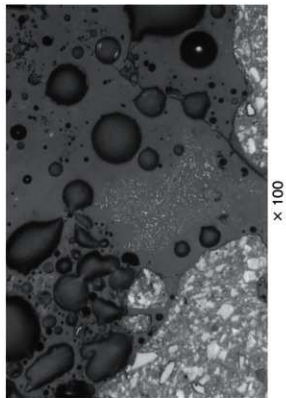


圖 24 顯微鏡組織写真 No.4-1

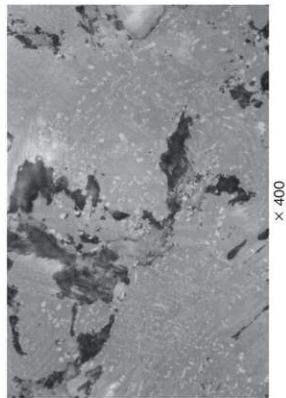
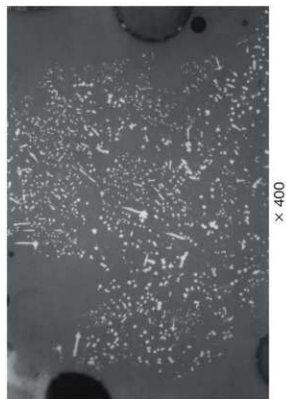
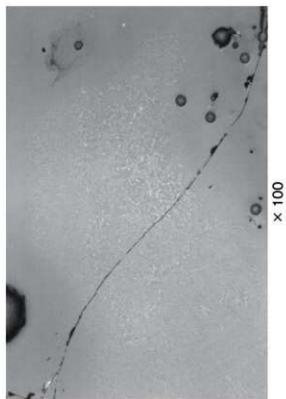
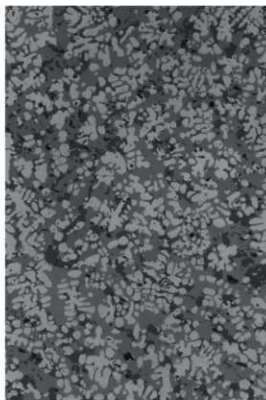
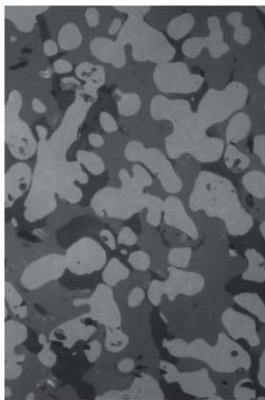


圖 25 顯微鏡組織写真 No.4-2



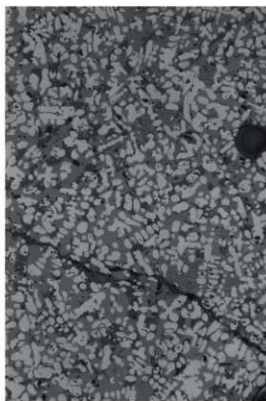


x 100

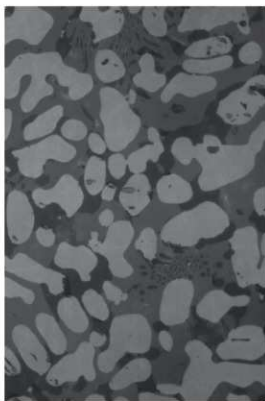


x 400

図 26 顕微鏡組織写真 No.5-1



x 100



x 400

図 27 顕微鏡組織写真 No.5-2

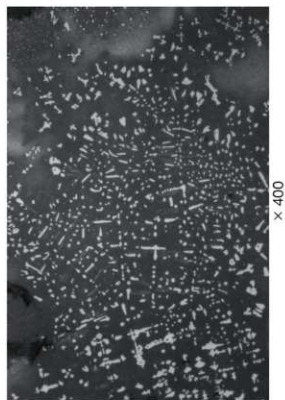
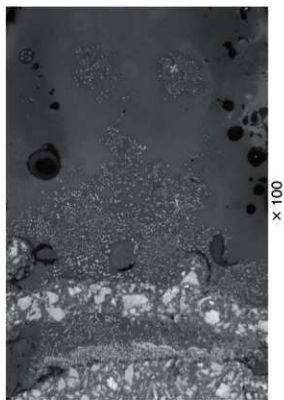


圖 28 顯微鏡組織写真 No.6-1

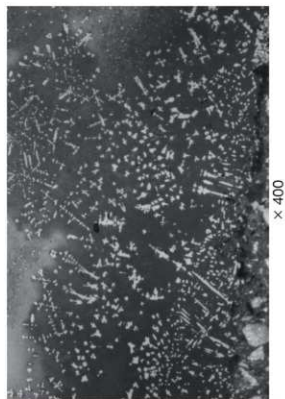
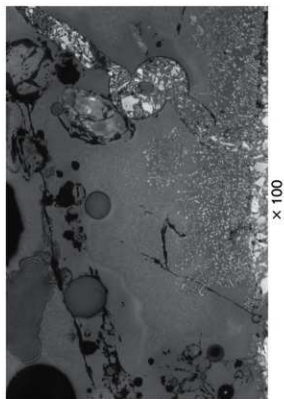


圖 29 顯微鏡組織写真 No.6-2

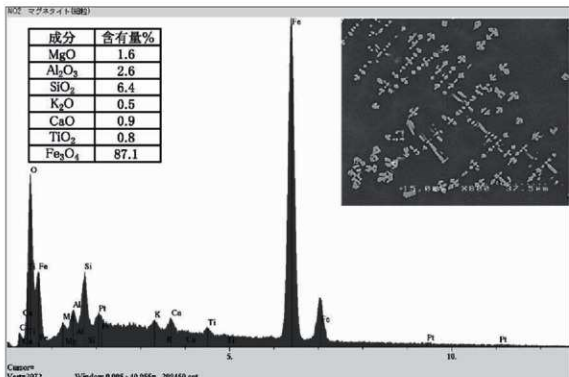


図 30 ポイント分析チャート1 (No.2: マグネタイト (Magnetite: Fe₃O₄))

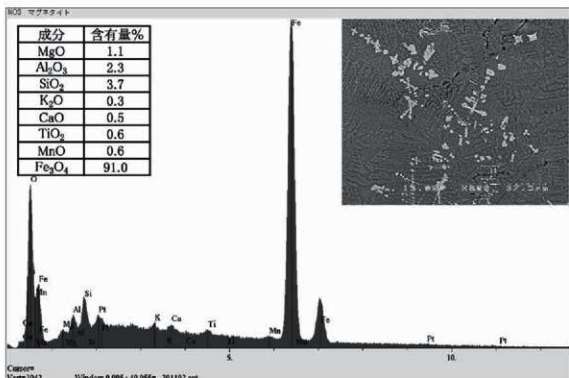


図 31 ポイント分析チャート2 (No.3: マグネタイト (Magnetite: Fe₃O₄))

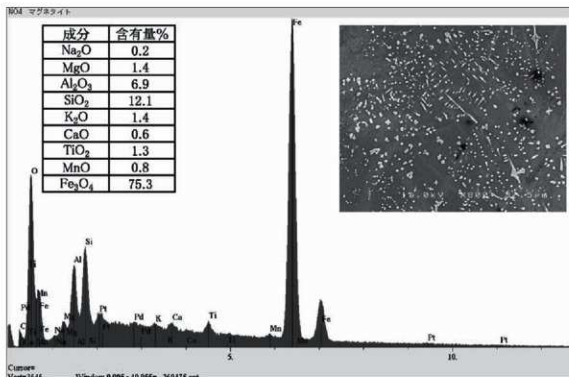


図 32 ポイント分析チャート 3 (No.4: マグネタイト (Magnetite: Fe₃O₄))

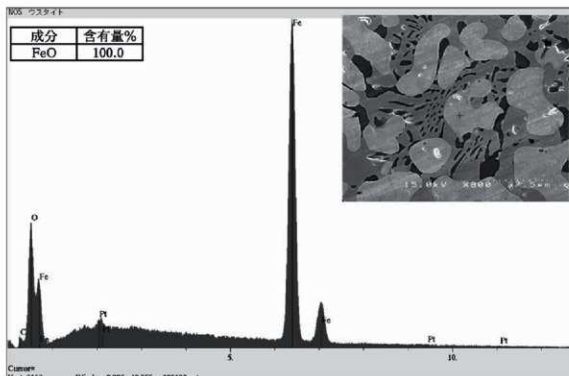


図 33 ポイント分析チャート 4 (No.5: ウスタイト (Wustite:FeO))

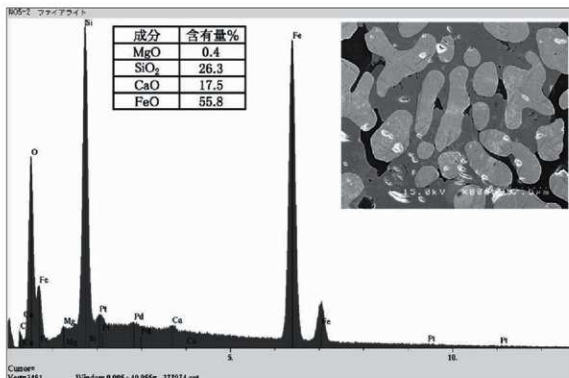


図 34 ポイント分析チャート 5 (No.5: ファイヤライト $\text{Fayalite:}2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$)

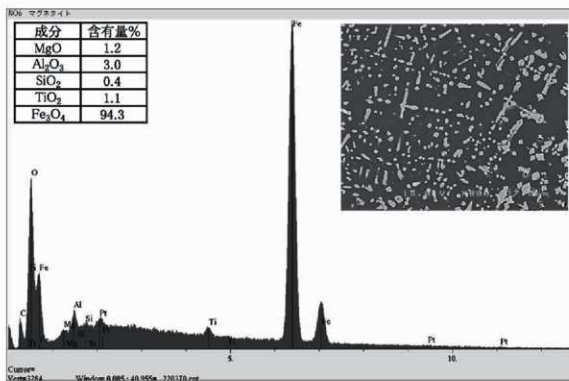
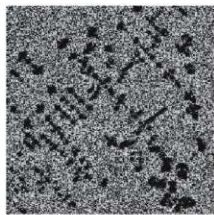


図 35 ポイント分析チャート 6 (No.6: マグネタイト (Magnetite: Fe_3O_4))



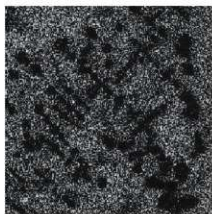
元素：Si



元素：O



元素：Ti



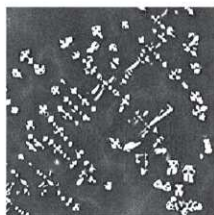
元素：Ca



元素：Fe



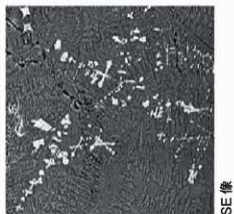
元素：K



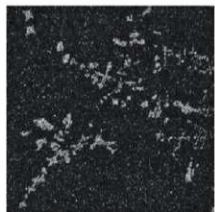
SE像

元素：Al

図 36 マッピング分析結果 1 No.2 x 800



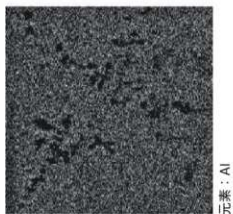
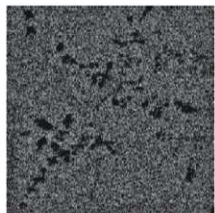
元素：Fe



元素：Ti



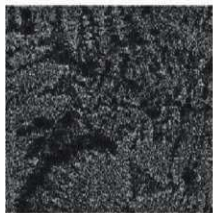
元素：Si



元素：Al



元素：K



元素：Ca



元素：O

図 37 マッピング分析結果 2 No.3 x 800

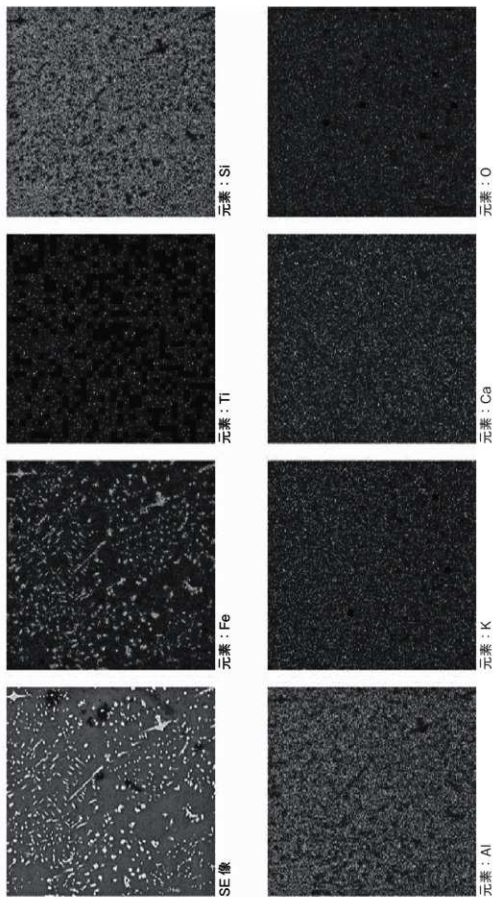


図 38 マッピング分析結果 3 No.4 x 800

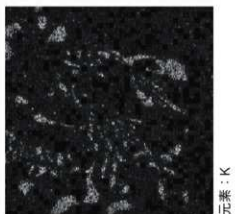
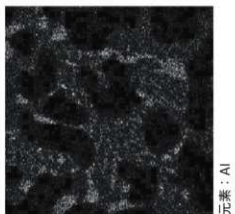
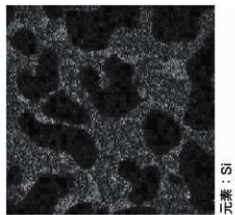
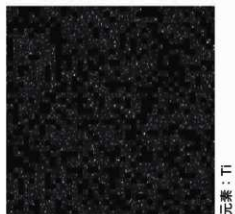
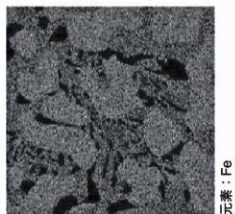
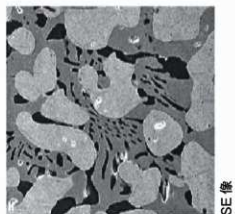


図 39 マッピング分析結果 4 No.5-1 x 800

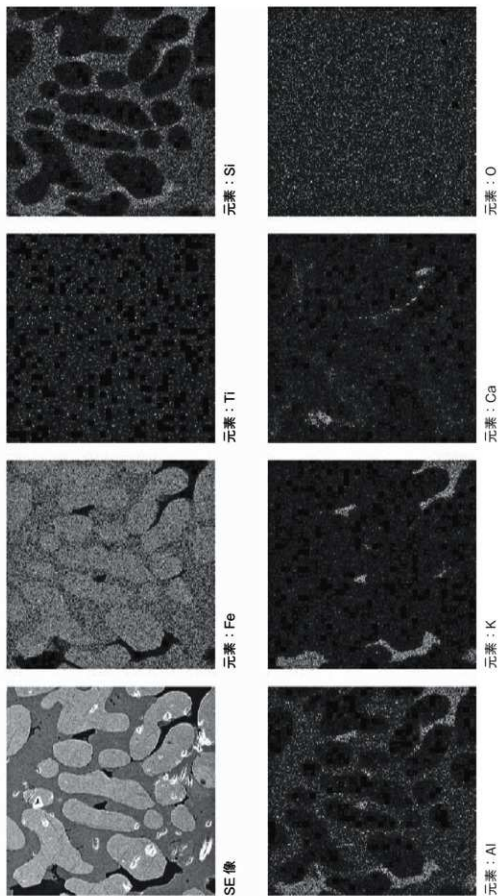
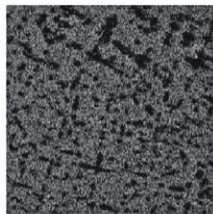


図 40 マッピング分析結果 5 No.5-2 x 800



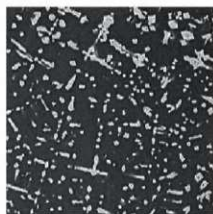
元素：Si



元素：Ti



元素：Fe



SE 像



元素：O



元素：Ca



元素：K



元素：Al

図 41 マッピング分析結果 6 No.6 x 800

第七章 まとめ 一 元塚遺跡の歴史の変遷一

1. はじめに

前章までに元塚遺跡の遺構・遺物の報告をしたが、記述した諸遺構の事実関係を整理し、元塚遺跡の概要を時代順にまとめたい。前章までに報告した遺構・遺物を大まかに時代順に分ければ、①旧石器～縄文時代 ②弥生時代 ③古代前半 ④中世前半 ⑤近世以降の5時期に大別できる。次にこの区分をもとに元塚遺跡の集落の動向について時代順に説明する。

2. 旧石器～縄文時代

旧石器・縄文時代と考えられる石器が数点ある。主なものでは、有舌尖頭器(591) 横長剥片石核(354・602・646)等があげられる。元塚遺跡周辺では、第三章第2節で触れたように、旧石器時代に係わる遺跡・遺物の資料は比較的豊富である。代表的な遺跡として中間西井坪遺跡・中間東井坪遺跡・正箱遺跡・中森遺跡等の資料がある。瀬戸内技法以降の特徴を留めた石器群を確認できる遺跡もあり、今後も隣接地の調査の際には注意を要する。

3. 弥生時代

I～VI区までの自然河川SR301・302・401・602からは少量ではあるが、河川の下位層を中心に弥生中期中葉～後期の土器・石器等が出土しており、これらの河川は弥生時代中期以降から埋没が始まり、7～8世紀頃には平坦化したようである。また、河川から弥生時代中～後期の土器が出土することは、調査区外の隣接地に同時期の集落が展開しているものと考えられるため、周辺域の今後の調査に期待される。

V区では中期中葉頃の円形の周溝状遺構ST501・502を検出した。周溝状遺構の性格については、住居の外周を囲う周溝ないし円形周溝墓の可能性が高い。ただ、周溝内は径3.5～4.5m程の範囲しかなく、住居が納まるとは考えられないため、円形周溝墓の可能性が高い。ただ、削平を受け主体部を欠くため若干の問題を残している。なお、ST501・502周辺には周溝状遺構とも考えられるSD501・515等の溝跡がある。これらの溝跡は湾曲した溝状遺構で、他遺構により大部分が壊されており、本来の形状については不明瞭な点が多い。仮にSD501・515等が円形周溝墓の残骸であれば、V区周辺域が当時の墓域として土地使用がなされていたことの補強資料になる。

4. 古代前半

(1) 集落の分布域

7～8世紀前半頃の比較的短期間の集落跡を確認した。集落はVI区～IX区までの広範囲な区域に広がる。住居跡は32棟の建物と1棟の竪穴建物を確認した。住居跡の分布を大まかに分ければ、集落I～IIIに区分できる。集落IはVI区の建物6棟、集落IIはVI・VII-1～3区の建物23棟と竪穴建物1棟、集落IIIはIX-1区の大規模建物1棟で構成され、分布状況から集落II周辺が中心域であることが解る。

弥生時代以降開発が及んでいない地域に、古墳時代後期末～古代前半頃新たな集落が開始される事例は県下でも数多く確認できる現象で、これらの集落は在地の有力な豪族層の主導による、新たな農地開

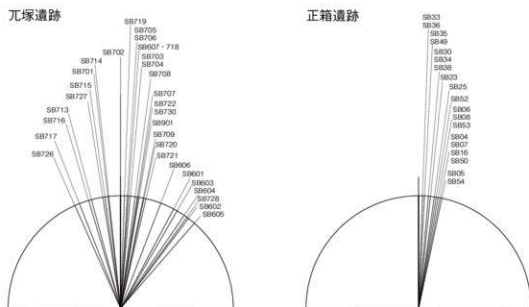
発を意図した集落の可能性が考えられており(註1)、7～8世紀前半の兀塚遺跡集落もその一例と考えられる。

(2) 建物主軸方位・時期区分

建物からの出土遺物は少なく、時期判断が容易ではない。そのため、建物の主軸方位や他遺構との係わりを考慮したうえで時期判断の根拠にしたい。兀塚遺跡の建物主軸方位を分類すれば5グループに分けられる。各グループと建物相互の関係は第5表に記載した通りである。

第5表 兀塚遺跡古代I～Ⅲ期建物主軸方位類型別一覧

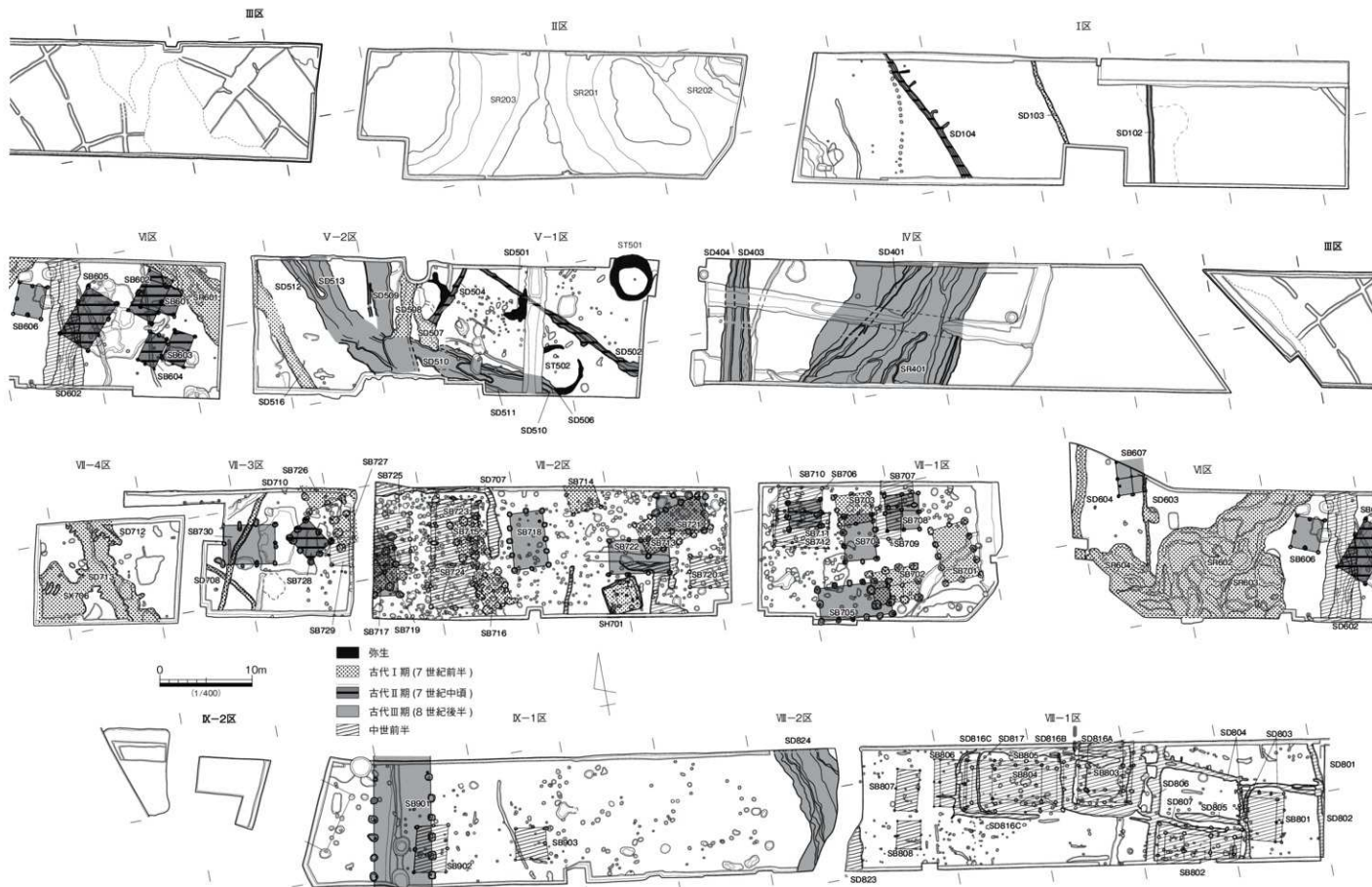
主軸方位グループ	方位	建物	数	時期	類似遺構
①	N15～24°W	713・716・717・726	4	7C前半	
②	N5～9°W	701・703・714・715・727	5	7C前半	SH701(N8°W)
③	N0°	702	1	7C前半	
④	N2～13°E	607・704・705・706・707・708・709・718・719・720・721・722・730・901	14	8C後半	SD403・404(N13°E)
⑤	N28～41°E	601・602・603・604・605・728	6	7C中頃～	
他		606	1		
		合計	31		



第149図 兀塚遺跡・正箱遺跡建物主軸方位分布図

①～⑤グループの主軸方位の違いは時期差を表している可能性が高いが、各グループ内では出土遺物が少なく時期が解る建物は少ない。そのため、先述したように周辺の他遺構と他遺跡の事例を考慮したうえで、大まかながら時期判断を行うことにする。

①・③グループは各建物の出土遺物しか判断材料はないため、少量の出土遺物から概ね7世紀前半頃に推定したい。②グループの時期判断の補足資料として、堅穴建物SH701があげられる。SH701は7世紀前半の住居で、主軸方位はN8°Wを測り②グループに含まれる。そのため、②グループを7世紀前半頃と考える根拠の一つになる。次に④グループと条里地割の係わりに付いて触れる。当地周辺の条



第150图 元塚遺跡遺構変遷図

里地割は北から10°前後東に振る方位で、周辺の調査事例から8世紀中頃以降に施行されたものと推定されている。条里地割の方位は同グループの範囲内に含まれるため、④グループは当地に条里地割が施行された後の建物群の可能性が高い。元塚遺跡の北西に位置する正箱遺跡では、8世紀後半の建物を多数検出している(註2)。その主軸方位はN2～12°Eの範囲内に分布しており、元塚遺跡の④グループの建物群の方位と類似している。また、元塚遺跡のSD403・404は8世紀後半の条里地割の坪界溝と考えられる。主軸方位はN13°Eを測り④グループの方位に含まれるため、同グループが8世紀後半頃にあたる可能性を補強する根拠にあげられる。⑤グループは7世紀前半のSR601やSX605と重複し、それらの遺構が埋没した後に設置している。そのため、少なくとも7世紀中頃以降の時期が考えられるのであるが、下限については問題を残す。

先述したことを踏まえ、①～⑤グループの時期を整理する。①～③は更に細分される可能性も高いが、概ね7世紀前半頃と考えたい。④は8世紀後半頃、⑤は7世紀中頃以降の可能性が高い。なお、これらの時期区分も再考の必然性は高い。そのため、仮に①～③グループを古代Ⅰ期、⑤グループを古代Ⅱ期、④グループを古代Ⅲ期と仮称して各期の集落の動向を簡単に触れる。

(3) 古代Ⅰ期

7世紀前半頃の住居としては、Ⅵ～Ⅶ区に広がる集落ⅠのSB607、集落Ⅱの701～703・713～717・726・727等の11棟の建物と竪穴建物SH701を中心にした集落である。主軸方位は①～③のグループにあたり方位にかなりバラつきがあるが、そうした不揃いな点が7世紀の建物の特徴である。建物配置から単一集団の可能性が高い建物群を抽出すれば、1群：SB701・702・703、2群：SH701・SB708・714、3群：SB715・716・717・727等の3グループに分けられるが、各建物間の配置など規格性は乏しく不揃いな点が多い。3群は2間×2間の総柱建物だけで構成されることから、集落内でも公的な性格を備えている可能性がある。2群は竪穴建物跡SH701を含むことから、7世紀前半集落のなかでも比較的初期に配置されたグループの可能性が高い。

(4) 古代Ⅱ期

7世紀中頃以降の建物としては、Ⅵ区のSR602の東側に隣接する集落ⅠのSB601～606の6棟と集落ⅡのSB728等がある。集落Ⅰと集落Ⅱの間には自然河川SR602を挟み距離的に離れている。また、更に東方には複数の自然河川SR301～303・401等や溝群SD507～513等が展開するため、集落範囲は限られている。検出した建物は他の建物群と大きく主軸方位が異なり、北から28～41°東へ向く⑤グループに属する。SB601～606は7世紀前半のSR601やSX605と重複し、これらの遺構が埋没した後に建物が配置しているため、少なくとも7世紀中頃以降の時期が相当するものと考えられる。なお、SR601やSX605は、建物を設置するために意図的に埋戻された可能性が高い。つまり、集落Ⅰを形成した集団は、集落範囲の拡大を意図しており、新たな集落を形成するためにSR601やSX605等の荒地を整理した後に、SB601～606等の建物を配置した可能性が高い。

集落Ⅰの建物配置から単一集団の可能性が高い建物群を抽出すれば、4群：SB601・603、5群：SB602・604・605等の2グループに分けられる。

(5) 古代Ⅲ期

8世紀後半の建物としては、集落ⅡのSB607・704～709・718～722・730・901等の14棟の建物があげられ、概ね7世紀前半の住居域と重複する。主軸方位では④グループにあたり、7世紀代に比べ画一的である。なお、先述した元塚遺跡の北に位置する正箱遺跡では、8世紀後半の建物を多数検出している。同時期の元塚遺跡の建物群と主軸方位や規模等で類似点も見出せることから、今後と比較検討が必要になる遺跡である。

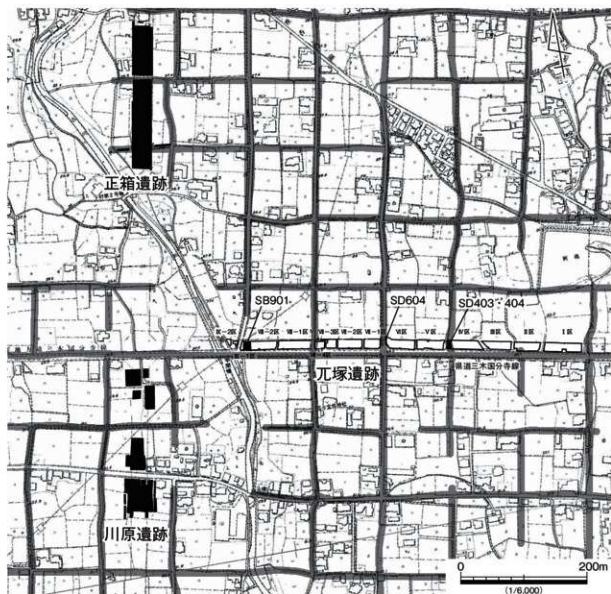
建物配置から単一集団の可能性が高い建物群を見出せば、比較的わかり易い一群として、6群：SB705・706・708 7群：721・722等があげられるが、不明瞭な建物も多い。

集落Ⅲの南北棟の大型建物SB901は、主軸方位や柱穴配置等からおそらくこの時期の建物であろう。なお、この建物は条里地割の東西・南北両坪界線の交点附近に隣接する大型建物である。SB901の南北の両梁間が調査区から外れるため、構造や規模等不明な点があるが、検出状況から推定して梁間3間(6.4m)×桁行7間(14.7m)、面積は94.0㎡を測る大型の建物が推定される。県内の8世紀代の建物で同クラスの建物はかなり限られており、公的な性格を考えざるをえないが、当時の官衛施設や有力豪族の屋敷地等は、方形ないし長方形の敷地内に複数の建物を「L」や「コ」字に規格的に配置することが一般的であるが、調査区内にはSB901と対になるような建物はみあたらない。ただ、SB901から東方のⅢ-2区SD824までの約55mの区間は遺構密度も低く、推定される公的施設の広場としての空間利用がなされていた可能性がある。これらの状況から、SB901の関連施設は調査区外に考えざるをえないが、SB901の西側は古川の氾濫源にあたるため、西に配される可能性は低い。そのため、仮に調査区外に関連施設を推定した場合、SB901の南東か北東に東西棟が付設する「L」字ないし逆「L」型の建物配置が考えられる。

次に周辺の河川から検出した遺構や遺物について触れておく。まず、周辺の自然河川はこの時期にはほぼ埋没が終わるが、SR301・302の第2水田面(下層水田跡)が形成されるのは11～12世紀頃の古代後半～末頃であろう。注目できる出土遺物では、自然河川SR401からは墨書土器の須恵器杯(173)が出土している。須恵器杯(173)は底部外面の上部に「中」の記載がある。底部下部には、あと1～2字は記入できるスペースがあるが墨書は確認できない。「中」が何を意図した記述か判断が難しいが、一視点として元塚遺跡は古代の「香川郡中間郷」に位置する。そのため、記載している「中」は、地名の「中間郷」を指す可能性が考えられる。また、SR602からは土馬の脚部(590)と考えられる土製品が出土している。土馬は祭具として県下でも出土例が少なく希少な資料である。古代の元塚集落の集団が河川沿いで祭祀を行ったことが推測される。これらの資料やSB901は元塚遺跡の集落の性格を考えるうえで無視できない遺構・遺物であり、今後の隣接地の調査に期待される点大きい。

(6) 条里地割に伴う遺構

元塚遺跡周辺では条里地割が比較的明瞭に残っている。元塚遺跡の北西約300mに位置する正箱遺跡では、8世紀中葉の条里地割の南北の坪界溝を確認しており、この地域の条里地割を復元する際の基準線になっている。また、南西約200mに位置する川原遺跡は古代南海道の推定地に位置し、発掘調査の結果8世紀末以降の南海道の道路側溝の可能性が高い溝状遺構を検出している。両遺跡に挟まれた元塚遺跡では条里地割に係わる可能性が高い2～3の遺構を確認している。次に、前項で紹介して説明が重複している遺構もあるが、条里地割に係わる可能性が高い遺構をあらためて紹介しておく。



第 151 図 元塚遺跡周辺条里地割図

VI区 SD604 附近は条里地割の南北軸の坪界線が通る区域で、SD604 は坪界に概ね合致しており、条里地割に伴う溝跡の可能性が指摘できるが、SD604 は 7 世紀前半頃の溝跡である。元塚遺跡周辺の地域は 8 世紀後半以降に条里地割が施行された正箱や川原遺跡の事例がある。それらの遺構と SD604 は時期差がありすぎて、この溝跡を直接条里地割に伴う遺構として評価はできないが、今後同種の資料が増加し再評価される可能性は否定できない。

IV区 SD403・404 は前後関係をもつ本来 1 条の溝跡で、SD604 から約 1 町東に位置し坪界に概ね合致しており、条里地割に伴う溝跡の可能性が高い。この溝は 8 世紀後半の溝跡で、時期的にも周辺事例と合致しており、条里地割に伴う溝跡と捉えられる。

IX区西端の SB901 は VI区 SD604 から約 2 町東に位置する大型建物で、周辺は条里地割の南北軸と東西軸の坪界の交点に位置し、SB901 は坪境に合致しており、坪界線に規制を受けた上で設置された建物と考えられる。先述したように、公的な性格を推定せざるを得ない大型建物であり、施設の構造や性格

については今後の調査に委ねる必要がある。

5. 中世前半

7～8世紀の集落が廃絶後、新たに集落が再開するのは、中世前半の12世紀以降である。中世前半の集落は調査区西半部のⅦ～Ⅸ区に展開する。住居は掘立柱建物で構成され、屋敷地を画する区画溝や雨落溝を伴う建物跡等が確認できる。建物の主軸方位はN8～15.5°Eまでの振幅はあるが、概ね糸里地割方向に揃えている。時期的には12～13世紀頃の中世前半の建物が中心を占めるが、中世後半の建物を少数含む。主な建物をあげれば、SB710・711・712・720・723・724・725・729・801・802・803・804・805・806・807・808・902・903等の合計18棟の建物があげられる。

集落の中心は微高地の中心にあたるⅦ-1～3、Ⅷ-1区、Ⅸ-1区に位置する。建物の分布域を古代集落からの連続で呼称すれば、Ⅶ-1～3区を集落Ⅳ、Ⅷ-1区を集落Ⅴ、Ⅸ-1区を集落Ⅵに分けられる。なお、Ⅲ区のSR301・302の第1水田面（上層水田跡）は、おそらく12～13世紀頃に形成された水田跡と考えられる。

集落Ⅳ（Ⅶ-1～3区）に含まれるのは、SB710・711・712・720・723・724・725等の建物があたる。Ⅶ-1区のSB710・711・712等は互いに重複しており時期差が考えられるが、遺物が少なく詳細な点は不明である。概ね12～13世紀の期間での建て替えが表れているものと考えられる。Ⅶ-2区の西半部に位置するSB723・724・725等の南北棟の一群は、逆「L」字型に曲がる雨落溝SD707が画する区画内に位置する。周辺には同時期の柱穴が多数分布し、本来はより多数の建物が時期を違えて重複していた可能性が高い。これらの建物の中でSB724は面積58.7㎡を測る比較的大型の建物で、グループの中心的建物と推定される。時期的にはSB723・724が12世紀以降の建物で、SB725は14～15世紀頃の時期が考えられる。

集落Ⅴ（Ⅷ-1区）では東西約50mの範囲内に8棟の建物が確認された。注目されるのは、雨落溝や廂を備えた12～13世紀の建物、SB802・803・804・805等が隣接して確認された点である。検出状況から中世集落西半部の中心地となっている。このグループと重複するSB801・806・807・808等は、出土遺物が少なく詳細な時期は不明であるが、先のグループより後出する13世紀後半頃の建物と推定される。

集落Ⅵ（Ⅸ-1区）に含まれるのは、Ⅸ-1区に所在するSB902・903の2棟である。約10mほど離れているが向きを揃え並行気味に配置しているため、同時期の建物の可能性が高い。なお、SB902北西約13mの地点には、唯一の中世土壙墓ST901が位置する。ST901の周辺は古川の氾濫源と微高地の境にある段丘崖の上端部周辺にあたり、段丘崖周辺が墓域として土地利用されていることが想定される。

6. 近世

近世遺構としては、各調査区に散漫に分布しているが、Ⅴ-2区では18～19世紀頃の近世屋敷地の北辺と東辺を画する区画溝を検出した。区画内には多数の柱穴や井戸と考えられる大型土坑を検出したが、敷地内の建物を復元するまでには至らず、今後の検討課題となる。

7. おわりに

元塚遺跡の歴史の変遷について簡単にまとめてみたが、書き漏らした点は多々ある。とくに、8世紀頃の元塚遺跡の周辺に位置する正箱遺跡は先述したように当地周辺の8世紀以降の古代集落の代表格と

して、周辺集落で常に比較される遺跡である。また、元塚遺跡の約 200 m 南には条里地割の東西軸の余剰帯が認められ、古代南海道ルートに推定されている。このルート上で行なわれた川原遺跡の調査では、南海道の一部と考えられる 8 世紀後半頃の道路側溝を検出している(註3)。つまり、元塚遺跡の古代Ⅲ期(8 世紀後半)の段階では、遺跡の南に南海道が通っており、8 世紀後半頃は元塚遺跡や正箱遺跡の集落の盛期とも重複するため、元塚遺跡を含めた集落跡と南海道との係わりが今後も問題視されるのは確実であるが、詳細な点は今後の課題としたい。

(註)

- (1) 広瀬 和雄 1986「中世の胎動」『岩波講座日本考古学 6—変化と二期—』岩波書店
- (2) 西村 尋文 1994「第 4 章 第 2 節 正箱遺跡における古代集落の展開」『県道山崎御経線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 正箱遺跡・薬王寺遺跡』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター
- (3) 森下 英治 2008「第 4 章川原遺跡」『県道門座香南線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第 2 冊 本郷遺跡・川原遺跡』香川県教育委員会

(参考文献)

- 金田 章裕 1988「条里と村落生活」『香川県史第 1 巻通史編原始・古代』四国新聞社
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1994「県道山崎御経線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 正箱遺跡・薬王寺遺跡」
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・建設省四国地方建設局 1995「高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 3 冊 前田東・中村遺跡」
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団 1996「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 25 冊 中間西井坪遺跡」
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1996 平成 7 年度「元塚遺跡」『県道四保埋蔵文化財発掘調査概報』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1997 平成 8 年度「元塚遺跡」『県道四保埋蔵文化財発掘調査概報』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1998 平成 9 年度「元塚遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』
- 佐藤 竜馬 1998「讃岐における官衙関連遺跡と集落動向」『律令国家における地方官衙遺構研究の現状と課題』古代学協会四国支部第 12 回大会発表資料
- 香川県教育委員会 2003「香川県中世城館跡詳細分布調査報告」
- 香川県教育委員会・国土交通省四国地方整備局・日本道路公団 2004「中森遺跡」『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第 53 冊』
- 西村 尋文 2011「第 4 章土地区画が語ること、第 5 章道が語ること」『讃岐国府の時代』香川県埋蔵文化財センター

第6表 瓦塚遺跡掘立柱建物跡一覧

遺構名	調査区	棟向	主軸方位	主軸方位 (調整)	構造・規模			面積 (㎡)	柱間寸法		主軸方位 グループ
					梁間 (m) × 桁行 (m)	欄柱	総柱 間		梁間 (m)	桁行 (m)	
SB601	Ⅵ区	東西	N62° W	N28° E	2間 (3.1) × 2間 (4.0)		1	124	1.5 ~ 1.6	1.8 ~ 2.1	⑤
SB602	Ⅵ区	南北	N37° E		1間 (3.0) × 3間 (5.1)		1	153	2.9 ~ 3.0	2.2 ~ 2.7	⑤
SB603	Ⅵ区	南北	N30° E		2間 (2.5) × 2間 (3.0)		1	7.5	1.1 ~ 1.4	1.7 ~ 1.9	⑤
SB604	Ⅵ区	南北	N34.5° E		2間 (2.1) × 2間 (3.5)		1	7.35	1.0 ~ 1.1	1.7 ~ 1.8	⑤
SB605	Ⅵ区	南北	N41° E		1間 (3.7) × 3間 (6.0)		1	22.2	3.6 ~ 3.7	1.9 ~ 2.2	⑤
SB606	Ⅵ区	南北	N21° E	N69° W	2間 (3.1) × 2間 (3.5)		1	10.85	1.5 ~ 1.6	1.7 ~ 1.8	
SB607	Ⅵ区	南北	N4° E		2間 (3.0) × 2間 (3.85) 以上		1	11.55 以上	1.4 ~ 1.6	1.8	④
SB701	Ⅶ-1区	南北	N6.5° W		2間 (3.9) × 4間 (6.1)		1	23.79	1.65 ~ 2.1	1.3 ~ 1.8	②
SB702	Ⅶ-1区	東西	0°		2間 (3.6) × 3間 (5.1)		1	18.36	1.7 ~ 1.85	1.4 ~ 1.9	③
SB703	Ⅶ-1区	東西	N85° W	N5° E	2間 (3.35) × 2間 (3.95)		1	12.35	1.45 ~ 1.8	1.8 ~ 2.0	②
SB704	Ⅶ-1区	南北	N5° E		2間 (3.5) × 3間 (5.05)		1	16.67 台形	1.5 ~ 1.9	1.5 ~ 1.9	④
SB705	Ⅶ-1区	東西	N86.5° W	N3.5° E	2間 (3.65) × 5間 (7.9)			28.84	1.6 ~ 2.05	1.3 ~ 1.9	④
SB706	Ⅶ-1区	東西	N86.5° W	N3.5° E	2間 (2.9) × 1間 (3.35)		1	10.3	1.3 ~ 1.6	3.5 ~ 3.55	④
SB707	Ⅶ-1区	東西	N8.5° E		1間 (2.2) 以上 × 2間 (3.6)		1	7.92	1.45 ~ 1.5	1.8	④
SB708	Ⅶ-1区	南北	N7.5° E		2間 (3.35) × 2間 (3.75)		1	13.87	1.65 ~ 1.9	1.9 ~ 2.0	④
SB709	Ⅶ-1区	南北	N11.5° E		2間 (2.75) × 1間 (3.3)		1	9.08	1.3 ~ 1.4	3.2 ~ 3.3	④
SB710	Ⅶ-1区	東西	N76° W	N14° E	1間 (3.9) × 2間 (4.8)		1	18.72	3.65 ~ 3.7	2.2 ~ 2.6	
SB711	Ⅶ-1区	東西	N76° W	N14° E	1間 (3.3) × 3間 (5.8)		1	19.14	3.3 ~ 3.4	1.7 ~ 2.3	
SB712	Ⅶ-1区	東西	N76° W	N14° E	3間 (4.8) × 3間 (5.9)		1	28.32	3.3 ~ 3.4	1.7 ~ 2.3	
SB713	Ⅶ-2区	東西	N75° E	N15° W	2間 (3.75) × 4間 (7.55)		1	28.31	1.5 ~ 2.25	1.8 ~ 2.1	①
SB714	Ⅶ-2区	南北	N6° W		2間 (3.25) × 1間 (2.7) 以上		1	8.78 以上	1.6	2.2	②
SB715	Ⅶ-2区	南北	N8° W		2間 (3.05) × 2間 (4.0)		1	12.2	1.4 ~ 1.6	1.9 ~ 2.1	②
SB716	Ⅶ-2区	南北	N16.5° W		2間 (3.15) × 2間 (3.6)		1	11.34	1.5 ~ 1.65	1.7 ~ 1.85	①
SB717	Ⅶ-2区	東西	N68.5° E	N21.5° W	2間 (3.5) × 2間 (3.9) 以上		1	13.65 以上	1.6 ~ 1.9	1.8 ~ 2.0	①
SB718	Ⅶ-2区	南北	N4° E		2間 (3.8) × 4間 (6.2)		1	23.56	1.8 ~ 1.9	1.55 ~ 1.85	④
SB719	Ⅶ-2区	南北	N2° E		1間 (3.0) 以上 × 4間 (6.7)			30.1 以上	3.0	1.5 ~ 1.7	④
SB720	Ⅶ-2区	東西	N78° W	N12° E	2間 (3.35) × 2間 (4.4) 以上		1	14.74	1.65 ~ 1.7	1.45 ~ 2.25	④
SB721	Ⅶ-2区	東西	N77° W	N13° E	2間 (3.9) × 3間 (5.3)		1	20.67	1.7 ~ 2.05	1.7 ~ 1.8	④
SB722	Ⅶ-2区	東西	N81° W	N9° E	1間 (3.8) × 3間 (6.5)		1	24.7	3.7 ~ 3.8	2.0 ~ 2.3	④
SB723	Ⅶ-2区	南北	N9.5° E		2間 (4.0) × 3間 (7.2)		1	28.8	1.7 ~ 2.2	1.7 ~ 2.7	
SB724	Ⅶ-2区	南北	N12.5° E		2間 (5.2) × 5間 (11.3)		1	58.7	1.7 ~ 2.0	1.45 ~ 2.0	
SB725	Ⅶ-2区	南北	N8° E		1間 (4.0) 以上 × 2間 (5.7)		1	22.8	2.7 ~ 2.8	2.85	
SB726	Ⅶ-3区	東西	N76° E	N24° W	1間 (2.75) 以上 × 2間 (5.25) 以上		1	14.44 以上	1.75	1.5 ~ 2.0	①
SB727	Ⅶ-3区	東西	N9° W		2間 (3.3) × 1間 (2.7) 以上		1	8.91 以上	1.6 ~ 1.7	1.5 ~ 1.8	②
SB728	Ⅶ-3区	南北	N36° E		2間 (3.05) × 2間 (3.7)		1	11.29	1.35 ~ 1.65	1.65 ~ 2.0	⑤
SB729	Ⅶ-3区	南北	N10° E		1間 (2.4) × 2間 (3.05) 以上			7.32 以上	2.35 ~ 2.4	1.1 ~ 1.8	
SB730	Ⅶ-3区	東西	N81° W	N9° E	2間 (4.3) × 3間 (5.7)		1	24.51	1.9 ~ 2.4	1.6 ~ 2.15	④
SB801	Ⅶ-1区	南北	N12° E		1間 (1.68) × 2間 (2.28)		1	3.83	1.68	1.08 ~ 1.2	
SB802	Ⅶ-1区	東西	N76° W	N14° E	1間 (3.0) × 3間 (7.46)		1	19.69	2.6 ~ 2.8	2.0 ~ 2.86	
SB803	Ⅶ-1区	南北	N11° E		2間 (4.0) × 2間 (5.2) 以上		1	20.8 以上	2.0	2.4 ~ 2.6	
SB804	Ⅶ-1区	東西	N80° W	N10° E	1間 (4.0) × 2間 (5.4)		1	20.52	3.6 ~ 4.0	2.6 ~ 2.8	
SB805	Ⅶ-1区	東西	N80° W	N10° E	1間 (3.8) × 3間 (9.2)		1	34.96	3.7 ~ 4.0	2.6 ~ 3.5	
SB806	Ⅶ-1区	南北	N10° E		2間 (2.9) × 2間 (5.2)		1	15.08	1.3 ~ 1.5	1.68 ~ 1.74	
SB807	Ⅶ-1区	南北	N15.5° E		1間 (2.45) × 2間 (4.4)		1	10.78	2.4 ~ 2.45	2.1 ~ 2.4	
SB808	Ⅶ-1区	南北	N10° E		1間 (2.65) × 2間 (3.1)		1	8.21	2.5 ~ 2.65	1.35 ~ 1.65	
SB901	Ⅷ-1区	南北	N9.5° E		1間 (6.4) 以上 × 5間 (10.5) 以上		1	67.2 以上	6.3 ~ 6.4	2.0 ~ 2.1	④
SB902	Ⅷ-1区	南北	N13.5° E		2間 (3.45) × 2間 (5.15)		1	17.77	1.45 ~ 2.0	2.5 ~ 2.6	
SB903	Ⅷ-1区	-	N15.5E		2間 (3.3) × 2間 (3.5)		1	11.55	1.5 ~ 1.8	1.5 ~ 1.8	
SB904	Ⅷ-1区	南北	N36° E		1間 (1.9) 以上 × 3間 (6.8)		1	19.04	1.7 ~ 2.7	1.9	
合計								40	7	5	

※主軸方位 (調整) : 東西棟と南北棟の主軸方位を比較するため、東西棟の主軸方位を意図的に 90° 屈曲させた角度
主軸方位グループ : 古代の建物だけ分類

第7表 正箱遺跡掘立柱建物跡一覧

遺構名	主軸方位	主軸方位 (調整)	構造・規模				面積 (㎡)	時期		依藤分類
			梁間 (m) × 桁行 (m)		欄柱	総柱		期	1期～Ⅴ期	
SB01	N80° W	N10° E	24.3	×	24.5	1		19.35		
SB02	N8° E		13.7	×	35.7	1		21.09	Ⅳ期	9世紀
SB03	N78° W	N12° E	23.3	×	23.2	1		7.36		
SB04	N11° E		23.7	×	35.3	1		19.61	Ⅱ期	8世紀中葉～8世紀末
SB05	N78° W	N12° E	24.0	×	46.3	1		25.20	Ⅰ期	8世紀中葉～8世紀末
SB06	N80° W	N10° E	23.4	×	35.9	1		20.06	Ⅱ期	8世紀中葉～8世紀末
SB07	N11° E		23.8	×	46.5	1		24.70	Ⅰ期	8世紀中葉～8世紀末
SB08	N10° E		24.0	×	45.6	1		22.40	Ⅱ期	8世紀中葉～8世紀末
SB09	N86° W	N4° E	23.8	×	34.9	以上	1	18.62	Ⅳ期	9世紀
SB10	N13° E		23.1	×	23.6		1	11.16		
SB11	N5° E		23.8	×	35.2	1		19.76	Ⅴ期	9世紀
SB12	N85° W	N5° E	23.6	×	23.7	1		13.32	Ⅳ期	
SB13	N82° W	N8° E	24.2	×	35.5	1		23.10	Ⅳ期	9世紀
SB14	N82° W	N8° E	23.9	×	35.0	1		19.50	Ⅳ期	Ⅱ期
SB15	N4° E		24.0	×	58.1	1		32.40	Ⅳ期	9世紀
SB16	N79° W	N11° E	22.9	×	35.5	1		15.95	Ⅰ期	8世紀中葉～8世紀末
SB17	N5° E		24.8	×	49.3	1		44.64	Ⅴ期	9世紀
SB18	N6° E		24.7	×	37.1	1		33.37	Ⅴ期	9世紀
SB19	N10° E		23.8	×	34.5	1		17.10	Ⅳ期	9世紀
SB20	N4° E		24.4	×	47.6	1		33.44	Ⅳ期	9世紀
SB21	N78° W	N12° E	23.6	×	24.3	1		15.48	Ⅳ期	11世紀以後
SB22	N82° W	N8° E	24.4	×	47.7	1		33.88	Ⅳ期	9世紀
SB23	N84° W	N6° E	24.4	×	35.8	1		25.52	Ⅰ期	8世紀中葉～8世紀末
SB24	N1° E		24.5	×	36.5	1		29.25	Ⅴ期	9世紀
SB25	N82° W	N8° E	14.7	×	47.7	1		36.19	Ⅱ期	8世紀中葉～8世紀末
SB26	N82° W	N8° E	24.2	×	36.1	1		25.62	Ⅳ期	11世紀以後
SB27	N4° E		13.5	×	24.0	1		14.00	Ⅳ期	11世紀以後
SB28	N8° E		23.9	×	34.3	1		16.77		Ⅱ期
SB29	N6° E		24.0	×	24.3	1		17.20	Ⅳ期	
SB30	N5° E		23.9	×	34.9		1	19.11	Ⅱ期	8世紀中葉～8世紀末
SB31	N85° W	N5° E	23.1	×	23.6		1	11.16	Ⅳ期	9世紀
SB32	N89° W	N1° E	24.4	×	34.9	1		21.56	Ⅴ期	9世紀
SB33	N2° E		24.37	×	24.6	1		17.02	Ⅲ期	8世紀中葉～8世紀末
SB34	N5° E		24.38	×	24.7	1		17.86	Ⅱ期	8世紀中葉～8世紀末
SB35	N3° E		24.36	×	25.4	1		19.44	Ⅱ期	8世紀中葉～8世紀末
SB36	N88° E	N2° W	24.3	×	36.2	1		26.66	Ⅲ期	8世紀中葉～8世紀末
SB37	N0°		23.6	×	35.3	1		19.08		Ⅱ期
SB38	N85° W	N5° E	23.7	×	34.8	1		17.76	Ⅱ期	8世紀中葉～8世紀末
SB39	N85° W	N5° E	13.9	×	23.0	1		11.70		
SB40	N88° E	N2° W	13.9	×	47.6			29.64		
SB41	N85° E	N5° W	14.8	×	36.0			28.80		
SB42	N85° E	N5° W	14.1	×	35.8			23.78		
SB43	N9° E		13.3	×	23.7			12.21		
SB44	N10° E		23.2	×	23.9			12.48		
SB45	N3° E		-	×	35.9			-		
SB46	N3° E		-	×	35.7			-		
SB47	N8° E		-	×	47.8			-		
SB48	N11° E		-	×	38.5			-	Ⅳ期	11世紀以後
SB49	N3° E		12.1	×	47.5	以上	1	15.75	Ⅲ期	8世紀中葉～8世紀末
SB50	N11° E		-	×	35.3			-	Ⅰ期	8世紀中葉～8世紀末

SB51	N6° E		- × 362)				-			I期
SB52	N9° E		- × 228)				-	I期	8世紀中葉～8世紀末	I期
SB53	N10° E		- × 46.4)				-	I期	8世紀中葉～8世紀末	I期
SB54	N12° E		3(3.1) × 2(5.4) 以上	1			16.74	I期	8世紀中葉～8世紀末	I期
SB55	N12° E		2(2.3) × 1(2.5) 以上	1			57.50			
SB56	N75° W	N15° E	- × 2(26)				-			
SB57	N72° W	N18° E	- × 3(4.3)				-			
合計				39	3	3				

※主軸方位（調整）：東西棟と南北棟の主軸方位を比較するため、東西棟の主軸方位を意図的に90°屈曲させた角度

遺物觀察表
遺構名新旧対照表

第8表 元塚遺跡出土器類表(1)

調査 番号	調査区	遺構名	層位等	種類	器種	調整	色澤	胎土	注量:cm	保存率	備考			
2	1区	SD103		発生土器	甕	32片 [*] , 破欠目	外部 10YR7/4 5Y5/1 におい黄褐色	内部 5Y5/1 オリーブ黒	口徑 -	器高 -	底径 -	その 量 -	破片	
3	3区	SR201・202	中層	須恵器	蓋	同軸片 ⁺	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	破片	
4	3区	SR201・202	下層I	須恵器	蓋	同軸片 ⁺	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	破片	
5	3区	SR201・202	中層	須恵器	杯	同軸片 ⁺	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	破片	
6	3区	SR201・202		須恵器	杯	同軸片 ⁺ , 777 同軸片 ⁺ , 777 同軸片 ⁺ , 777	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	破片	
7	3区	SR201・202	下層I・II	須恵器	鉢	777	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	破片	
8	3区	SR201・202	中層, 下層I	土師器	甕	32片 [*]	7.5YR5.2灰白	中・並, 中・少	-	-	-	-	破片	
13	3区	SR203		須恵器	蓋	同軸片 ⁺	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	破片	
14	3区	SR203	中層	須恵器	蓋	同軸片 ⁺ , 同軸片 ⁺	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	破片	
15	3区	SR203	中層	須恵器	杯	同軸片 ⁺	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	破片	
16	3区	SR203	上層	須恵器	杯	同軸片 ⁺ , (177)	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	破片	
17	3区	SR203	中層	須恵器	杯	同軸片 ⁺	N6/灰	N5/灰	-	-	-	-	破片	
18	3区	SR203	最上層	磁器	瓶	同軸片 ⁺ 灰緑釉 前方角し高台瓦 破欠	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	破片	
19	3区	SR203	最上層	陶器	瓶	同軸片 ⁺ 灰緑釉	5Y7.2灰白	5Y7.2灰白	-	-	-	-	破片	
20	3区	SR203	中層	土師器	甕	32片 [*]	5YR5.4 におい黄褐色	7.5YR5.2灰白	中・多	-	-	-	破片	
26	3区	SD001	上層	発生土器	甕	777	2.5Y6.1黄灰	7.5Y7.2灰黄	中・多, 中・並	-	-	-	破片	
27	3区	SD001	上層	発生土器	甕	777	2.5Y7.2灰黄	10YR7.2 におい黄褐色	中・多	-	-	-	破片	
28	3区	SD001	下層II	発生土器	甕	32片 [*]	10YR7.2 におい黄褐色	10YR8.2灰白	中・並	-	-	-	破片	
29	3区	SD001	下層II	発生土器	高杯	677, 調整	10YR8.2灰白	10YR8.2灰白	中・並	-	-	-	破片	
30	3区	SD001	下層II	発生土器	32片 [*] 甕	同軸片 ⁺	2.5Y8.1灰白	2.5Y7.1灰白	中・少	-	-	-	破片	
31	3区	SD001	下層II	発生土器	32片 [*] 甕	同軸片 ⁺	10YR8.2灰白	10YR8.1灰白	中・並	-	-	-	破片	
32	3区	SD001	下層II	土師器	高杯	634 [*]	10YR7.2 におい黄褐色	10YR8.2灰白	中・少	-	-	-	破片	
33	3区	SD001	群土	土師器	高杯	777	10YR8.3 灰黄緑	10YR8.3	中・多, 中・少	-	-	-	破片	
34	3区	SD001	下層I	土師器	高杯	777	10YR8.2灰白	10YR7.2 におい黄褐色	中・少	-	-	-	破片	
35	3区	SD001	下層II	土師器	高杯	777, 32片 [*]	2.5Y8.2灰白 黄黄緑	7.5YR8.4 黄黄緑	中・少	-	-	-	破片	
36	3区	SD001	下層I	土師器	高杯	777, 同軸片 ⁺ , 32片 [*]	2.5YR6.6黄	2.5Y8.2灰白	中・少	-	-	-	破片	
37	3区	SD001	下層I	土師器	高杯	777	5YR7.4 におい黄	7.5YR8.4 灰黄緑	中・並	-	-	-	破片	
38	3区	SD001	上層I・中層I	須恵器	杯	同軸片 ⁺ , 633 [*] 同軸片 ⁺ , 同軸片 ⁺	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	破片	
39	3区	SD001	群土層・上・中・下層	須恵器	杯	同軸片 ⁺ , 同軸片 ⁺ 777, 777, 同軸片 ⁺	2.5YR5.2灰赤	N7/灰白	-	-	-	-	破片	
40	3区	SD001	中層I	須恵器	杯	同軸片 ⁺	N7/灰白	N7/灰白	中・少, (10.6)	-	-	-	破片	
41	3区	SD001	中層I	須恵器	蓋	同軸片 ⁺	2.5Y7.1灰白 におい黄褐色	10YR7.2 におい黄褐色	中・少	-	-	-	破片	

第9表 元塚遺跡出土土器観察表(2)

観測番号	調査区	遺構名	層位等	種類	調査		色調		石・赤色土質	筋土	計量(cm)		備考	
					外面	内面	外壁	内部			口径	底径		その他
42	Ⅱ区	SE301	中層Ⅰ	須恵器 杯	同軸付*	同軸付*	N4/灰	N6/灰	-	-	-	-	破片	
43	Ⅱ区	SE301	中層Ⅰ	須恵器 杯	同軸付*, 同軸付*	同軸付*	N5/灰	N6/灰	-	-	6.0	-	2.8	
44	Ⅱ区	SE301	下層Ⅰ	土師器 杯	777	777	25YR7/1 黒色土質	10R-赤褐色	-	-	-	-	-	内面赤色顔料付 着下
45	Ⅱ区	SE301	中層Ⅰ	須恵器 皿	同軸付*	同軸付*	N8/灰白	N8/灰白	-	-	11.0	-	1.8	
46	Ⅱ区	SE301	中層Ⅰ	須恵器 皿	同軸付*	同軸付*	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	-	-	11.0	-	1.8	
47	Ⅱ区	SE301	中層Ⅰ	須恵器 皿	同軸付*	同軸付*	N6/灰	N6/灰	-	-	1.8	-	1.8	
48	Ⅱ区	SE301	下層Ⅰ	土師器 碗	777	777	25Y2.2灰白	10YR2.2灰白	中・少	-	16.4	-	1.8	
49	Ⅱ区	SE301	中層Ⅰ	黒色土器 碗	同軸付*(777)	同軸付*(777)	25Y2.3赤黄	N4/灰	中・少	-	6.6	-	1.8	
50	Ⅱ区	SE301	中層Ⅰ	黒色土器 碗	777	同軸付* 灰777	25Y2.3赤黄	N3/暗灰	中・少	-	-	-	1.8	
51	Ⅱ区	SE301	中層Ⅰ	瓦器 碗	277*	277*	N4/灰	N4/灰	-	-	5	-	5.8	
52	Ⅱ区	SE301	中層Ⅰ	須恵器 壺	同軸付*	同軸付*	25Y6.2灰黄	M4/灰	-	-	0.46	-	1.8	
57	Ⅱ区	SE302	下層Ⅲ	縄文土器 浅鉢	777	677	10YR6.2 灰黄褐色	10YR7.2	中・多	中・少	6.7	-	1.8	
58	Ⅱ区	SE302	下層Ⅲ	須恵器 壺	277*, 777	277*, 777	10YR5.2 灰黄褐色	10YR5.2	中・多	-	6.7	-	1.8	
59	Ⅱ区	SE302	下層Ⅲ	須恵器 壺	同赤目(777), 377*	777	10YR8.4 灰黄褐色	10YR8.4	中・少	-	6.0	-	1.8	
60	Ⅱ区	SE302	下層Ⅲ	須恵器 壺	777	777, 同軸付*	10YR7.3 灰黄褐色	10YR8.3	中・少	-	-	-	破片	
61	Ⅱ区	SE302	下層Ⅲ	須恵器 壺	同軸付* 277*	同軸付* 277*	10YR6.2 灰黄褐色	10YR6.2	中・多	-	-	-	破片	
62	Ⅱ区	SE302	下層Ⅲ	須恵器 壺	777	同軸付* 277*	25Y7.1黄褐色	25Y4.1黄灰	中・多	-	5.9	-	6.8	
63	Ⅱ区	SE302	下層Ⅲ	須恵器 壺	277*, 777	777	25Y4.1黄灰	10YR6.4	中・多	-	4.8	-	5.8	
64	Ⅱ区	SE302	下層Ⅲ	須恵器 壺	同赤目(777), 377*	777	25Y7.3赤黄	25Y7.3赤黄	中・多	-	4.7	-	8.8	
65	Ⅱ区	SE302	中層Ⅲ	須恵器 壺	777	777	10YR6.2 灰黄褐色	75YR6.4	中・多	-	4.4	-	8.8	
66	Ⅱ区	SE302	下層Ⅲ	須恵器 壺	777	-	10YR7.2 灰黄褐色	10YR7.2	中・多	-	5.1	-	7.8	
67	Ⅱ区	SE302	下層Ⅲ	土師器 高杯	777	777, 同軸付*, 377*	10YR8.4 灰黄褐色	10YR7.3	中・多	-	19	-	7.8	
68	Ⅱ区	SE302	下層Ⅲ	須恵器 鉢	677	677	25Y7.2灰黄	25Y7.2灰黄	中・多	-	4.4	-	6.8	
69	Ⅱ区	SE302	中層Ⅲ	須恵器 鉢	777	777	25Y7.2灰黄	5YR6.6黄	中・多	中・多	4.4	-	6.8	
70	Ⅱ区	SE302	中層Ⅲ	須恵器 杯	同軸付*	同軸付*	N5/灰	N5/灰	-	-	高さ4	高さ4	破片	
71	Ⅱ区	SE302	下層Ⅲ(前部)	須恵器 杯	同軸付*, 同軸付*	同軸付*	75Y6/1灰	N7/灰白	-	-	高さ4	高さ4	破片	
72	Ⅱ区	SE302	中層Ⅲ	須恵器 杯	同軸付*, 同軸付*	同軸付*	N8/灰白	N8/灰白	-	-	高さ4	高さ4	破片	
73	Ⅱ区	SE302	中層Ⅲ	須恵器 杯	同軸付*	同軸付*	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	-	-	高さ4	高さ4	破片	
74	Ⅱ区	SE302	中層Ⅲ	須恵器 杯	同軸付*, 同軸付*	同軸付*	N8/灰白	N8/灰白	中・多	中・多	1.8	1.8	破片	

第10表 元塚遺跡出土土器類表(3)

調査 番号	調査区	遺構名	層位等	種類	器種	調査		色澤		石灰・ 灰石	粘土		辻差 cm			保存率	備考	
						外題	内題	外題	内題		口徑	底径	器高	底径	その他			
75	Ⅲ区	SD302	中層	須恵器	杯	同軸片+ 内面付	同軸片+	75Y7/1灰白	75Y7/1灰白	-	-	細・少	(33.8)	2	(10.6)	-	1.8	内・外面火炙り
76	Ⅲ区	SD302	中層	須恵器	杯	同軸片+	同軸片+	N6/灰	N6/灰	-	-	中・少	-	-	-	-	1.8	内・外面火炙り
77	Ⅲ区	SD302	中層	須恵器	杯	同軸片+	同軸片+	N7/灰白	N7/灰白	-	-	細・少	-	-	-	-	1.8	内・外面火炙り
78	Ⅲ区	SD302	中層	須恵器	杯	同軸片+	同軸片+	N8/灰白	N8/灰白	-	-	細・少	-	-	-	-	1.8	内・外面火炙り
79	Ⅲ区	SD302	中層	須恵器	杯	同軸片+	同軸片+	N7/灰白	N6/灰	-	-	細・少	-	-	-	-	1.8	内・外面火炙り
80	Ⅲ区	SD302	中層	須恵器	杯	同軸片+	同軸片+	N4/灰	N4/灰	-	-	細・少	-	-	-	-	1.8	内・外面火炙り
81	Ⅲ区	SD302	中層	須恵器	杯	同軸片+	同軸片+	N6/灰	N6/灰	-	-	細・少	(33.8)	-	-	-	1.8	内・外面火炙り
82	Ⅲ区	SD302	中層	須恵器	杯	同軸片+	同軸片+	N8/灰白	N8/灰白	-	-	細・少	(33.4)	-	-	-	1.8	内・外面火炙り
83	Ⅲ区	SD302	中層	須恵器	杯	同軸片+	同軸片+	N7/灰白	N7/灰白	-	-	細・少	(33.9)	-	-	-	1.8	内・外面火炙り
84	Ⅲ区	SD302	中層	須恵器	杯	同軸片+	同軸片+	75Y6/1灰	N7/灰白	-	-	中・少	-	(.8)	-	-	1.8	内・外面火炙り
85	Ⅲ区	SD302	中層	須恵器	杯	同軸片+	同軸片+	N7/灰白	N7/灰白	-	-	中・少	-	(7.9)	-	-	1.8	内・外面火炙り
86	Ⅲ区	SD302	中層	須恵器	杯	同軸片+	同軸片+	N7/灰白	N7/灰白	-	-	中・少	-	(7.6)	-	-	2.8	内・外面火炙り
87	Ⅲ区	SD302	中層	須恵器	杯	同軸片+	同軸片+	N7/灰白	N7/灰白	-	-	中・少	-	(6.6)	-	-	2.8	内・外面火炙り
88	Ⅲ区	SD302	中層	土師器	瓶	同軸片+	同軸片+	75Y68/2灰白	75Y68/2灰白	中・少	-	-	-	-	-	-	2.8	内・外面火炙り
89	Ⅲ区	SD302	中層	黒色土器	瓶	同軸片+	同軸片+	25Y4/1黄灰	25Y4/1黄灰	中・少	細・少	-	-	(.6)	-	-	2.8	内・外面火炙り
90	Ⅲ区	SD302	中層	黒色土器	瓶	同軸片+	同軸片+	5Y78/1灰白	75Y4/1灰	中・少	細・少	-	-	(5.6)	-	-	1.8	内・外面火炙り
91	Ⅲ区	SD302	中層	須恵器	壺	同軸片+	同軸片+	N8/灰白	N8/灰白	-	-	中・少	(.6)	-	-	-	2.8	内・外面火炙り
92	Ⅲ区	SD302	中層	須恵器	壺	同軸片+	同軸片+	N6/灰	N8/灰白	-	-	中・少	(.7.8)	-	-	-	3.8	内・外面火炙り
102	Ⅲ区	SD401		須恵器	蓋	同軸片+	同軸片+	N5/灰	N7/灰白	-	-	中・少	(.20)	-	-	-	1.8	内・外面火炙り
103	Ⅲ区	SD401		須恵器	蓋	同軸片+	同軸片+	同軸片+ (7.7)	N6/灰	-	-	中・少	(22.3)	-	-	-	1.8	内・外面火炙り
104	Ⅲ区	SD401		須恵器	杯	同軸片+	同軸片+	N5/灰	N5/灰	-	-	中・少	(3.4)	22	(0.1)	-	1.8	内・外面火炙り
105	Ⅲ区	SD401		須恵器	杯	同軸片+	同軸片+	N7/灰白	N7/灰白	-	-	中・微	(4.4)	-	-	-	1.8	内・外面火炙り
106	Ⅲ区	SD401		須恵器	杯	同軸片+	同軸片+	5B4/1黄青灰	5P5/1黄灰	-	-	中・少	(.6)	3.6	(6.2)	-	2.8	内・外面火炙り
107	Ⅲ区	SD401		須恵器	壺	同軸片+	同軸片+	N5/灰	5B4/1黄青灰	-	-	中・少	(17.6)	-	-	-	2.8	内・外面火炙り
108	Ⅲ区	SD401		須恵器	壺	同軸片+	同軸片+	N7/灰白	N8/灰白	-	-	細・微	-	(.9.2)	-	-	3.8	内・外面火炙り
109	Ⅲ区	SD402		須恵器	蓋	同軸片+	同軸片+	7.7	7.7	中・微	-	-	(3.8)	-	-	-	1.8	内・外面火炙り
110	Ⅲ区	SD403-404	上・下層	須恵器	皿	同軸片+	同軸片+	N4/灰	N6/灰	-	-	中・多	(3.6)	1.8	(0.2)	-	1.8	内・外面火炙り
111	Ⅲ区	SD403	下層	須恵器	皿	同軸片+	同軸片+	N8/灰白	5Y7/1灰白	-	-	中・微	(5.4)	2	(1.6)	-	1.8	内・外面火炙り
112	Ⅲ区	SD403	下層	須恵器	皿	同軸片+	同軸片+	5Y7/1灰白	75Y7/1灰白	-	-	中・少	(.8.2)	21	(4.8)	-	2.8	内・外面火炙り
113	Ⅲ区	SD403	上・下層	須恵器	杯	同軸片+	同軸片+	75Y5/1灰	75Y7/1灰白	-	-	細・少	-	(.6.8)	-	-	1.8	内・外面火炙り
114	Ⅲ区	SD403	下層	須恵器	杯	同軸片+	同軸片+	N8/灰白	75Y6/1灰	-	-	細・少	-	(11.4)	-	-	2.8	内・外面火炙り

第11表 元塚遺跡出土土器調査表(4)

報告番号	調査区	遺構名	層位等	種類	調査		色調		胎土				度量(cm)		備考		
					外面	内面	外壁	内面	石英・赤色成分	赤色成分	その他	口径	器高	底径		その他	
115	Ⅲ区	SD-003	下層	須恵器 杯	同転子 ⁶ ・9331 ¹ 後付 ¹	同転子 ⁶ ・仕上 ¹	SP927/1 明青灰	SP927/1 明青灰	-	-	-	-	12	-	4.8		
116	Ⅲ区	SD-003	下層	土師器 甕	227 ¹ ・99 ¹	99 ¹ ・97 ¹	2376-2灰質 に赤い黄斑	10YR7/4 に赤い黄斑	中・並	中・少	中・少	中・少	(26)	-	1.8		
117	Ⅲ区	SD-003	下層	土師器 甕	777 ¹	777 ¹	2378-3赤黄	10YR7/6 明黄斑	中・並	-	-	-	-	-	甕片	焼成不良	
119	Ⅲ区	SD-004	上層	須恵器 蓋	同転子 ⁶ ・9341 ¹ 後付 ¹ ・同転子 ⁶	同転子 ⁶	578-1灰白	2578-2灰白	-	-	-	-	-	-	甕片		
120	Ⅲ区	SD-004	上層	須恵器 杯	同転子 ⁶ ・9341 ¹ 後付 ¹ ・同転子 ⁶	同転子 ⁶	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	(3.6)	-	1.8		
121	Ⅲ区	SD-004	下層	須恵器 杯	同転子 ⁶	同転子 ⁶	2378-1灰白	2578-1灰白	-	-	-	-	-	-	甕片	焼成不良	
122	Ⅲ区	SD-004	下層	須恵器 杯	777 ¹	777 ¹	N5/灰	N5/灰	中・並	中・少	中・少	中・少	(10.6)	-	1.8		
123	Ⅲ区	SD-004	下層	土師器 甕	777 ¹	777 ¹	2578-4赤黄	2578-4赤黄	中・並	-	-	-	-	-	甕片		
124	Ⅲ区	SD-004	下層	土師器 甕	777 ¹	777 ¹	75786.6黄 に赤い黄	75787/4 に赤い黄	中・並	-	-	-	-	-	甕片		
127	Ⅲ区	SD-005	須恵器 皿	甕片用し高台後 胎輪	同転子 ⁶ ・後胎輪	同転子 ⁶ ・後胎輪	578-1灰白	5786.4	-	-	-	-	(8.2)	-	1.8		
128	Ⅲ区	SD-005	陶器 碗	甕片用し高台後 胎輪	同転子 ⁶ ・後胎輪	同転子 ⁶ ・後胎輪	10Y86-2灰白 に赤い黄	10Y86.4	-	-	-	-	(4.8)	-	3.8		
129	Ⅲ区	SD-005	陶器 碗	甕片用し高台後 胎輪	同転子 ⁶ ・後胎輪	同転子 ⁶ ・後胎輪	25776.1 オリーブ色	577/1灰白	-	-	-	-	(4.2)	-	1.8		
130	Ⅲ区	SD-005	陶器 碗	同転子 ⁶ ・後胎輪	同転子 ⁶ ・後胎輪	同転子 ⁶ ・後胎輪	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	-	-	甕片		
131	Ⅲ区	SD-005	灰質土器 船橋	同転子 ⁶ ・指付	同転子 ⁶	同転子 ⁶	10Y85/2 灰黄斑	10Y85/1 靑灰	細・少	-	-	(3.4)	-	-	1.8		
133	Ⅲ区	SR-01	甕下層(甕 蓋28層)	須生土器 甕	227 ¹ ・97 ¹	指付 ¹	10Y85-2灰質	10Y85/1 靑灰	細・少	-	-	(3)	-	-	1.8		
134	Ⅲ区	SR-01	甕上層(甕 蓋13層)	須生土器 甕	同轉子 ⁶	同轉子 ⁶	10Y85-2灰質	10Y85/1 靑灰	中・多	-	-	-	-	-	1.8		
135	Ⅲ区	SR-01	甕下層(甕 蓋25層)	須生土器 甕	932 ¹ ・A・指付 ¹	777・指付 ¹	10Y86-8赤黄	10Y86-2灰白	中・並	中・並	-	-	-	-	甕片		
136	Ⅲ区	SR-01	甕下層(甕 蓋15層)	須生土器 甕	777 ¹	777 ¹	2578-3赤黄	2575.1黄灰	中・少	-	-	(27.2)	-	-	3.8		
137	Ⅲ区	SR-01	甕下層(甕 蓋15層)	須生土器 甕	932 ¹ ・A・指付 ¹	指付 ¹	10Y87/1灰白	10Y87.3 に赤い黄斑	中・少	-	-	(5.8)	-	-	8.8		
138	Ⅲ区	SR-01	甕下層(甕 蓋22層)	須生土器 甕	977 ¹	977 ¹	10Y87.2灰白	10Y87.3 赤黄斑	中・並	-	-	(9.8)	-	-	1.8		
139	Ⅲ区	SR-01	甕下層(甕 蓋22層)	須生土器 甕	同転子 ⁶	同転子 ⁶	2578-3赤黄	2578-3赤黄	細・中・少	-	-	(12)	-	-	1.8		
140	Ⅲ区	SR-01	甕下層(甕 蓋25層)	須生土器 甕	同転子 ⁶ ・9341 ¹ 後付 ¹ ・同転子 ⁶	同転子 ⁶	N5/灰	N4/灰	-	-	-	中・少	10.8	4	5.2	4.8	
141	Ⅲ区	SR-01	甕下層(甕 蓋25層)	須生土器 甕	同転子 ⁶ ・後胎輪 ⁶	同転子 ⁶	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	中・少	11.6	4.3	6.5	6.8	
142	Ⅲ区	SR-01	甕下層(甕 蓋25層)	須生土器 甕	同転子 ⁶ ・9331 ¹ 後付 ¹	同転子 ⁶	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	中・少	(3.2)	4	6.8	-	2.8
143	Ⅲ区	SR-01	甕下層(甕 蓋22層)	須生土器 甕	同転子 ⁶ ・同転子 ⁶ ・外中胎付 ⁶	同転子 ⁶ ・同転子 ⁶ ・外中胎付 ⁶	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	細・少	12.2	5	7.1	5.8	
144	Ⅲ区	SR-01	甕下層(甕 蓋22層)	須生土器 甕	同転子 ⁶ ・同転子 ⁶ ・外中胎付 ⁶	同転子 ⁶	576.1灰	577/1灰白	-	-	-	中・少	(12.6)	-	-	2.8	
145	Ⅲ区	SR-01	甕下層(甕 蓋28層)	須生土器 甕	同転子 ⁶	同転子 ⁶	10Y86-1靑灰	10Y86/1 靑灰	-	-	-	中・少	12	4.2	6.2	6.8	

第12表 元塚遺跡出土土器調査表(5)

調査 番号	調査区	遺構名	種別	器種	調整	色澤			胎土			注量:cm			備考	
						外壁	内面	外底	口内	口外	口底	口内	口外	口底		口内
146	Ⅱ区	SR401	須恵器	蓋	同軸ナ+、同軸 [△] 分ナリ	同軸ナ+	N4/灰	N4/灰	-	-	-	-	-	-	3/8	
147	Ⅱ区	SR401	須恵器	蓋	同軸ナ+	同軸ナ+	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	-	-	2/8	
148	Ⅱ区	SR401	須恵器	蓋	同軸ナ+、 [△] ナリ 分ナリ	同軸ナ+	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	-	-	1/8	
149	Ⅱ区	SR401	須恵器	杯	同軸ナ+、同軸 [△] 分ナリ	同軸ナ+、 [△] ナリ 分ナリ	N6/灰	N5/灰	-	-	-	-	-	-	4/8	
150	Ⅱ区	SR401	須恵器	杯	同軸ナ+、同軸 [△] 分ナリ	同軸ナ+、 [△] ナリ 分ナリ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	-	-	3/8	
151	Ⅱ区	SR401	須恵器	杯	同軸ナ+	同軸ナ+、 [△] ナリ 分ナリ	5S6/1青灰	5S6/1青灰	-	-	-	-	-	-	5/8	
152	Ⅱ区	SR401	須恵器	杯	同軸ナ+	同軸ナ+	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	-	-	-	-	-	-	1/8	
153	Ⅱ区	SR401	須恵器	杯	同軸ナ+	同軸ナ+	N6/灰	N5/灰	-	-	-	-	-	-	胎片	
154	Ⅱ区	SR401	須恵器	杯	同軸ナ+	同軸ナ+	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	-	-	胎片	
155	Ⅱ区	SR401	須恵器	杯	同軸ナ+	同軸ナ+	2S7/1灰白	N6/灰	-	-	-	-	-	-	胎片	
156	Ⅱ区	SR401	須恵器	蓋	同軸ナ+、 [△] ナリ 分ナリ	同軸ナ+	5S5/1青灰	5S6/1青灰	-	-	-	-	-	-	4/8	
157	Ⅱ区	SR401	須恵器	蓋	同軸ナ+、同軸 [△] 分ナリ	同軸ナ+	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	-	-	1/8	
158	Ⅱ区	SR401	須恵器	蓋	同軸ナ+、同軸 [△] 分ナリ	同軸ナ+、 [△] ナリ 分ナリ	N4/灰	5S5/1青灰	-	-	-	-	-	-	2/8	
159	Ⅱ区	SR401	須恵器	蓋	同軸ナ+、同軸 [△] 分ナリ	同軸ナ+、同軸 [△] 分ナリ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	-	-	3/8	
160	Ⅱ区	SR401	須恵器	蓋	同軸ナ+	同軸ナ+	10Y6/1灰	N6/灰	-	-	-	-	-	-	1/8	
161	Ⅱ区	SR401	須恵器	蓋	同軸ナ+、同軸 [△] 分ナリ	同軸ナ+、同軸 [△] 分ナリ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	-	-	1/8	
162	Ⅱ区	SR401	須恵器	蓋	同軸ナ+、同軸 [△] 分ナリ	同軸ナ+、 [△] ナリ 分ナリ	N7/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	-	-	1/8	
163	Ⅱ区	SR401	須恵器	蓋	同軸ナ+、同軸 [△] 分ナリ	同軸ナ+、 [△] ナリ 分ナリ	N5/灰	N7/灰白	-	-	-	-	-	-	1/8	
164	Ⅱ区	SR401	須恵器	蓋	同軸ナ+、同軸 [△] 分ナリ	同軸ナ+	N5/灰	N7/灰白	-	-	-	-	-	-	1/8	
165	Ⅱ区	SR401	須恵器	蓋	同軸ナ+、同軸 [△] 分ナリ	同軸ナ+	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	-	-	2/8	
166	Ⅱ区	SR401	須恵器	蓋	同軸ナ+	同軸ナ+	5S3/1青灰	5S4/1青灰	-	-	-	-	-	-	1/8	
167	Ⅱ区	SR401	須恵器	蓋	同軸ナ+、同軸 [△] 分ナリ	同軸ナ+	N7/灰白	2S78/1灰白	-	-	-	-	-	-	1/8	
168	Ⅱ区	SR401	須恵器	蓋	同軸ナ+	同軸ナ+	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	-	-	胎片	
169	Ⅱ区	SR401	須恵器	杯	同軸ナ+	同軸ナ+、 [△] ナリ 分ナリ	N6/灰	N5/灰	-	-	-	-	-	-	1/8	

第13表 元塚遺跡出土土器調査表(6)

報告番号	調査区	遺構名	層位等	種類	調査		色調		胎土				度量(cm)		備考				
					外題	内題	外題	内題	石質・赤色・灰	向	四角	胎母	その他	口径		底径	高さ	底径	残存率
170	Ⅲ区	SR401	最上層(南壁17層)	須恵器 杯	同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺	同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺	5Y7.1/灰白	5Y8.1/灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	地蔵石良	
171	Ⅲ区	SR401	最上・中層(南壁17・21層)	須恵器 杯	同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺	同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8	2.8	地蔵石良
172	Ⅲ区	SR401	最上・中層(南壁21層)	須恵器 杯	同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺	同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8	2.8	地蔵石良
173	Ⅲ区	SR401	最上層(南壁21層)	須恵器 杯	同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺	同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	1.8	須恵器土器[中]
174	Ⅲ区	SR401	最上層(北壁18層)	須恵器 杯	同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺	同胎土 ⁺	N7/灰白	N6/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8	2.8	地蔵石良
175	Ⅲ区	SR401	最上層(南壁21層)	須恵器 杯	同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺	同胎土 ⁺	10B5.1/赤灰	N4/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	1.8	地蔵石良
176	Ⅲ区	SR401	最上層(南壁13層)	須恵器 杯	同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺	同胎土 ⁺	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8	2.8	地蔵石良
177	Ⅲ区	SR401	最上層(南壁16層)	須恵器 杯	同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺	同胎土 ⁺	7.5Y7.1/灰白	7.5Y7.1/灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	1.8	地蔵石良
178	Ⅲ区	SR401	最上層(南壁16層)	須恵器 杯	同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺	同胎土 ⁺	7.5Y5.1/灰	N7/灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8	2.8	地蔵石良
179	Ⅲ区	SR401	最上層(南壁15層)	須恵器 杯	同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺	同胎土 ⁺	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8	2.8	地蔵石良
180	Ⅲ区	SR401	最上層(南壁17層)	須恵器 杯	同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺	同胎土 ⁺	N4/灰	N5/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	3.8	3.8	地蔵石良
181	Ⅲ区	SR401	下層(北壁15層)	須恵器 杯	同胎土 ⁺	同胎土 ⁺	N5/灰	N5/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	1.8	内・外面次9.74
182	Ⅲ区	SR401	最上層(南壁16層)	須恵器 杯	同胎土 ⁺	同胎土 ⁺	7.5Y7.1/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	1.8	地蔵石良
183	Ⅲ区	SR401	最上層(南壁21層)	須恵器 杯	同胎土 ⁺	同胎土 ⁺	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	1.8	地蔵石良
184	Ⅲ区	SR401	最上層(南壁21層)	須恵器 杯	同胎土 ⁺	同胎土 ⁺	7.5Y6.1/灰	5Y6.1/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8	2.8	地蔵石良
185	Ⅲ区	SR401	最上層(南壁17層)	須恵器 杯	同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺	同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8	2.8	地蔵石良
186	Ⅲ区	SR401	最上層(南壁17層)	須恵器 皿	同胎土 ⁺	同胎土 ⁺	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	1.8	須恵器土器
187	Ⅲ区	SR401	最上層(南壁17層)	須恵器 皿	同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺	同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺	N7/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	1.8	須恵器土器
188	Ⅲ区	SR401	最上層(南壁28層)	須恵器 高杯	同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺	同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	5.8	5.8	地蔵石良
189	Ⅲ区	SR401	下層(南壁22層)	須恵器 高杯	同胎土 ⁺	同胎土 ⁺	N8/灰白	N6/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8	2.8	地蔵石良
190	Ⅲ区	SR401	最上層(南壁17層)	須恵器 高杯	同胎土 ⁺	同胎土 ⁺	N7/灰白	5Y6.1/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	1.8	地蔵石良
191	Ⅲ区	SR401	下・最下層(南壁22・28層)	須恵器 高杯	同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺	同胎土 ⁺	N6/灰	N5/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8	2.8	全体に芯み有
192	Ⅲ区	SR401	最下層(南壁28層)	須恵器 鉢	同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺	同胎土 ⁺	N4/灰	N5/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8	2.8	地蔵石良
193	Ⅲ区	SR401	下・最下層(南壁22・28層)	須恵器 鉢	同胎土 ⁺ ・同胎土 ⁺	同胎土 ⁺	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	1.8	地蔵石良

第15表 元塚遺跡出土土器調査表(8)

観音 番号	調査区	遺構名	層位等	種類	調査		色調		胎土		度量(cm)		備考			
					外壁	内面	外壁	内面	石灰・赤色 灰	赤色 灰	口径	器高		底径	その他	残存率
246	V区	SK510		碗	張り出し高台	同軸付後縁輪	2578/2灰白	2578/2灰白	-	-	-	3.1	-	3.8		
247	V区	SK510		碗	張り出し高台後縁輪	同軸付後縁輪	5YR2/4青灰	5YR2/4灰白	-	-	-	5	40	-	2.8	
248	V区	SK510		碗	張り出し高台後縁輪	同軸付後縁輪	7.5YR7/2灰白	7.5Y7/2灰白	-	-	-	5.35	4	-	8.8	
249	V区	SK510		碗	張り出し高台後縁輪	同軸付後縁輪	5YR4/3 に赤い赤褐色	5YR4/3 に赤い赤褐色	-	-	-	10	6	(4.2)	-	1.8
250	V区	SK510		碗	張り出し高台	同軸付	7.5YR2/4青灰	7.5YR2/4青灰	-	-	-	5.4	-	-	5.8	
251	V区	SK510		碗	張り出し高台	同軸付	7.5YR2/4青灰	7.5YR2/4青灰	-	-	-	10.3	15.1	-	7.8	
254	V区	SK511		鉢	同軸付、目付	同軸付	7.5YR4/4 に赤い赤褐色	7.5YR4/4 に赤い赤褐色	-	-	-	-	-	-	-	破片
255	V区	SK511		鉢	同軸付	同軸付	5Y7/1灰白	2.5Y7/2灰黄	-	-	-	0.7	-	-	3.8	
256	V区	SK511		土師器	同軸付、目付	同軸付	10YR7/3 に赤い赤褐色	10YR7/3 に赤い赤褐色	中・少	中・少	-	32.4	10.3	2.4	6.8	2.8
257	V区	SK512		杯	同軸付	同軸付	7.5YR6/4 に赤い赤褐色	10YR7/4 に赤い赤褐色	中・少	中・少	-	0.43	2.4	-	-	破片
258	V区	ST501		弥生土器	同軸付、目付	同軸付	10YR8/2灰白	2.5Y7/1灰白	中・多	中・多	-	-	-	-	-	破片
259	V区	ST501		弥生土器	同軸付	同軸付	10YR7/2 に赤い赤褐色	5YR8/2灰白	中・多	中・多	-	-	-	-	-	破片
261	V区	SD502		須恵器	同軸付、目付	同軸付	10YR7/3 に赤い赤褐色	10YR7/2 に赤い赤褐色	中・多	中・多	-	-	-	4.8	-	7.8
263	V区	SD502		須恵器	同軸付	同軸付	10YR7/3 に赤い赤褐色	10YR7/2 に赤い赤褐色	中・多	中・多	-	-	-	-	-	7.8
265	V区	SD504		須恵器	同軸付	同軸付	5P85/1青灰	5P85/1青灰	-	-	-	-	-	22.0	-	3.8
266	V区	SD504		須恵器	同軸付	同軸付	2.5YR8/1灰白	2.5YR8/1灰白	-	-	-	14.2	-	-	-	2.8
267	V区	SD504	上・下層	須恵器	同軸付	同軸付	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	-	-	-	2.8
268	V区	SD504		土師器	同軸付	同軸付	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	中・少	中・少	-	-	-	-	-	5.8
269	V区	SD507		須恵器	同軸付	同軸付	N5/灰白	N7/灰白	中・少	中・少	-	11.7	4.1	0.6	-	1.8
270	V区	SD507		須恵器	同軸付	同軸付	N7/灰白	N7/灰白	中・少	中・少	-	-	-	-	-	3.8
271	V区	SD508		須恵器	同軸付	同軸付	N8/灰白	N8/灰白	中・少	中・少	-	11.6	-	-	-	1.8
272	V区	SD508		須恵器	同軸付	同軸付	5P87/1明青灰	5P87/1明青灰	中・少	中・少	-	9.7	3.1	-	-	4.8
273	V区	SD509		須恵器	同軸付	同軸付	5B6/1青灰	5B6/1青灰	中・少	中・少	-	11.2	3.9	6.1	-	3.8
274	V区	SD509		須恵器	同軸付	同軸付	N6/灰	N6/灰	中・少	中・少	-	13.2	-	-	-	1.8
275	V区	SD500		須恵器	同軸付	同軸付	N7/灰白	N7/灰白	中・少	中・少	-	14.4	4.6	9.2	-	7.8
276	V区	SD510	上層	須恵器	同軸付	同軸付	N8/灰白	N7/灰白	中・少	中・少	-	17	2	(13.4)	-	2.8
277	V区	SD510	下層	須恵器	同軸付	同軸付	7.5Y5/2 灰白	N7/灰白	中・少	中・少	-	-	-	-	-	破片

第16表 元塚遺跡出土土器観察表(9)

調査 番号	調査区	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色澤		胎土		注目点		備考	
						外面	内面	外部	内部	石灰・ 赤色 灰石	雲母	その 他	口徑		器高
276	V区	SD510	上層	須恵器	杯	同配片 ⁺	同配片 ⁺	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	破片	
279	V区	SD510	中層	須恵器	杯	片 ⁺ , 片 ⁺	片 ⁺ , 片 ⁺	10YR8/4 成肌層	10YR8/4	-	-	中・多 (12)	-	3.8	
280	V区	SD510	上層	須恵器	杯	同配片 ⁺ , 同配片 ⁺ 片 ⁺ , 片 ⁺	同配片 ⁺ , 片 ⁺	2.5YR7/1灰白	2.5Y7/1灰白	-	-	中・多	0.6	1.8	
281	V区	SD510	下層	須恵器	葉	同配片 ⁺	同配片 ⁺	7.5YR6/1灰	7.5Y6/1灰	-	-	中・少	-	4.8	
282	V区	SD510	下層	須恵器	葉	片 ⁺ 後片 ⁺	同小片	7.5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	-	-	中・少	-	4.8	
283	V区	SD510	上層	土師器	葉	片 ⁺ , 片 ⁺	片 ⁺	2.5Y7.8黄	2.5Y7.4成肌層	中・多	-	-	-	破片	
284	V区	SD510	上層	土師器	葉	片 ⁺ , 片 ⁺	片 ⁺ , 片 ⁺	10YR7/4 に赤い肌層	2.5Y7.3成肌層	中・多	-	(14)	-	1.8	
286	V区	SD513		須生土器	壺	片 ⁺	片 ⁺	10YR6/3 に赤い肌層	10YR6/3	中・多	-	-	0.6	2.8	
287	V区	SD513	台成部	須生土器	葉	片 ⁺	片 ⁺	10YR8/3	10YR8/4 成肌層	中・多	-	-	6.2	3.8	
288	V区	SD512		須恵器	鉢	同配片 ⁺ , 同配片 ⁺ 後片 ⁺ , 片 ⁺	同配片 ⁺ , 片 ⁺	N7/灰白	N7/灰白	-	-	中・少	1.1	8.8	
289	V区	SD504	下層	須恵器	杯	同配片 ⁺ , 同配片 ⁺ 後片 ⁺ , 片 ⁺	同配片 ⁺	NG/灰	N6/灰	-	-	中・多 (6)	3.9	6.3	1.8
290	V区	SD509-513	台成部	須恵器	蓋	同配片 ⁺	同配片 ⁺	N6/灰	N6/灰	-	-	中・少	-	破片	
291	V区	SD509-513	台成部	須恵器	杯	同配片 ⁺ , 同配片 ⁺ 片 ⁺ , 片 ⁺	同配片 ⁺ , 片 ⁺ , 上土 片 ⁺	5YR5.2成肌層	N7/灰白	-	-	中・少 (11)	3.4	0.8	2.8
292	V区	SD509-513	台成部	須恵器	杯	同配片 ⁺	同配片 ⁺	506/1黄灰	N8/灰白	-	-	中・少 (12)	-	1.8	
293	V区	SD509-513	台成部	須恵器	杯	同配片 ⁺ , 同配片 ⁺ 片 ⁺ 後片 ⁺	同配片 ⁺	2.5YR6/1灰白	2.5YR6/1灰白	-	-	中・多	6.2	2.8	
294	V区	SD509-513	台成部	須恵器	杯	同配片 ⁺ , 同配片 ⁺ 片 ⁺ , 片 ⁺	同配片 ⁺ , 片 ⁺ , 上土 片 ⁺ , 片 ⁺	7.5YR7/4 に赤い肌層	5YR6.6成肌層	-	-	中・少	0.2	2.8	
295	V区	SD509-513	台成部	須恵器	高杯	同配片 ⁺ 後片 ⁺	同配片 ⁺	5YR7/1灰白	5YR7/1灰白	-	-	中・少	-	4.8	
296	V区	SD509-513	台成部	須恵器	葉	同配片 ⁺	同配片 ⁺	2.5Y7/1灰白	5YR6/1灰	-	-	中・少 (14)	-	1.8	
297	V区	SD509-513	台成部	土師器	葉	片 ⁺ , 片 ⁺ 後片 ⁺	片 ⁺	N6/灰	2.5Y7.2成肌層	中・多	-	(20)	-	1.8	
298	V区	SD508-509	台成部	須恵器	杯	同配片 ⁺	同配片 ⁺	N8/灰白	N8/灰白	-	-	中・少 (9)	-	1.8	
299	V区	SD508-509	台成部	須恵器	杯	同配片 ⁺	同配片 ⁺	N8/灰白	N8/灰白	-	-	中・少 (11)	-	1.8	
300	V区	SD508-509-513	台成部	須恵器	杯	同配片 ⁺ , 同配片 ⁺ 片 ⁺ , 片 ⁺	同配片 ⁺	5YR7/1灰白	5YR7/1灰白	-	-	中・少 (13)	2.1	10	1.8
301	V区	SD508-509-513		須恵器	短冊蓋	同配片 ⁺ , 同配片 ⁺ 片 ⁺ 後片 ⁺	同配片 ⁺ , 同小 片 ⁺ 後片 ⁺	N6/灰	N6/灰	-	-	中・多	1.6	4.8	
302	V区	SD515		須生土器	葉	片 ⁺	片 ⁺	10YR8/3 成肌層	10YR8/3	中・多	中・少	-	-	破片	
303	V区	SD516	北部	須恵器	蓋	同配片 ⁺	同配片 ⁺	N8/灰白	N7/灰白	-	-	中・多 (11)	-	1.8	
304	V区	SD516	北部	須恵器	杯	同配片 ⁺	同配片 ⁺	N6/灰	N8/灰白	-	-	中・少	-	破片	
305	V区	SD516	北部	須恵器	特殊扁蓋	同配片 ⁺ , 同配片 ⁺ 片 ⁺ , 片 ⁺	同配片 ⁺ , 同小 片 ⁺	N6/灰	N6/灰	-	-	中・少	-	4	
306	V区	SD517	上層	須恵器	蓋	同配片 ⁺	同配片 ⁺	5YR9/1黄灰	5YR7/1黄青灰	-	-	中・多	-	破片	
307	V区	SD517	下層	須恵器	杯	同配片 ⁺	同配片 ⁺	N7/灰白	N7/灰白	-	-	中・多	-	破片	
308	V区	SD517	下層	須恵器	皿	同配片 ⁺ , 同配片 ⁺ 後片 ⁺	同配片 ⁺	N5/灰	N5/灰	-	-	中・多	-	破片	

第17表 元塚遺跡出土土器調査表(10)

報告 番号	調査区	遺構名	層位等	種類	調査		色調		動土		度量(cm)		備考
					外面	内面	外壁	内部	石・灰 白	赤色 灰	母 土	その他	
309	V区	SD517	下層	黒色土器 碗	30子、40子	10YR7/2 に、50子	25Y3.4/黒	細・少	-	-	-	碗片	黒色土器A類
310	V区	SD517	下層	陶器 碗	同軸子、後縁	5Y7.2/灰白	25Y4.2 底・10子	-	-	-	-	碗片	-
311	V区	SD517	下層	須恵器 葉	同軸子、後縁	N7/灰白	N8/灰白	中・少	中・少	中・少	中・少	碗片	1.8
312	V区	SD517	上層	須恵器 葉	同軸子、7子後縁、 4子、10子	N6/灰	N7/灰白	中・少	中・少	中・少	中・少	碗片	1.8
314	V区	SD518		須恵器 杯	同軸子、同軸子 前方出し高台後縁	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	碗片	1.8
315	V区	SD519		陶器 碗	同軸子、後縁	25Y7.7/1 同軸子、10子	N7/灰白	-	-	-	-	碗片	8.8
316	V区	SD519		陶器 碗	前方出し高台後縁	7.5Y6.1/灰	N6/灰	-	-	-	-	碗片	2.8
317	V区	SD519		陶器 碗	前方出し高台後縁	10G5.6/赤	5Y8.2/灰白	-	-	-	-	碗片	2.8
318	V区	SD519		陶器 碗	同軸子、同軸子、 前方出し高台後縁	2.5Y7.6/6	2.5Y7.6/6	中・少	中・少	中・少	中・少	碗片	3.8
319	V区	SD519		土師器 皿	同軸子、同軸子、 前方出し高台後縁	7.5Y8.4/2	N8/灰白	中・多	中・少	中・少	中・少	碗片	3.8
320	V区	SD520	中層	染付 皿	同軸子、後縁	506.1/青灰	N8/灰白	-	-	-	-	碗片	1.8
321	V区	SD520	上層	陶器 碗	同軸子、後縁	5YR4.1/黒 灰・薄青	N8/灰白	-	-	-	-	碗片	2.8
322	V区	SD520	下層	陶器 碗	同軸子、後縁	5Y7.2/灰白	5Y7.2/灰白	-	-	-	-	碗片	1.8
323	V区	SD520	上・中層	陶器 碗	同軸子、後縁	5Y7.2/灰白	5Y7.2/灰白	-	-	-	-	碗片	2.8
324	V区	SD520	下層	瓦質土器 碇	同軸子、後縁	2.5Y3.1/黒	2.5Y6.2/灰	細・少	細・少	細・少	細・少	碗片	1.8
325	V区	SD520	上・中層	瓦質土器 碇	同軸子、後縁	5Y4.1/灰	5Y4.1/灰	中・少	中・少	中・少	中・少	碗片	1.8
326	V区	SD520	下層	瓦質土器 碇	同軸子、後縁	10Y8.6/2 灰青	10Y8.6/2 灰青	-	-	-	-	碗片	3.8
327	V区	SD520	上層	土師器 鍋	同軸子、後縁	5Y8.8/2	25Y8.2/灰白	-	-	-	-	碗片	3.8
329	V区	SD521		須恵器 皿	同軸子、後縁	5Y8.8/2	25Y8.2/灰白	-	-	-	-	碗片	6.8
330	V区	SD521		陶器 碗	同軸子、後縁	7.5Y2.2/黒	10Y8.2/灰白	-	-	-	-	碗片	3.8
331	V区	SD521		瓦質土器 碇	同軸子、後縁	5Y9.1 ホロー	5Y9.1 ホロー	細・少	細・少	細・少	細・少	碗片	1.8
332	V区	SD521		瓦質土器 碇	同軸子、後縁	10YR7.3	10YR7.3	細・少	細・少	細・少	細・少	碗片	1.8
333	V区	SP117		須恵器 高杯	同軸子、後縁	7.5Y7.1/灰白	7.5Y7.1/灰白	-	-	-	-	碗片	1.8
336	V区	SP126		土師器 葉	同軸子、後縁	2.5Y7.2/灰	5Y6.8/灰	中・少	中・少	中・少	中・少	碗片	2.8
337	V区	SP160		黒色土器 碗	同軸子、後縁	10Y2.1	10Y2.1	-	-	-	-	碗片	1.8
338	V区	SP161		土師器 碗	同軸子、後縁	10Y8.2/灰白	10Y8.2/灰白	細・少	細・少	細・少	細・少	碗片	1.8
339	V区	SP175		赤土器 葉	同軸子、後縁	2.5Y8.2/灰白	2.5Y8.2/灰白	中・少	中・少	中・少	中・少	碗片	8.8
340	V区	SP197		赤土器 葉	同軸子、後縁	10Y8.7/3 に、50子	10Y8.7/3 に、50子	中・少	中・少	中・少	中・少	碗片	8.8

第18表 元塚遺跡出土土器調査表(11)

調査 番号	調査区	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色澤		粘土		寸法(cm)			保存率	備考	
						外題	内題	外題	内題	石灰・ 白色 石灰	赤色 角閃 石	雲母	その他	口径			器高
341	V区	SP1004		黒色土器	碗	同軸片 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	25Y8/1灰白	5Y7/1灰	中・少	-	(4.7)	4.8	6.6	-	2.8	黒色土器A類
342	V区	SP1005		土師器	钵	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺	7.5Y8/1灰白	7.5YR7/1 明灰	-	-	-	-	-	-	破片	
343	V区	SP1021		須恵器	高杯	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺	N7/灰白	N6/灰	-	-	-	-	-	-	破片	
345	V区	SP1024		須恵器	甕	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺	N4/灰	N4/灰	-	-	-	-	-	-	破片	
346	V区	SP1031、 SP1026		須恵器	甕	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺ 、 ⁺	5Y8/5.4 に、赤い層	5YR4.2灰黄	-	-	-	-	-	-	-	片・外面自然層
349	V区	SP1027		土師器	杯	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺	5Y8/6.4	7.5YR7.6	-	-	-	-	-	-	破片	
350	V区	包含層		土師器	杯	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺	5Y8/6.4	7.5Y8/3 成黄帯	中・少	-	-	-	-	-	破片	
353	V区	包含層		須恵器	杯	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	-	-	破片	
352	V区	包含層		須恵器	杯	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	-	-	-	破片	
353	V区	包含層		土師器	製罐土器	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	-	-	-	破片	
355	V区	S0001(SV03)		須恵器	高杯	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺	7.5Y8/4 成黄帯	10YR4/1 明灰	中・多	-	-	-	-	-	破片	
356	V区	S0002(SV03)		須恵器	杯	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺	N7/灰白	7.5Y8/4 成黄帯	中・少	-	-	-	-	-	破片	
357	V区	S0003(SV07)		須恵器	杯	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺	N6/灰	N8/灰白	中・少	-	12	3.7	7	-	4.8	
358	V区	S0603(SV00)		須恵器	杯	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺	7.5Y8/4 に、赤い層	7.5YR7/4 に、赤い層	中・少	-	-	-	-	-	破片	
359	V区	S0605(SV00)		須恵器	杯	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	-	-	破片	
360	V区	SK004		須恵器	杯	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺	N7/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	-	-	破片	
361	V区	SK005		須恵器	杯	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺	N7/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	-	-	破片	
362	V区	SK001		須恵器	皿	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺	5Y8/1灰白	5YR7.1灰白	中・少	-	-	-	-	-	破片	
363	V区	SK061		須恵器	蓋	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺	N6/灰	N6/灰	中・少	-	-	-	-	-	破片	
364	V区	SK061		須恵器	蓋	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	-	-	-	破片	
365	V区	SK062	上層	須恵器	杯	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺	N6/灰	N5/灰	中・多	-	-	-	-	-	2.8	
366	V区	SK062	上層	須恵器	蓋	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺	N7/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	-	-	破片	
367	V区	SK062	下層	須恵器	杯	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	-	-	破片	
368	V区	SK062	下層	須恵器	小皿	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺ 、 ⁺	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	-	-	破片	
369	V区	SK062	下層	土師器	小皿	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺ 、 ⁺	2.5Y8.2灰白	2.5Y8.1灰白	中・少	-	-	-	-	-	破片	
370	V区	SK062	下層	黒色土器	碗	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺ 、 ⁺	2.5Y7.1灰白	10YR7/1灰白	中・中	-	-	-	-	-	破片	
371	V区	SK062	上層	瓦器	椀	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺ 、 ⁺	N4/灰	N4/灰	-	-	-	-	-	-	破片	
373	V区	SK063	中層	須恵器	钵	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺ 、 ⁺	5Y6.1灰	N7/灰白	中・少	-	-	-	-	-	破片	
374	V区	SK064	下層	須恵器	蓋	同軸片 ⁺ 、 ⁺	同軸片 ⁺ 、 ⁺	N7/灰白	N7/灰白	中・少	-	-	-	-	-	破片	

第19表 元塚遺跡出土土器調査表(12)

報告書 番号	調査区	遺構名	層位等	種類	器種	調査		色調		胎土				度量(cm)		備考			
						外面	内面	外壁	内部	石灰、赤色 灰白	赤色 灰	向四 石	その他	口径	底径		その他	残存率	
375	VI区	SD601	中・下層	須恵器	蓋	同軸ナ、同軸△ ナ、同軸△ナ ナ後ナ上ナ行ナ	同軸ナ、同軸△ ナ後ナ上ナ行ナ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	細・少	129	39	7.8	-	6.8	口径部み有(121 -122)
376	VI区	SD604	上・中層(南 壁54層)	須恵器	蓋	同軸ナ、同軸△ ナナナ	同軸ナ+	N6/灰	N6/灰	-	-	-	細・少	139	41	8.2	-	1.8	
377	VI区	SD601	下層	須恵器	蓋	同軸ナ、同軸△ ナナナ	同軸ナ+	10YR8.1 黒灰	10YR6.1 黒灰	-	-	-	中・多	125	38	10.7	-	8.8	
378	VI区	SD604	下層	須恵器	蓋	同軸ナ、同軸△ ナナナ	同軸ナ+	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	細・少	108	-	-	-	4.8	
379	VI区	SD604	上層	須恵器	杯	同軸ナ+	同軸ナ+	N6/灰	N6/灰	-	-	-	細・少	100	-	-	-	1.8	
380	VI区	SD604	上層	須恵器	杯	同軸ナ、同軸△ ナナナ	同軸ナ+	N6/灰	N6/灰	-	-	-	細・少	103	-	-	-	1.8	
382	VI区	SD604	中層	須恵器	杯	同軸ナ、同軸△ ナナナ	同軸ナ+	N7/灰白	N5/灰	-	-	-	細・少	124	3.6	6.9	-	2.8	
383	VI区	SD604	下層	須恵器	杯	同軸ナ+	同軸ナ+	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	細・少	11.2	-	-	-	1.8	
384	VI区	SD604	上層	須恵器	杯	同軸ナ+	同軸ナ+	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	中・少	-	-	-	-	1.8	
385	VI区	SD604	中層	須恵器	杯	同軸ナ、同軸△ ナナナ	同軸ナ+	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	中・少	8.7	4.5	9.1	-	6.8	
386	VI区	SD604	上層	須恵器	杯	同軸△ナナナ、同 軸△ナナナ	同軸ナ+	N6/灰	N6/灰	-	-	-	細・少	11.8	3.4	5.7	-	5.8	
387	VI区	SD604	中層	須恵器	杯	同軸ナ、同軸△ ナナナ	同軸ナ+	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	細・少	10.8	-	-	-	2.8	
388	VI区	SD604	中層	須恵器	杯	同軸ナ、同軸△ ナナナ	同軸ナ+	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	細・少	9.6	4.6	9	-	8.8	
389	VI区	SD604	上・下層	須恵器	杯	同軸ナ、同軸△ ナナナ	同軸ナ+	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	中・少	10.8	-	-	-	3.8	
390	VI区	SD604	上層	土師器	杯	同軸ナ、同軸△ ナナナ	同軸ナ+	7.5YR6.4 に赤い層	7.5YR6.4 に赤い層	中・基	中・基	-	-	15.0	5	4.6	-	2.8	透かし穴2枚
391	VI区	SD604	上層	須恵器	高杯	同軸ナ、同軸△ ナナナ	同軸ナ+	N6/灰	N6/灰	-	-	-	細・少	-	-	10.0	-	2.8	底面に赤い層
392	VI区	SD604	中・下層	須恵器	罎	同軸ナ、同軸△ ナナナ	同軸ナ+	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	細・少	-	-	-	-	6.8	底面に赤い層
394	VI区	SD604	下層	土師器	罎	同軸ナ、同軸△ ナナナ	同軸ナ+	7.5YR6.4 に赤い層	7.5YR6.4 に赤い層	中・基	中・基	中・少	-	63.0	11.6	-	-	3.8	底面に赤い層
395	VI区	SD604	下層	土師器	罎	同軸ナ、同軸△ ナナナ	同軸ナ+	5YR5.6 赤褐色 に赤い層	5YR5.6 赤褐色 に赤い層	中・基	中・基	中・少	-	-	-	-	-	2.8	一部分のみ有
396	VI区	SD604	中層	土師器	罎	同軸ナ、同軸△ ナナナ	同軸ナ+	10YR8.3 に赤い層	10YR8.3 に赤い層	中・基	中・基	中・多	-	-	-	-	-	1.8	
397	VI区	SD604	中層	土師器	罎	同軸ナ、同軸△ ナナナ	同軸ナ+	2.5YR7.2 に赤い層	2.5YR7.2 に赤い層	中・基	中・基	中・多	-	2.0	-	-	-	1.8	
398	VI区	SD604	中層	土師器	罎	同軸ナ、同軸△ ナナナ	同軸ナ+	10YR7.2 に赤い層	10YR7.2 に赤い層	中・多	中・多	-	-	65.2	-	-	-	1.8	
399	VI区	SD604	下層	土師器	罎	同軸ナ、同軸△ ナナナ	同軸ナ+	10YR8.4 に赤い層	10YR8.4 に赤い層	中・基	中・基	-	-	69.8	-	-	-	2.8	

第20表 元塚遺跡出土土器類表(13)

調査番号	調査区	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色澤	胎土		注記(cm)		備考	
						外周	内面		石灰・赤色・角閃石	雲母	口徑	器高		底径
400	Ⅷ区	SD604	中層	土師器	甕	指柱	指柱	7.5YR8/4 成黄褐色	中・並	中・少	-	-	破片	
401	Ⅷ区	SD604	上層	須恵器	甕	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N6/灰	-	N7/灰白	-	-	破片	
402	Ⅷ区	SD604	上・中層	須恵器	甕	同軸片 ¹⁾ , 99A	同軸片 ¹⁾ , 99A	10YR8/4 成黄褐色	-	中・多	24	-	5.8 9.9備文	
403	Ⅷ区	SD604	中層	須恵器	甕	99A	同心円	N4/灰	5YR1/灰白	-	-	-	20.4 0.02	
404	Ⅷ区	SD604	下層	須恵器	甕	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾ , 99A	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	2.8	
405	Ⅷ区	SD604	下層	須恵器	甕	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	1.8	
406	Ⅷ区	SD604	上層	須恵器	須恵器	同軸片 ¹⁾ , 同軸片 ¹⁾ 99A	同軸片 ¹⁾	N6/灰	N6/灰	-	-	-	6.8	
407	Ⅷ区	SD604	上層	土師器	甕	99A, 指片	99A, 指片	10YR8/3 成黄褐色	中・並	中・並	10.5	12.7	-	
408	Ⅷ区	SD604	上層	土師器	甕	99A, 指片 ¹⁾ , 329 ¹⁾	99A, 指片 ¹⁾ , 329 ¹⁾	10YR7/3 に赤い黄褐色	中・多	-	-	-	-	8.8
409	Ⅷ区	SD604	中層	土師器	甕	99A, 指片 ¹⁾ , 99A	99A, 指片 ¹⁾ , 99A	7.5YR6/4 に赤い黄褐色	中・並	-	(11)	-	1.8	
410	Ⅷ区	SD604	中層	須生土器	鉢	329 ¹⁾ , 指片 ¹⁾ 成 99A, 指片 ¹⁾	329 ¹⁾ , 指片 ¹⁾ 成 99A, 指片 ¹⁾	10YR5/3 に赤い黄褐色	中・並	中・多	-	-	破片	
411	Ⅷ区	SD601	上層	須恵器	甕	同軸片 ¹⁾ , 同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N7/灰白	99B6.1黄灰	-	-	7.5	8.8	
412	Ⅷ区	SD601	上層	須恵器	甕	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N5/灰	N6/灰	-	-	-	1.8	
413	Ⅷ区	SD601	上層	須恵器	杯	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	破片	
414	Ⅷ区	SD604	須生土器	甕	99A, 329 ¹⁾	99A	99A	7.5YR6/4 に赤い黄褐色	-	-	(11)	-	1.8	
415	Ⅷ区	SD605	須恵器	甕	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	破片	
416	Ⅷ区	SD605	須恵器	甕	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	1.8	
417	Ⅷ区	SD605	須恵器	杯	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	1.8	
418	Ⅷ区	SD605	須恵器	杯	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	2.8	
419	Ⅷ区	SD605	須恵器	杯	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	1.8	
420	Ⅷ区	SD605	須恵器	杯	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	1.8	
421	Ⅷ区	SD605	須恵器	杯	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	破片	
422	Ⅷ区	SD605	上層	須恵器	杯	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N6/灰	N6/灰	-	-	-	破片	
423	Ⅷ区	SD605	須恵器	杯	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	破片	
424	Ⅷ区	SD605	須恵器	杯	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	破片	
425	Ⅷ区	SD605	須恵器	杯	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	1.8	
426	Ⅷ区	SD605	須恵器	杯	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	1.8	
427	Ⅷ区	SD605	須恵器	杯	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	1.8	
428	Ⅷ区	SD605	須恵器	高杯	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	1.8	
429	Ⅷ区	SD605	須恵器	甕	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N7/灰白	N8/灰白	-	-	(7)	1.8	
430	Ⅷ区	SD605	土師器	甕	329 ¹⁾	329 ¹⁾	329 ¹⁾	10YR6.1黄褐色	中・並	中・多	0.28	-	1.8	
431	Ⅷ区	SD605	土師器	甕	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	7.5YR7.8黄褐色	中・並	中・多	-	-	破片	
432	Ⅷ区	SD601	上層	須恵器	甕	同軸片 ¹⁾ , 同軸片 ¹⁾ 99A	同軸片 ¹⁾	N7/灰白	5YR1/灰白	-	-	-	破片	
436	Ⅷ区	SD601	上層	須恵器	杯	同軸片 ¹⁾ , 同軸片 ¹⁾ 99A	同軸片 ¹⁾	N7/灰白	N8/灰白	-	-	(7)	1.8	
437	Ⅷ区	SD601	上層・ 上層南西	須恵器	杯	同軸片 ¹⁾ , 同軸片 ¹⁾ 99A	同軸片 ¹⁾	7.5YR1/灰	N8/灰白	-	-	(6)	3.8	

第21表 元塚遺跡出土土器調査表(14)

観測 番号	調査区	遺構名	層位等	種類	調査		色調		動土				備考				
					外周	内面	外壁	内面	石・土 表・裏	赤色 層	向四 石	その 他		口径	底径	その他	
438	Ⅴ区	S8601	土層	須恵器 杯	須恵土*	須恵土*	N67/灰 N77/灰白	N77/灰白	-	-	-	-	-	-	-	1.8	-
439	Ⅴ区	S8601	土層	須恵器 杯	須恵土*	須恵土*	N87/灰白	N87/灰白	-	-	-	-	-	-	-	1.8	-
440	Ⅴ区	S8601	土層	須恵器 杯	須恵土*	須恵土*	N87/灰白	N87/灰白	-	-	-	-	-	-	-	1.8	-
441	Ⅴ区	S8601	土層	須恵器 杯	須恵土*	須恵土*	N77/灰白	N77/灰白	-	-	-	-	-	-	-	1.8	-
442	Ⅴ区	S8601	土層	須恵器 杯	須恵土*	須恵土*	N77/灰白	N77/灰白	-	-	-	-	-	-	-	1.8	-
443	Ⅴ区	S8601	土層	須恵器 杯	須恵土*	須恵土*	N67/灰 N77/灰白	N67/灰	-	-	-	-	-	-	-	1.8	-
444	Ⅴ区	S8601	土層	須恵器 杯	須恵土*, 須恵土*	須恵土*, 須恵土*	N77/灰白	N77/灰白	-	-	-	-	-	-	-	4.8	-
445	Ⅴ区	S8601	土層	須恵器 杯	須恵土*	須恵土*	N67/灰 N87/灰白	N67/灰	-	-	-	-	-	-	-	1.8	-
446	Ⅴ区	S8601	土層	須恵器 杯	須恵土*	須恵土*	N87/灰白	N87/灰白	-	-	-	-	-	-	-	3.8	自然傾付着
447	Ⅴ区	S8601	土層	須恵器 高杯	須恵土*	須恵土*	N87/灰白	N87/灰白	-	-	-	-	-	-	-	1.8	透かし穴1
448	Ⅴ区	S8601	土層	須恵器 高杯	須恵土*	須恵土*	N77/灰白	N77/灰白	-	-	-	-	-	-	-	1.8	-
449	Ⅴ区	S8601	土層	須恵器 高脚盤	須恵土*	須恵土*	75YR5/3灰 75YR6/6	N77/灰白	-	-	-	-	-	-	-	1.8	-
450	Ⅴ区	S8601	土層	土師器 甕	32H*	須恵土*	25YR6.6/6	10YR7/3成灰 75YR8/4成灰	中・並	-	-	-	-	-	-	1.8	-
451	Ⅴ区	S8601	下層	土師器 甕	32H*	須恵土*	75YR8/4成灰	75YR8/3成灰	中・少	-	-	-	-	-	-	1.8	-
452	Ⅴ区	S8601	下層	土師器 甕	中A, 須恵土*後 中A*	須恵土*後	10YR8/4成灰	10YR7/2成灰	中・	-	-	-	-	-	-	1.8	-
453	Ⅴ区	S8601	下層	須恵器 ミニチュア ア壺	中A, 須恵土* 中A*	須恵土*	N77/灰白	N77/灰白	中・少	-	-	-	-	-	-	4.8	-
454	Ⅴ区	S8601	土層	土師器 羽口	須恵土*後	須恵土*後	25Y6.2/灰	25Y6.2/灰	中・少	-	-	-	-	-	-	5.9	-
455	Ⅴ区	S8602	下層	須恵土器 甕	32H*	須恵土*後	N77/灰白	N77/灰白	中・少	-	-	-	-	-	-	1.8	-
456	Ⅴ区	S8602	下層	須恵土器 甕	32H*	須恵土*後	N77/灰白	N77/灰白	中・少	-	-	-	-	-	-	1.8	-
457	Ⅴ区	S8602	下層	須恵土器 甕	中A, 須恵土* 中A*	須恵土*	10YR7/3成灰 10YR6/4成灰	10YR6/4成灰	中・多	-	-	-	-	-	-	1.8	-
458	Ⅴ区	S8602	下層	須恵土器 甕	中A, 須恵土* 中A*	須恵土*	75YR8/4成灰	75YR8/4成灰	中・多	-	-	-	-	-	-	1.8	-
459	Ⅴ区	S8602	下層	須恵土器 甕	32H*	須恵土*	75YR8/4成灰	75YR8/4成灰	中・多	-	-	-	-	-	-	1.8	-
460	Ⅴ区	S8602	下層	須恵土器 甕	32H*	須恵土*	25Y7.5/灰	25Y7.5/灰	中・並	-	-	-	-	-	-	1.8	-
461	Ⅴ区	S8602	中層	須恵土器 甕	中A*	須恵土*	10YR7/3成灰	10YR7/3成灰	中・並	-	-	-	-	-	-	1.8	-
462	Ⅴ区	S8602	下層	須恵土器 甕	中A*	須恵土*	10YR7/3成灰	10YR7/3成灰	中・並	-	-	-	-	-	-	1.8	-
463	Ⅴ区	S8602	下層	須恵土器 甕	32H*	須恵土*	25YR6.8/6	25YR6.8/6	中・並	-	-	-	-	-	-	1.8	-
464	Ⅴ区	S8602	下層	須恵土器 甕	中A*, 中A*	須恵土*	25YR5.6成灰	25YR5.6成灰	中・並	-	-	-	-	-	-	1.8	-
465	Ⅴ区	S8602	下層	須恵土器 甕	中A*, 中A*	須恵土*	5YR4.2/灰	5YR4.2/灰	中・並	-	-	-	-	-	-	1.8	-
466	Ⅴ区	S8602	下層	須恵土器 甕	32H*	須恵土*	5YR5.4成灰	5YR5.4成灰	中・並	-	-	-	-	-	-	1.8	-
467	Ⅴ区	S8602	下層	須恵土器 甕	32H*	須恵土*	5YR6.6/6	5YR6.6/6	中・並	-	-	-	-	-	-	1.8	-
468	Ⅴ区	S8602	中層	須恵土器 甕	32H*, 中A*	須恵土*	75YR4.6/6	75YR6.6/6	中・多	-	-	-	-	-	-	2.8	-
469	Ⅴ区	S8602	中層	須恵土器 甕	32H*	須恵土*	25YR6.6/6	5YR7.6/6	中・多	-	-	-	-	-	-	1.8	-
470	Ⅴ区	S8602	下層	須恵土器 甕	32H*, 中A*, 中A*	須恵土*	25YR6.6/6成灰	75YR2.4成灰	中・多	-	-	-	-	-	-	1.8	下層付凸帯

第22表 元塚遺跡出土土器類表(15)

番号 番号	調査区	遺構名	種別	器種	調整	外題	内題	色澤	石土 石色 紋	胎土	口徑	注型(cm)	底径	その 高	残存率	備考	
471	Ⅷ区	S8602	下層	弥生土器	Ⅷ3	75Y86/4	Ⅷ3	75Y86/4 成須磨	中・多・中・多	-	-	-	-	-	破片	-	
472	Ⅷ区	S8602	中層(南 壁74層)	弥生土器	Ⅷ3 指柱・○934* Ⅷ3	75Y86/2灰 成須磨	指柱・○934* Ⅷ3	10Y87/2 に・赤い須磨	中・多	-	-	-	-	-	破片	-	
473	Ⅷ区	S8602	中層	弥生土器	Ⅷ3 指柱(後半) Ⅷ3	25Y72灰 成須磨	指柱(後半) Ⅷ3	25Y72灰 成須磨	中・多・中・少	-	-	-	(10.4)	-	1.8	-	
474	Ⅷ区	S8602	下層	弥生土器	Ⅷ3 Ⅷ3	25Y72灰 成須磨	Ⅷ3	25Y72灰 成須磨	中・多・中・少	-	-	-	63	-	3.8	-	
475	Ⅷ区	S8602	下層	弥生土器	Ⅷ3 Ⅷ3	10Y87/3 に・赤い須磨	Ⅷ3	10Y86/1 成須磨	中・多	-	-	-	69	-	3.8	-	
476	Ⅷ区	S8602	下層	弥生土器	Ⅷ3 Ⅷ3	10Y87/3 に・赤い須磨	Ⅷ3	25Y86/4 成須磨	中・多・中・少	細・少	-	-	78	-	8.8	-	
477	Ⅷ区	S8602	下層	弥生土器	Ⅷ3 Ⅷ3	10Y87/4 に・赤い須磨	Ⅷ3	10Y87/4 に・赤い須磨	中・多・中・少	-	-	-	78	-	4.8	-	
478	Ⅷ区	S8602	下層	弥生土器	Ⅷ3 Ⅷ3	5Y87/6 成須磨	Ⅷ3	5Y86/8 成須磨	粗・多	-	-	-	8	-	8.8	底部に穿孔有	
479	Ⅷ区	S8602	中層	弥生土器	Ⅷ3 Ⅷ3	5Y87/4 に・赤い須磨	Ⅷ3	5Y86/4 成須磨	中・多・中・少	-	-	-	5.7	-	8.8	-	
480	Ⅷ区	S8602	下層	弥生土器	Ⅷ3 Ⅷ3	25Y77/6 成須磨	Ⅷ3	25Y77/6 成須磨	中・多・中・少	-	-	-	(4.8)	-	3.8	-	
481	Ⅷ区	S8602	下層	弥生土器	Ⅷ3 Ⅷ3	25Y72灰 成須磨	Ⅷ3	10Y87/3 に・赤い須磨	中・多・中・少	-	-	-	5.8	-	4.8	-	
482	Ⅷ区	S8602	上層	弥生土器	Ⅷ3 Ⅷ3	75Y86/4 成須磨	Ⅷ3	75Y85/2 成須磨	細・少	-	-	-	(6.5)	-	3.8	下川津日類	
483	Ⅷ区	S8602	中層	弥生土器	Ⅷ3 Ⅷ3	10Y87/3 に・赤い須磨	Ⅷ3	10Y86/2 成須磨	中・多・中・少	-	-	-	9.8	-	6.8	-	
484	Ⅷ区	S8602	中層	弥生土器	Ⅷ3 Ⅷ3	10Y87/4 に・赤い須磨	Ⅷ3	10Y87/4 に・赤い須磨	中・多・中・少	-	-	-	8	-	8.8	-	
485	Ⅷ区	S8602	下層	弥生土器	Ⅷ3 Ⅷ3	25Y72灰 成須磨	Ⅷ3	25Y72灰 成須磨	粗・多・中・少	-	-	-	7.8	-	7.8	-	
486	Ⅷ区	S8602	下層	弥生土器	Ⅷ3 Ⅷ3	75Y87/8 成須磨	Ⅷ3	75Y86/2 成須磨	中・多・中・少	-	-	-	5.9	-	8.8	-	
487	Ⅷ区	S8602	中層	弥生土器	Ⅷ3 Ⅷ3	75Y87/6 成須磨	Ⅷ3	10Y87/4 に・赤い須磨	中・多	細・少	-	-	0.2	-	2.8	-	
488	Ⅷ区	S8602	中層(南壁 壁72層)	弥生土器	Ⅷ3 Ⅷ3	10Y86/3 に・赤い須磨	Ⅷ3	25Y74 成須磨	中・多	-	-	(19.8)	7	(6)	-	1.8	-
489	Ⅷ区	S8602	中層	弥生土器	Ⅷ3 Ⅷ3	10Y86/3 に・赤い須磨	Ⅷ3	25Y86/6 成須磨	中・多・中・少	-	-	-	69.2)	-	2.8	-	
490	Ⅷ区	S8602	中層(南 壁72層)	弥生土器	Ⅷ3 Ⅷ3	25Y8/2 成須磨	Ⅷ3	10Y87/3 に・赤い須磨	細・少	-	-	10.6	3.6	2.4	-	6.8	-
491	Ⅷ区	S8602	中層	弥生土器	Ⅷ3 Ⅷ3	10Y86/2 成須磨	Ⅷ3	10Y86/3 成須磨	中・多・中・少	-	-	-	5	-	8.8	付着物有	
492	Ⅷ区	S8602	中層	弥生土器	Ⅷ3 Ⅷ3	10Y87/3 に・赤い須磨	Ⅷ3	10Y87/3 に・赤い須磨	中・多・中・少	-	-	-	5	-	8.8	-	
493	Ⅷ区	S8602	下層	弥生土器	Ⅷ3 Ⅷ3	75Y86/4 成須磨	Ⅷ3	75Y86/4 成須磨	中・多・中・少	細・少	-	-	(26.8)	-	2.8	下川津日類	
494	Ⅷ区	S8602	中・下層	弥生土器	Ⅷ3 Ⅷ3	10Y86/3 に・赤い須磨	Ⅷ3	10Y86/3 に・赤い須磨	中・多	細・多	-	-	23.2	-	4.8	下川津日類	
495	Ⅷ区	S8602	上層	土師器	Ⅷ3 Ⅷ3	75Y88/4 成須磨	Ⅷ3	75Y88/4 成須磨	細・少	-	-	23.7	23	17	-	4.8	-
496	Ⅷ区	S8602	中層	土師器	Ⅷ3 Ⅷ3	10Y87/3 に・赤い須磨	Ⅷ3	10Y88/3 成須磨	中・多	-	-	(14.8)	11.8	(10.6)	-	3.8	-
497	Ⅷ区	S8602	中層(南 壁72層)	土師器	Ⅷ3 Ⅷ3	5Y86/3 成須磨	Ⅷ3	5Y87/6 成須磨	中・少	-	-	(18.2)	-	-	1.8	-	
498	Ⅷ区	S8602	中層	土師器	Ⅷ3 Ⅷ3	25Y8/2 成須磨	Ⅷ3	25Y8/2 成須磨	細・少	-	-	-	(11.4)	-	2.8	-	

第23表 元塚遺跡出土土器調査表(16)

編年 番号	調査区	遺構名	層位等	種類	調査		色調		胎土		度量(cm)		備考		
					器種	形状	外壁	内面	石・灰 土質	赤色 灰	口徑	器高		底径	その 量
499	VI区	S6602	中層(南 壁72層)	土師器	高杆	片 ⁺ 、板 ⁺ 後 ⁺ 片 ⁺	10YR8-2灰白 25YR7.4灰白	25YR8-2灰白	中・並	中・少	中・少	12.2	2.5	8・8	
500	VI区	S6602	中層	土師器	葉	23Y ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺ 片 ⁺	10YR6/3 に、 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	10YR6/3 に、 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	中・並	中・少	中・少	14	-	6・6	
501	VI区	S6602	中・下層	土師器	葉	23Y ⁺	25YR7.2灰白 に、 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	25YR7.2灰白 に、 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	中・並	中・少	中・少	12.2	-	3・8	
502	VI区	S6602	上層	土師器	葉	23Y ⁺	25YR7.4 に、 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	25YR7.4 に、 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	中・並	中・少	中・少	11.8	-	1・8	
503	VI区	S6602	中層	土師器	葉	23Y ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺ 片 ⁺	25YR7.2灰白 に、 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	25YR7.2灰白 に、 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	中・並	中・少	中・少	12.4	-	4・8	
504	VI区	S6602	上層	土師器	葉	23Y ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺ 片 ⁺	10YR7.4 に、 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	10YR7.4 に、 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	中・並	中・少	中・少	12.4	-	1・8	
505	VI区	S6602	中層	土師器	葉	23Y ⁺	10YR7.2 に、 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	10YR7.2 に、 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	中・少	中・少	中・少	12.4	-	1・8	
506	VI区	S6602	上層	土師器	葉	23Y ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺ 片 ⁺	10YR8-2灰白 5YR6.6黄	10YR8-2灰白 5YR6.6黄	中・少	中・少	中・少	11.9	-	3・8	
507	VI区	S6602	中層	土師器	葉	23Y ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺ 片 ⁺	10YR8.2 に、 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	10YR8.2 に、 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	中・並	中・少	中・少	12.0	-	1・8	
508	VI区	S6602	中層(南 壁72層)	土師器	葉	23Y ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺ 片 ⁺	10YR6.3 に、 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	10YR6.3 に、 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	中・並	中・少	中・少	12.0	-	2・8	
509	VI区	S6602	中層(南 壁72層)	土師器	葉	23Y ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺ 片 ⁺	10YR6.4 に、 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	10YR6.2 に、 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	中・並	中・少	中・少	12.1	-	4・8	
510	VI区	S6602	上層	土師器	葉	23Y ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺ 片 ⁺	10YR8.3 に、 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	25YR7.4 に、 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	中・並	中・少	中・少	12.1	-	1・8	
511	VI区	S6602	中層	土師器	葉	23Y ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺ 片 ⁺	25YR6.2灰黄	25YR6.2灰黄	中・並	中・少	中・少	-	-	8・8	
512	VI区	S6602	中層	土師器	葉	23Y ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺ 片 ⁺	25YR6.2灰黄	25YR6.2灰黄	中・並	中・少	中・少	-	-	8・8	
513	VI区	S6602	中層	土師器	葉	23Y ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺ 片 ⁺	25YR6.2灰黄	25YR6.2灰黄	中・並	中・少	中・少	-	-	8・8	
514	VI区	S6602	中層	土師器	製塩土器	片 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺ 片 ⁺	25YR6.6黄	25YR6.3 に、 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	中・並	中・少	中・少	14	-	4・8 外面被焼	
515	VI区	S6602	土師器	瓶	片 ⁺	10YR8.4 灰黄	10YR8.4 灰黄	10YR8.4 灰黄	中・多	中・多	中・多	12.2	-	1・8	
516	VI区	S6602	土師器	瓶	片 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺ 片 ⁺	10YR8-2灰白	10YR8-2灰白 に、 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	10YR8-2灰白 に、 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	中・並	中・多	中・多	12.5	-	3・8	
517	VI区	S6602	土師器	壺	片 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺ 片 ⁺	10YR8-2灰白	25Y7.1灰白 に、 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	10YR7.2 に、 ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺	中・並	中・多	中・多	-	-	8・8	
518	VI区	S6602	土師器	皿1	片 ⁺	23Y ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺ 片 ⁺	5YR7.6黄	5YR7.6黄	中・並	中・少	中・少	-	-	8・8	
519	VI区	S6602	土師器	蓋	片 ⁺	23Y ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺ 片 ⁺	N6/灰	N7/灰白	中・並	中・少	中・少	12	4.2	7.9	7・8
520	VI区	S6602	土師器	蓋	片 ⁺	23Y ⁺ 、 ⁺ 、 ⁺ 片 ⁺	5Y7.1灰白	5Y7.1灰白	中・並	中・少	中・少	12.2	-	2・8	
521	VI区	S6602	中層(南 壁52層)	須恵器	蓋	片 ⁺	25Y7.1灰白	25Y7.1灰白	中・並	中・少	中・少	11.1	-	1・8	
522	VI区	S6602	中層(南 壁52層)	須恵器	蓋	片 ⁺	N6/灰	N7/灰白	中・並	中・少	中・少	11.4	-	2・8	
523	VI区	S6602	中層(南 壁52層)	須恵器	蓋	片 ⁺	N6/灰	N6/灰	中・並	中・少	中・少	12	-	4・8	
524	VI区	S6602	中層(南 壁52層)	須恵器	蓋	片 ⁺	N7/灰白	N8/灰白	中・並	中・少	中・少	12.4	3.8	6.8	7・8
525	VI区	S6602	上・中層	須恵器	蓋	片 ⁺	N7/灰白	N6/灰	中・並	中・少	中・少	-	-	1・8	
526	VI区	S6602	上・中層	須恵器	蓋	片 ⁺	N7/灰白	N6/灰	中・並	中・少	中・少	12.6	3.8	7	7・8

第24表 元塚遺跡出土土器類表(17)

調査 番号	調査区	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色澤		粘土				寸法(cm)			備考		
						外題	内題	外題	内題	石蓋・ 灰石	赤色 敷	角閃 石	雲母	その他	口径	器高		底径	その他
527	VI区	S6602	上・中層(南 壁48-51層)	須恵器	蓋	同配子 [△] ・同配子 [△] 分5リ, 心9リ	同配子 [△] ・同配子 [△] 分8土上行 [△]	N6/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	横・少	(11.3)	3.7	6.2	-	3.8
528	VI区	S6602	中層	須恵器	蓋	同配子 [△] ・同配子 [△] 分5リ	同配子 [△]	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	中・少	13.4	4.2	7.5	-	8.8 正・五有
529	VI区	S6602	上・中層	須恵器	蓋	同配子 [△] ・同配子 [△] 分5リ	同配子 [△]	SF97/1青灰	SF97/1青灰	-	-	-	-	中・少	(13.4)	-	-	-	2.8
530	VI区	S6602	上・中層(南 壁42層)	須恵器	蓋	同配子 [△] ・同配子 [△] 分5リ	同配子 [△]	S7/1灰白	N7/灰白	-	-	-	-	中・少	-	-	7	-	自然割付倉
531	VI区	S6602	上層	須恵器	蓋	同配子 [△] ・同配子 [△] 分5リ	同配子 [△]	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	-	中・少	(11)	-	-	-	1.8
532	VI区	S6602	中層(南 壁45層)	須恵器	蓋	同配子 [△] ・同配子 [△] 分5リ, 心9リ	同配子 [△]	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	横・少	-	-	-	-	4.8 外筋の記号
533	VI区	S6602	中層(南 壁45層)	須恵器	蓋	同配子 [△] ・同配子 [△] 分5リ, 心9リ	同配子 [△]	N3/暗灰	N7/灰白	-	-	-	-	横・少	11.9	3.4	7.6	-	8.8 (11径等本有(1.19 - 1.26))
534	VI区	S6602	上層	須恵器	蓋	同配子 [△] ・同配子 [△] 分5リ, 心9リ	同配子 [△]	N7/灰白	N6/灰	-	-	-	-	横・少	-	-	6.2	-	1.8
535	VI区	S6602	中層(南 壁45層)	須恵器	杯	同配子 [△] ・同配子 [△] 分5リ, 心9リ	同配子 [△] ・同配子 [△] 分5土上行 [△]	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	中・少	10.4	4.6	12	-	4.8
536	VI区	S6602	中層	須恵器	杯	同配子 [△] ・同配子 [△] 分5リ, 心9リ	同配子 [△]	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	-	中・少	11.1	3.9	7.7	-	8.8
537	VI区	S6602	中層(南 壁42層)	須恵器	杯	同配子 [△] ・同配子 [△] 分5リ	同配子 [△]	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	中・少	(11.6)	-	-	-	2.8
538	VI区	S6602	上層	須恵器	杯	同配子 [△] ・同配子 [△] 分5リ	同配子 [△]	N5/灰	N6/灰	-	-	-	-	中・少	(15.5)	-	-	-	1.8
539	VI区	S6602	上層	須恵器	杯	同配子 [△] ・同配子 [△] 分5リ	同配子 [△]	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	横・少	(12)	-	-	-	3.8
540	VI区	S6602	中層(南 壁41層)	須恵器	杯	同配子 [△] ・同配子 [△] 分5リ, 心9リ	同配子 [△] ・同配子 [△] 分8土上行 [△]	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	中・多	12	3.7	8.2	14.7	8.8
541	VI区	S6602	中層	須恵器	杯	同配子 [△] ・同配子 [△] 分5リ, 心9リ	同配子 [△]	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	横・少	10.7	3.1	8.4	-	8.8
542	VI区	S6602	中層(南 壁45層)	須恵器	杯	同配子 [△] ・同配子 [△] 分5層	同配子 [△]	N8/灰白	7.57/1灰白	-	-	-	-	横・少	(11.2)	-	-	-	2.8
543	VI区	S6602	中層(南 壁41層)	須恵器	杯	同配子 [△] ・同配子 [△] 分5層	同配子 [△]	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	横・少	6.0	-	-	-	1.8
544	VI区	S6602	中層(南 壁41層)	須恵器	杯	同配子 [△] ・同配子 [△] 分5層	同配子 [△]	S7/1灰白	N8/灰白	-	-	-	-	横・少	(12.4)	-	-	-	1.8
545	VI区	S6602	中層	須恵器	杯	同配子 [△] ・同配子 [△] 分5層	同配子 [△] ・同配子 [△] 分8土上行 [△]	N7/灰白	S7/1灰白	-	-	-	-	横・少	10.4	4.4	7.2	-	8.8 壁・五有(10.4~ 11.6)
546	VI区	S6602	上層	須恵器	杯	同配子 [△] ・同配子 [△] 分5層	同配子 [△]	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	横・少	(10.8)	-	-	-	1.8
547	VI区	S6602	上層(南 壁46層)	須恵器	杯	同配子 [△] ・同配子 [△] 分5層	同配子 [△]	N5/灰	N6/灰	-	-	-	-	横・少	6.8	-	-	-	2.8
548	VI区	S6602	中層(南 壁46層)	須恵器	杯	同配子 [△] ・同配子 [△] 分5層	同配子 [△]	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	-	横・少	(11.3)	3.3	6.7	-	3.8
549	VI区	S6602	上層	須恵器	杯	同配子 [△] ・同配子 [△] 分5層	同配子 [△]	S97/1明青灰	S97/1明青灰	-	-	-	-	横・少	(13.2)	-	-	-	1.8
550	VI区	S6602	中層(南 壁46層)	須恵器	杯	同配子 [△] ・同配子 [△] 分5層	同配子 [△]	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	横・少	11.6	3.5	8.2	-	4.8
551	VI区	S6602	上層	須恵器	杯	同配子 [△] ・同配子 [△] 分5層	同配子 [△] ・同配子 [△] 分8土上行 [△]	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	中・少	11.3	3.8	7.5	-	7.8

第26表 元塚遺跡出土土器調査表(19)

調査番号	調査区	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色澤		胎土			法量(cm)		備考		
						外面	内面	外壁	内部	石莖・赤色石灰石	雲母	その量	口径	器高		底径	その量
575	Ⅷ区	S6602	中層(南壁部52層)	須恵器	高杯	同軸ナシ	同軸ナシ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	縦・少	(32)	-	1.8	
576	Ⅷ区	S6602	上層	須恵器	高杯	同軸ナシ	同軸ナシ	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	縦・少	14.1	-	8.8	
577	Ⅷ区	S6602	上・中層	須恵器	高杯	同軸ナシ	同軸ナシ	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	-	-	-	縦・少	11.7	14.1	7.8	透かし穴2・内・外面に黒耀片着
578	Ⅷ区	S6602	上・中層(南壁部54・58層)	須恵器	提籃	同軸ナシ	同軸ナシ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	縦・少	5.2	-	6.8	
579	Ⅷ区	S6602	上・中・下層(南壁部51・70層)	須恵器	轉瓶	9H後特目	向心円	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	縦・少	-	-	4.8	
580	Ⅷ区	S6602	上層(南壁部59・58層)	須恵器	短脚蓋	同軸ナシ	同軸ナシ	5Y5/1灰	N7/灰白	-	-	-	中・少	-	-	16.4	沈積口～2条)
581	Ⅷ区	S6602	上・中層	須恵器	短脚蓋	同軸ナシ	同軸ナシ	N6/灰	7.5Y6.1灰	-	-	-	縦・多	-	-	20.4	垂直変換、斜行
582	Ⅷ区	S6602	中層(南壁部71層)	須恵器	短脚蓋	同軸ナシ	同軸ナシ	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	縦・少	-	-	20.4	4.8
583	Ⅷ区	S6602	上層	須恵器	蓋	同軸ナシ	同軸ナシ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	縦・少	6.8	-	2.8	
584	Ⅷ区	S6602	中層(南壁部70・72層)	須恵器	壺	同軸ナシ	同軸ナシ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	縦・少	(17.2)	-	2.8	破片文
585	Ⅷ区	S6602	中層	須恵器	壺	同軸ナシ	同軸ナシ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	中・少	(8.6)	-	3.8	
586	Ⅷ区	S6602	上層(南壁部54層)	須恵器	壺	同軸ナシ	同軸ナシ	N8/灰白	10Y8/1灰白	-	-	-	縦・少	(20.8)	-	1.8	沈積1条
587	Ⅷ区	S6602	中層	須恵器	壺	9F、同軸ナシ	向心円	5Y4/1灰	5Y4/1灰	-	-	-	中・少	(25.0)	-	1.8	
588	Ⅷ区	S6602	中層(南壁部54・72層)	須恵器	壺	9F、同軸ナシ	向心円	N8/灰白	2.5Y8.2灰白	-	-	-	中・少	-	-	-	破片
589	Ⅷ区	S6602	中層(南壁部51層)	須恵器	土馬	9Fナリ	向心円	2.5Y7.1灰白	2.5Y7.1灰白	-	-	-	縦・少	-	-	2.8	
590	Ⅷ区	S6602	中層(南壁部51層)	須恵器	土馬	9Fナリ	向心円	N6/灰	N6/灰	-	-	-	縦・少	高さ9.6	幅3	原寸2.5	脚部片
607	Ⅷ区	S6603	中層(南壁部35層)	須恵器	杯	同軸ナシ	同軸ナシ	N6/灰	N7/灰白	-	-	-	中・多	11.3	3.8	7.8	7.8
608	Ⅷ区	S6603	中層	須恵器	高杯	同軸ナシ	同軸ナシ	N5/灰	N6/灰	-	-	-	中・多	12.4	8.1	8.8	8.8
609	Ⅷ区	S6603	中・下層(南壁部35層)	須恵器	高杯	同軸ナシ	同軸ナシ	5P57.1青灰	5P57.1青灰	-	-	-	縦・少	-	-	2.8	8.8
610	Ⅷ区	S6603	中層	土師器	筒	23Fナリ	23Fナリ	10Y8/2灰白	10Y8/2灰白	-	-	-	縦・多	-	-	-	破片
611	Ⅷ区	S6603	中層	土師器	壺	23Fナリ	23Fナリ	2.5Y7.2灰黄	2.5Y7.2灰黄	-	-	-	中・並	(6.8)	-	1.8	
612	Ⅷ区	S6603	上層	須恵器	壺	同軸ナシ	同軸ナシ	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	縦・多	(19.2)	-	1.8	内面に黒耀片着
613	Ⅷ区	S6603	上層	須恵器	壺	同軸ナシ	同軸ナシ	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	-	-	-	縦・少	(17.8)	-	1.8	
614	Ⅷ区	S6603	中層(南壁部35層)	須恵器	壺	同軸ナシ	同軸ナシ	N6/灰	N6/灰	-	-	-	縦・少	(16.4)	-	3.8	
615	Ⅷ区	S6603	中層(南壁部35層)	須恵器	壺	同軸ナシ	同軸ナシ	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	縦・少	-	-	8.8	外面に黒耀片着
616	Ⅷ区	S6603	中層(南壁部35層)	土師器	瓶	23Fナリ	23Fナリ	2.5Y7.2灰黄	2.5Y7.2灰黄	-	-	-	中・並	-	-	-	破片

第27表 元塚遺跡出土土器調査表(20)

編年 番号	調査区	遺構名	層位等	種類	器種	調査		色調		動土		計量(cm)		備考	
						外面	内面	外壁	内部	石表・ 裏面	赤色 程度	石 目	凹 凹		口徑
617	VI区	S6603	中層	須恵器	高杯	胎土 胎土	胎土	胎土	胎土	中・並	-	口徑 4.2	底径 4.9	胎土 0.6	破片
619	VI区	S6604	中層	須恵器	蓋	胎土 胎土	胎土	胎土	胎土	-	-	中・少 (11.2)	3.8	-	3.6
620	VI区	S6604	中層	須恵器	蓋	胎土 胎土	胎土	胎土	胎土	-	-	中・少 (13.2)	-	-	2.8
621	VI区	S6604	上層	須恵器	杯	胎土 胎土	胎土	胎土	胎土	-	-	N7/灰白	5.6	-	4.8
622	VI区	S6604	下層	須恵器	杯	胎土 胎土	胎土	胎土	胎土	-	-	N7/灰白	-	-	1.8
623	VI区	S6604	上層	須恵器	鉢	胎土 胎土	胎土	胎土	胎土	-	-	N6/灰	5.9	1.0	4.8
624	VI区	S6604	中層	土師器	高杯	胎土 胎土	胎土	胎土	胎土	中・並	中・並	1.3	-	-	7.8
625	VI区	S6604	中層	須恵器	高杯	胎土 胎土	胎土	胎土	胎土	-	-	N6/灰	9.6	-	4.8
626	VI区	S6604	下層	須恵器	高杯	胎土 胎土	胎土	胎土	胎土	-	-	N7/灰白	1.3	-	8.8
627	VI区	S6604	中層	須恵器	高杯	胎土 胎土	胎土	胎土	胎土	-	-	2.5X8.1灰白	7.9	10.3	8.8
628	VI区	S6604	中層	須恵器	高杯	胎土 胎土	胎土	胎土	胎土	-	-	5.7X7.1灰白	-	0.9	1.8
629	VI区	S6604	中層	須恵器	皿	胎土 胎土	胎土	胎土	胎土	-	-	N8/灰白	-	-	3.8
630	VI区	S6604	中層	須恵器	皿	胎土 胎土	胎土	胎土	胎土	-	-	N8/灰白	-	-	1.32
631	VI区	S6604	中層	須恵器	横皿	胎土 胎土	胎土	胎土	胎土	-	-	N7/灰白	-	-	破片
632	VI区	S6604	中層	土師器	蓋	胎土 胎土	胎土	胎土	胎土	中・並	-	-	10.7X8.3 灰黄	-	3.8
633	VI区	S6604	上層	土師器	蓋	胎土 胎土	胎土	胎土	胎土	中・並	中・並	1.5	-	-	4.8
634	VI区	S6604	中層	土師器	蓋	胎土 胎土	胎土	胎土	胎土	中・並	-	-	10.7X6.2 灰黄	-	3.8
635	VI区	S6604	中層	土師器	蓋	胎土 胎土	胎土	胎土	胎土	中・並	中・並	0.8	-	-	1.8
636	VI区	S6604	中層	須恵器	蓋	胎土 胎土	胎土	胎土	胎土	-	-	胎土	0.2	-	1.8
637	VI区	S6604	中層	須恵器	蓋	胎土 胎土	胎土	胎土	胎土	-	-	中・少	-	-	1.8
638	VI区	S6604	上層	須恵器	蓋	胎土 胎土	胎土	胎土	胎土	-	-	無	3.2	7.3	7.8
639	VI区	S6604	上層	土師器	蓋	胎土 胎土	胎土	胎土	胎土	中・並	中・並	-	-	-	破片
641	VI区	包含層		須恵器	蓋	胎土 胎土	胎土	胎土	胎土	-	-	中・少	0.2	1.9	7.1 (2.8)
642	VI区	包含層		須恵器	杯	胎土 胎土	胎土	胎土	胎土	-	-	中・少	-	(11)	1.6
643	VI区	包含層		土師器	引口	胎土 胎土	胎土	胎土	胎土	中・並	-	-	-	-	破片
647	III-1区	S170(SR96)		土師器	蓋	胎土 胎土	胎土	胎土	胎土	中・多	-	-	-	-	破片

第29表 兀塚遺跡出土土器調査表(22)

編入番号	調査区	遺構名	層位等	種類	調査		色調		胎土		度量(cm)		備考	
					外面	内面	外壁	内部	石・赤色灰石	赤母	その他	口径		器高
675	W-2区	S1715E1906	須恵器	杯	同軸ナ+	同軸ナ+	N5/灰	N7/灰白	-	-	-	-	破片	
676	W-2区	S1715E1903	須恵器	杯	同軸ナ+	同軸ナ+	S34/1灰	N4/灰	中・並	-	-	-	破片	
677	W-2区	S1716E1909	須恵器	杯	同軸ナ+	同軸ナ+	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	破片	
679	W-2区	S1718E1919	須恵器	杯	同軸ナ+	同軸ナ+	2377/1灰白	2377/1灰白	-	-	-	-	破片	
680	W-2区	S1718E1923	須恵器	高杯	同軸ナ+	同軸ナ+	2376/1灰	2376/1灰	-	-	-	(10.9)	-	
681	W-2区	S1721E1908	須恵器	杯	同軸ナ+	同軸ナ+	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	破片	
682	W-1区	S1723E1903	土師器	杯	同軸ナ+・同軸ナ	同軸ナ+	10YR7/3 成灰層	10YR8/4	中・並	中・少	-	-	破片	
683	W-2区	S1723E1908	黒色土器	瓶	2377+・ナ+	2377+・ナ+	2377/2成灰層	2377/2成灰層	中・並	中・少	-	(14.0)	-	
684	W-2区	S1723E1906	土師器	足釜	同軸ナ+	同軸ナ+	10YR8/4 成灰層	10YR7/2	中・並	中・少	-	-	破片	
685	W-2区	S1724E1919	須恵器	甕	同軸ナ+・同軸ナ 分ナ+後同軸ナ+	同軸ナ+	N5/灰	N7/灰白	-	中・少	-	-	破片	
686	W-2区	S1724E1919	土師器	甕	同軸ナ+後ナ+	同軸ナ+	7.5YR6/6成	7.5YR6/6成	中・並	中・少	-	-	外面自然剥落着	
689	W-2区	S1725E1904	土師器	杯	同軸ナ+・同軸ナ ナ+	同軸ナ+	10YR8/3 成灰層	10YR8/3	中・少	中・少	-	(8.8) 1.7	前	
690	W-2区	S1725E1901	土師器	焙烙	同軸ナ	同軸ナ	10YR5/2 成灰層	10YR5/2	中・並	中・少	-	-	破片 穴1貫	
691	W-2区	SK701	土師器	高杯	同軸ナ	同軸ナ	10YR7/1 成灰層	10YR8/1灰白	中・並	中・少	-	(6.8)	-	
692	W-2区	SK702	陶器	皿	同軸ナ+高台装 飾同軸ナ+儀輪 胎土目積	同軸ナ+儀輪 胎土目積	7.5YR7/4 成灰層	7.5YR7/4 成灰層	-	-	-	3.6	-	
693	W-2区	SK702	瓦質土器	羽釜	同軸ナ+後 ナ+儀輪胎土目積 上ナ+儀輪胎土目積	同軸ナ+後 ナ+儀輪胎土目積 上ナ+儀輪胎土目積	10YR5/1成灰層	2.5YR6/1成灰層	-	中・少	-	(8.5)	-	
694	W-2区	SK702	土師器	焙烙	同軸ナ+後 ナ+儀輪胎土目積	同軸ナ+後 ナ+儀輪胎土目積	10YR3/2成灰層	7.5YR5/3 成灰層	中・少	中・少	-	(42.4)	-	
697	W-2区	SK707	黒色土器	瓶	同軸ナ+	同軸ナ+	5YR7/3 成灰層	5YR5/2成灰層	中・少	中・少	-	(14.8)	-	
698	W-2区	SK707	須恵器	甕	同軸ナ+後 ナ+儀輪胎土目積	同軸ナ+	N5/灰	N5/灰	中・少	中・少	-	-	破片	
699	W-2区	SK702	土師器	足釜	同軸ナ+・ナ+	同軸ナ+・ナ+	2.5Y7/1灰白	2.5Y7/1灰白	中・少	中・少	-	17.3	-	
700	W-3区	S1727E1909	須恵器	甕	同軸ナ+	同軸ナ+	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	破片	
701	W-3区	SK703	茶褐色粘質土	蓋	同軸ナ+3ナ+・同軸ナ+	同軸ナ+	N7/灰白	N7/灰白	-	中・少	-	(10.4) 3.7	-	
702	W-3区	SK710	須恵器	高杯	同軸ナ+・同軸ナ ナ+	同軸ナ+	5YR1/1灰白	5YR1/1灰白	-	中・少	中・少	(11.8) 1.6	(12.2)	2.8
703	W-3区	SK710	須恵器	高杯	同軸ナ+	同軸ナ+	7.5YR6/1灰	N6/灰	-	中・少	-	-	3.6	
704	W-3区	SK710	須恵器	高杯	同軸ナ+	同軸ナ+	2.5YR8/2灰白	2.5YR8/2灰白	-	中・少	-	(1.3)	-	
705	W-3区	SK710	須恵器	高杯	同軸ナ+	同軸ナ+	2.5YR8/2灰白	2.5YR8/2灰白	-	中・少	-	3.8	-	
706	W-3区	SK710	須恵器	高杯	同軸ナ+・同軸ナ 分ナ+後同軸ナ+ 同軸ナ+2ナ+	同軸ナ+	2.5YR8/2灰白	2.5YR8/2灰白	-	中・少	-	-	(9.6)	2.8
707	W-3区	SK710	茶褐色粘質土	蓋	同軸ナ+後ナ+	同軸ナ+	10YR8/4 成灰層	10YR8/4 成灰層	中・並	中・少	-	-	-	
708	W-3区	SK711	土師器	小皿	同軸ナ+・同軸ナ ナ+	同軸ナ+	2.5YR6/1成灰層	2.5YR6/1成灰層	中・少	中・少	-	(7.2) 0.8	(5.8)	1.8

第30表 元塚遺跡出土土器類表(23)

調査 番号	調査区	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色澤	胎土		注記(cm)		備考	
						外面	内面		石灰・ 赤色 灰石	炭石	口徑	器高		底径
706	W-4区	SP713		須恵器	杯	同軸片 ¹⁾ 、同軸 ⁶⁾ 片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N7/灰白	-	中・少	-	Φ	2.8	
712	W-3区	SN704	赤灰色 粘質土	土師器	小皿	同軸片 ¹⁾ 、赤 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	25Y8/1灰白	中・量	-	Φ8.8	1.8	Φ	1.8
713	W-3区	SN704	赤灰色 粘質土	土師器	钵	22Y1、指 ¹⁾ 、指 ¹⁾ 後	指 ¹⁾	25Y4/1黄灰	中・多	-	Φ3.6	-	-	2.8
714	W-3区	SN704	赤灰色 粘質土	土師器	足釜	22Y1、指 ¹⁾ 、 指 ¹⁾ 、指 ¹⁾ 、 指 ¹⁾ 、指 ¹⁾	22Y1、指 ¹⁾	7.5Y8/4 に赤い黄	中・少	中・少	Φ2.7	-	-	1.8
715	W-3区	SN704	赤灰色 粘質土	土師器	足釜	指 ¹⁾ 、指 ¹⁾	指 ¹⁾	25Y8/1灰白	中・少	-	-	-	-	7.8
718	W-4区	SN706		須恵器	蓋	同軸片 ¹⁾ 後片 ¹⁾ 、 同軸片 ¹⁾ 後片 ¹⁾ 、 同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾ 、 指 ¹⁾ 、 指 ¹⁾	10Y87/6 明黄	-	中・多	12.4	3.6	6.5	4.8
719	W-4区	SN706	西壁	須恵器	蓋	9Y2/1、同軸 ¹⁾ 片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N7/灰白	-	中・少	Φ2.0	4	7.2	3.8
720	W-4区	SN706		須恵器	高杯	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N8/灰白	-	中・少	-	-	-	6.8
721	W-4区	SN706		須恵器	高杯	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	25Y7/1灰白	-	中・多	-	-	-	4.8
722	W-4区	SN706		土師器	钵	22Y1、指 ¹⁾	22Y1、指 ¹⁾	7.5Y8/2灰白	中・多	中・量	Φ3	-	-	1.8
723	W-1区	SP1005		土師器	鉢	22Y1、指 ¹⁾ 、 指 ¹⁾	22Y1、指 ¹⁾ 、 指 ¹⁾	10Y87/3 成黄	中・量	-	-	-	-	破片
724	W-1区	SP1301		須恵土器	蓋	7Y5、指 ¹⁾ 、指 ¹⁾ 後 片 ¹⁾	指 ¹⁾	10Y87/4 に赤い黄	中・多	-	-	-	-	破片
725	W-1区	SP1304		須恵器	裏	22Y1(7Y7)	22Y1(7Y7)	10Y87/4 に赤い黄	中・量	-	-	-	-	破片
726	W-1区	SP1306		須恵器	杯	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N7/灰白	-	中・少	-	-	-	破片
727	W-1区	SP1315		須恵土器	蓋	22Y1	22Y1	10Y87/2 に赤い黄	中・量	中・量	-	-	-	破片
728	W-1区	SP1335		須恵器	杯	同軸片 ¹⁾ 、 同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N5/灰	-	中・少	-	-	-	破片
729	W-1区	SP1338		須恵器	杯	同軸片 ¹⁾ 、 同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N5/灰	-	中・少	-	-	-	破片
730	W-1区	SP1344		須恵器	蓋	同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	7.5Y7/1灰白	-	中・少	-	-	-	破片
731	W-1区	SP1356		須恵土器	裏	指 ¹⁾	指 ¹⁾	10Y88/3 成黄	中・量	中・量	-	-	-	破片
732	W-1区	SP1366		須恵土器	裏	指 ¹⁾ (7Y7)、 指 ¹⁾	指 ¹⁾	10Y87/3 に赤い黄	中・量	中・量	-	-	-	破片
733	W-2区	SP1004		瓦器	瓶	22Y1、指 ¹⁾ 、 指 ¹⁾	22Y1、赤 ¹⁾ 、 指 ¹⁾	N4/灰	-	中・多	15.3	5.4	5	6.8
734	W-2区	SP1004		土師器	小皿	同軸片 ¹⁾ 、同軸 ⁶⁾ 片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	10Y88/3 成黄	中・量	中・量	8.9	1.5	5.5	6.8
735	W-2区	SP1004		土師器	小皿	同軸片 ¹⁾ 、赤 ¹⁾ 、 指 ¹⁾ 、指 ¹⁾ 後	同軸片 ¹⁾	25Y8/2灰白	中・量	中・量	9	1.5	6	4.8
736	W-2区	SP1019		須恵器	蓋	同軸片 ¹⁾ 後片 ¹⁾ 、 同軸片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	N4/灰	-	中・多	Φ7	-	-	1.8
737	W-2区	SP1031		土師器	小皿	同軸片 ¹⁾ 、同軸 ⁶⁾ 片 ¹⁾	同軸片 ¹⁾	10Y88/3 成黄	-	中・多	Φ2.2	1.5	Φ	2.8
738	W-2区	SP1044		土師器	鉢	22Y1	22Y1	7.5Y8/4 成黄	中・少	中・少	Φ2.1	-	-	1.8
739	W-2区	SP1045		青磁	瓶	指 ¹⁾ 、指 ¹⁾ 、 指 ¹⁾ 、指 ¹⁾ 後片 ¹⁾	指 ¹⁾	5Y7/1灰白	-	無	-	-	-	破片 「金玉溝穴」

第32表 元塚遺跡出土土器類表(25)

調査 番号	調査区	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色澤		胎土		寸法(cm)			備考		
						外題	内題	外題	内題	石灰・ 赤色 灰石	雲母	その他	口径	器高		底径	その他
769	Ⅱ-1区	SK801		土師器	杯	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	同軸片 ⁺	5YR6/2灰白	5YR6/2濃黄	中・並	-	9)	1.8	-	2.8		
770	Ⅱ-1区	SK801		土師器	杯	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	同軸片 ⁺	2.5YR7/2灰白	2.5YR7/1灰白	中・並	-	(11.6)	2.5	0)	1.8	外側重ね成履	
771	Ⅱ-1区	SK801		須恵器	碗	同軸片 ⁺	同軸片 ⁺	N7/灰白	N7/灰白	-	-	無	(5.6)	-	1.8		
772	Ⅱ-1区	SK801		須恵器	碗	同軸片 ⁺ ⁺ 、 同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	同軸片 ⁺	5YR1/灰白	5YR1/灰白	中・少	-	中・少	-	-	1.8		
773	Ⅱ-1区	SK801		土師器	罎	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	同軸片 ⁺	2.5YR7/6黄	5YR8/4灰黄	中・並	-	-	-	-	2.8		
774	Ⅱ-1区	SK801		土師器	鉢	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	同軸片 ⁺	N4/灰	7.5YR4/灰白	中・並	-	-	-	-	2.8		
775	Ⅱ-1区	SK801		須恵器	鉢	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	同軸片 ⁺	N6/灰	5Y7/1灰白	-	-	無	(18.2)	-	1.8		
776	Ⅱ-1区	SK801		土師器	足釜	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	同軸片 ⁺	10YR7/2 灰黄	10YR7/2 灰黄	中・並	-	-	-	-	2.8		
777	Ⅱ-1区	SK803(90)		土師器	小皿	同軸片 ⁺	同軸片 ⁺	10YR6/2 灰黄	10YR4/1暗灰	中・少	-	0.7)	1	6.2)	2.8	内・外側スチ付	
778	Ⅱ-1区	SK803(90)		須恵器	杯	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	10R6/4 土	10R6/4 土	-	-	中・少	11.6	3.3	7.6	2.8	
779	Ⅱ-1区	SK803(90)		須恵器	碗	同軸片 ⁺	同軸片 ⁺	N8/灰白	N4/灰	-	-	-	(4.8)	-	2.8		
780	Ⅱ-1区	SP1088		土師器	杯	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	同軸片 ⁺	10YR8/3 灰黄	10YR8/3 灰黄	同・並	同・少	-	3.5	3.5	4.3	4.8	
782	Ⅱ-1区	SK802		土師器	小皿	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	同軸片 ⁺	7.5YR7/6黄	7.5YR6/6黄	中・並	-	-	7.8	1.1	5.7	-	1.8
783	Ⅱ-1区	SK802		須恵器	碗	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	N8/灰白	N8/灰白	-	-	中・多	(4.4)	-	-	2.8	
784	Ⅱ-1区	SK802		須恵器	碗	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	N8/灰白	N8/灰白	-	-	中・少	-	-	6.8)	3.8	
785	Ⅱ-1区	SK802		須恵器	碗	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	N6/灰	N8/灰白	-	-	同・少	-	6.2)	-	3.8	
786	Ⅱ-1区	SK802		瓦	瓦	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	N5/灰	N5/灰	-	-	同・少	-	4.8	-	2.8	
787	Ⅱ-1区	SK803		土師器	碗	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	同軸片 ⁺	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	-	-	同・少	-	-	-	2.8	
788	Ⅱ-1区	SK803		土師器	碗	同軸片 ⁺	同軸片 ⁺	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	中・並	-	-	-	6.8)	-	1.8	
789	Ⅱ-1区	SK802		白磁	碗	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	2.5YR7/6黄	5YR2/2灰白	-	-	同・少	-	-	-	2.8	
790	Ⅱ-1区	SK802		青磁	碗	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	2.5YR6/1 土	N7/灰白	-	-	無	-	6.0)	1.8	内・外側スチ付	
791	Ⅱ-1区	SK802		須恵器	罎鉢	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	N8/灰白	N6/灰	-	-	中・少	-	0.6)	-	1.8	
792	Ⅱ-1区	SK802		土師器	足釜	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	同軸片 ⁺	10YR4/2 灰黄	10YR4/2 灰黄	同・少	-	-	-	-	-	2.8	
793	Ⅱ-1区	SK804(90)		土師器	小皿	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	同軸片 ⁺	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	中・少	-	8.2	1.1	6	4.8		
794	Ⅱ-1区	SK804(90)		須恵器	碗	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	N8/灰白	N8/灰白	-	-	同・少	35.5	5	4.7	4.8	重ね成履
795	Ⅱ-1区	SK804(90)		黒色土器	鉢	同軸片 ⁺	同軸片 ⁺	2.5YR7/2灰白	N2/暗灰	中・並	-	-	6.6)	-	1.8	黒色土器入類	
796	Ⅱ-1区	SK804(90)		白磁	鉢	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	同軸片 ⁺ 、同軸 ⁺ 片/同軸片 ⁺	5Y7/2灰白	5Y7/2灰白	-	-	同・並	-	-	-	2.8	
798	Ⅱ-1区	SK804		土師器	小皿	同軸片 ⁺	同軸片 ⁺	2.5YR6/4 土	2.5YR7/6黄	-	-	同・並	-	-	-	2.8	

第33表 元塚遺跡出土土器調査表(26)

報告 番号	調査区	遺構名	層位等	種類	調査		色調		胎土				容量(cm)		備考		
					外面	内面	外壁	内面	石灰・ 赤色 灰白	赤色 灰白	四 角 行	その 他	口径	器高		底径	その 他
799	Ⅱ-1区	SK804	土師器	瓶	胎土・ 白	N4/灰	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・少	-	-	-	7.4	1.3	5.9	-	1/8
800	Ⅱ-1区	SK805(170)	土師器	小皿	胎土・ 白	7.5YR7/4 に赤い層	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・多	中・多	-	-	7.4	1.3	5.9	-	8/8
801	Ⅱ-1区	SK805(170)	土師器	満	胎土・ 白	7.5YR7/4 に赤い層	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・多	中・少	-	-	7.4	1.3	5.9	-	1/8
802	Ⅱ-1区	SK805(170)	土師器	足袋	胎土・ 白	7.5YR7/4 に赤い層	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・多	中・少	-	-	7.4	1.3	5.9	-	1/8
803	Ⅱ-1区	SK805(170)	土師器	小皿	胎土・ 白	7.5YR7/4 に赤い層	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・多	中・少	-	-	7.4	1.3	5.9	-	1/8
804	Ⅱ-1区	SK805(170)	土師器	小皿	胎土・ 白	7.5YR7/4 に赤い層	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・多	中・少	-	-	7.4	1.3	5.9	-	1/8
805	Ⅱ-1区	SK805(170)	土師器	小皿	胎土・ 白	7.5YR7/4 に赤い層	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・多	中・少	-	-	7.4	1.3	5.9	-	1/8
806	Ⅱ-1区	SK805(170)	土師器	瓶	胎土・ 白	7.5YR7/4 に赤い層	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・多	中・少	-	-	7.4	1.3	5.9	-	1/8
807	Ⅱ-1区	SK805(170)	土師器	白磁	胎土・ 白	7.5YR7/4 に赤い層	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・多	中・少	-	-	7.4	1.3	5.9	-	1/8
808	Ⅱ-1区	SK805(170)	土師器	杯	胎土・ 白	7.5YR7/4 に赤い層	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・多	中・少	-	-	7.4	1.3	5.9	-	1/8
809	Ⅱ-1区	SK805(170)	土師器	瓶	胎土・ 白	7.5YR7/4 に赤い層	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・多	中・少	-	-	7.4	1.3	5.9	-	1/8
810	Ⅱ-1区	SK805(170)	土師器	瓶	胎土・ 白	7.5YR7/4 に赤い層	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・多	中・少	-	-	7.4	1.3	5.9	-	1/8
811	Ⅱ-1区	SK805(170)	土師器	小皿	胎土・ 白	7.5YR7/4 に赤い層	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・多	中・少	-	-	7.4	1.3	5.9	-	1/8
812	Ⅱ-1区	SK805(170)	土師器	小皿	胎土・ 白	7.5YR7/4 に赤い層	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・多	中・少	-	-	7.4	1.3	5.9	-	1/8
813	Ⅱ-1区	SK805(170)	土師器	白磁	胎土・ 白	7.5YR7/4 に赤い層	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・多	中・少	-	-	7.4	1.3	5.9	-	1/8
814	Ⅱ-1区	SK805(170)	土師器	摺鉢	胎土・ 白	7.5YR7/4 に赤い層	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・多	中・少	-	-	7.4	1.3	5.9	-	1/8
816	Ⅱ-1区	SK801	土師器	杯	胎土・ 白	7.5YR7/4 に赤い層	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・多	中・少	-	-	7.4	1.3	5.9	-	1/8
817	Ⅱ-1区	SK802	土師器	足袋	胎土・ 白	7.5YR7/4 に赤い層	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・多	中・少	-	-	7.4	1.3	5.9	-	1/8
818	Ⅱ-1区	SK803	土師器	瓶	胎土・ 白	7.5YR7/4 に赤い層	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・多	中・少	-	-	7.4	1.3	5.9	-	1/8
819	Ⅱ-1区	SK801	土師器	杯	胎土・ 白	7.5YR7/4 に赤い層	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・多	中・少	-	-	7.4	1.3	5.9	-	1/8
820	Ⅱ-1区	SK801	土師器	瓶	胎土・ 白	7.5YR7/4 に赤い層	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・多	中・少	-	-	7.4	1.3	5.9	-	1/8
821	Ⅱ-1区	SK802	土師器	杯	胎土・ 白	7.5YR7/4 に赤い層	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・多	中・少	-	-	7.4	1.3	5.9	-	1/8
822	Ⅱ-1区	SK802	土師器	瓶	胎土・ 白	7.5YR7/4 に赤い層	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・多	中・少	-	-	7.4	1.3	5.9	-	1/8
823	Ⅱ-1区	SK802	土師器	足袋	胎土・ 白	7.5YR7/4 に赤い層	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・多	中・少	-	-	7.4	1.3	5.9	-	1/8
824	Ⅱ-1区	SK802	土師器	満	胎土・ 白	7.5YR7/4 に赤い層	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・多	中・少	-	-	7.4	1.3	5.9	-	1/8
825	Ⅱ-1区	SK803	土師器	杯	胎土・ 白	7.5YR7/4 に赤い層	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・多	中・少	-	-	7.4	1.3	5.9	-	1/8
826	Ⅱ-1区	SK804	土師器	杯	胎土・ 白	7.5YR7/4 に赤い層	10YR7/2 成灰層	10YR7/2 成灰層	中・多	中・少	-	-	7.4	1.3	5.9	-	1/8

第34表 元塚遺跡出土土器類表(27)

番号 番号	調査区	遺構名	種別	部位等	調整	色澤		胎土		寸法(cm)				備考		
						外壁	内面	外壁	内面	口徑	器高	底径	その他			
827	Ⅱ-1区	SD804	土師器	柄	3077	10YR5/2 灰黄緑	10YR7/4 土黄赤	中・並	中・少	-	-	-	-	破片		
828	Ⅱ-1区	SD805	土師器	小皿	同軸ナ、同軸ハ、 971	7.5YR8/4 灰黄緑	7.5YR8/4 灰黄緑	細・並	細・並	7.8	1.1	(4.2)	-	2.8		
829	Ⅱ-1区	SD805	土師器	小皿	同軸ナ、同軸ハ、 971(破片付)	10YR8/3 灰黄緑	10YR8/4 灰黄緑	中・少	中・少	7	1.25	4.9	-	8.8		
830	Ⅱ-1区	SD805	土師器	杯	同軸ナ、 971、同軸ハ、 971(破片付)	10YR8/3 灰黄緑	10YR8/3 灰黄緑	中・並	-	11	-	-	-	8.8		
831	Ⅱ-1区	SD805	土師器	鉢	同軸ナ、 971	N7/灰白	N8/灰白	中・並	中・少	-	-	-	-	破片		
832	Ⅱ-1区	SD805	土師器	柄	同軸ナ、 971	7.5YR5/2 灰黄緑	10YR8/2 灰白	中・並	-	33	-	-	-	1.8		
833	Ⅱ-1区	SD807	土師器	小皿	同軸ナ、 971	10YR8/2 灰白	7.5YR8/3 灰黄緑	細・少	-	8.1	1.3	(6.5)	-	2.8		
834	Ⅱ-1区	SD806	土師器	小皿	同軸ナ、 971	2.5Y8/1 灰白	2.5Y7/2 灰黄緑	細・少	細・少	-	-	-	-	1.8		
835	Ⅱ-1区	SD806	土師器	杯	同軸ナ、 971	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	細・少	細・少	(10.2)	2.9	(5.8)	-	2.8		
836	Ⅱ-1区	SD806	土師器	碗	同軸ナ、 971	7.5YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	中・並	-	(4)	-	-	-	1.8		
837	Ⅱ-1区	SD806	土師器	碗	同軸ナ、 971	5Y8/1 灰白	7.5YR7/4 土黄赤	中・並	中・並	(15.4)	5.1	(5.9)	-	3.8		
838	Ⅱ-1区	SD807	土師器	碗	同軸ナ、 971	7.5YR1 灰白	7.5YR1 灰白	-	-	-	-	-	-	1.8		
839	Ⅱ-1区	SD806	土師器	白磁	同軸ナ、 971	7.5Y7/2 灰白	10YR1 灰白	-	-	-	-	-	-	破片		
840	Ⅱ-1区	SD806	土師器	柄	同軸ナ、 971	10YR4/1 黄緑	10YR7/3 土黄赤	細・並	細・少	-	-	-	-	破片		
841	Ⅱ-1区	SD806	土師器	控鉢	同軸ナ、 971	N8/灰白	N8/灰白	-	中・少	(28)	14.4	(4)	-	2.8		
842	Ⅱ-1区	SD810	土師器	杯	同軸ナ、 971	N8/灰白	N8/灰白	-	中・少	-	-	-	-	破片		
843	Ⅱ-1区	SD810	土師器	瓦器	同軸ナ、 971	N6/灰	N3/黄緑	-	-	-	-	-	-	破片		
844	Ⅱ-1区	SD813	土師器	小皿	同軸ナ、 971	10YR8/3 灰黄緑	10YR8/3 灰黄緑	細・少	-	7.8	1.1	6	-	6.8		
845	Ⅱ-1区	SD813	土師器	小皿	同軸ナ、 971	N4/灰	7.5Y4/1 灰	中・少	-	8.2	1	(6.0)	-	2.8		
846	Ⅱ-1区	SD813	土師器	碗	同軸ナ、 971	7.5Y8/1 灰白	7.5Y8/1 灰白	-	細・少	(14.8)	-	-	-	1.8		
847	Ⅱ-1区	SD813	土師器	碗	同軸ナ、 971	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	-	細・少	-	(4.0)	-	-	1.8		
848	Ⅱ-1区	SD813	土師器	碗	同軸ナ、 971	10YR8/3 灰黄緑	10YR8/3 灰黄緑	-	細・並	(5)	-	-	-	1.8		
849	Ⅱ-1区	SD813	土師器	碗	同軸ナ、 971	N8/灰白	N7/灰白	細・少	-	-	-	-	-	3.2		
850	Ⅱ-1区	SD813	土師器	瓦器	同軸ナ、 971	N3/灰	N4/灰	細・多	-	-	-	-	-	破片	内面付着物有	
851	Ⅱ-1区	SD813	土師器	控鉢	同軸ナ、 971	7.5Y4/1 灰	7.5Y8/1 灰白	中・並	-	-	-	(10.2)	-	2.8		
852	Ⅱ-1区	SD815	土師器	碗	同軸ナ、 971	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	細・少	中・少	-	-	-	-	破片		
853	Ⅱ-1区	SD816A	土師器	小皿	同軸ナ、 971	7.5YR8/3 灰黄緑	7.5YR8/3 灰黄緑	細・少	-	8	1.1	5.6	-	8.8		
854	Ⅱ-1区	SD816A	土師器	小皿	同軸ナ、 971	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	細・少	-	(7.0)	1.2	(5.0)	-	3.8		
855	Ⅱ-1区	SD816A	土師器	小皿	同軸ナ、 971(破片付)	10YR8/3 灰黄緑	7.5YR8/4 灰黄緑	中・少	細・並	-	7.6	1.3	5.7	-	8.8	
856	Ⅱ-1区	SD816A	土師器	小皿	同軸ナ、 971	N8/灰白	N6/灰	-	中・少	(8.6)	1.4	(5.0)	-	2.8		

第35表 元塚遺跡出土土器調査表(28)

調査番号	調査区	遺構名	層位等	種類	調査		色調		胎土				度量(cm)		備考	
					外題	内題	外題	内題	石英・赤色 斑	石 斑	向四 石	赤 斑	その他	口径		底径
857	Ⅱ-1区	S0816A	土師器	杯	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	同軸片 ^a	10YR8/3 灰黄	10YR8/2灰白	中・少	中・少	-	(1.8)	3.3	6.8	-	1.8
858	Ⅱ-1区	S0816A	土師器	杯	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	同軸片 ^a	7.5YR8/4 灰黄	10YR8/1灰白	中・多	中・少	-	(1.8)	3.5	6.3	-	2.6
859	Ⅱ-1区	S0816A	土師器	杯	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	同軸片 ^a	10YR8/2灰白	2.5YR8/1灰白	中・多	-	-	(0.8)	-	7.0	-	3.8
860	Ⅱ-1区	S0816A	土師器	杯	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	同軸片 ^a	2.5YR8/2灰白	2.5YR8/2灰白	中・多	-	-	(2.6)	3	6.0	-	3.8
861	Ⅱ-1区	S0816A	須恵器	杯	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	同軸片 ^a	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	-	-	-	欄・多	3	6.2	-	2.8
862	Ⅱ-1区	S0816A	須恵器	椀	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	5YR/1灰白	5YR/1灰白	-	-	-	中・少	-	4.6	-	1.8
863	Ⅱ-1区	S0816A	瓦器	椀	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	N4/灰	N4/灰	欄・少	-	-	(0.8)	-	-	-	1.8
864	Ⅱ-1区	S0816A	土師器	板	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	中・多	中・少	-	10.1	3.4	6.1	-	6.8
865	Ⅱ-1区	S0816A	青磁	椀	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	5Y6/3 赤黄	5Y7/1灰白	-	-	-	欄・少	-	6.4	-	1.8
866	Ⅱ-1区	S0816A	青磁	椀	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	N5/灰	2.5YR8/2灰白	-	-	-	精緻	-	6.0	-	2.8
867	Ⅱ-1区	S0816A	須恵器	器鉢	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	同軸片 ^a	N5/灰	2.5YR8/2灰白	-	-	-	中・少	-	-	-	欄片
868	Ⅱ-1区	S0816A	瓦質土器	器鉢	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	N5/灰	N5/灰	-	-	-	中・少	-	0.5	-	1.8
869	Ⅱ-1区	S0816A	土師器	調	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	同軸片 ^a	10YR8/2 灰黄	10YR8/2 灰黄	中・多	中・少	-	-	-	-	-	欄片
870	Ⅱ-1区	S0816A	土師器	足置	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	7.5YR8/4 灰黄	10YR8/3 灰黄	中・少	中・少	-	-	-	-	-	欄片
871	Ⅱ-1区	S0816A	須恵器	裏	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	5YR/1灰白	10YR5/2 灰黄	-	-	-	中・多	-	-	-	欄片
872	Ⅱ-1区	S0816A	須恵器	裏	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	N3/褐灰	N4/灰	-	-	-	中・多	-	-	-	欄片
873	Ⅱ-1区	S0816B	土師器	小皿	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	同軸片 ^a	2.5YR8/1灰白	2.5YR8/1灰白	欄・少	中・少	-	7.2	1.1	5.2	-	6.8
874	Ⅱ-1区	S0816B	土師器	小皿	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	同軸片 ^a	2.5YR8/1灰白	2.5YR8/2灰白	中・少	中・少	-	7.1	1.2	5.2	-	6.8
875	Ⅱ-1区	S0816B	土師器	小皿	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	同軸片 ^a	2.5YR8/1灰白	2.5YR8/1灰白	欄・多	中・少	-	7.6	1.2	5.2	-	6.8
876	Ⅱ-1区	S0816B	土師器	小皿	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	10YR8/2灰白	10YR8/1灰白	中・少	中・少	-	7.3	1.3	5.7	-	6.8
877	Ⅱ-1区	S0816B	土師器	小皿	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	同軸片 ^a	10YR7/1灰白	10YR7/1灰白	中・少	-	-	7.6	1.1	5.7	-	5.6
878	Ⅱ-1区	S0816B	土師器	小皿	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	同軸片 ^a	10YR6/1褐灰	10YR5/1褐灰	中・多	中・多	-	7.3	1.1	5	-	6.8
879	Ⅱ-1区	S0816B	土師器	小皿	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	同軸片 ^a	10YR8/2灰白	10YR8/1灰白	中・多	中・多	-	7.4	1.1	5.1	-	4.8
880	Ⅱ-1区	S0816B	土師器	小皿	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	10YR7/1灰白	10YR6/1褐灰	中・少	中・少	-	7.5	1.1	5.1	-	6.8
881	Ⅱ-1区	S0816B	土師器	小皿	同軸片 ^a ・同軸 ^a 分式残片	同軸片 ^a	2.5YR8/2灰白	2.5YR8/2灰白	中・多	中・少	-	7.6	1	5.3	-	6.8

第36表 九塚遺跡出土土器類表(29)

発掘 番号	調査区	遺構名	種別	部位等	器種	調整		色澤		胎土		寸法(cm)		保存率	備考		
						外面	内面	外壁	内部	石灰・ 石瓦・ 赤色 土質	白色 土質	口徑	器高			底径	その他
882	Ⅱ-1区	S0816B	土師器	小皿	同軸ナリ、同軸ハ ナリ、外反ナリ、外反ハ ナリ	同軸ナリ	75YR5/1 赭灰	中・並	中・少	-	-	7.4	1.3	5	-	8.8	
883	Ⅱ-1区	S0816B	土師器	小皿	同軸ナリ、同軸ハ ナリ	同軸ナリ	25Y8/1 灰白	中・並	中・並	-	-	7.3	1	5	-	8.8	
884	Ⅱ-1区	S0816B	土師器	小皿	同軸ナリ、同軸ハ ナリ	同軸ナリ	10YR5/1 赭灰	細・並	細・少	-	-	7.3	1.1	5.2	-	5.8	
885	Ⅱ-1区	S0816B	土師器	小皿	同軸ナリ、同軸ハ ナリ	同軸ナリ	10YR6/1 赭灰	中・並	中・少	-	-	7.4	1.1	5.4	-	8.8	
886	Ⅱ-1区	S0816B	土師器	小皿	同軸ナリ、同軸ハ ナリ	同軸ナリ	75YR6/3 淡黄	中・少	中・少	-	-	8	1	6	-	5.8	
887	Ⅱ-1区	S0816B	須恵器	小皿	同軸ナリ、同軸ハ ナリ	同軸ナリ	25Y7/1 灰白	細・並	-	-	-	7.5	1.1	5.6	-	8.8	
888	Ⅱ-1区	S0816B	須恵器	小皿	同軸ナリ、同軸ハ ナリ	同軸ナリ	10YR8/1 灰白	中・並	-	-	-	8	1.1	5.5	-	8.8	
889	Ⅱ-1区	S0816B	須恵器	小皿	同軸ナリ、同軸ハ ナリ	同軸ナリ	25Y8/1 灰白	-	-	-	-	7.7	1	5.2	-	8.8	
890	Ⅱ-1区	S0816B	土師器	杯	同軸ナリ、同軸ハ ナリ	同軸ナリ	10YR5/1 赭灰	中・少	-	-	-	(15.6)	4	(6.3)	-	1.8	
891	Ⅱ-1区	S0816B	土師器	杯	同軸ナリ、同軸ハ ナリ	同軸ナリ	10YR6/3 淡黄	中・並	細・少	-	-	(14)	3.1	(6.6)	-	2.8	
892	Ⅱ-1区	S0816B	土師器	杯	同軸ナリ、同軸ハ ナリ	同軸ナリ	10YR8/2 灰白	細・多	-	-	-	(11.8)	3.5	(6.3)	-	2.8	
893	Ⅱ-1区	S0816B	土師器	杯	同軸ナリ、同軸ハ ナリ	同軸ナリ	10YR8/1 灰白	中・並	中・少	-	-	11.7	3.5	8.3	-	7.8	
894	Ⅱ-1区	S0816B	須恵器	碗	同軸ナリ、同軸ハ ナリ	同軸ナリ	5Y8/1 灰白	-	-	-	-	細・少	(4.8)	4.8	(4.2)	-	2.8
895	Ⅱ-1区	S0816B	須恵器	碗	同軸ナリ、同軸ハ ナリ	同軸ナリ	N5/ 灰	-	-	-	-	中・少	(4.9)	4.6	(6)	-	破片
896	Ⅱ-1区	S0816B	須恵器	碗	同軸ナリ、同軸ハ ナリ	同軸ナリ	N8/ 灰白	-	-	-	-	中・少	1.9	5.2	5.2	-	6.8
897	Ⅱ-1区	S0816B	須恵器	碗	同軸ナリ、同軸ハ ナリ	同軸ナリ	5Y8/1 灰白	-	-	-	-	中・少	(16.8)	5.2	(1.6)	-	3.8
898	Ⅱ-1区	S0816B	須恵器	碗	同軸ナリ、同軸ハ ナリ	同軸ナリ	N8/ 灰白	-	-	-	-	中・少	14	4.7	4.7	-	6.8
899	Ⅱ-1区	S0816B	須恵器	碗	同軸ナリ、同軸ハ ナリ	同軸ナリ	N8/ 灰白	-	-	-	-	中・少	(14.9)	-	-	-	2.8
900	Ⅱ-1区	S0816B	須恵器	碗	同軸ナリ、同軸ハ ナリ	同軸ナリ	5Y8/1 灰白	-	-	-	-	中・少	(14)	-	-	-	2.8
901	Ⅱ-1区	S0816B	青磁	碗	同軸ナリ、同軸ハ ナリ	同軸ナリ	75Y6/2 灰ナリナリ	-	-	-	-	細	-	-	-	-	破片、青田焼 5.0
902	Ⅱ-1区	S0816B	瓦器	碗	同軸ナリ、同軸ハ ナリ	同軸ナリ	N4/ 灰	細・少	-	-	-	-	-	-	-	-	破片
903	Ⅱ-1区	S0816B	瓦器	碗	同軸ナリ、同軸ハ ナリ	同軸ナリ	N3/ 暗灰	細・少	-	-	-	-	-	(4)	-	-	2.8
904	Ⅱ-1区	S0816B	須恵器	器体	同軸ナリ、同軸ハ ナリ	同軸ナリ	N6/ 灰	-	-	-	-	中・並	(26)	-	-	-	2.8

外、内面に黒石

第37表 元塚遺跡出土土器調査表(30)

報告書 番号	調査区	遺構名	層位等	種類	調整		色調		胎土		度量(cm)			備考			
					外面	内面	外壁	内部	石灰・ 赤色 灰	赤色 灰	胎 色	口徑	器高		底径	その 他	残存率
905	Ⅱ-1区	S0816C	土師器	小皿	同軸ナ 分注取付	同軸ナ 分注取付	10YR7/3 灰白色	10YR7/3 灰白色	-	-	-	8.8	1.1	6.6	-	3.8	口縁部のみ有
906	Ⅱ-1区	S0816C	土師器	小皿	同軸ナ、分注 付	同軸ナ	7.5YR8/4 灰黄赤	7.5YR8/4 灰黄赤	-	中・少	-	6.0	1.5	4.6	-	1.8	
907	Ⅱ-1区	S0816C	土師器	小皿	同軸ナ、同軸ナ 分注付(底注取付)	同軸ナ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	-	-	-	6.8	1.3	6.0	-	3.8	
908	Ⅱ-1区	S0816C	土師器	小皿	同軸ナ、同軸ナ 分注付(底注取付)	同軸ナ	7.5YR8/2 灰白	7.5YR8/2 灰白	-	中・少	-	8.4	1.4	6	-	6.8	
909	Ⅱ-1区	S0816C	土師器	杯	同軸ナ、同軸ナ 分注取付	同軸ナ	10YR8/3 灰黄赤	10YR6/1 灰灰	-	-	-	4.3	3.5	6.0	-	2.8	
910	Ⅱ-1区	S0816C	土師器	杯	同軸ナ、同軸ナ 分注取付	同軸ナ	5YR7/6 黄	7.5YR8/4 灰黄赤	-	-	-	4.2	3.4	6.4	-	3.8	
911	Ⅱ-1区	S0816C	土師器	杯	同軸ナ、同軸ナ 分注取付、瓶状 注取	同軸ナ	10YR8/4 灰黄赤	10YR8/4 灰黄赤	-	中・中・少	-	5.2	3.7	6.4	-	3.8	
912	Ⅱ-1区	S0816C	土師器	杯	同軸ナ、分注 付	同軸ナ	10YR8/3 灰黄赤	10YR8/3 灰黄赤	-	-	-	4.3	3.4	6.4	-	2.8	
913	Ⅱ-1区	S0816C	土師器	杯	同軸ナ、分注 付	同軸ナ	5YR7/6 黄	10YR8/3 灰黄赤	-	中・多	-	4.6	3.5	6.7	-	2.8	
914	Ⅱ-1区	S0816C	須恵器	杯	同軸ナ、同軸ナ 分注付(底注取付)	同軸ナ	N8/灰白	2.5Y8/1 灰白	-	-	中・少	10	2.1	6.1	-	4.8	
915	Ⅱ-1区	S0816C	瓦器	瓦器	同軸ナ	同軸ナ	N4/灰	N4/灰	-	中・少	-	4.4	-	-	-	2.8	
916	Ⅱ-1区	S0816C	須恵器	碗	同軸ナ、分注 付	同軸ナ、同軸ナ 分注付	5Y8/1 灰白	5Y7/1 灰白	-	-	-	5.7	4.5	-	-	3.8	
917	Ⅱ-1区	S0816C	須恵器	碗	同軸ナ、分注 付	同軸ナ	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	-	-	-	5.7	4.8	-	-	2.8	
918	Ⅱ-1区	S0816C	須恵器	碗	同軸ナ	同軸ナ	5Y8/1 灰白	2.5Y8/2 灰白	-	-	-	5.8	4.8	-	-	2.8	
919	Ⅱ-1区	S0816C	黒色土師	碗	同軸ナ、分注 付	同軸ナ	2.5Y7/3 黄	N5/灰	-	-	-	4.7	-	-	-	1.8	黒色土師A類
920	Ⅱ-1区	S0816C	須恵器	碗	同軸ナ、分注 付	同軸ナ	N8/灰白	2.5Y8/1 灰白	-	-	中・少	-	5.2	-	-	5.8	
921	Ⅱ-1区	S0816C	須恵器	碗	同軸ナ	同軸ナ	2.5Y7/1 灰白	2.5Y5/2 黄	-	-	-	-	6.9	-	-	2.8	
922	Ⅱ-1区	S0816C	須恵器	碗	同軸ナ	同軸ナ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/2 灰白	-	-	中・多	-	5.4	-	-	4.8	
923	Ⅱ-1区	S0816C	須恵器	碗	同軸ナ	同軸ナ	N7/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	-	-	-	2.8	
924	Ⅱ-1区	S0816C	須恵器	碗	同軸ナ	同軸ナ	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	-	-	-	-	-	-	-	2.8	
925	Ⅱ-1区	S0816D	土師器	碗	同軸ナ	同軸ナ	7.5YR8/3 灰黄赤	7.5YR8/4 灰黄赤	-	中・少	-	-	6.6	-	-	2.8	
926	Ⅱ-1区	S0816C	土師器	押鉢	同軸ナ、同軸ナ 分注付	同軸ナ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/1 灰黄	-	-	-	-	-	-	-	2.8	
927	Ⅱ-1区	S0816C	須恵器	押鉢	同軸ナ、同軸ナ 分注付	同軸ナ	7.5Y8/1 灰白	2.5Y7/2 灰黄	-	-	-	-	-	-	-	2.8	
928	Ⅱ-1区	S0817	土師器	小皿	同軸ナ、同軸ナ 分注取付	同軸ナ	10YR8/3 灰黄赤	10YR8/3 灰黄赤	-	-	-	6.0	1.4	6.9	-	3.8	
929	Ⅱ-1区	S0817	土師器	小皿	同軸ナ、同軸ナ 分注取付	同軸ナ	10YR8/3 灰黄赤	10YR8/3 灰黄赤	-	-	-	6.8	0.9	6.2	-	1.8	
930	Ⅱ-1区	S0817	須恵器	杯	同軸ナ、同軸ナ 分注取付、瓶状 注取	同軸ナ	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	8	1.7	3.8	-	4.8	

第38表 元塚遺跡出土土器調査表(31)

調査 番号	調査区	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色澤		胎土		法量(cm)		備考		
						外面	内面	外面	内面	石灰・ 赤色 灰石	炭石	口徑	器高		底径	その 量
903	Ⅱ-1区	SR817		土師器	杯	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	10YR7/3 に赤い斑	10YR6/3	中・少	-	(135)	-	1.8		
902	Ⅱ-1区	SR817		土師器	杯	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	7.5YR7/4 に赤い斑	2.5YR7/3 淡赤	中・少	-	-	60	1.8		
903	Ⅱ-1区	SR817		土師器	瓶	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	5YR7/4 黄	5YR7/6 黄	中・多 中・多	中・少	(15.4)	-	1.8	器土微痕	
904	Ⅱ-1区	SR817		須恵器	瓶	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	N7/灰白	N7/灰白	-	中・少	(15.4)	-	1.8	器土微痕	
905	Ⅱ-1区	SR817		須恵器	瓶	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	7.5YR1/灰白	7.5YR1/灰白	-	中・少	(15.4)	-	3.8		
906	Ⅱ-1区	SR817		須恵器	瓶	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	5YR1/灰白	5YR1/灰白	-	中・多	-	5	8.8		
907	Ⅱ-1区	SR817		須恵器	瓶	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	5YR1/灰白	5YR1/灰白	-	中・少	-	5	4.8		
908	Ⅱ-1区	SR817		須恵器	瓶	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	2.5YR1/灰白	2.5YR1/灰白	-	中・少	-	5	7.8		
909	Ⅱ-1区	SR817		瓦器	瓦器	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	N4/灰	N2/暗灰	中・多	-	-	40	1.8		
910	Ⅱ-1区	SR817		瓦器	瓦器	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	2.5Y1/黄灰	N5/灰	中・多	-	-	63.9	1.8		
911	Ⅱ-1区	SR817		白磁	白磁	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	2.6YR1/灰白	10YR1/灰白	-	-	(16)	-	2.8	黒田・黒田分銅 白磁残片	
912	Ⅱ-1区	SR819		土師器	小皿	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	5YR6/4 に赤い斑	5YR7/6 黄	中・少	-	8.1	1.2	63.9	1.8	
913	Ⅱ-1区	SR819		土師器	杯	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	10YR8/2 灰白	2.5YR1/灰白	中・少 中・少	-	-	6.2	5.8		
914	Ⅱ-1区	SR819		土師器	杯	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	2.5YR1/灰白	10YR7/2 に赤い斑	中・少	-	(136)	-	1.8		
915	Ⅱ-1区	SR819		土師器	溝	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	2.5Y1/灰白	2.5Y1/黄 に赤い斑	中・少	-	-	-	1.8	微片	
916	Ⅱ-1区	SR823		土師器	杯	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	7.5YR8/2 灰白	7.5YR8/4 成灰赤	中・多 中・多	中・多	156	4	7.7	5.8	
917	Ⅱ-1区	SR823		須恵器	瓶	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	2.5YR1/灰白	2.5Y1/黄灰	-	中・多	-	4.6	4.8		
918	Ⅱ-1区	SR823		須恵器	瓶	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	2.5Y6/3 に赤い斑	2.5Y7/3 淡黄	-	中・少	-	6.9	2.8		
919	Ⅱ-2区	SR824		土師器	小型丸底器	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	7.5YR7/4 に赤い斑	7.5YR6/4 に赤い斑	中・多	-	9.2	-	5.8		
920	Ⅱ-2区	SR824		土師器	甕	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	中・多 中・少	中・少	(16.4)	-	3.8		
921	Ⅱ-2区	SR824		土師器	高杯	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	7.5YR8/8	2.5YR7/6 黄 2.5YR8/8	中・多 中・多	中・多	(21)	7.1	(11)	2.8	
922	Ⅱ-2区	SR824		須恵器	蓋	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	N8/灰白	7.5Y7/1 灰白	-	-	(18)	-	1.8	内・外面自然層 付層	
923	Ⅱ-2区	SR824		須恵器	杯	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	N6/灰	N6/灰	-	中・多	-	0.11	2.8		
924	Ⅱ-2区	SR824		須恵器	高杯	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	N5/灰	N6/灰	-	中・多	-	8.2	4.8		
925	Ⅱ-1区	SP1064		土師器	杯	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	10YR8/3 成灰赤	10YR8/3 成灰赤	-	中・少	(14.5)	-	2.8		
926	Ⅱ-1区	SP1064		須恵器	小皿	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	7.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	中・少	中・少	(13.8)	-	1.8		
927	Ⅱ-1区	SP1062		土師器	小皿	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	2.5YR2/灰白	2.5YR8/2 灰白	中・多	-	8.4	1.5	6	8.8	
928	Ⅱ-1区	SP1062		土師器	杯	同軸+ 付、糸付	同軸+ 付、糸付	2.5YR2/灰白	2.5YR2/灰白	-	-	14.4	3.6	7.8	4.8	

第40表 元塚遺跡出土土器類表(33)

発掘 番号	調査区	遺構名	種別	器種	調整		色澤		胎土		法量(cm)		保存率	備考		
					外面	内面	外壁	内底	石系・ 赤色 灰石	白色 灰石	口徑	口径 の 差			器高	口径 の 差
989	Ⅱ-1区	包含層	白磁	碗	同軸付長軸輪	同軸付長軸輪	75YR8.1灰白	N8/灰白	-	-	-	-	-	1.8	横田・高田分類 陶器Ⅱa類	
990	Ⅱ-1区	SR001(SF09)	赤生土器	鉢	777, 777	777	10YR7.3 に赤い裏面	10YR5.1褐灰	中・並	-	-	-	-	破片	-	
995	Ⅱ-1区	SR001	赤生土器	壺	輪帯筋文	777	75YR7.6黄	75YR6.4 に赤い帯	中・多 中・並	中・多 中・並	-	-	-	破片	-	
996	Ⅱ-1区	SR001	赤生土器	壺	肩凸目	777	75YR8.8黄赤	75YR6.8黄	中・並	中・並	-	-	-	破片	横田文、胎付突	
997	Ⅱ-1区	SR001	赤生土器	壺	3277(777), 777	3277(777), 777	75YR7.6黄	75YR6.8黄	中・並	-	-	-	-	1.8	-	
998	Ⅱ-1区	SR001	赤生土器	壺	777(777), 777	777(777)	5YR6.4 に赤い帯	5YR6.4	中・多	-	-	-	-	8.8	-	
999	Ⅱ-1区	SR001	赤生土器	壺	777	777	5YR5.6明赤黒	5YR5.6明赤黒	中・多	-	-	-	-	14.4	1.8	
1000	Ⅱ-1区	SR001	赤生土器	壺	3277, 777	3277, 777	75YR6.4 に赤い帯	75YR6.4 に赤い帯	中・少	中・少	-	-	-	1.8	下川窪B類	
1001	Ⅱ-1区	SR001	赤生土器	小形丸底蓋	3277, 777	3277, 777	5YR6.8黄	5YR6.8黄	中・並	-	-	-	-	5.8	-	
1002	Ⅱ-1区	SR001	赤生土器	鉢	同軸付・同軸 [△]	同軸付・同軸 [△]	75YR6.6黄	75YR6.6黄	中・並	-	-	-	-	2.8	-	
1003	Ⅱ-1区	ST001	土師器	杯	同軸付 ⁺	同軸付 ⁺	10YR8.4 灰黄緑	10YR8.2灰白	中・並	-	-	-	-	2.8	-	
1004	Ⅱ-1区	ST001	土師器	杯	同軸付 ⁺ 同軸付 ⁺ ・同軸 [△] 同軸付 ⁺ ・同軸 [△] 同軸付 ⁺ ・同軸 [△]	同軸付 ⁺	5YR7.6黄	5YR7.8黄	中・並 中・並 中・並	中・並 中・並 中・並	-	-	-	6.8	6.8	
1005	Ⅱ-1区	ST001	土師器	碗	777	777(777)	10YR8.3 灰黄緑	10YR8.3 灰黄緑	中・並	-	-	-	-	破片	-	
1006	Ⅱ-1区	ST001	土師器	碗	同軸付・同軸 [△]	同軸付・同軸 [△]	N6/灰	N6/灰	-	-	-	-	-	1.8	-	
1007	Ⅱ-1区	ST001	土師器	碗	同軸付 ⁺ ・同軸 [△] 同軸付 ⁺ ・同軸 [△]	同軸付 ⁺ ・同軸 [△]	25Y7.1灰白 25Y5.2 4月-7月	25Y7.1灰白 25Y5.2	中・多 中・多	中・多 中・多	-	-	-	1.8	-	
1008	Ⅱ-1区	ST001	土師器	碗	同軸付 ⁺ ・同軸 [△] 同軸付 ⁺ ・同軸 [△]	同軸付 ⁺ ・同軸 [△]	25Y8.1灰白	25Y8.1灰白	-	-	中・少	16	5	5	-	-
1009	Ⅱ-1区	SP1019	赤生土器	壺	3277, 777, 777, 777	3277, 777, 777, 777	75YR4.6黄	75YR4.6黄	中・並	中・並	中・少	-	-	3.8	下川窪D類	
1010	Ⅱ-1区	SP1019	赤生土器	壺	777(777)	777(777)	10YR5.2 灰黄緑	10YR5.2 灰黄緑	中・多	中・多	中・少	-	-	4.4	6.8	
1011	Ⅱ-1区	SP1019	赤生土器	壺	777, 777	777(777)	25YR5.6 明赤黒	25YR5.6 明赤黒	中・並	中・並	中・少	-	-	2.2	6.8	
1013	Ⅱ-2区	包含層	縄文土器	鉢	777	777	10YR5.6赤	10YR2.1赤黒	中・多 中・多	中・多 中・多	中・少	-	-	破片	-	
1014	Ⅱ-1区	包含層	青磁	碗	同軸付 ⁺ 長軸輪	同軸付 ⁺ 長軸輪	75Y5.2灰	N8/灰白	-	-	-	-	-	破片	-	
1015	出土地点不明		青磁	皿	同軸付 ⁺ 長軸輪	同軸付 ⁺ 長軸輪	75Y6.1灰	75Y6.1灰	-	-	-	-	-	2.8	横田5文	
1017	出土地点不明		赤生土器	壺	777	777	75Y8.4 灰黄緑	75Y8.4 灰黄緑	中・多 中・多	中・多 中・多	中・少	-	-	6.6	4.8	
1018	出土地点不明		須恵器	蓋	同軸付 ⁺ ・同軸 [△] 同軸付 ⁺ ・同軸 [△]	同軸付 ⁺	N6/灰	N6/灰	-	-	中・少	11.7	4	8.6	8.8	
1019	出土地点不明		須恵器	杯	同軸付 ⁺ ・同軸 [△] 同軸付 ⁺ ・同軸 [△]	同軸付 ⁺	N5/灰	N6/灰	-	-	中・多	11.8	3	9.2	8.8	
1020	出土地点不明		須恵器	杯	同軸付 ⁺ ・同軸 [△] 同軸付 ⁺ ・同軸 [△]	同軸付 ⁺	N6/灰	N7/灰白	-	-	中・多	11.9	3.6	9.7	8.8	

第41表 元塚遺跡出土石器調査表(1)

標本番号	調査区	報告通巻	報告部位	種類・器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	材質	備考
1	I区	SD102		磨形石器	7.9	3.4	0.6	0.65	オースカイト	
9	II区	SR201・202		石鏃	1.2	1.4	0.2	0.35	オースカイト	
10	II区	SR201・202		石鏃	2.1	1.3	0.3	0.67	オースカイト	
11	II区	SR201・202		石鏃	3.4	1.0	0.4	2.58	オースカイト	
12	II区	SR201・202	中層	削片	6.4	3.2	0.6	14.01	オースカイト	
21	II区	SR203		石鏃	2.3	1.7	0.3	0.65	オースカイト	
22	II区	SR203		石鏃	4.4	2.0	0.5	3.15	オースカイト	
24	II区	SR203	下層Ⅱ	石電子	6.1	4.7	0.8	35.09	オースカイト	
25	II区	SR203		削片	7.1	6.0	0.7	35.59	オースカイト	風化が著しい
33	II区	SR203		磨形石器	7.2	4.1	1.3	35.15	オースカイト	磨形石器または石皿・用磨形石器
35	II区	SR301		石鏃	2.2	1.2	0.2	0.67	オースカイト	
54	III区	SR301		石鏃	2.9	1.9	0.5	2.26	オースカイト	
55	III区	SR301		石鏃	3.2	1.7	0.6	2.20	オースカイト	
56	III区	SR301		石鏃	3.0	2.1	0.5	2.42	オースカイト	
93	III区	SR302		石鏃	2.4	1.4	0.2	0.58	オースカイト	
94	III区	SR302	下層Ⅰ(南壁9層)	石鏃	2.2	1.6	0.4	0.92	オースカイト	
95	III区	SR302		削片	11.1	3.5	1.5	41.24	オースカイト	
96	III区	SR302		削片	8.4	6.6	1.0	68.00	オースカイト	
97	III区	SR302	下層Ⅳ	磨形石器	3.7	3.4	1.0	10.66	オースカイト	
98	III区	SR302	中層Ⅱ	磨形石器	3.0	2.7	0.8	4.91	オースカイト	
99	III区	SR302	下層Ⅳ	磨形石器	3.8	1.9	1.0	8.47	オースカイト	
100	III区	SR302		石核	4.2	4.5	2.1	41.67	オースカイト	
118	III区	SD403	下層	石鏃	3.0	1.6	0.3	1.24	オースカイト	
125	III区	SD404	上層	石鏃	1.8	1.5	0.2	0.57	オースカイト	
136	III区	SD404	下層	磨形石器	2.7	2.4	0.6	5.34	オースカイト	
208	III区	SR401	中層(南壁20層)	石鏃	2.0	2.0	0.3	0.62	オースカイト	
209	III区	SR401	上層(南壁18層)	石鏃	1.8	1.8	0.4	0.73	オースカイト	
210	III区	SR401	最上層(南壁13層)	石鏃	1.5	1.3	0.3	0.53	オースカイト	
211	III区	SR401	上層(南壁18層)	石鏃	1.7	1.9	0.3	0.94	オースカイト	
212	III区	SR401	最下層(南壁28層)	石鏃	2.9	1.9	0.3	1.21	オースカイト	
213	III区	SR401	最上層(南壁17層)	石鏃	3.1	1.9	0.8	31.2	オースカイト	
214	III区	SR401	最上層(南壁13層)	石鏃	2.8	1.3	0.3	1.23	オースカイト	
215	III区	SR401	最上層(南壁13層)	石鏃	1.9	1.5	0.5	1.16	オースカイト	
216	III区	SR401	最上層(南壁17層)	石鏃	3.2	1.2	0.4	1.40	オースカイト	
217	III区	SR401	最上層(南壁17層)	石鏃	1.7	1.3	0.2	0.51	オースカイト	
218	III区	SR401	最上層(南壁17層)	石鏃	2.1	1.3	0.3	0.67	オースカイト	
219	III区	SR401	最下層(南壁28層)	石鏃	5.3	2.9	0.5	10.92	オースカイト	
221	III区	SR401	上層(南壁18層)	削片	6.6	5.1	1.0	28.78	オースカイト	
222	III区	SR401	最上層(南壁28層)	打製石片	4.0	4.4	1.1	19.31	オースカイト	
223	III区	SR401	最上層(南壁28層)	打製石片	4.6	5.5	1.3	31.36	オースカイト	
224	III区	SR401	上層(南壁21層)	打製石片	4.7	5.9	1.0	25.20	オースカイト	
225	III区	SR401	最上層(南壁17層)	調整ある削片	2.7	4.7	1.4	14.81	オースカイト	
226	III区	SR401	下層(南壁22層)	鋭き石	5.9	5.5	2.4	100.02	オースカイト	
228	III区	SR401	最上層(南壁28層)	削片	6.0	5.5	0.9	33.15	オースカイト	
280	V区	ST501		石鏃	2.0	1.1	0.3	0.40	オースカイト	

第42表 元塚遺跡出土石器類表(2)

発見 番号	調査区	報告遺構	報告層位	種類・器種	法量			材質	備考	
					長さ (cm)	幅さ (cm)	重量 (g)			
262	V区	ST502		削片	4.5	2.3	0.5	3.82	サヌカイト	
264	V区	SD502		石鏢	20	1.2	0.3	0.57	サヌカイト	
285	V区	SD510	下層	石核	5.8	5.0	1.1	8.07	サヌカイト	
313	V区	SD517	下層	石鏢	2.3	1.4	0.3	0.95	サヌカイト	
333	V区	SD521		破片	8.0	4.2	3.7	10.64	砂岩	
384	V区	包含層		横長削片石核	4.6	7.0	2.2	64.93	サヌカイト	
372	W区	SD602	下層	二次加工ある削片	3.5	3.7	0.7	9.91	サヌカイト	旧石器?
432	W区	SD605		石鏢	20	1.4	0.3	0.48	サヌカイト	
433	W区	SD605		石鏢	20	1.5	0.4	0.82	サヌカイト	
434	W区	SD605		石鏢	3.5	1.9	0.4	2.80	サヌカイト	
435	W区	SD601	上層	横長石核	4.1	2.1	1.3	14.74	サヌカイト	
591	W区	SD602	中層(南壁9層)	斬首尖頭器	5.8	2.5	1.9	10.92	サヌカイト	
592	W区	SD602	上層	石鏢	4.1	1.7	0.4	2.23	サヌカイト	
593	W区	SD602	下層	石鏢	1.9	1.5	0.3	0.68	サヌカイト	
594	W区	SD602	中層	石鏢	2.1	1.2	0.4	0.61	サヌカイト	
595	W区	SD602	下層	横長削片石核	5.3	2.6	0.8	12.59	サヌカイト	
596	W区	SD602	下層	横長削片石核	4.9	4.5	1.9	25.35	サヌカイト	
597	W区	SD602	中層	石鏢	5.3	7.4	1.2	40.02	サヌカイト	
598	W区	SD602	下層(南壁6+7+8層)	削片	4.6	6.8	1.7	43.02	サヌカイト	
599	W区	SD602	下層	石鏢	5.1	7.6	1.2	40.97	サヌカイト	
601	W区	SD602	中層(南壁9層)	石核	3.8	9.9	1.1	10.20	サヌカイト	
602	W区	SD602	下層	石核	15.2	7.0	2.9	220.66	サヌカイト	
603	W区	SD602	下層	石核	18.6	11.3	8.0	150.28	サヌカイト	
604	W区	SD602	中層(南壁9層)	横長石核	4.7	6.9	6.2	27.43	花崗岩	
618	W区	SD603	上層	石鏢	30	1.2	0.3	0.99	サヌカイト	
640	W区	SD604	中層	石胞丁	4.6	4.2	1.1	25.47	サヌカイト	
641	W区	包含層		横長削片	2.6	2.6	0.8	5.19	サヌカイト	
645	W区	包含層		横長削片石核	3.1	5.8	1.8	30.10	サヌカイト	
646	W区	包含層		横長削片石核	5.1	11.5	2.8	99.83	サヌカイト	
678	W-2区	SH77(SW9)		石鏢	2.3	1.6	0.4	1.28	サヌカイト	
695	W-2区	SK702		石核	4.6	6.5	2.1	67.13	サヌカイト	
696	W-2区	SL704		調整ある削片	4.1	3.7	0.8	15.71	サヌカイト	
710	W-4区	SD713		削片	3.8	2.9	0.9	10.55	サヌカイト	
711	W-4区	SD713		破石	40	20	1.3	11.58	粘板岩	
716	W-3区	SK704	褐色色粘板上	凹石	11.9	9.4	4.0	651.86	砂岩	
717	W-3区	SK704	褐色色粘板上	石鏢	2.5	1.7	0.3	1.00	サヌカイト	
753	W-2区	SP1314		石鏢	1.5	1.5	0.3	0.38	サヌカイト	
781	W-1区	SP1088		原形石核	20.6	10.5	9.1	2119.96	サヌカイト	
787	W-1区	SH804(SPO3)		横長削片	6.3	2.2	1.1	14.89	サヌカイト	
905	W-2区	SK824	灰褐色土	石鏢	4.5	2.0	0.5	3.42	サヌカイト	
978	W-1区	SP1127		石鏢	3.6	1.3	0.5	2.06	サヌカイト	
979	W-1区	SP1127		横長石核	5.2	3.3	2.2	42.95	サヌカイト	
990	W-1区	包含層		身石	5.1	4.7	4.5	139.05	花崗岩	
991	W-1区	包含層		管玉	1.2	0.4	0.4	0.23	碧玉	

第 43 表 元塚遺跡出土石器観察表 (3)

順次番号	調査区	報告番号	報告部位	種類・器種		法量		材質	備考
				長さ (cm)	幅 (cm)	長さ (cm)	厚さ (cm)		
592	遺2区	包含層					0.0		
594	Ⅲ-1区	SH001SV09	根形石器の附片	4.9	2.0	0.8	0.12	ホヌカイト	
			石核	5.2	7.6	2.1	7.221	ホヌカイト	
1012	Ⅲ-1区	SP1019	調整済み削片	4.2	2.8	0.6	7.57	ホヌカイト	

第 44 表 元塚遺跡出土瓦観察表

順次番号	調査区	報告番号	報告部位	器種	胎土			法量 (cm)			色澤			残存率	備考
					白色砂粒	灰色砂粒	中・並	残存長	残存幅	厚さ	凸面	凹面	底面		
132	Ⅳ区	SD005	丸瓦	-	-	9.4	8.1	1.2	5V6/1区	5V5/1区	5V5/1区	破片	玉縁		
209	V区	SK309	軒瓦瓦	-	-	20.5	13.5	1.7	N5/区	N5/区	N5/区	瓦当部2.8			
240	V区	SK309	丸瓦	-	-	21.2	12.3	1.3	N5/区	N4/区	N5/区	6.8			
241	V区	SK309	平瓦	-	-	23.7	23.4	1.8	N5/区	N3/畑区	N3/畑区	7.8			
242	V区	SK309	丸瓦	中・少	中・少	33	20.8	1.4	7.5V7/4	7.5V7/4	7.5V7/4	破片			
252	V区	SK310	軒瓦瓦	中・少	-	6	10.0	1.8	N4/区	2.5V7/2区	2.5V7/2区	瓦当部2.8			
253	V区	SK310	軒瓦瓦	中・少	-	4.9	7.4	1.3	N3/畑区	N3/畑区	N3/畑区	破片			
1016		出土場所不明	平瓦	-	-	4.4	3.9	2.4	(横目) 5V4/1区	(横目) 5V4/1区	(横目) 5V4/1区	破片			

第 45 表 元塚遺跡出土鉄器観察表

順次番号	調査区	報告番号	報告部位	種類・器種	法量			材質	備考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)		
101	Ⅳ区	SK302	不明鉄部	20.3	2.6	1.4	-		
324	V区	SV503	不明鉄部	4.6	2.7	1	-		
605	V区	SH602	上層鉄部	8.1	2.5	0.7	-		

第 46 表 元塚遺跡出土木製品観察表

順次番号	調査区	報告番号	報告部位	器種	法量 (cm)		種類	備考	
					長さ	厚さ			
227	Ⅳ区	SH401	下層	建築部材	157.5	11.5	9.5	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	芯材
228	Ⅳ区	SH401	下層	建築部材	125.5	9.8	7.5	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	芯材
229	Ⅳ区	SH401	下層	板材	21.3	2.4	0.8	ヒノキ科ヒノキ属	板目
230	Ⅳ区	SH401	下層(溝部 25層)	板材	12.1	2.5	0.75	ヒノキ科ヒノキ属	板目
328	V区	SH300	板材	13.9	8.8	0.6	ヒノキ科アスナロ属	板目	
343	V区	SP1015	板材	31.3	14.6	1.2	ブナ科タリ属タリ	芯材	
347	V区	SP1024	板材	25.5	9.5	10.2	ブナ科タリ属タリ	芯材	
348	V区	SP1025	板材	29.6	14.6	12.8	ブナ科タリ属タリ	芯材	
606	V区	SH602	ミカド部材	35.4	6.1	5.2	ブナ科コナラ属コナラ亜属カスギ属	芯材	
687	Ⅳ-2区	SH724SP14	柱材	23.4	10.8	9	ブナ科タリ属タリ	芯材	
688	Ⅳ-2区	SH724SP15	柱材	32.9	11.2	10.7	ブナ科タリ属タリ	芯材	
815	Ⅳ-1区	SH804F06	柱材				コウキヤ木科コウキヤ木属コウキヤ木	芯材	

第 47 表 水塚遺跡検出時・報告時遺構名新旧対照表 (1)

調査年度	報告調査区	報告遺構名	発掘時調査区	調査時遺構名	調査年度	報告調査区	報告遺構名	発掘時調査区	調査時遺構名	調査年度	報告調査区	報告遺構名	発掘時調査区	調査時遺構名
H7	Ⅰ区	SA101	Ⅰ区	SA01	H7	Ⅱ区	雑埦 303	Ⅱ区	雑埦 303	H7	V区	SD517	V-1区	SD15
H7	Ⅰ区	SA101(SP01)	Ⅰ区	SP97	H7	Ⅱ区	雑埦 304	Ⅱ区	雑埦 304	H8	V区	SD518	V-2区	SD1030
H7	Ⅰ区	SA101(SP02)	Ⅰ区	SP96	H7	Ⅱ区	雑埦 305	Ⅱ区	雑埦 202	H8	V区	SD519	V-2区	SD1031
H7	Ⅰ区	SA101(SP03)	Ⅰ区	SP95	H7	Ⅱ区	雑埦 306	Ⅱ区	雑埦 206	H8	V区	SD520	V-2区	SD1029
H7	Ⅰ区	SA101(SP04)	Ⅰ区	SP94	H7	Ⅱ区	雑埦 307	Ⅱ区	-	H8	V区	SD521	V-2区	SD1032
H7	Ⅰ区	SA101(SP05)	Ⅰ区	SP93	H7	Ⅱ区	雑埦 308	Ⅱ区	雑埦 208	H7	V区	SX301	V-1区	SX11
H7	Ⅰ区	SA101(SP06)	Ⅰ区	SP92	H7	Ⅱ区	雑埦 309	Ⅱ区	雑埦 211	H7	V区	SX302	V-1区	SX09
H7	Ⅰ区	SA101(SP07)	Ⅰ区	SP91	H7	Ⅱ区	雑埦 310	Ⅱ区	-	H7	V区	SX303	V-1区	SX08
H7	Ⅰ区	SA101(SP08)	Ⅰ区	SP90	H7	Ⅱ区	雑埦 311	Ⅱ区	-	H7	V区	SP117	V-1区	SP117
H7	Ⅰ区	SA101(SP09)	Ⅰ区	SP89	H7	Ⅱ区	雑埦 312	Ⅱ区	雑埦 209	H7	V区	SP136	V-1区	SP136
H7	Ⅰ区	SA101(SP10)	Ⅰ区	SP88	H7	Ⅱ区	雑埦 313	Ⅱ区	雑埦 305・307	H7	V区	SP160	V-1区	SP160
H7	Ⅰ区	SA101(SP11)	Ⅰ区	SP87	H7	Ⅱ区	雑埦 314	Ⅱ区	雑埦 210	H7	V区	SP161	V-1区	SP161
H7	Ⅰ区	SA101(SP12)	Ⅰ区	SP86	H7	Ⅱ区	SD401	Ⅱ区	SD25	H7	V区	SP175	V-1区	SP175
H7	Ⅰ区	SA101(SP13)	Ⅰ区	SP85	H7	Ⅱ区	SD402	Ⅱ区	SD26	H7	V区	SP197	V-1区	SP197
H7	Ⅰ区	SA101(SP14)	Ⅰ区	SP84	H7	Ⅱ区	SD403	Ⅱ区	SD28	H7	V区	SP1004	V-2区	SP1004
H7	Ⅰ区	SA101(SP15)	Ⅰ区	SP83	H7	Ⅱ区	SD404	Ⅱ区	SD27	H7	V区	SP1005	V-2区	SP1005
H7	Ⅰ区	SA101(SP16)	Ⅰ区	SP82	H7	Ⅱ区	SD405	Ⅱ区	SD29	H7	V区	SP1015	V-2区	SP1015
H7	Ⅰ区	SA101(SP17)	Ⅰ区	SP81	H7	Ⅱ区	SX401	Ⅱ区	SX17	H7	V区	SP1021	V-2区	SP1021
H7	Ⅰ区	SD101	Ⅰ区	SD09	H7	Ⅱ区	SR401	Ⅱ区	SR98	H7	V区	SP1024	V-2区	SP1024
H7	Ⅰ区	SD102	Ⅰ区	SD10	H7	V区	SK301	V-1区	SK10	H7	V区	SP1025	V-2区	SP1025
H7	Ⅰ区	SD103	Ⅰ区	SD11	H7	V区	SK302	V-1区	SK13	H7	V区	SP1026	V-2区	SP1026
H7	Ⅰ区	SD104	Ⅰ区	SD12	H7	V区	SK303	V-1区	SK11	H7	V区	SP1027	V-2区	SP1027
H7	Ⅰ区	SD105	Ⅰ区	SD13	H7	V区	SK304	V-1区	SK12	H7	V区	SP1028	V-2区	SP1028
H7	Ⅱ区	SR201	Ⅱ区	SR02A	H7	V区	SK305	V-1区	SK15	H7	V区	SB601(SP01)	Ⅱ区	SP16
H7	Ⅱ区	SR202	Ⅱ区	SR02B	H7	V区	SK306	V-1区	SK09	H7	V区	SB601(SP02)	Ⅱ区	SP24
H7	Ⅱ区	SR203	Ⅱ区	SR01	H7	V区	SK307	V-1区	SK08	H7	V区	SB601(SP03)	Ⅱ区	SP19
H7	Ⅱ区	SD301	Ⅱ区	SD24	H7	V区	SK308	V-1区	SK07	H7	V区	SB601(SP04)	Ⅱ区	SP13
H7	Ⅱ区	SR301	Ⅱ区	SR05	H8	V区	SK309	V-2区	SK1012	H7	V区	SB601(SP05)	Ⅱ区	SP10
H7	Ⅱ区	SR302	Ⅱ区	SR06	H8	V区	SK310	V-2区	SK1010	H7	V区	SB601(SP06)	Ⅱ区	SP7
H7	Ⅱ区	SR303	Ⅱ区	SR07	H8	V区	SK311	V-2区	SK1011	H7	V区	SB601(SP07)	Ⅱ区	SP17
H7	Ⅱ区	水田 1	Ⅱ区	-	H8	V区	SK512	V-2区	SK1009	H7	V区	SD602	Ⅱ区	SD03
H7	Ⅱ区	水田 2	Ⅱ区	-	H7	V区	ST301	V-1区	SD22	H7	V区	SB602(SP01)	Ⅱ区	SP15
H7	Ⅱ区	水田 3	Ⅱ区	-	H7	V区	ST302	V-1区	SD23-SX13	H7	V区	SB602(SP02)	Ⅱ区	SP31
H7	Ⅱ区	水田 4	Ⅱ区	-	H7	V区	SD501	V-1区	SK10	H7	V区	SB602(SP03)	Ⅱ区	SP28
H7	Ⅱ区	水田 5	Ⅱ区	SD232	H7	V区	SD502	V-1区	SD21	H7	V区	SB602(SP04)	Ⅱ区	SP45
H7	Ⅱ区	水田 6	Ⅱ区	SD234	H7	V区	SD503	V-1区	SX12	H7	V区	SB602(SP05)	Ⅱ区	SP22
H7	Ⅱ区	水田 7	Ⅱ区	SD233	H7	V区	SD504	V-1区	SD20	H7	V区	SB602(SP06)	Ⅱ区	SP23
H7	Ⅱ区	水田 8	Ⅱ区	SD231	H8	V区	SD504	V-2区	SD1043	H7	V区	SB602(SP07)	Ⅱ区	SP19
H7	Ⅱ区	水田 9	Ⅱ区	SD235	H7	V区	SD505	V-1区	SD31	H7	V区	SB602(SP08)	Ⅱ区	SP18
H7	Ⅱ区	水田 10	Ⅱ区	SD236	H7	V区	SD506	V-1区	SD18	H7	V区	SB603	Ⅱ区	SD06
H7	Ⅱ区	水田 11	Ⅱ区	SD238	H7	V区	SD507	V-2区	SD1044	H7	V区	SB603(SP01)	Ⅱ区	SP11
H7	Ⅱ区	水田 12	Ⅱ区	SD210	H8	V区	SD508	V-2区	SD1041	H7	V区	SB603(SP02)	Ⅱ区	SP27
H7	Ⅱ区	水田 13	Ⅱ区	SD237	H8	V区	SD509	V-2区	SD1038	H7	V区	SB603(SP03)	Ⅱ区	SP30
H7	Ⅱ区	水田 14	Ⅱ区	SD239	H7	V区	SD510	V-1区	SD17-SX07	H7	V区	SB603(SP04)	Ⅱ区	SP26
H7	Ⅱ区	水田 15	Ⅱ区	SD211	H7	V区	SD511	V-1区	SD16	H7	V区	SB603(SP05)	Ⅱ区	SP04
H7	Ⅱ区	水田 16	Ⅱ区	SD214	H8	V区	SD512	V-2区	SD1040	H7	V区	SB603(SP06)	Ⅱ区	SP02
H7	Ⅱ区	水田 17	Ⅱ区	SD212	H8	V区	SD513	V-2区	SD1039	H7	V区	SB603(SP07)	Ⅱ区	SP01
H7	Ⅱ区	水田 18	Ⅱ区	SD213	H7	V区	SD514	V-1区	SD19	H7	V区	SB604(SP01)	Ⅱ区	SP21
H7	Ⅱ区	水田 19	Ⅱ区	SD215	H8	V区	SD515	V-2区	SD1045	H7	V区	SB604(SP02)	Ⅱ区	SP43
H7	Ⅱ区	雑埦 301	Ⅱ区	雑埦 101	H8	V区	SD516	V-2区	SD1046	H7	V区	SB604(SP03)	Ⅱ区	SP32
H7	Ⅱ区	雑埦 302	Ⅱ区	雑埦 201										

第 48 表 兀塚遺跡検出時・報告時遺構名新旧対照表 (2)

調査年度	報告調査区	報告遺構名	発掘時調査区	調査時遺構名	調査年度	報告調査区	報告遺構名	発掘時調査区	調査時遺構名	調査年度	報告調査区	報告遺構名	発掘時調査区	調査時遺構名
H7	Ⅷ区	SB664SP04	Ⅷ区	SP23	H8	Ⅷ-1区	SB701SP03	Ⅷ-1区	SB1016p9	H8	Ⅷ-1区	SB706SP06	Ⅷ-1区	-
H7	Ⅷ区	SB664SP05	Ⅷ区	SP29	H8	Ⅷ-1区	SB701SP04	Ⅷ-1区	SB1016p10	H8	Ⅷ-1区	SB705SP10	Ⅷ-1区	SP1346
H7	Ⅷ区	SB664SP06	Ⅷ区	SP20	H8	Ⅷ-1区	SB701SP05	Ⅷ-1区	SB1016p11	H8	Ⅷ-1区	SB706SP10	Ⅷ-1区	-
H7	Ⅷ区	SB664SP07	Ⅷ区	SP14	H8	Ⅷ-1区	SB701SP06	Ⅷ-1区	SB1016p12	H8	Ⅷ-1区	SB706SP11	Ⅷ-1区	-
H7	Ⅷ区	SB665	Ⅷ区	SB02	H8	Ⅷ-1区	SB701SP07	Ⅷ-1区	SB1016p13	H8	Ⅷ-1区	SB706SP12	Ⅷ-1区	SP1340
H7	Ⅷ区	SB665SP01	Ⅷ区	SP66	H8	Ⅷ-1区	SB701SP08	Ⅷ-1区	SB1016p2	H8	Ⅷ-1区	SB706SP13	Ⅷ-1区	SP1352
H7	Ⅷ区	SB665SP02	Ⅷ区	SP30	H8	Ⅷ-1区	SB701SP09	Ⅷ-1区	SB1016p3	H8	Ⅷ-1区	SB706SP14	Ⅷ-1区	-
H7	Ⅷ区	SB665SP03	Ⅷ区	SP56	H8	Ⅷ-1区	SB701SP10	Ⅷ-1区	SB1016p4	H8	Ⅷ-1区	SB706	Ⅷ-1区	SB1030
H7	Ⅷ区	SB665SP04	Ⅷ区	SP47	H8	Ⅷ-1区	SB701SP11	Ⅷ-1区	SB1016p5	H8	Ⅷ-1区	SB706SP01	Ⅷ-1区	SB1020p4
H7	Ⅷ区	SB665SP05	Ⅷ区	SP67	H8	Ⅷ-1区	SB701SP12	Ⅷ-1区	SB1016p6	H8	Ⅷ-1区	SB706SP02	Ⅷ-1区	SB1020p5
H7	Ⅷ区	SB665SP06	Ⅷ区	SP51	H8	Ⅷ-1区	SB702	Ⅷ-1区	SB1021	H8	Ⅷ-1区	SB706SP03	Ⅷ-1区	SB1020p6
H7	Ⅷ区	SB665SP07	Ⅷ区	SB42	H8	Ⅷ-1区	SB702SP01	Ⅷ-1区	SB1021p6	H8	Ⅷ-1区	SB706SP04	Ⅷ-1区	SB1020p1
H7	Ⅷ区	SB666	Ⅷ区	SB01	H8	Ⅷ-1区	SB702SP02	Ⅷ-1区	SB1021p7	H8	Ⅷ-1区	SB706SP05	Ⅷ-1区	SB1020p2
H7	Ⅷ区	SB666SP01	Ⅷ区	SP61	H8	Ⅷ-1区	SB702SP03	Ⅷ-1区	SB1021p8	H8	Ⅷ-1区	SB706SP06	Ⅷ-1区	SB1020p3
H7	Ⅷ区	SB666SP02	Ⅷ区	SP60	H8	Ⅷ-1区	SB702SP04	Ⅷ-1区	SB1021p9	H8	Ⅷ-1区	SB707	Ⅷ-1区	-
H7	Ⅷ区	SB666SP03	Ⅷ区	SP57	H8	Ⅷ-1区	SB702SP05	Ⅷ-1区	SB1021p10	H8	Ⅷ-1区	SB707SP01	Ⅷ-1区	-
H7	Ⅷ区	SB666SP04	Ⅷ区	SP58	H8	Ⅷ-1区	SB702SP06	Ⅷ-1区	SB1021p11	H8	Ⅷ-1区	SB707SP02	Ⅷ-1区	SB1017p3
H7	Ⅷ区	SB666SP05	Ⅷ区	SP59	H8	Ⅷ-1区	SB702SP07	Ⅷ-1区	SB1021p12	H8	Ⅷ-1区	SB707SP03	Ⅷ-1区	SB1017p2
H7	Ⅷ区	SB666SP06	Ⅷ区	SP63	H8	Ⅷ-1区	SB702SP08	Ⅷ-1区	SB1021p13	H8	Ⅷ-1区	SB707SP04	Ⅷ-1区	SB1017p1
H7	Ⅷ区	SB666SP07	Ⅷ区	SP62	H8	Ⅷ-1区	SB702SP09	Ⅷ-1区	SB1021p14	H8	Ⅷ-1区	SB707SP05	Ⅷ-1区	SP1330
H7	Ⅷ区	SB667	Ⅷ区	SB07	H8	Ⅷ-1区	SB702SP10	Ⅷ-1区	SB1021p15	H8	Ⅷ-1区	SB708	Ⅷ-1区	SB1017
H7	Ⅷ区	SB667SP01	Ⅷ区	SP69	H8	Ⅷ-1区	SB702SP11	Ⅷ-1区	SP1341	H8	Ⅷ-1区	SB708SP01	Ⅷ-1区	SP1332
H7	Ⅷ区	SB667SP02	Ⅷ区	SP70	H8	Ⅷ-1区	SB702SP12	Ⅷ-1区	SB1021	H8	Ⅷ-1区	SB708SP02	Ⅷ-1区	SP1331
H7	Ⅷ区	SB667SP03	Ⅷ区	SP72	H8	Ⅷ-1区	SB703	Ⅷ-1区	SB1019	H8	Ⅷ-1区	SB708SP03	Ⅷ-1区	SB1017p4
H7	Ⅷ区	SB667SP04	Ⅷ区	SP74	H8	Ⅷ-1区	SB703SP01	Ⅷ-1区	SB1019p1	H8	Ⅷ-1区	SB708SP04	Ⅷ-1区	SB1017p5
H7	Ⅷ区	SB667SP05	Ⅷ区	SB07	H8	Ⅷ-1区	SB703SP02	Ⅷ-1区	SB1019p2	H8	Ⅷ-1区	SB708SP05	Ⅷ-1区	SB1017p6
H7	Ⅷ区	SB667SP06	Ⅷ区	SP73	H8	Ⅷ-1区	SB703SP03	Ⅷ-1区	SB1019p3	H8	Ⅷ-1区	SB708SP06	Ⅷ-1区	-
H7	Ⅷ区	SB668	Ⅷ区	SB01	H8	Ⅷ-1区	SB703SP04	Ⅷ-1区	SB1019p4	H8	Ⅷ-1区	SB708SP07	Ⅷ-1区	-
H7	Ⅷ区	SB668	Ⅷ区	SB02	H8	Ⅷ-1区	SB703SP05	Ⅷ-1区	SB1019p5	H8	Ⅷ-1区	SB708SP08	Ⅷ-1区	-
H7	Ⅷ区	SB668	Ⅷ区	SB04	H8	Ⅷ-1区	SB703SP06	Ⅷ-1区	SB1019p6	H8	Ⅷ-1区	SB708SP09	Ⅷ-1区	-
H7	Ⅷ区	SB668	Ⅷ区	SB03	H8	Ⅷ-1区	SB703SP07	Ⅷ-1区	SB1019p7	H8	Ⅷ-1区	SB708SP10	Ⅷ-1区	-
H7	Ⅷ区	SB668	Ⅷ区	SB05	H8	Ⅷ-1区	SB703SP08	Ⅷ-1区	SB1019p8	H8	Ⅷ-1区	SB709	Ⅷ-1区	SB1018
H7	Ⅷ区	SB668	Ⅷ区	SB06	H8	Ⅷ-1区	SB704	Ⅷ-1区	SB1020	H8	Ⅷ-1区	SB709SP01	Ⅷ-1区	SB1018p3
H7	Ⅷ区	SB669	Ⅷ区	SB01	H8	Ⅷ-1区	SB704SP01	Ⅷ-1区	SP1321	H8	Ⅷ-1区	SB709SP02	Ⅷ-1区	SB1018p4
H7	Ⅷ区	SB669	Ⅷ区	SB02	H8	Ⅷ-1区	SB704SP02	Ⅷ-1区	-	H8	Ⅷ-1区	SB709SP03	Ⅷ-1区	SB1018p5
H7	Ⅷ区	SB669	Ⅷ区	SB08	H8	Ⅷ-1区	SB704SP03	Ⅷ-1区	SP1353	H8	Ⅷ-1区	SB709SP04	Ⅷ-1区	SB1018p6
H7	Ⅷ区	SB669	Ⅷ区	SB14	H8	Ⅷ-1区	SB704SP04	Ⅷ-1区	SP1350	H8	Ⅷ-1区	SB709SP05	Ⅷ-1区	SB1018p1
H7	Ⅷ区	SB669	Ⅷ区	SB05	H8	Ⅷ-1区	SB704SP05	Ⅷ-1区	SP1319	H8	Ⅷ-1区	SB709SP06	Ⅷ-1区	SB1018p2
H7	Ⅷ区	SB669	Ⅷ区	SB06	H8	Ⅷ-1区	SB704SP06	Ⅷ-1区	SP1318	H8	Ⅷ-1区	SB710	Ⅷ-1区	-
H7	Ⅷ区	SB669	Ⅷ区	SB02	H8	Ⅷ-1区	SB704SP07	Ⅷ-1区	SP1317	H8	Ⅷ-1区	SB710SP01	Ⅷ-1区	SP1022
H7	Ⅷ区	SB669	Ⅷ区	SB03	H8	Ⅷ-1区	SB704SP08	Ⅷ-1区	SP1316	H8	Ⅷ-1区	SB710SP02	Ⅷ-1区	-
H7	Ⅷ区	SB669	Ⅷ区	SB01	H8	Ⅷ-1区	SB704SP09	Ⅷ-1区	-	H8	Ⅷ-1区	SB710SP03	Ⅷ-1区	SP1014
H7	Ⅷ区	SB669	Ⅷ区	SB04	H8	Ⅷ-1区	SB704SP10	Ⅷ-1区	SP1314	H8	Ⅷ-1区	SB710SP04	Ⅷ-1区	-
H7	Ⅷ区	SB669	Ⅷ区	SB03	H8	Ⅷ-1区	SB706	Ⅷ-1区	SB1025	H8	Ⅷ-1区	SB710SP05	Ⅷ-1区	SP1010
H7	Ⅷ区	SB669	Ⅷ区	SB04-SD05-06	H8	Ⅷ-1区	SB706SP01	Ⅷ-1区	SP1333	H8	Ⅷ-1区	SB710SP06	Ⅷ-1区	SP1011
H7	Ⅷ区	SB669	Ⅷ区	SB03-04	H8	Ⅷ-1区	SB706SP02	Ⅷ-1区	-	H8	Ⅷ-1区	SB711	Ⅷ-1区	-
H7	Ⅷ区	SB669	Ⅷ区	SB03-04	H8	Ⅷ-1区	SB706SP03	Ⅷ-1区	SP1342	H8	Ⅷ-1区	SB711SP01	Ⅷ-1区	-
H7	Ⅷ区	SB669	Ⅷ区	SB07	H8	Ⅷ-1区	SB706SP04	Ⅷ-1区	SP1343	H8	Ⅷ-1区	SB711SP02	Ⅷ-1区	-
H8	Ⅷ-1区	SB701	Ⅷ-1区	SB1016	H8	Ⅷ-1区	SB706SP05	Ⅷ-1区	-	H8	Ⅷ-1区	SB711SP03	Ⅷ-1区	-
H8	Ⅷ-1区	SB701SP01	Ⅷ-1区	SB1016p7	H8	Ⅷ-1区	SB706SP06	Ⅷ-1区	SP1334	H8	Ⅷ-1区	SB711SP04	Ⅷ-1区	SP1325
H8	Ⅷ-1区	SB701SP02	Ⅷ-1区	SB1016p8	H8	Ⅷ-1区	SB706SP07	Ⅷ-1区	-	H8	Ⅷ-1区	SB711SP05	Ⅷ-1区	-

第 49 表 瓦塚遺跡検出時・報告時遺構名新旧対照表 (3)

調査年度	報告調査区	報告遺構名	発掘時調査区	調査時遺構名	調査年度	報告調査区	報告遺構名	発掘時調査区	調査時遺構名	調査年度	報告調査区	報告遺構名	発掘時調査区	調査時遺構名
HS	Ⅱ-1区	SB716SP06	Ⅱ-1区	SP1323	HS	Ⅱ-2区	SB7146SP01	Ⅱ-2区	SP1080	HS	Ⅱ-2区	SB719SP01	Ⅱ-2区	SB1009-1010p2
HS	Ⅱ-1区	SB716SP07	Ⅱ-1区	-	HS	Ⅱ-2区	SB7146SP02	Ⅱ-2区	SP1088	HS	Ⅱ-2区	SB719SP02	Ⅱ-2区	SB1009p1
HS	Ⅱ-1区	SB716SP08	Ⅱ-1区	SP1008	HS	Ⅱ-2区	SB7146SP03	Ⅱ-2区	SP1111	HS	Ⅱ-2区	SB719SP03	Ⅱ-2区	-
HS	Ⅱ-1区	SB716SP09	Ⅱ-1区	-	HS	Ⅱ-2区	SB7146SP04	Ⅱ-2区	-	HS	Ⅱ-2区	SB719SP04	Ⅱ-2区	SB1009-1010p3
HS	Ⅱ-1区	SB716SP10	Ⅱ-1区	-	HS	Ⅱ-2区	SB7156SP01	Ⅱ-2区	SB1006p3	HS	Ⅱ-2区	SB719SP05	Ⅱ-2区	-
HS	Ⅱ-1区	SB716SP11	Ⅱ-1区	-	HS	Ⅱ-2区	SB7156SP02	Ⅱ-2区	SB1006p6	HS	Ⅱ-2区	SB719SP06	Ⅱ-2区	SB1009p3
HS	Ⅱ-1区	SB716SP12	Ⅱ-1区	-	HS	Ⅱ-2区	SB7156SP03	Ⅱ-2区	SB1006p7	HS	Ⅱ-2区	SB719SP07	Ⅱ-2区	-
HS	Ⅱ-1区	SB716SP13	Ⅱ-1区	-	HS	Ⅱ-2区	SB7156SP04	Ⅱ-2区	SB1006p8	HS	Ⅱ-2区	SB720SP01	Ⅱ-2区	-
HS	Ⅱ-1区	SB716SP14	Ⅱ-1区	-	HS	Ⅱ-2区	SB7156SP05	Ⅱ-2区	SB1006p2	HS	Ⅱ-2区	SB720SP02	Ⅱ-2区	-
HS	Ⅱ-1区	SB716SP15	Ⅱ-1区	-	HS	Ⅱ-2区	SB7156SP06	Ⅱ-2区	SB1006p3	HS	Ⅱ-2区	SB720SP03	Ⅱ-2区	-
HS	Ⅱ-1区	SB716SP16	Ⅱ-1区	SP1001	HS	Ⅱ-2区	SB7156SP07	Ⅱ-2区	SB1006p4	HS	Ⅱ-2区	SB720SP04	Ⅱ-2区	SP1343
HS	Ⅱ-1区	SB716SP17	Ⅱ-1区	-	HS	Ⅱ-2区	SB7156SP08	Ⅱ-2区	-	HS	Ⅱ-2区	SB720SP05	Ⅱ-2区	-
HS	Ⅱ-1区	SB716SP18	Ⅱ-1区	-	HS	Ⅱ-2区	SB716SP09	Ⅱ-2区	SB1005p5	HS	Ⅱ-2区	SB721SP01	Ⅱ-2区	SB1006p9
HS	Ⅱ-1区	SB716SP19	Ⅱ-1区	SP1009	HS	Ⅱ-2区	SB716SP10	Ⅱ-2区	SB1005p6	HS	Ⅱ-2区	SB721SP02	Ⅱ-2区	SB1006p10
HS	Ⅱ-1区	SB716SP20	Ⅱ-1区	-	HS	Ⅱ-2区	SB716SP11	Ⅱ-2区	SB1005p7	HS	Ⅱ-2区	SB721SP03	Ⅱ-2区	SB1006p11
HS	Ⅱ-1区	SB716SP21	Ⅱ-1区	-	HS	Ⅱ-2区	SB716SP12	Ⅱ-2区	SB1005p8	HS	Ⅱ-2区	SB721SP04	Ⅱ-2区	SB1006p12
HS	Ⅱ-1区	SD701	Ⅱ-1区	SR1001	HS	Ⅱ-2区	SB716SP13	Ⅱ-2区	-	HS	Ⅱ-2区	SB721SP05	Ⅱ-2区	SB1006p13
HS	Ⅱ-1区	SD702	Ⅱ-1区	SD1034	HS	Ⅱ-2区	SB716SP14	Ⅱ-2区	SB1005p9	HS	Ⅱ-2区	SB721SP06	Ⅱ-2区	SB1006p14
HS	Ⅱ-1区	SK701	Ⅱ-1区	SK1003	HS	Ⅱ-2区	SB716SP15	Ⅱ-2区	-	HS	Ⅱ-2区	SB721SP07	Ⅱ-2区	SB1006p15
HS	Ⅱ-1区	SP1005	Ⅱ-1区	SP1005	HS	Ⅱ-2区	SB716SP16	Ⅱ-2区	SB1005p11	HS	Ⅱ-2区	SB721SP08	Ⅱ-2区	SB1006p16
HS	Ⅱ-1区	SP1301	Ⅱ-1区	SP1301	HS	Ⅱ-2区	SB716SP17	Ⅱ-2区	SB1005p12	HS	Ⅱ-2区	SB721SP09	Ⅱ-2区	SB1006p17
HS	Ⅱ-1区	SP1304	Ⅱ-1区	SP1304	HS	Ⅱ-2区	SB716SP18	Ⅱ-2区	SB1005p13	HS	Ⅱ-2区	SB721SP10	Ⅱ-2区	SB1006p18
HS	Ⅱ-1区	SP1305	Ⅱ-1区	SP1305	HS	Ⅱ-2区	SB716SP19	Ⅱ-2区	SB1005p14	HS	Ⅱ-2区	SH722	Ⅱ-2区	SB1008
HS	Ⅱ-1区	SP1315	Ⅱ-1区	SP1315	HS	Ⅱ-2区	SB716SP20	Ⅱ-2区	-	HS	Ⅱ-2区	SB723SP01	Ⅱ-2区	SP1330
HS	Ⅱ-1区	SP1333	Ⅱ-1区	SP1333	HS	Ⅱ-2区	SB717	Ⅱ-2区	SB1010	HS	Ⅱ-2区	SB723SP02	Ⅱ-2区	SP1332
HS	Ⅱ-1区	SP1338	Ⅱ-1区	SP1338	HS	Ⅱ-2区	SB717SP01	Ⅱ-2区	SB1009-1010p5	HS	Ⅱ-2区	SB723SP03	Ⅱ-2区	SP1336
HS	Ⅱ-1区	SP1344	Ⅱ-1区	SP1344	HS	Ⅱ-2区	SB717SP02	Ⅱ-2区	SB1010p6	HS	Ⅱ-2区	SB723SP04	Ⅱ-2区	SP1333
HS	Ⅱ-1区	SP1366	Ⅱ-1区	SP1366	HS	Ⅱ-2区	SB717SP03	Ⅱ-2区	SB1010p11	HS	Ⅱ-2区	SB723SP05	Ⅱ-2区	SP1331
HS	Ⅱ-2区	SH701	Ⅱ-2区	SH1001	HS	Ⅱ-2区	SB717SP04	Ⅱ-2区	SB1009-1010p2	HS	Ⅱ-2区	SB723SP06	Ⅱ-2区	SP1342
HS	Ⅱ-2区	SH701P2	Ⅱ-2区	SH1001p1	HS	Ⅱ-2区	SB717SP05	Ⅱ-2区	SB1010p3	HS	Ⅱ-2区	SB723SP07	Ⅱ-2区	SP1340
HS	Ⅱ-2区	SH701P3	Ⅱ-2区	SH1001p2	HS	Ⅱ-2区	SB717SP06	Ⅱ-2区	SB1010p4	HS	Ⅱ-2区	SB723SP08	Ⅱ-2区	SP1337
HS	Ⅱ-2区	SH701P4	Ⅱ-2区	-	HS	Ⅱ-2区	SB717SP07	Ⅱ-2区	-	HS	Ⅱ-2区	SB723SP09	Ⅱ-2区	SP1023
HS	Ⅱ-2区	SH701P5	Ⅱ-2区	-	HS	Ⅱ-2区	SB717SP08	Ⅱ-2区	SB1003	HS	Ⅱ-2区	SB723SP10	Ⅱ-2区	SP1050
HS	Ⅱ-2区	SH701P6	Ⅱ-2区	-	HS	Ⅱ-2区	SB718	Ⅱ-2区	SB1003	HS	Ⅱ-2区	SB723SP11	Ⅱ-2区	-
HS	Ⅱ-2区	SB713	Ⅱ-2区	SB1007	HS	Ⅱ-2区	SB718SP01	Ⅱ-2区	SB1003p7	HS	Ⅱ-2区	SB723SP12	Ⅱ-2区	SP1037
HS	Ⅱ-2区	SB713SP01	Ⅱ-2区	SB1007p1	HS	Ⅱ-2区	SB718SP02	Ⅱ-2区	SB1003p8	HS	Ⅱ-2区	SB723SP13	Ⅱ-2区	SP1068
HS	Ⅱ-2区	SB713SP02	Ⅱ-2区	SB1007p12	HS	Ⅱ-2区	SB718SP03	Ⅱ-2区	SB1003p9	HS	Ⅱ-2区	SB723SP14	Ⅱ-2区	SP1067
HS	Ⅱ-2区	SB713SP03	Ⅱ-2区	SB1007p11	HS	Ⅱ-2区	SB718SP04	Ⅱ-2区	SB1003p10	HS	Ⅱ-2区	SB723SP15	Ⅱ-2区	SP1064
HS	Ⅱ-2区	SB713SP04	Ⅱ-2区	SB1007p2	HS	Ⅱ-2区	SB718SP05	Ⅱ-2区	SB1003p11	HS	Ⅱ-2区	SB723SP16	Ⅱ-2区	-
HS	Ⅱ-2区	SB713SP05	Ⅱ-2区	SB1007p3	HS	Ⅱ-2区	SB718SP06	Ⅱ-2区	SB1003p12	HS	Ⅱ-2区	SB723SP17	Ⅱ-2区	SP1055
HS	Ⅱ-2区	SB713SP06	Ⅱ-2区	SB1007p4	HS	Ⅱ-2区	SB718SP07	Ⅱ-2区	SB1003p13	HS	Ⅱ-2区	SB723SP18	Ⅱ-2区	SP1003
HS	Ⅱ-2区	SB713SP07	Ⅱ-2区	SB1007p5	HS	Ⅱ-2区	SB718SP08	Ⅱ-2区	SB1003p14	HS	Ⅱ-2区	SB723SP19	Ⅱ-2区	SP1024
HS	Ⅱ-2区	SB713SP08	Ⅱ-2区	SB1007p6	HS	Ⅱ-2区	SB718SP09	Ⅱ-2区	SB1003p15	HS	Ⅱ-2区	SB724	Ⅱ-2区	SB1024
HS	Ⅱ-2区	SB713SP09	Ⅱ-2区	SB1007p7	HS	Ⅱ-2区	SB718SP10	Ⅱ-2区	SB1003p16	HS	Ⅱ-2区	SB724SP11	Ⅱ-2区	SP1022
HS	Ⅱ-2区	SB713SP10	Ⅱ-2区	SB1007p8	HS	Ⅱ-2区	SB718SP11	Ⅱ-2区	SB1003p17	HS	Ⅱ-2区	SB724SP12	Ⅱ-2区	SP1039-1040
HS	Ⅱ-2区	SB713SP11	Ⅱ-2区	SB1007p9	HS	Ⅱ-2区	SB718SP12	Ⅱ-2区	SB1003p18	HS	Ⅱ-2区	SB724SP13	Ⅱ-2区	SP1036
HS	Ⅱ-2区	SB713SP12	Ⅱ-2区	SB1007p10	HS	Ⅱ-2区	SB719	Ⅱ-2区	SB1009	HS	Ⅱ-2区	SB724SP15	Ⅱ-2区	SP1022
HS	Ⅱ-2区	SB714	Ⅱ-2区	-										

第50表 兀塚遺跡検出時・報告時遺構名新旧対照表(4)

調査年度	調査区分	報告遺構名	発掘時調査区	調査時遺構名	調査年度	報告調査区	報告遺構名	発掘時調査区	調査時遺構名	調査年度	報告調査区	報告遺構名	発掘時調査区	調査時遺構名
H8	Ⅱ-2区	S1724SP16	Ⅱ-2区	-	H9	Ⅲ-3区	S1727SP03	Ⅲ-3区	SP9735	H8	Ⅲ-1区	S1801SP06	Ⅲ-1区	SB1011g2
H8	Ⅱ-2区	S1724SP17	Ⅱ-2区	SP1112	H9	Ⅲ-3区	S1727SP04	Ⅲ-3区	SP9771	H8	Ⅲ-1区	S1801SP07	Ⅲ-1区	SB1011g1
H8	Ⅱ-2区	S1724SP18	Ⅱ-2区	SP1073	H9	Ⅲ-3区	S1727SP06	Ⅲ-3区	SP9767	H8	Ⅲ-1区	S1801SP07	Ⅲ-1区	SP1011
H8	Ⅱ-2区	S1724SP19	Ⅱ-2区	SP1071	H9	Ⅲ-3区	S1728	Ⅲ-3区	S189702	H8	Ⅲ-1区	S1801SP08	Ⅲ-1区	SP1030
H8	Ⅱ-2区	S1724SP20	Ⅱ-2区	SP1009	H9	Ⅲ-3区	S1728SP01	Ⅲ-3区	SP9733	H8	Ⅲ-1区	S1801SP09	Ⅲ-1区	-
H8	Ⅱ-2区	S1724SP21	Ⅱ-2区	-	H9	Ⅲ-3区	S1728SP02	Ⅲ-3区	SP9732	H8	Ⅲ-1区	S1801SP10	Ⅲ-1区	SP1011
H8	Ⅱ-2区	S1724SP22	Ⅱ-2区	-	H9	Ⅲ-3区	S1728SP03	Ⅲ-3区	SP9731	H8	Ⅲ-1区	S1801SP11	Ⅲ-1区	SP1009
H8	Ⅱ-2区	S1724SP23	Ⅱ-2区	SP1311	H9	Ⅲ-3区	S1728SP04	Ⅲ-3区	SP9730	H8	Ⅲ-1区	S1801SP12	Ⅲ-1区	SP1008
H8	Ⅱ-2区	S1724SP24	Ⅱ-2区	SP1056	H9	Ⅲ-3区	S1728SP05	Ⅲ-3区	SP9737	H8	Ⅲ-1区	S1801SP13	Ⅲ-1区	SP1006
H8	Ⅱ-2区	S1725	Ⅱ-2区	SB1022	H9	Ⅲ-3区	S1728SP06	Ⅲ-3区	SP9736	H8	Ⅲ-1区	S1801SP14	Ⅲ-1区	-
H8	Ⅱ-2区	S1726SP01	Ⅱ-2区	SP1012	H9	Ⅲ-3区	S1728SP07	Ⅲ-3区	SP9735	H8	Ⅲ-1区	S1801SP15	Ⅲ-1区	-
H8	Ⅱ-2区	S1726SP02	Ⅱ-2区	SP1000	H9	Ⅲ-3区	S1728SP08	Ⅲ-3区	SP9734	H8	Ⅲ-1区	S1802	Ⅲ-1区	-
H8	Ⅱ-2区	S1726SP03	Ⅱ-2区	SP1022	H9	Ⅲ-3区	S1729	Ⅲ-3区	SB10704	H8	Ⅲ-1区	S1802SP01	Ⅲ-1区	SP1107
H8	Ⅱ-2区	S1726SP04	Ⅱ-2区	SP1033	H9	Ⅲ-3区	S1729SP01	Ⅲ-3区	SP9738	H8	Ⅲ-1区	S1802SP02	Ⅲ-1区	-
H8	Ⅱ-2区	S1726SP05	Ⅱ-2区	-	H9	Ⅲ-3区	S1729SP02	Ⅲ-3区	SP9725	H8	Ⅲ-1区	S1802SP03	Ⅲ-1区	SP1112
H8	Ⅱ-2区	S1726SP06	Ⅱ-2区	SP1041	H9	Ⅲ-3区	S1729SP03	Ⅲ-3区	SP9724	H8	Ⅲ-1区	S1802SP04	Ⅲ-1区	-
H8	Ⅱ-2区	S1726SP07	Ⅱ-2区	SP1007	H9	Ⅲ-3区	S1729SP04	Ⅲ-3区	SP9763	H8	Ⅲ-1区	S1802SP05	Ⅲ-1区	-
H8	Ⅱ-2区	S1701	Ⅱ-2区	SK1301	H9	Ⅲ-3区	S1729SP05	Ⅲ-3区	SP9766	H8	Ⅲ-1区	S1802SP06	Ⅲ-1区	SP1133
H8	Ⅱ-2区	S1702	Ⅱ-2区	SK1002	H9	Ⅲ-3区	S1730	Ⅲ-3区	S189701	H8	Ⅲ-1区	S1802SP07	Ⅲ-1区	SP1121
H8	Ⅱ-2区	S1704	Ⅱ-2区	SD1301	H9	Ⅲ-3区	S1730SP01	Ⅲ-3区	-	H8	Ⅲ-1区	S1802SP08	Ⅲ-1区	SP1115
H8	Ⅱ-2区	S1705	Ⅱ-2区	SD1061	H9	Ⅲ-3区	S1730SP02	Ⅲ-3区	SP9787	H8	Ⅲ-1区	S1802SP09	Ⅲ-1区	SP1108
H8	Ⅱ-2区	S1706	Ⅱ-2区	SD1302	H9	Ⅲ-3区	S1730SP03	Ⅲ-3区	SP9702	H8	Ⅲ-1区	S1802SP10	Ⅲ-1区	SP1105
H8	Ⅱ-2区	SD107	Ⅱ-2区	SD1002-1049	H9	Ⅲ-3区	S1730SP04	Ⅲ-3区	SP9703	H8	Ⅲ-1区	S1802SP11	Ⅲ-1区	SP1101
H8	Ⅱ-2区	SX702	Ⅱ-2区	SK1003	H9	Ⅲ-3区	S1730SP05	Ⅲ-3区	SP9704	H8	Ⅲ-1区	S1802SP12	Ⅲ-1区	-
H8	Ⅱ-2区	SP1001	Ⅱ-2区	SP1001	H9	Ⅲ-3区	S1730SP06	Ⅲ-3区	SP9705	H8	Ⅲ-1区	S1802SP13	Ⅲ-1区	SP1134
H8	Ⅱ-2区	SP1004	Ⅱ-2区	SP1004	H9	Ⅲ-3区	S1730SP07	Ⅲ-3区	SP9706	H8	Ⅲ-1区	S1802SP14	Ⅲ-1区	SP1125
H8	Ⅱ-2区	SP1019	Ⅱ-2区	SP1019	H9	Ⅲ-3区	S1730SP08	Ⅲ-3区	SP9707	H8	Ⅲ-1区	S1802SP15	Ⅲ-1区	SP1122
H8	Ⅱ-2区	SP1031	Ⅱ-2区	SP1031	H9	Ⅲ-3区	S1730SP09	Ⅲ-3区	SP9708	H8	Ⅲ-1区	S1802SP16	Ⅲ-1区	-
H8	Ⅱ-2区	SP1044	Ⅱ-2区	SP1044	H9	Ⅲ-3区	S1730SP10	Ⅲ-3区	SP9709	H8	Ⅲ-1区	S1802SP17	Ⅲ-1区	-
H8	Ⅱ-2区	SP1045	Ⅱ-2区	SP1045	H9	Ⅲ-3区	SA701	Ⅲ-3区	SA9701	H8	Ⅲ-1区	S1802SP18	Ⅲ-1区	-
H8	Ⅱ-2区	SP1065	Ⅱ-2区	SP1065	H9	Ⅲ-3区	SA701SP01	Ⅲ-3区	SP9729	H8	Ⅲ-1区	SB803	Ⅲ-1区	-
H8	Ⅱ-2区	SP1075	Ⅱ-2区	SP1075	H9	Ⅲ-3区	SA701SP02	Ⅲ-3区	SP9728	H8	Ⅲ-1区	S1803SP01	Ⅲ-1区	-
H8	Ⅱ-2区	SP1083	Ⅱ-2区	SP1083	H9	Ⅲ-3区	SA701SP03	Ⅲ-3区	SP9727	H8	Ⅲ-1区	S1803SP02	Ⅲ-1区	SP1086
H8	Ⅱ-2区	SP1083	Ⅱ-2区	SP1083	H9	Ⅲ-3区	SA701SP04	Ⅲ-3区	SP9726	H8	Ⅲ-1区	S1803SP03	Ⅲ-1区	SP1084
H8	Ⅱ-2区	SP1083	Ⅱ-2区	SP1083	H9	Ⅲ-3区	SK703	Ⅲ-3区	SK9701	H8	Ⅲ-1区	S1803SP04	Ⅲ-1区	-
H8	Ⅱ-2区	SP1086	Ⅱ-2区	SP1086	H9	Ⅲ-3区	SX703	Ⅲ-3区	SK9703	H8	Ⅲ-1区	S1803SP05	Ⅲ-1区	-
H8	Ⅱ-2区	SP1312	Ⅱ-2区	SP1312	H9	Ⅲ-3区	SX704	Ⅲ-3区	SK9701	H8	Ⅲ-1区	S1803SP06	Ⅲ-1区	SP1083
H8	Ⅱ-2区	SP1314	Ⅱ-2区	SP1314	H8	Ⅳ-4区	SX705	Ⅳ-4区	SK1004	H8	Ⅲ-1区	S1803SP07	Ⅲ-1区	-
H8	Ⅱ-2区	SP1327	Ⅱ-2区	SP1327	H8	Ⅳ-4区	SX706	Ⅳ-4区	SK1002	H8	Ⅲ-1区	S1803SP08	Ⅲ-1区	-
H8	Ⅱ-2区	SP1328	Ⅱ-2区	SP1328	H9	Ⅲ-3区	SD708	Ⅲ-3区	SD9703	H8	Ⅲ-1区	S1803SP09	Ⅲ-1区	SP1075
H8	Ⅱ-2区	SP1351	Ⅱ-2区	SP1351	H9	Ⅲ-3区	SD709	Ⅲ-3区	SD9704	H8	Ⅲ-1区	S1803SP10	Ⅲ-1区	SP1082
H8	Ⅱ-2区	SP1352	Ⅱ-2区	SP1352	H9	Ⅲ-3区	SD710	Ⅲ-3区	SD9702	H8	Ⅲ-1区	S1803SP11	Ⅲ-1区	SP1078
H9	Ⅲ-3区	S1726	Ⅲ-3区	-	H9	Ⅲ-3区	SD711	Ⅲ-3区	SD9701	H8	Ⅲ-1区	S1803SP12	Ⅲ-1区	-
H8	Ⅲ-3区	S1726SP01	Ⅲ-3区	SP9736	H9	Ⅲ-3区	SP9728	Ⅲ-3区	SP9728	H8	Ⅲ-1区	S1803SP13	Ⅲ-1区	SP1080
H8	Ⅲ-3区	S1726SP02	Ⅲ-3区	SP9744	H8	Ⅳ-4区	SD712	Ⅳ-4区	SD1037	H8	Ⅲ-1区	S1803SP14	Ⅲ-1区	SP1091
H8	Ⅲ-3区	S1726SP03	Ⅲ-3区	SP9747	H8	Ⅳ-4区	SD713	Ⅳ-4区	SD1036	H8	Ⅲ-1区	S1803SP15	Ⅲ-1区	SP1095
H8	Ⅲ-3区	S1726SP04	Ⅲ-3区	SP9751	H8	Ⅲ-1区	S1801	Ⅲ-1区	SB1011	H8	Ⅲ-1区	S1804	Ⅲ-1区	SB1015
H9	Ⅲ-3区	S1726SP05	Ⅲ-3区	SP9770	H8	Ⅲ-1区	S1801SP01	Ⅲ-1区	SB1011g6	H8	Ⅲ-1区	S1804SP01	Ⅲ-1区	SP1050
H9	Ⅲ-3区	S1727	Ⅲ-3区	SB9703	H8	Ⅲ-1区	S1801SP02	Ⅲ-1区	SB1011g5	H8	Ⅲ-1区	S1804SP02	Ⅲ-1区	SP1044
H9	Ⅲ-3区	S1727SP01	Ⅲ-3区	SP9757	H8	Ⅲ-1区	S1801SP03	Ⅲ-1区	SB1011g4	H8	Ⅲ-1区	S1804SP03	Ⅲ-1区	SP1032
H9	Ⅲ-3区	S1727SP02	Ⅲ-3区	SP9756	H8	Ⅲ-1区	S1801SP04	Ⅲ-1区	SB1011g3	H8	Ⅲ-1区	S1804SP04	Ⅲ-1区	-

写真図版

図版 1 元塚遺跡



元塚遺跡周辺空中写真（上が北）



I 区空中写真 (上が北)



II 区空中写真 (上が北)

図版 3 瓦塚遺跡



Ⅲ区第2水田面（上が北）



Ⅲ区第SR301～303（上が北）



N区空中写真(上が北)



V-1区空中写真(上が北)

V-2区空中写真(上が北)



Ⅵ区空中写真（上が北）



Ⅵ-1区空中写真（上が北）

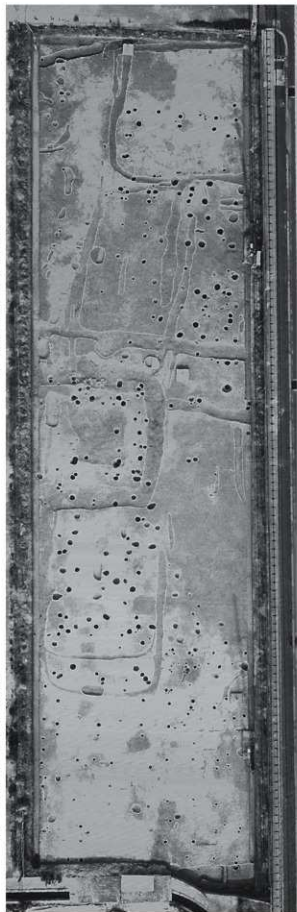
Ⅵ-2区空中写真（上が北）



VII-3区空中写真(上が北)



VII-4区空中写真(上が北)



VII-1区空中写真(上が北)



Ⅹ-1区空中写真

Ⅷ-2区空中写真



Ⅰ区全景(西から)



Ⅰ区SR202土層断面(北から)



Ⅲ区第1水田面全景（西から）



Ⅲ区第2水田面全景（東から）



Ⅲ区第2水田面全景（南から）



Ⅲ区第2水田面全景（南から）



Ⅲ区第2水田面全景（北東から）



Ⅲ区 SD301 全景（南から）



Ⅲ区 SR301 全景（南西から）



Ⅲ区 SR302 全景（南東から）

図版 9 瓦塚遺跡



Ⅲ区 SR303 全景 (南から)



Ⅲ区 SR303 土層断面 (北から)



Ⅲ区第2水田面畦畔 308 土層断面 (北から)



Ⅲ区第2水田面畦畔 313 土層断面 (北から)



Ⅲ区第2水田面畦畔 308・313 土層断面 (北から)



Ⅳ区 SD401 全景 (南から)



Ⅳ区 SD402・403 全景 (南から)



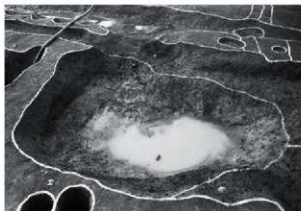
Ⅳ区 SR401 全景 (北から)



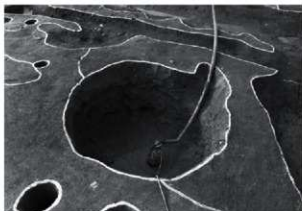
IV区 SR401 最下層木製品出土状況 (北から)



IV区 SR401 最下層木製品出土状況 (南から)



V区 SK509 (南から)



V区 SK510 (南から)



V区 ST501 全景 (北から)



V区 ST501 全景 (南から)



V区 ST501 P1 出土状況 (西から)



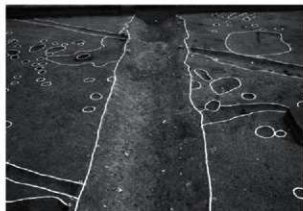
V区 ST502 全景 (北から)



V区 ST502 P1 出土状況 (北から)



V区 SD502 全景 (東南から)



V区 SD517 全景 (南から)



VI区 SB607, SD603 全景 (北から)



VI区 SD603, SR604 全景 (南から)



VI区 掘立柱建物群 全景 (東から)



VI区 SB601・603 全景 (北から)



VI区 SB601 全景 (北東から)



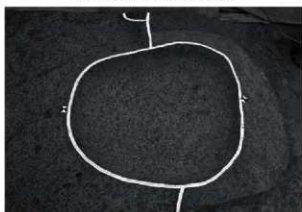
VI区 SB603・604 全景 (北から)



VI区 SB605 全景 (北から)



VI区 SB606 全景 (北から)



VI区 SK602 全景 (南から)



VI区 SD601・602 全景 (北から)



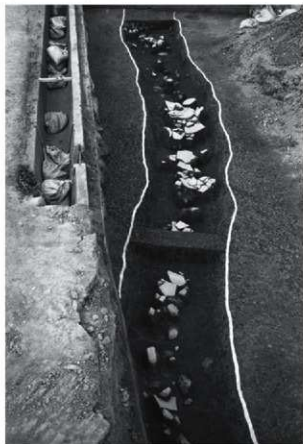
VI区 SD602 全景 (南から)



VI区 SD602 土層断面 (南から)



VI区 SD603, SK606 土層断面 (北から)



VI区 SD604 遺物出土状況 (南から)



VI区 SD604 完掘状況 (南から)



VI区 SX601・602 全景 (北から)



VI区 SD601, SX605 全景 (南から)



VI区 SR601 全景 (南から)



VI区 SR602 全景 (南から)



VI区 SR602 北上半層鉄層出土状況



VI区 SR602 遺物出土状況 (南から)



VI区 SR603 南部中・下層遺物出土状況 (南から)



VI区 SR603 南部中・下層遺物出土状況 (南から)



VI区 SR604 中・下層遺物出土状況 (東から)



VI区 SR604 中層遺物出土状況 (北から)



VI-1区全景 (東から)



VI-2区 SH701 全景 (南から)



Ⅶ-2区 SH701 遺物出土状況 (北から)



Ⅶ-2区 SH701 遺物出土状況 (南から)



Ⅶ-2区 SH701 遺物出土状況 (西から)



Ⅶ-2区 SB713・721 全景 (東から)



Ⅶ-2区 SB715・716 全景 (南から)



Ⅶ-2区 SB718 全景 (南から)



Ⅶ-2区 SB717・719 (南から)



Ⅶ-3区 SB727 完掘状況南 (東から)



VI-3区 SB710・727・728 全景 (東から)



VI-3区 SB728 全景 (南から)



VI-3区 SB730 全景 (西から)



VI-3区 SD708～710 全景 (西から)



VI-4区 全景 (西から)



VII-1区 全景 (東から)



VII-1区 SB801 (南から)



VII-1区 SB804 全景 (西から)



VII-1区 SB806 全景 (南から)



VII-1区 SB807 全景 (南から)



VII-1区 SB807・808 全景 (南から)



VII-1区 SB808 全景 (西から)



VII-1区 SD816 遺物出土状況 (東から)



IX-1区 全景 (東から)



IX-1区 SB901・902 全景 (東から)



IX-1区 ST901 (北から)



図版 19 瓦塚遺跡



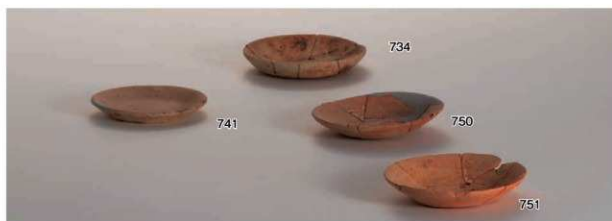


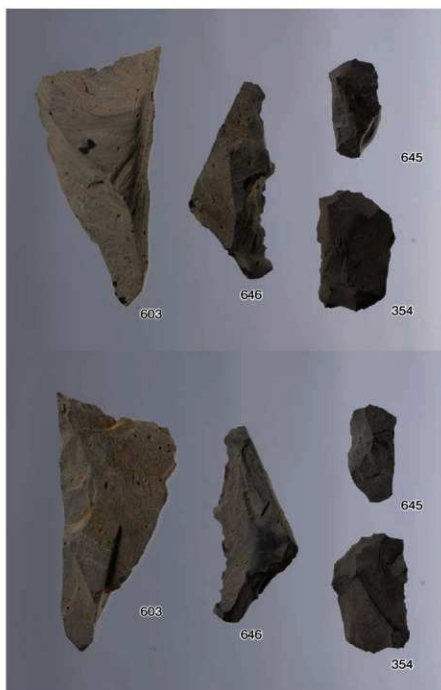
図版 21 瓦塚遺跡





図版 23 瓦塚遺跡





図版 25 瓦塚遺跡



報告書抄録

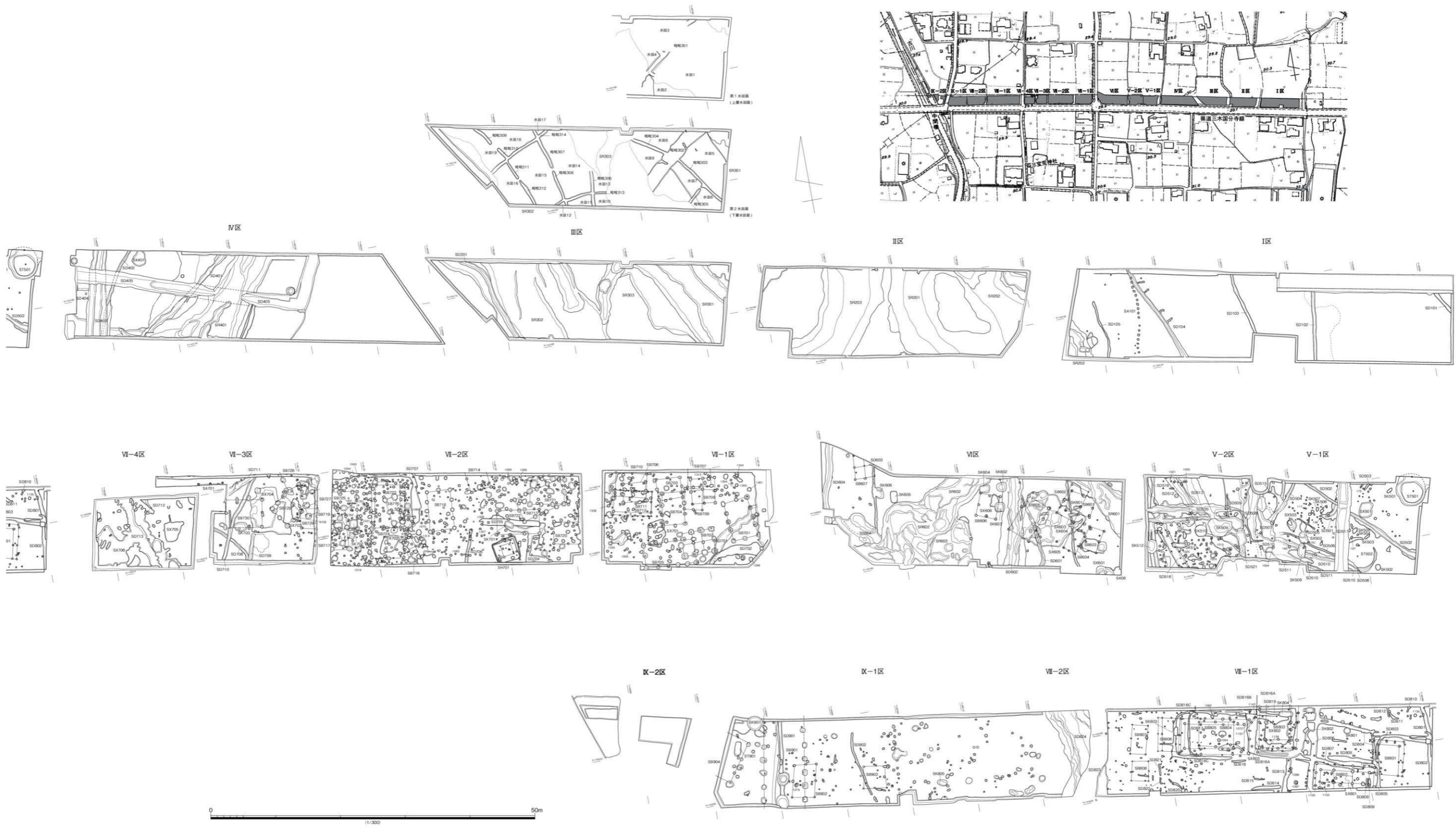
ふりがな	はげづかいせき						
書名	兀塚遺跡						
副書名	県道三木国分寺線道路改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告						
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	西村尋文						
編集機関	香川県埋蔵文化財センター						
所在地	〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4 Tel 0877-48-2191 Fax 0877-48-3249						
発行年月日	西暦2014年11月28日						
所収遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町					
はげづかいせき 兀塚遺跡	かがわけん 香川県 たかまつし 高松市 たかしらふち 檀紙町・門原町	37201	34度17分 24秒	134度0分 12秒	1995.9.1～ 1997.5.31	8.147㎡	県道三木国分寺線道路改修事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
はげづかいせき 兀塚遺跡	集落	弥生時代 古代 中世 近世	竪穴建物跡・掘立柱建物・土坑・円形周溝墓・土壇墓・溝・水田・自然河川	弥生土器・土師器・須恵器・墨書土器・黒色土器・瓦器・陶磁器・土馬・石器		南海道周辺の古代～中世の集落跡	
要 約							
<p>兀塚遺跡は推定南海道の北に位置する古代前半と中世前半を中心にした集落遺跡である。古代集落は多数の掘立柱建物を中心にした集落で、遺構密度も高い。7世紀代の建物は比較的不揃いな配置をとるが、8世紀以降条里地割に規制された建物配置をとる。また、集落内では8世紀後半頃の大規模な建物を確認した。規模的な点から公的施設の可能性が高い。周辺の河川跡からは多量の遺物と共に墨書土器や土馬の脚部などが出土しており、大規模な建物の性格を推定するうえで重要な遺物になる。</p>							

県道三木国分寺線道路改修事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

兀塚遺跡

2014年11月28日

編集 香川県埋蔵文化財センター
〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4
Tel 0877-48-2191 Fax 0877-48-3249
発行 香川県教育委員会
印刷 株式会社成光社



元塚遺跡全体図 1 : 300